LC500 / LC500h

取扱説明書

イラスト目次	**イラスト**から検索	
安全・安心のために	お客様に**必ずお読みいただきたいこと** （主な項目：チャイルドシートの取扱い、盗難防止装置）	1
走行に関する情報表示	走行に関する情報を表示する計器類の見方 （主な項目：メーター・マルチインフォメーションディスプレイ）	2
運転する前に	ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整 （主な項目：キー、ドア、シート）	3
運転	運転に必要な操作やアドバイス （主な項目：エンジン<ハイブリッドシステム>始動のしかた、給油のしかた）	4
室内装備・機能	室内装備の使い方など （主な項目：エアコン・収納装備の使い方）	5
お手入れのしかた	車のお手入れ・メンテナンスの方法 （主な項目：内装・外装の手入れ、電球の交換）	6
万一の場合には	故障したときや、緊急時などの対処 （主な項目：バッテリーあがりやタイヤがパンクしたときの対処）	7
車両情報	車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報 （主な項目：指定燃料、各オイル量、タイヤ空気圧）	8
さくいん	**症状**から検索	
	音から検索	
	アルファベットで検索	
	五十音で検索	

知っておいていただきたいこと 6
本書の見方..... 10
検索のしかた..... 12
イラスト目次..... 14

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に 30
安全なドライブのために 32
シートベルト 33
SRS エアバッグ（コンバーチブル以外）..... 38
SRS エアバッグ（コンバーチブル）..... 45
ポップアップフード..... 50
アクティブロールバー（コンバーチブル）..... 52
排気ガスに対する注意..... 55

1-2. お子さまの安全
お子さまを乗せるときは..... 56
チャイルドシート（コンバーチブル以外）..... 57
チャイルドシート（コンバーチブル）..... 68

1-3. ハイブリッドシステム
ハイブリッドシステムの特徴（LC500h）..... 79
ハイブリッドシステムの注意（LC500h）..... 82

1-4. 盗難防止装置
エンジンイモビライザーシステム＜イモビライザーシステム＞ 87
オートアラーム..... 88

2 走行に関する情報表示

2-1. 計器の見方
警告灯／表示灯..... 94
計器類 100
マルチインフォメーションディスプレイ..... 104
ヘッドアップディスプレイ 111
エネルギーモニター／燃費画面 .. 116

3 運転する前に

3-1. キー
キー..... 122

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
ドア..... 126
トランク 130
スマートエントリー＆スタートシステム..... 134

3-3. シートの調整
フロントシート 141
パワーイージーアクセスシステム／運転席ポジションメモリー／メモリーコール機能 143
ヘッドレスト 147

3-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル 149
インナーミラー 150
ドアミラー 151

3-5. ドアガラスの開閉
パワーウインドウ 154
ソフトトップルーフ（コンバーチブル）..... 159

4 運転

4-1. 運転にあたって
運転にあたって 170
荷物を積むときの注意..... 177

4-2. 運転のしかた
エンジン（イグニッション）スイッチ（LC500）..... 178
パワー（イグニッション）スイッチ（LC500h）..... 181
EV ドライブモード（LC500h）.. 185

オートマチックトランスミッション（LC500）..... 187
ハイブリッドトランスミッション（LC500h）..... 194
方向指示レバー..... 201
パーキングブレーキ..... 201
ブレーキホールド..... 204

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ..... 206
AHB（オートマチックハイビーム）..... 209
フォグランプスイッチ..... 212
ワイパー＆ウォッシャー 213

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方..... 217

4-5. 運転支援装置について

Lexus Safety System + ... 220
PCS（プリクラッシュセーフティ）..... 225
LTA（レーントレーシングアシスト）..... 235
RSA（ロードサインアシスト）... 244
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）..... 247
先行車発進告知機能..... 258
ドライバー異常時対応システム . 260
ITS Connect..... 265
ドライブモードセレクトスイッチ..... 271
クリアランスソナー..... 273
BSM（ブラインドスポットモニター）..... 279
アクティブリヤウィング..... 289
固定リヤウィング..... 292
サーキットモード（LC500）..... 293
運転を補助する装置..... 296

4-6. 運転のアドバイス

ハイブリッド車運転のアドバイス（LC500h）..... 303
寒冷時の運転 305

5 室内装備・機能

5-1. レクサスクライメイト コンシェルジュ

レクサスクライメイトコンシェルジュ.....308

5-2. エアコンの使い方

オートエアコン 309
ステアリングヒーター／シートヒーター／シートベンチレーター／ネックヒーター 316

5-3. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 319

5-4. 収納装備

収納装備一覧 322
トランク内装備 324

5-5. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備 326

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ 330
内装の手入れ 334
人工皮革（アルカンターラ®）の手入れ.....340

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット 342
ガレージジャッキ 343
ウォッシャー液の補充.....345
タイヤについて 346
タイヤの交換 354
タイヤ空気圧について.....361
エアコンフィルターの交換.....362
電子キーの電池交換.....364
ヒューズの点検・交換.....366
電球（バルブ）の交換.....369

7 万一の場合には

7-1. まず初めに

故障したときは..... 372
非常点滅灯（ハザードランプ）... 373
発炎筒 373
車両を緊急停止するには 374
水没・冠水したときは 375
車中泊が必要なときは 376

7-2. 緊急時の対処法

けん引について..... 377
フューエルポンプシャットオフシステム（LC500）..... 382
警告灯がついたときは 383
警告メッセージが表示されたときは 391
パンクしたときは（ランフラットタイヤ装着車）..... 398
パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）..... 399
エンジンが始動できないときは（LC500）..... 408
ハイブリッドシステムが始動できないときは（LC500h）..... 410
キーをなくしたときは 411
給油扉が開かないときは 412
電子キーが正常に働かないときは 413
補機バッテリーがあがったときは 416
ソフトトップルーフが閉まらないときは（コンバーチブル）..... 424
オーバーヒートしたときは（LC500）..... 430
オーバーヒートしたときは（LC500h）..... 433
スタックしたときは 436

8 車両情報

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）.....440

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能.....446

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目.....456

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）458
車から音が鳴ったときは（音さくいん）.....460
アルファベット順さくいん 462
五十音順さくいん 464

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

レクサス販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

● レクサスが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。

● 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
また、このような改造は Lexus Safety System + のような先進安全装備にも影響を与え、正しく作動しない危険や作動すべきでない場面での作動をする恐れがあり危険です。

● ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 次の場合はレクサス販売店にご相談ください。

- タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けボルトの交換

異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。

- 電装品・無線機の取り付け・取りはずし

電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。

RF 送信機の取り付けについては、P.8も参照してください。

● フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

サイバー攻撃のリスクについて

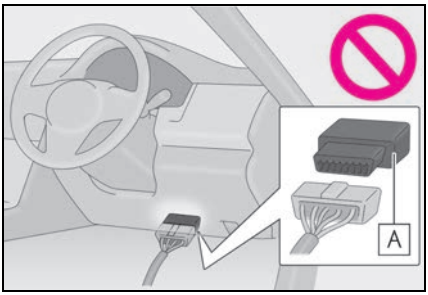
電子機器や無線機を取り付けると、装着された部品を通してサイバー攻撃のリスクを高め、思わぬ事故や個人情報の流出につながるおそれがあります。

トヨタ純正品以外を取り付けたことに起因する問題に関してトヨタは保証いたしません。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクターA などに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。

電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

- エンジン回転数 / 電気モーター回転数
- アクセルペダルの操作状況
- ブレーキペダルの操作状況
- 車速
- 運転支援システムの作動状況
- カメラの画像情報
  車両には複数のカメラがついています。どのカメラが画像を記録しているかは、レクサス販売店にお問い合わせください。

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

なお、コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

● データの取扱いについて

レクサスはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、レクサスは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- レクサスが訴訟で使用する場合
- 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

● 記録した画像情報はレクサス販売店にて消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとシステム作動時のデータは残りません。

G-Link によるデータの取り扱いについて

お客様が G-Link をご利用の場合、記録データとその使用について、G-Link 利用規約をご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関す

るデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

・ 車両の各システムの作動状況
・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。レクサスにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、レクサスは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- レクサスが訴訟で使用する場合

ただし、レクサスは

- データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

● ハイブリッドシステム

● EFI コンピュータ

● Lexus Safety System +

● ABS（アンチロックブレーキシステム）

● VDIM（ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント）

● SRS エアバッグ

● シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずレクサス販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をレクサス販売店にてご提供します。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みくださ

い。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

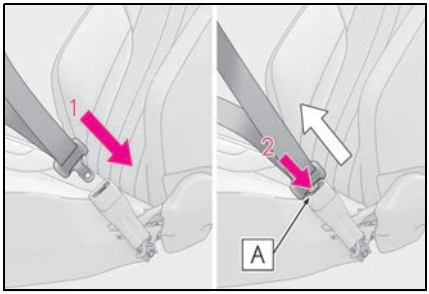
本書の見方

本書で使用している、記号について説明します。

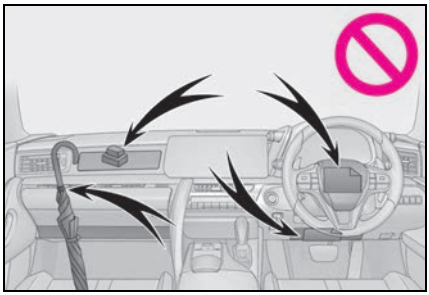
本文の記号について

記号	意味
	警告： お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。
	注意： お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。
1 2 3...	操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。
	機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト上の記号について



記号	意味
	押す、まわすなど、していただきたい操作を示しています。
	フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



記号	意味
	説明の対象となるもの・場所を示しています。
	してはいけません、このようにしないでください、このようなことを起こさないでくださいという意味です。

LC500 と LC500h の表現の違いについて

LC500 と LC500h とで表記が異なる場合は、次のように記載しています。

例

エンジンスイッチ ※1 <パワースイッチ> ※2 を ON にします。

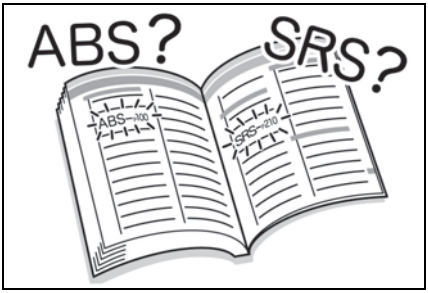
※1LC500

※2LC500h

検索のしかた

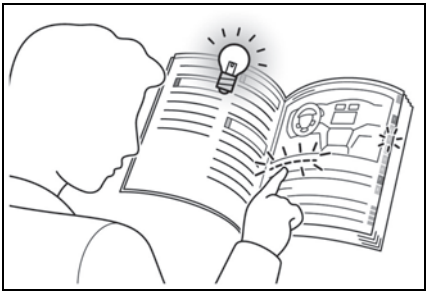
■ 名称から探す

●五十音順さくいん：→P.464
●アルファベット順さくいん：→P.462



■ 取り付け位置から探す

●イラスト目次：→P.14

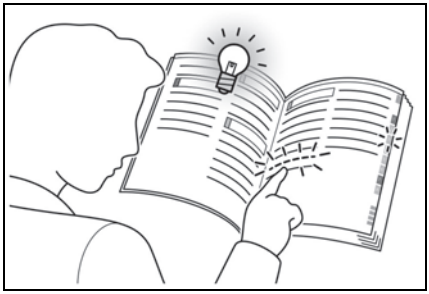


■ 症状や音から探す

●こんなときは（症状別さくいん）：→P.458
●車から音が鳴ったときは（音さくいん）：→P.460

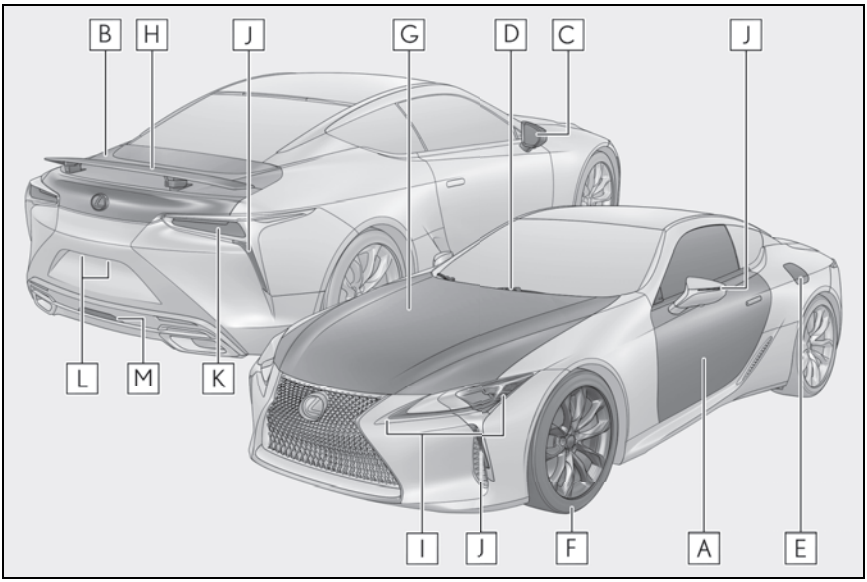
■ タイトルから探す

●目次：→P.2



イラスト目次

■外観（コンバーチブル以外）



A ドア P.126

施錠／解錠 P.126

ドアガラスの開閉 P.126

メカニカルキーでの施錠／解錠 P.413

警告メッセージ P.129

B トランク P.130

車内から開ける P.132

車外から開ける P.132

メカニカルキーで開ける P.416

警告メッセージ P.129

C ドアミラー P.151

鏡面の角度調整 P.151

ミラーの格納 P.152

調整位置の登録 P.143

曇りを取る（ミラーヒーター） P.310

D ワイパー **P.213**
冬季の注意 P.305
凍結防止（ウインドシールドデアイサー）★ P.313
洗車時の注意 P.333

E 給油口 **P.217**
給油方法 P.217
燃料の種類・燃料タンク容量 P.440

F タイヤ **P.346**
サイズ・空気圧 P.445
冬用タイヤ P.305
点検・ローテーション・空気圧警報システム P.346
パンク時の対処 P.398

G ボンネット **P.342**
開け方 P.342
エンジンオイル P.440
オーバーヒート時の対処 P.430, 433
警告メッセージ P.391

H アクティブリヤウィング★ **P.289**
固定リヤウィング★ **P.292**

走行に関わる外装の電球（バルブ）
（交換要領：P.369, ワット数：P.445）

I ヘッドランプ・車幅灯・LED デイライト・コーナリングランプ **P.206**

J 方向指示灯 **P.201**

K 尾灯 **P.206**
制動灯
緊急ブレーキシグナル P.297

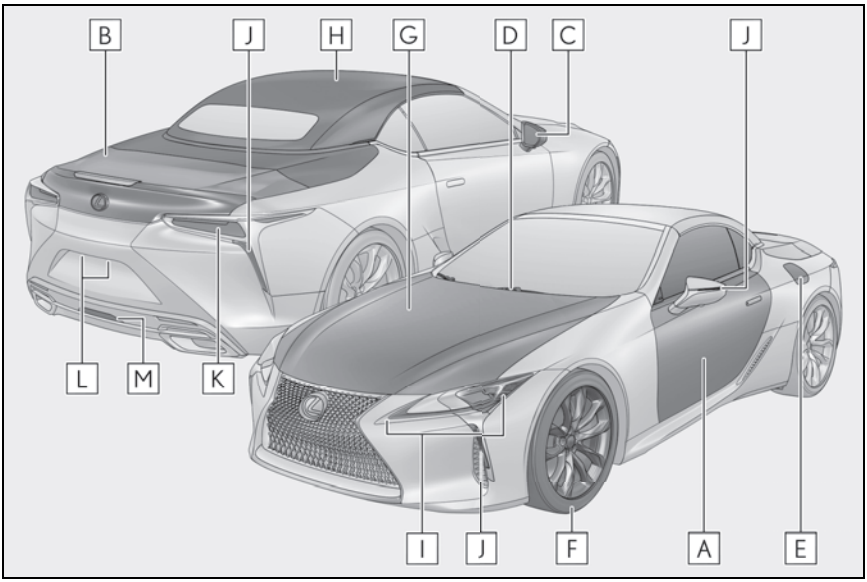
L 番号灯 **P.206**

M リヤフォグランプ★ **P.212**
後退灯

シフトポジションを R にする P.187, 194

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■外観（コンバーチブル）



A ドア P.126

施錠／解錠 P.126

ドアガラス・リヤクォーターガラスの開閉 P.126

メカニカルキーでの施錠／解錠 P.413

警告メッセージ P.129

B トランク P.130

車内から開ける P.132

車外から開ける P.132

メカニカルキーで開ける P.416

警告メッセージ P.129

C ドアミラー P.151

鏡面の角度調整 P.151

ミラーの格納 P.152

調整位置の登録 P.143

曇りを取る（ミラーヒーター） P.310

D ワイパー P.213
冬季の注意 P.303
凍結防止（ウインドシールドデアイサー）★ P.313
洗車時の注意 P.333

E 給油口 P.217
給油方法 P.217
燃料の種類・燃料タンク容量 P.440

F タイヤ P.346
サイズ・空気圧 P.445
冬用タイヤ P.303
点検・ローテーション・空気圧警報システム P.346
パンク時の対処 P.398

G ボンネット P.342
開け方 P.342
エンジンオイル P.440
オーバーヒート時の対処 P.430
警告メッセージ P.391

H ソフトトップルーフ P.159
ソフトトップルーフの開閉 P.160
正しく作動しないときは P.161
手入れ P.330, 334

走行に関わる外装の電球（バルブ）
（交換要領：P.369, ワット数：P.445）

I ヘッドランプ・車幅灯・LED デイライト・コーナリングランプ P.206

J 方向指示灯 P.201

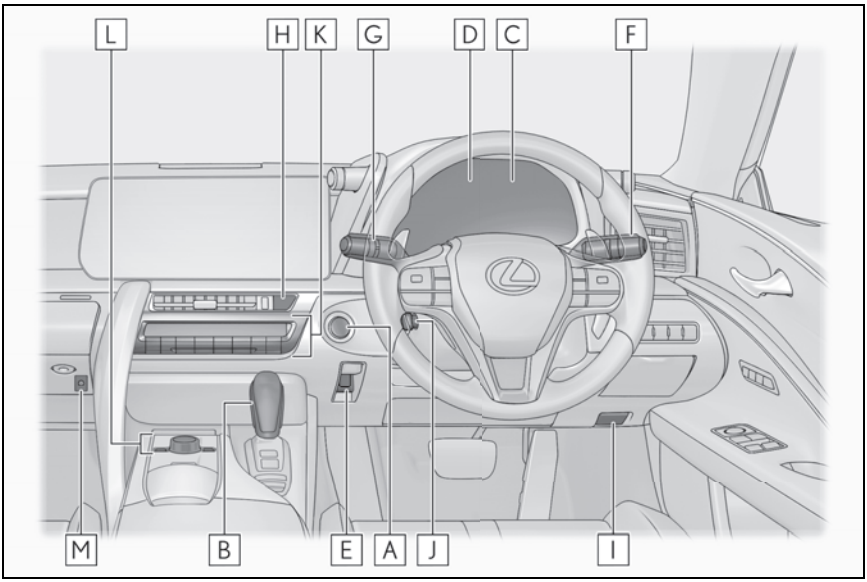
K 尾灯 P.206
制動灯
緊急ブレーキシグナル P.297

L 番号灯 P.206

M **リヤフォグランプ★** P.212
後退灯
シフトポジションを R にする P.187

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■インストルメントパネル



A エンジンスイッチ<パワースイッチ> P.178, 181

エンジン<ハイブリッドシステム>の始動・モード切りかえ . P.178, 181

エンジン<ハイブリッドシステム>の緊急停止 P.374

エンジン<ハイブリッドシステム>が始動できないときの対処 P.408, 410

警告メッセージ P.391

B シフトレバー P.187, 194

シフトポジションの切りかえ..... P.188, 195

けん引時の注意 P.377

C メーター P.100

見方・明るさの調整 P.100, 103

警告灯／表示灯 P.94

警告灯点灯時の対処 P.383

D マルチインフォメーションディスプレイ P.104

表示内容..... P.104

警告メッセージ表示時の対処 P.391

E パーキングブレーキスイッチ P.201

かける・解除する P.201

冬季の注意 P.306

警告ブザー・警告メッセージ P.383, 391

F 方向指示レバー P.201

ランプスイッチ P.206

ヘッドランプ・車幅灯・尾灯 P.206

AHB（オートマチックハイビーム） P.209

リヤフォグランプ★ P.212

G ワイパー＆ウォッシャースイッチ P.213

使い方 P.213

ウォッシャー液の補充 P.345

ヘッドランプクリーナー P.213

警告メッセージ P.391

H 非常点滅灯スイッチ P.373

I ボンネット解除レバー P.342

J ハンドル位置調整スイッチ P.149

調整方法 P.149

調整位置の登録 P.143

K オートエアコン P.309

操作方法 P.309

リヤウインドウの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー） P.310

L オーディオ ※

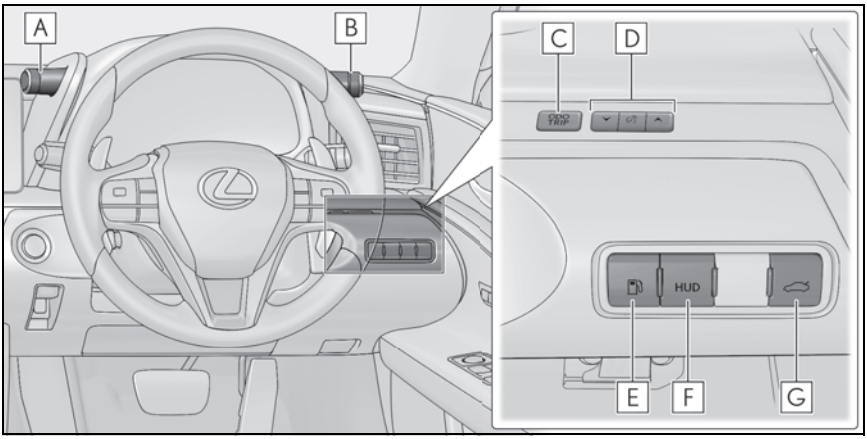
音楽を聴く ※

M トランクオープナーメインスイッチ P.133

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■スイッチ類



A ドライブモードセレクトスイッチ..... P.271

B VSC OFF ／スノーモードスイッチ..... P.192, 198, 297

C オドメーター／トリップメーター切りかえ・トリップメーターリセットボタン..... P.103

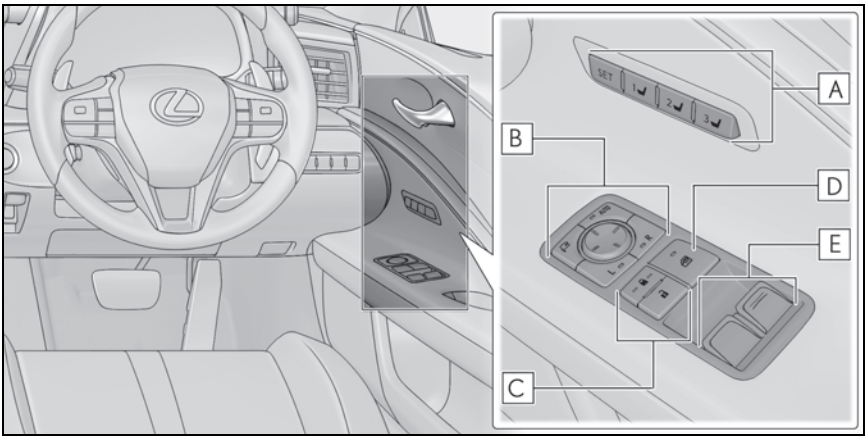
D インストルメントパネル照度調整スイッチ P.103

E 給油口オープナースイッチ..... P.218

F HUD スイッチ★..... P.111

G トランクオープナースイッチ..... P.132

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



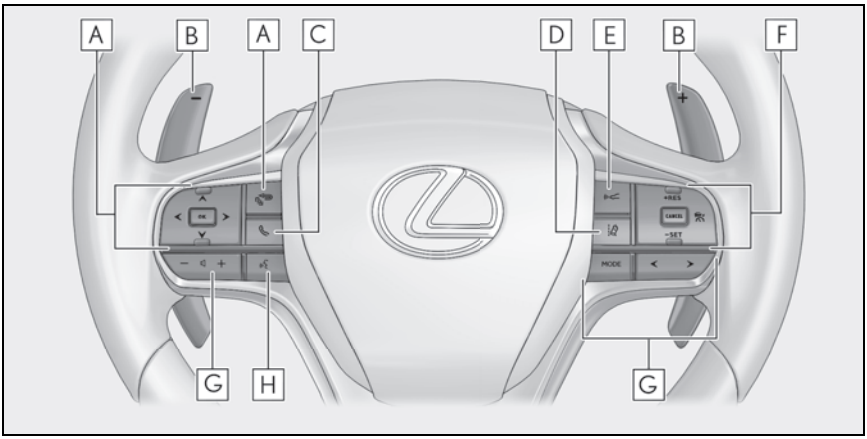
A 運転席ポジションメモリースイッチ P.143

B ドアミラースイッチ P.151

C ドアロックスイッチ P.129

D ウインドウロックスイッチ..... P.158

E パワーウインドウスイッチ..... P.154



A メーター操作スイッチ P.105

B パドルシフトスイッチ P.192, 199

C 電話スイッチ ※

D LTA（レーントレーシングアシスト）スイッチ..... P.235

E 車間距離切りかえスイッチ..... P.251

F クルーズコントロールスイッチ

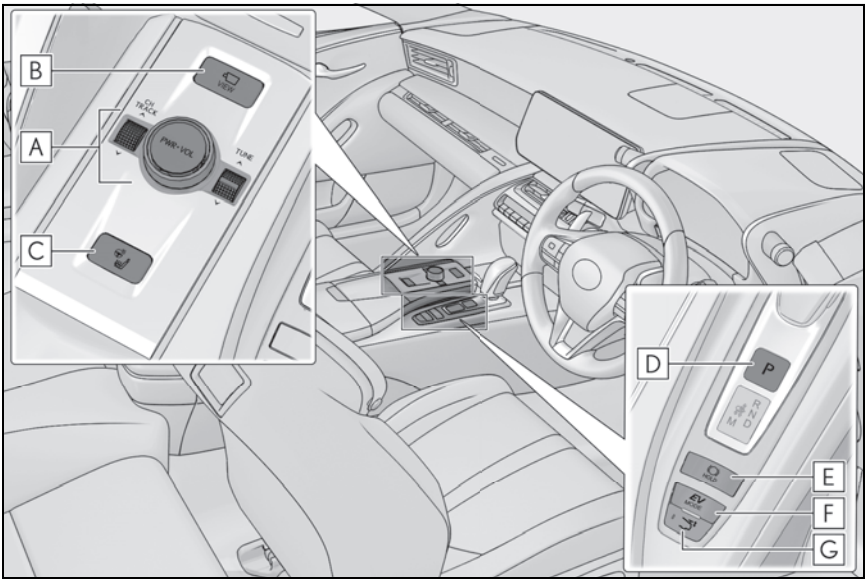
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）..... P.247

G オーディオ操作スイッチ ※

H トークスイッチ ※

※ 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

▶ コンバーチブル以外



A オーディオコントロールスイッチ ※

B カメラスイッチ ※

C シート空調画面表示スイッチ..... P.317

D P ポジションスイッチ..... P.188, 195

E ブレーキホールドスイッチ..... P.204

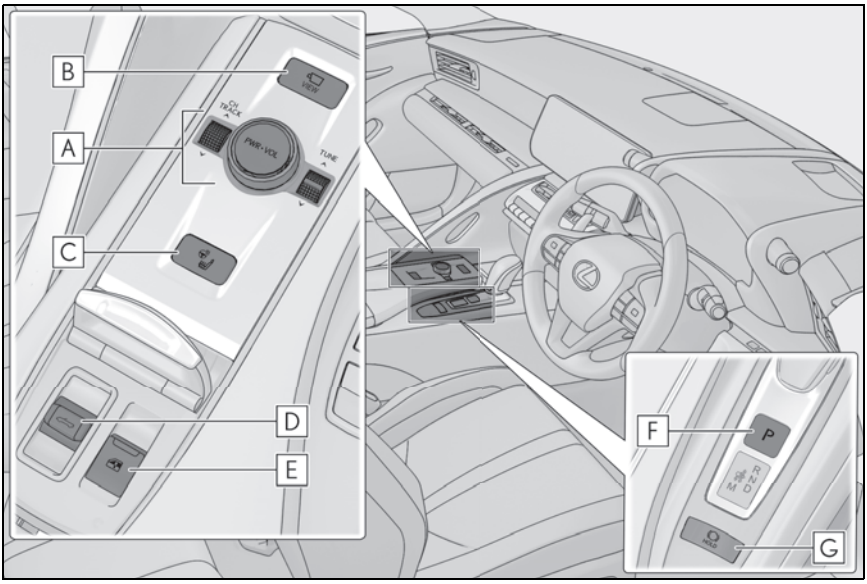
F EV ドライブモードスイッチ★..... P.185

G アクティブリヤウィングスイッチ★..... P.289

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

▶ コンバーチブル



A オーディオコントロールスイッチ ※

B カメラスイッチ ※

C シート空調画面表示スイッチ..... P.317

D ルーフスイッチ P.159

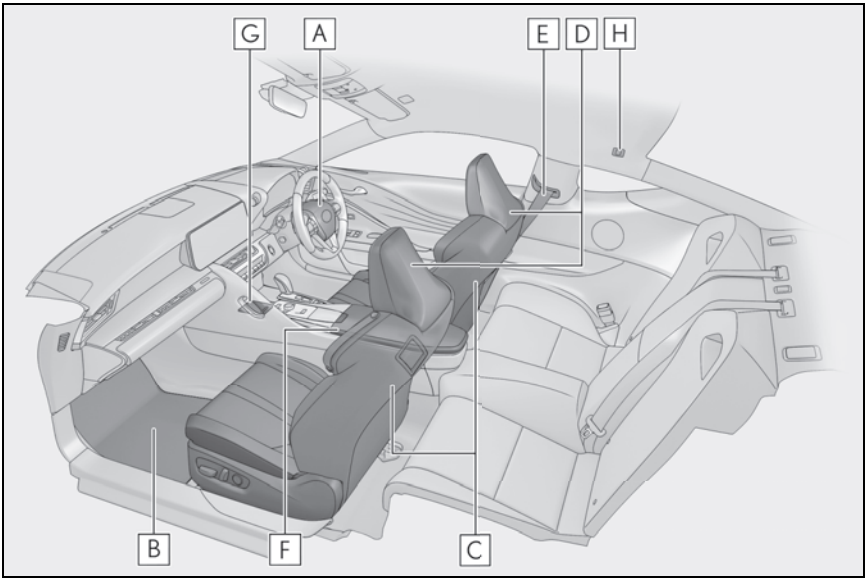
E 全ウインドウ一括開閉スイッチ..... P.154

F P ポジションスイッチ..... P.188

G ブレーキホールドスイッチ..... P.204

※ 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■室内



A SRS エアバッグ P.38

B フロアマット P.30

C フロントシート P.141

D ヘッドレスト P.147

E シートベルト P.33

F コンソールボックス／小物入れ P.323

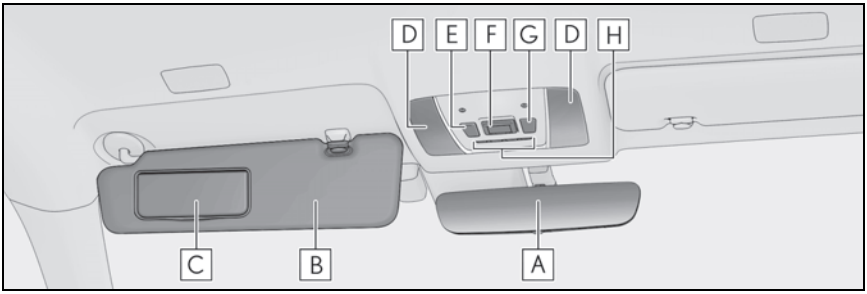
G カップホルダー P.323

H コートフック★ P.328

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 天井

▶ コンバーチブル以外



A インナーミラー P.150

B サンバイザー ※1 ..... P.326

C バニティミラー P.326

D パーソナルランプ P.321

E 侵入・傾斜センサー OFF スイッチ P.90

F ヘルプネットスイッチパネル ※2

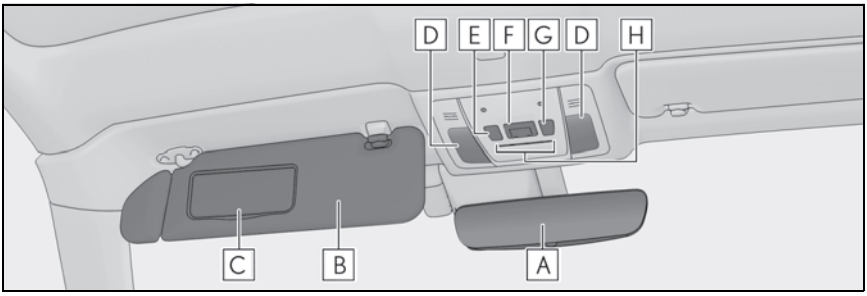
G パーソナルランプドア連動スイッチ P.321

H シート照明 P.319
シフトレバー照明 P.319

※1やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。（→P.59）

※2別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

▶ コンバーチブル



A インナーミラー P.150

B サンバイザー ※1 ..... P.326

C バニティミラー P.326

D パーソナルランプ P.321

E 侵入・傾斜センサー OFF スイッチ P.90

F ヘルプネットスイッチパネル ※2

G パーソナルランプドア連動スイッチ P.321

H シート照明 P.319
シフトレバー照明 P.319

※1やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。（→P.59）

※2別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に 30

安全なドライブのために 32

シートベルト 33

SRS エアバッグ（コンバーチブル以外）..... 38

SRS エアバッグ（コンバーチブル）..... 45

ポップアップフード..... 50

アクティブロールバー（コンバーチブル）..... 52

排気ガスに対する注意..... 55

1-2. お子さまの安全

お子さまを乗せるときは 56

チャイルドシート（コンバーチブル以外）..... 57

チャイルドシート（コンバーチブル）..... 68

1-3. ハイブリッドシステム

ハイブリッドシステムの特徴（LC500h）..... 79

ハイブリッドシステムの注意（LC500h）..... 82

1-4. 盗難防止装置

エンジンイモビライザーシステム＜イモビライザーシステム＞ 87

オートアラーム..... 88

運転する前に

お車を安全に運転していただくために、運転する前は必ず次のことを確認してください。

点検整備

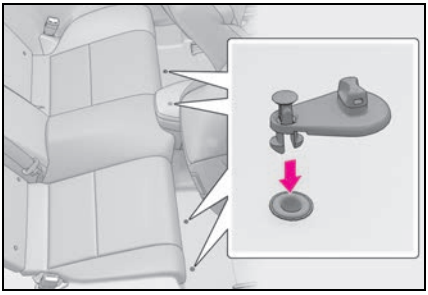
日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。
異常が見つかった場合は、レクサス販売店で必ず点検整備を受けてください。

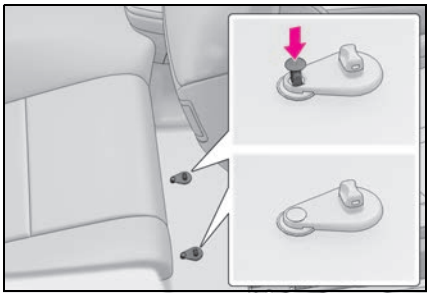
リヤ席用フロアマット固定フック（クリップ）の取り付け方法★

リヤ席用のフロアマットを固定するために、次の要領で確実に取り付けてください。

1 リヤ席足元のクリップ取り付け穴（4ヶ所）に固定フック（クリップ）を挿し込む



2 挿し込んだ固定フック（クリップ）を固定する

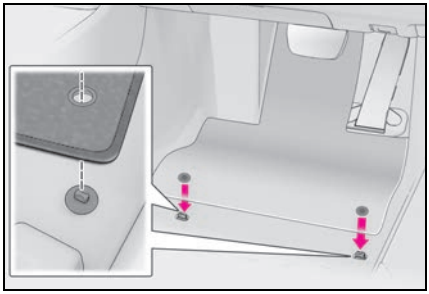


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

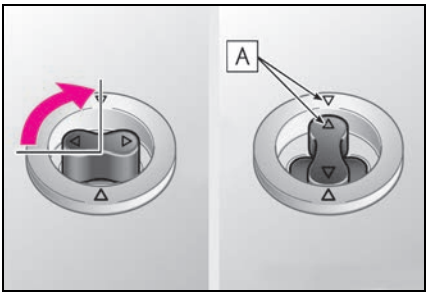
フロアマットを固定するには★

専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する



※ △マーク A を必ず合わせてください。

固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

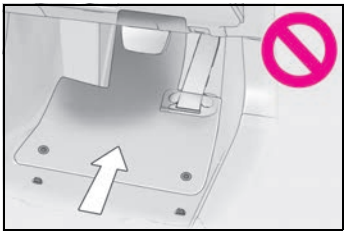
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くとき

- レクサス純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う

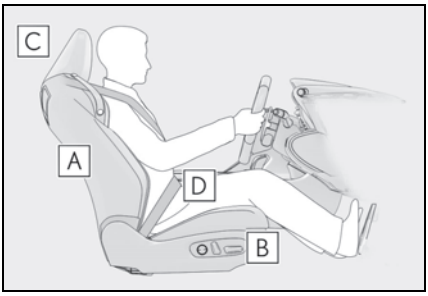


- エンジン<ハイブリッドシステム>停止およびシフトポジションがＰの状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢をとるには



A まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→P.141）

B ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→P.141）

C ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→P.147）

D シートベルトを正しく着用する（→P.34）

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
  運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
  正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
  ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。
  お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。
  周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
  また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルトを正しく着用するには

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。(→P.34)

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。(→P.57)

ミラーを調整するには

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。(→P.150, 151)

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

警告

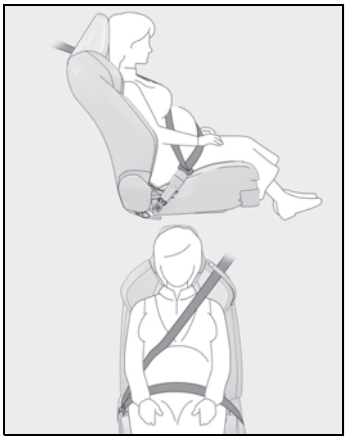
急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

警告

■**妊娠中の女性の場合**



医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P.34)
通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**疾患のある方の場合**

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■**お子さまを乗せるとき**

→P.56

■**シートベルトの損傷・故障について**

●ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。

●シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

●プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにレクサス販売店に連絡してください。

●もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。

●プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、レクサス販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

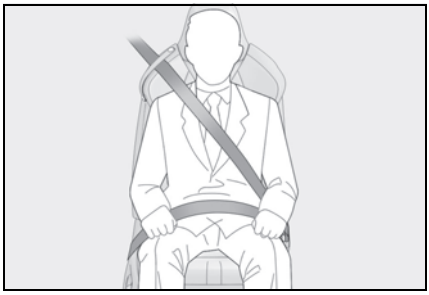
正しく着用するには

● 肩部ベルトを肩に十分かける

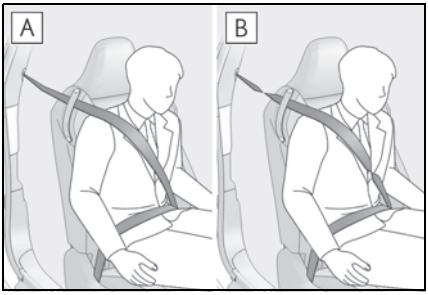
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

● 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる

● 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る



● ねじれがないようにする



A ねじれていない

B ねじれている

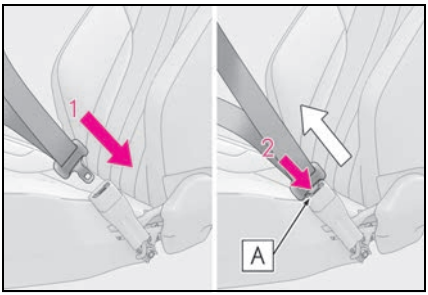
知識

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P.57)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→P.33)

着け方・はずし方



1 ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

2 ベルトを解除するには、解除ボタンAを押す

知識

■シートベルトロックの解除方法

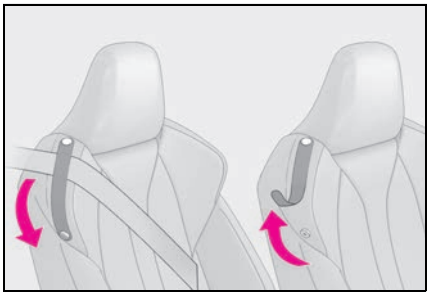
急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

シートベルトガイド（コンバーチブル以外）

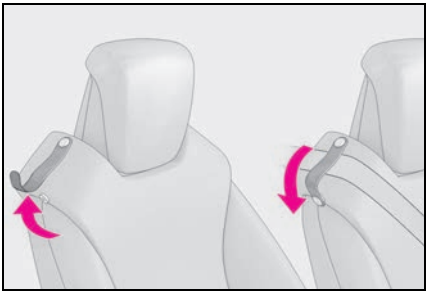
フロント席のシートには、シートベルトを引き出しやすくするためのガイドが付いています。シートベルトが引き出しにくい場合は、ガイドに通してご使用ください。

リヤシートへ乗り降りするときは、ガイドからシートベルトをはずします。

▶ 手動式ヘッドレスト装着車



▶ 電動式ヘッドレスト装着車



警告

■シートベルトガイドを使うときは

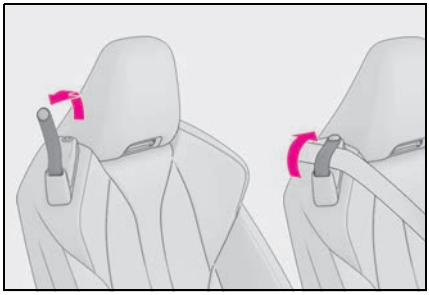
急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ベルトがねじれたり、ひっかかったりしたままで使用しないでください。
- 使用・不使用に関わらず、確実にボタンを留めてください。
- ぶら下がったり、無理に引っぱったりしないでください。

シートベルトガイド（コンバーチブル）

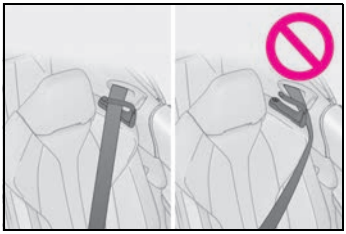
フロント席のシートには、シートベルトを通すためのガイドが付いています。シートベルトは必ずガイドに通してご使用ください。

リヤシートへ乗り降りするときは、ガイドからシートベルトをはずします。



警告

■シートベルトガイドについて



シートベルトは必ずガイドに通して使用してください。

■シートベルトガイドを使うときは

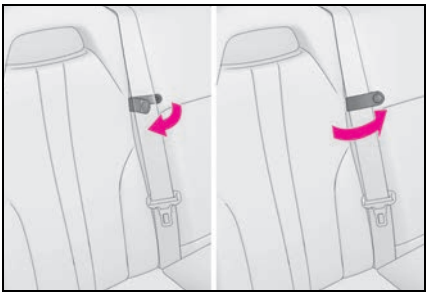
急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ベルトがねじれたり、ひっかかったりしたままで使用しないでください。
- 使用・不使用に関わらず、確実にボタンを留めてください。
- ぶら下がったり、無理に引っぱったりしないでください。

リヤシートベルトホルダー（コンバーチブル）

リヤシートには、シートベルトを固定するベルトホルダーが付いています。ソフトトップルーフを開けた状

態で走行したときに、シートベルトが風の影響を受ける場合はベルトを固定してください。



警告

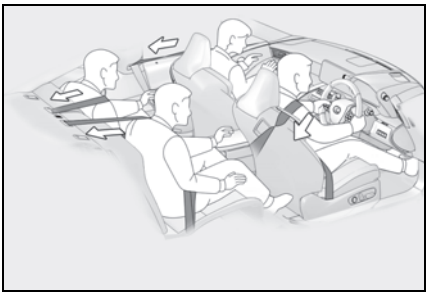
■リヤシートベルトを使うときは

必ずバンドからベルトホルダーをはずしてください。

シートベルトプリテンショナー

前方・側方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。



知識

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

警告

■プリテンショナー付きシートベルトについて

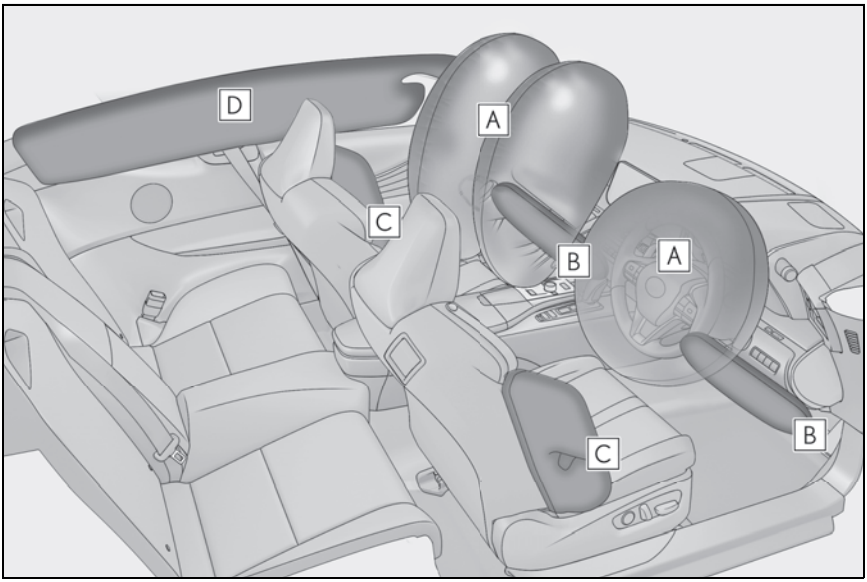
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずレクサス販売店で交換してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

SRS エアバッグ（コンバーチブル以外）

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

SRS エアバッグシステム

■ SRS エアバッグの配置



▶ フロント SRS エアバッグ

A 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

B SRS ニーエアバッグ
（運転者と助手席乗員の衝撃緩和を補助）

▶ SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ

C SRS サイドエアバッグ
（フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

D SRS カーテンシールドエアバッグ
（フロント席とリヤ席乗員の主に頭部への衝撃を緩和）

知識

■SRS エアバッグが作動すると

●SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。

●作動音と共に白いガスが発生します。

●フロント席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

●LC500h：ハイブリッドシステムと燃料供給を停止します。（→P.85）

●すべてのドアが解錠されます。（→P.127）

●自動的にブレーキと制動灯を制御します。（→P.297）

●室内灯が自動で点灯します。（→P.320）

●非常点滅灯が自動で点滅します。（→P.373）

●LC500：燃料供給を停止します。（→P.382）

●G-Link の契約期間内は、次の場合、自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両を手配します。
詳しくは別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。
・SRS エアバッグが作動した
・シートベルトプリテンショナーが作動した
・後方から強い衝撃を受けた

■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

●フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
・駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
・もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

●衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

■SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

●特に衝撃が大きい場合は、左右の SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

●前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

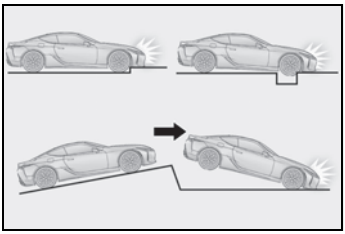
■衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

●縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき

●深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき

●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



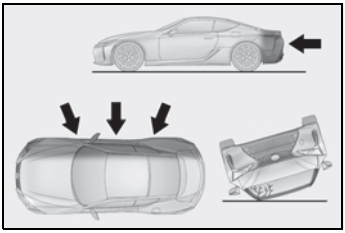
■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

●側面からの衝突

●後方からの衝突

●横転

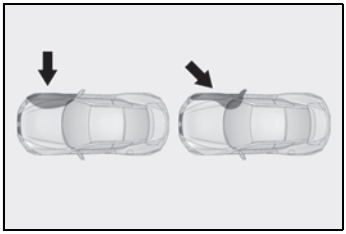


■SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

●客室部分以外の側面への衝撃

●斜めからの衝撃

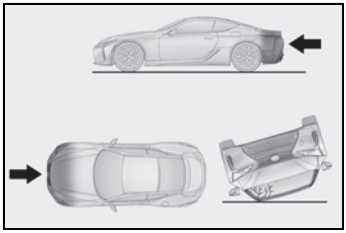


SRS サイドエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

●前方からの衝突

●後方からの衝突

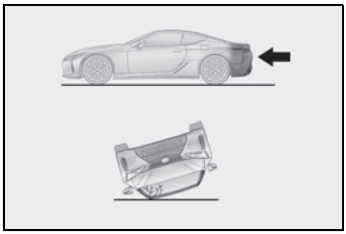
●横転



SRS カーテンシールドエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

●後方からの衝突

●横転

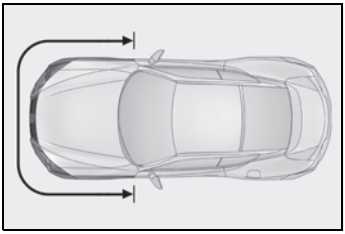


■レクサス販売店に連絡が必要な場合

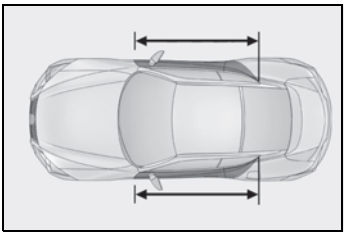
次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くレクサス販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

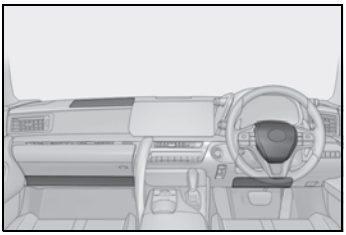
●フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



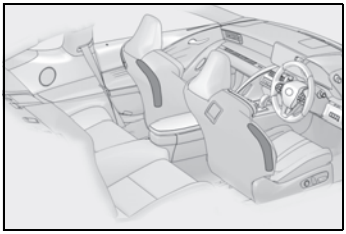
●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損・変形・穴あきなどがあるとき



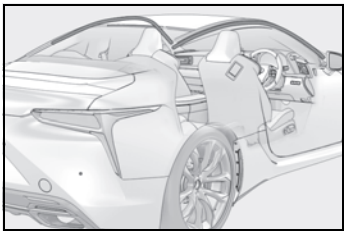
●ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近・インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



●SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



●SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー部・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



警告

■SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

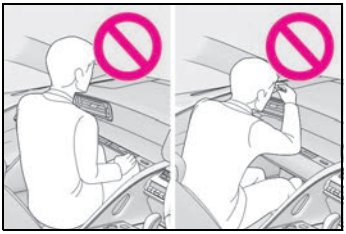
●運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

●助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

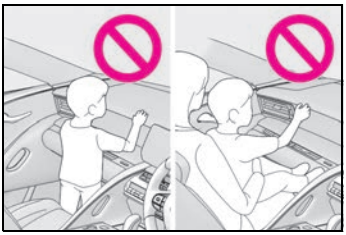
警告

●お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。（→P.57）

●シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



●お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない

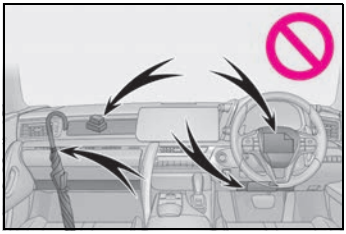


●運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

●ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない

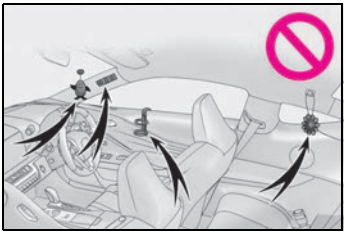
●助手席では、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない

●ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない



警告

- ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレールなどには何も取り付けない（速度制限ラベルを除く →P.401）



- コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。
- SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺およびドアの周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずレクサス販売店で交換してください。

■改造・廃棄について

レクサス販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール・ドアパ ネル・ドアトリム・ドアスピーカー周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントドアパネルの穴あけなどの改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け
- サスペンションの改造

警告

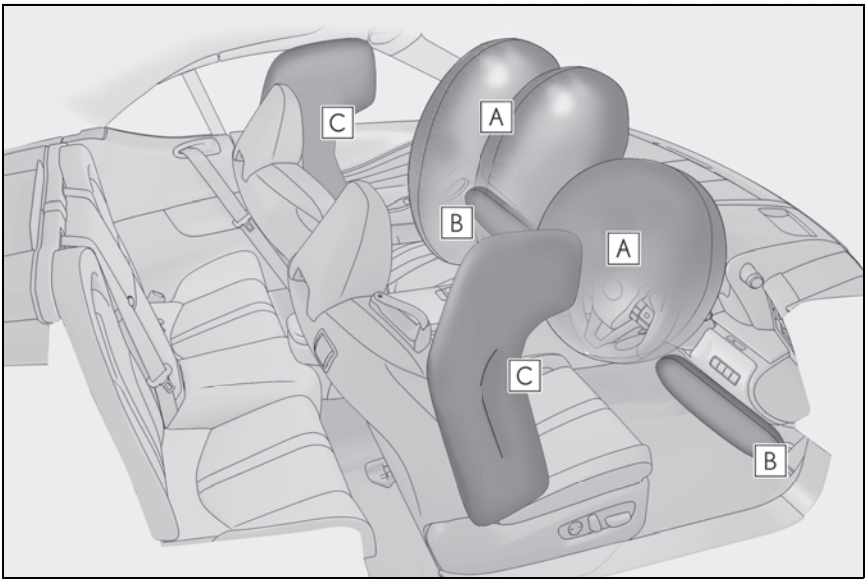
●CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

SRS エアバッグ（コンバーチブル）

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

SRS エアバッグシステム

■ SRS エアバッグの配置



▶ フロント SRS エアバッグ

A 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

B SRS ニーエアバッグ
（運転者と助手席乗員の衝撃緩和を補助）

▶ SRS サイドエアバッグ

C SRS サイドエアバッグ
（フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

知識

■SRS エアバッグが作動すると

●SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。

●作動音と共に白いガスが発生します。

●フロント席などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

●すべてのドアが解錠されます。（→P.127）

●自動的にブレーキと制動灯を制御します。（→P.297）

●室内灯が自動で点灯します。（→P.320）

●非常点滅灯が自動で点滅します。（→P.373）

●燃料供給を停止します。（→P.382）

●G-Link の契約期間内は、次の場合、自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両を手配します。
詳しくは別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。
・SRS エアバッグが作動した
・シートベルトプリテンショナーが作動した
・後方から強い衝撃を受けた

■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

●フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
・駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
・もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

●衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

■SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイドエアバッグ）

SRS サイドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

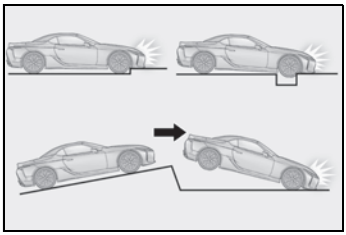
■衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグと SRS サイドエアバッグが作動する場合があります。

●縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき

●深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき

●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



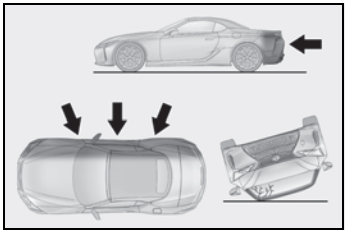
■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

●側面からの衝突

●後方からの衝突

●横転

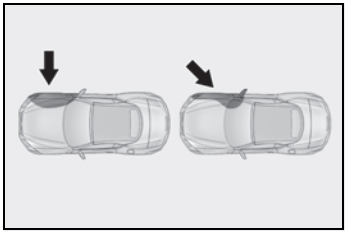


■SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイドエアバッグ）

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイドエアバッグが作動しない場合があります。

●客室部分以外の側面への衝撃

●斜めからの衝撃

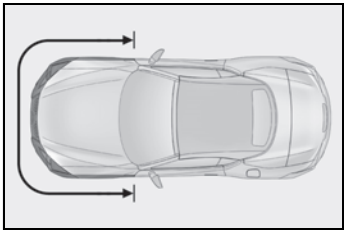


■レクサス販売店に連絡が必要な場合

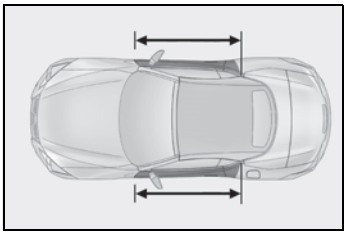
次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くレクサス販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

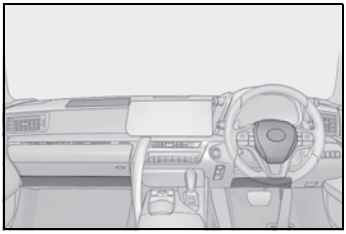
●フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



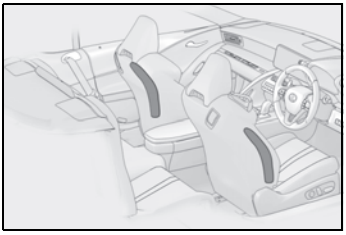
●SRS サイドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損・変形・穴あきなどがあるとき



●ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近・インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



●SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



警告

■SRS エアバッグについて

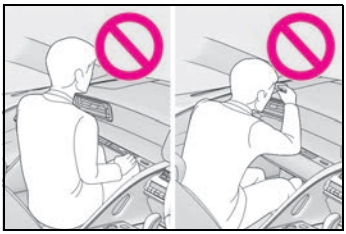
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

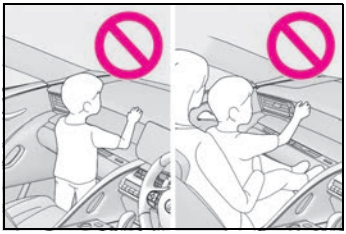
●助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

●お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。（→P.57）

●シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



●お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない



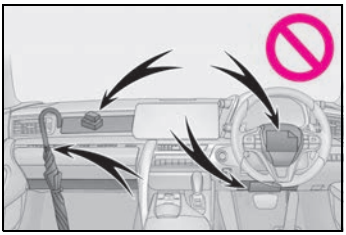
●運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

●ドアへ寄りかからない

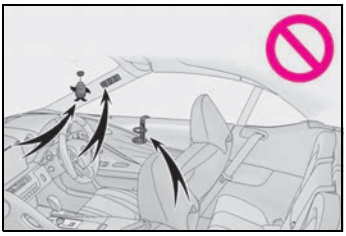
警告

●助手席では、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない

●ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない



●ドア・フロントウインドウガラスおよびドアガラスなどには何も取り付けない



●SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。

●SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグシステム構成部品の周辺およびドアの周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。

●SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。

●SRS エアバッグが収納されているパッド部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずレクサス販売店で交換してください。

■改造・廃棄について

レクサス販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理

警告

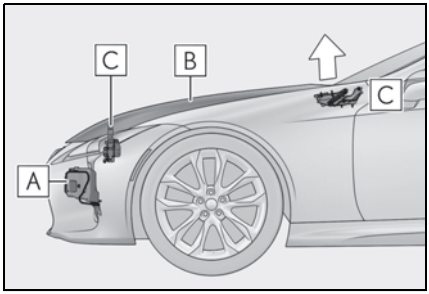
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・ドアパネル・ドアトリム・ドアスピーカー周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントドアパネルの穴あけなどの改造
- フロントフェンダー・フロントバンパーの修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチ・ルーフキャリアなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

ポップアップフード

ポップアップフードは前方向からの衝突時にボンネットを持ち上げ、エンジンルーム内の空間を確保し、歩行者の頭部への衝撃を緩和させます。

作動速度範囲での走行時に、歩行者やその他の物体と前方向から衝突したとき、フロントバンパー裏にあるセンサーが衝突を感知し作動します。

システムの構成部品



A センサー

B ボンネット

C リフター

知識

■ポップアップフードについて

- 廃車するときは、必ずレクサス販売店にご相談ください。
- ポップアップフードは、一度作動すると再使用できません。レクサス販売店で交換してください。

■ポップアップフードが作動するとき

次のような衝撃を受けたときに作動しま

す。

●作動速度範囲（約 25 ～ 55km/h）での走行時、フロントバンパーに歩行者と同等、もしくはそれ以上の衝撃を正面から受けたとき（衝突したときにフロントバンパーに痕跡が残らないような場合でも、一定以上の衝撃が加われば作動します。また、軽いもの・小さな動物や他の小さな物体でも衝突の状況、速度によっては作動することがあります）

●その他に、次のような車両下部やフロントバンパーに衝撃を受けたときも作動することがあります。
・縁石に衝突したとき
・深い溝や穴に落ち込んだとき
・ジャンプして地面にぶつけたとき
・駐車場のスロープ・うねりのある道路・突起物や落下物などにぶつけたとき

■**ポップアップフードが作動しにくいとき**

●走行中、フロントバンパーの左右の角や側面に歩行者がぶつかったときは、衝撃を検知しにくいため、作動しないことがあります。また、歩行者の衝撃によっては作動しにくい場合があります。

●車両が横すべりするなどして、車速が正しく検知できないときは正常に作動しないことがあります。

■**ポップアップフードが作動しないとき**

次のようなときは作動しません。

●横たわっている人に衝突したとき

●作動速度範囲外での走行時にフロントバンパーが衝撃を受けたとき

●横方向や後部から衝撃を受けたとき

●横転、転覆したとき（事故の状況、形態によっては、ポップアップフードが作動することがあります）

警告

■**ポップアップフードが作動したとき**

●ボンネット解除レバーを引かないでください。ポップアップフードが作動したあとにボンネット解除レバーを引くと、さらにボンネットが上がり、思わぬけがをするおそれがあり危険です。また、ボンネットが上がったまま走行すると視界がさまたげられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ボンネットを無理に押しもどさないでください。作動したボンネットは手動では下げることができないため、ボンネットが変形したり、思わぬ傷害につながるおそれがあり危険です。

●ポップアップフードが作動したあとはレクサス販売店で交換してください。なお、車両の移動は安全な場所までにとどめ、販売店に連絡してください。

●ポップアップフードが作動した直後は、リフターにふれないでください。作動直後はリフターが熱くなっているため、やけどをするおそれがあります。

注意

■**ポップアップフードについて**

●ボンネットが完全に閉まっていないと、正常に作動しないおそれがあります。走行前にボンネットが閉まっていることを必ず確認してください。

●4輪とも指定されたサイズのタイヤを指定空気圧で使用してください。異なるサイズのタイヤを使用すると、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

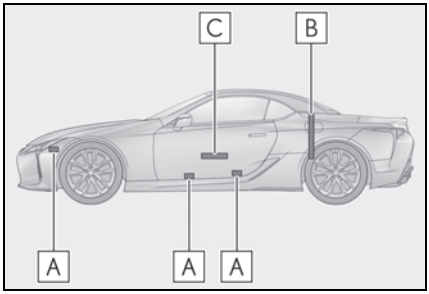
注意

- フロントバンパー周辺に何かがぶつかったときは、ポップアップフードが作動していなくても、センサーが損傷しているおそれがあります。必ずレクサス販売店で点検を受けてください。
- ポップアップフードの部品や配線などを取りはずしたり修理しないでください。誤って作動したり、正常に作動しなくなるおそれがあります。修理や交換作業が必要なときは、レクサス販売店にご相談ください。
- フロントバンパー・ボンネット・サスペンションなどを純正品以外のものに交換しないでください。また、取りはずしたりしないでください。システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- フロントバンパーやボンネットにものを取り付けないでください。衝撃を正しく検知できず、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- ボンネットを強く閉めたり、リフターに荷重を加えないでください。リフターが損傷し、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- サスペンションを改造しないでください。車高がかわると、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

アクティブロールバー（コンバーチブル）

アクティブロールバーは前方や側面からの衝撃、または横転を検知したときに、バーが車両上方へ展開する機構です。

システムの構成部品



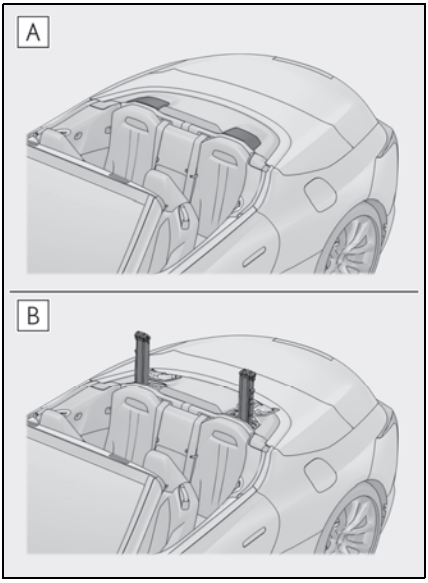
A センサー

B アクティブロールバー

C ECU

アクティブロールバーの作動

アクティブロールバーは、リヤシート後方に格納されており、作動するとバーが車両上方へ展開します。



A 作動前

B 作動後

知識

■アクティブロールバーについて

●廃車するときは、必ずレクサス販売店にご相談ください。

●ソフトトップルーフが開いている状態でアクティブロールバーが作動した場合、ソフトトップルーフを閉める事ができなくなります。

●アクティブロールバーは、一度作動すると再使用できません。レクサス販売店で交換してください。

●アクティブロールバーは、ソフトトップルーフの開閉状況に関わらず作動します。

■アクティブロールバーが作動するとき

●衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合、または約 1.5t の車両が約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

ただし、次のような前面衝突の場合、アクティブロールバーが作動する車速は設定値より高くなります。

・駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
・もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

●横転時に作動します。

●その他に、次のような状況で車両下部に衝撃を受けたときも作動する場合があります。

・縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
・深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき
・ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき
・車両が大きく傾いたとき
・車両が横すべりし縁石などに衝突して強い衝撃があったとき

■アクティブロールバーが作動しないとき

後方からの衝撃や低速での前方や側面から受けた衝撃では、作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、アクティブロールバーが作動することがあります。また、斜めから衝撃を受けたときや、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときも、作動しない場合があります。

●後方からの衝突

●客室部分以外の側面への衝撃

●斜めからの衝撃

■アクティブロールバーが作動したとき

アクティブロールバーが作動したときは、

ルーフスイッチによるソフトトップルーフの開閉ができません。

■警告メッセージについて

マルチインフォメーションディスプレイに“アクティブロールバーシステム故障　販売店で点検してください”が表示されたときは、すみやかにレクサス販売店で点検を受けてください。

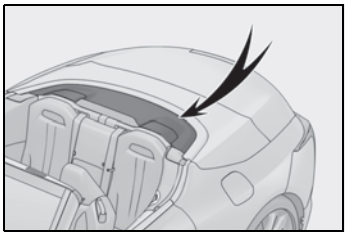
警告

■アクティブロールバーについて

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●アクティブロールバーの可動範囲に体の一部がないことを確認してください。また、パッケージトレイの上に座らないでください。



●パッケージトレイの上にものを置かないでください。アクティブロールバーが作動した際、ものが飛ぶおそれがあります。

●アクティブロールバーが作動したあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。
皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。

■アクティブロールバーが作動したとき

アクティブロールバーが作動したあとはレクサス販売店で交換してください。なお、車両の移動は安全な場所までにとどめ、販売店に連絡してください。

注意

■アクティブロールバーについて

正しく作動させるために、次のことをお守りください。

●フロントバンパーやフロントドア周辺に何かがぶつかったときは、アクティブロールバーが作動していなくても、センサーが損傷しているおそれがあります。必ずレクサス販売店で点検を受けてください。

●アクティブロールバーの部品や配線などを取りはずしたり修理しないでください。誤って作動したり、正常に作動しなくなるおそれがあります。修理や交換作業が必要なときは、レクサス販売店にご相談ください。

●アクティブロールバー構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。

●パッケージトレイの上にものを置いたり、荷重を加えないでください。

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

トランクを閉じてください。
トランクが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにレクサス販売店で点検整備を受けてください。

■駐車するとき

●車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、エンジン<ハイブリッドシステム>を停止してください。

●長時間エンジン<ハイブリッドシステム>が作動したままにしないでください。
やむを得ないときは、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。

●降雪時や雪が積もった場所では、エンジン<ハイブリッドシステム>が作動したままにしないでください。
まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。（→P.57）
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- パワーウインドウを誤操作しないように、ウインドウロックスイッチ（→P.158）をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウインドウ・ボンネット・トランクやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

■お子さまを乗せるときは

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシート」を参照してください。（→P.57）

チャイルドシート（コンバーチブル以外）

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
  取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。
- レクサスでは、より安全にお使いいただくために、レクサス純正チャイルドシートの使用を推奨しています。
  レクサス純正チャイルドシートは、レクサス車のために作られたチャイルドシートです。
  レクサス販売店で購入することができます。

目次

知っておいていただきたいこと：P.57

チャイルドシートを使用するときは：P.58

シート位置別チャイルドシートの適合性について：P.60

チャイルドシートの取り付け方法：P.64

・シートベルトで固定する：P.64
・ISOFIX ロアアンカレッジで固定する：P.66
・トップテザーアンカレッジを使用する：P.67

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。

警告

■お子さまを乗せるときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。

警告

- レクサスでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

■チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いため、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください(→P.60)。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、トランク内に容易に動かないように収納してください。

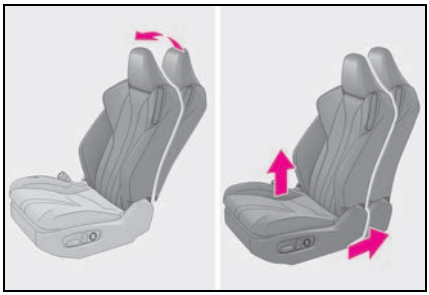
チャイルドシートを使用するときは

■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

- 背もたれを可能な限り起こす
- シートをいちばんうしろに下げる
- シートの高さをいちばん高い位置まで上げる
- ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。



警告

■チャイルドシートを使用するとき

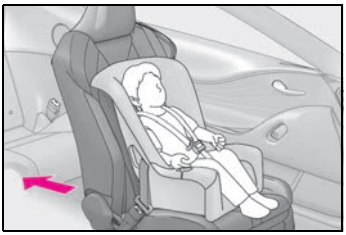
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●やむを得ず 助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

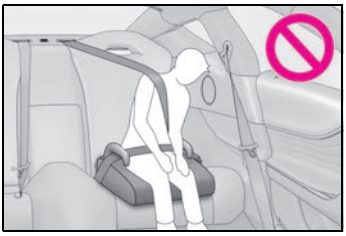
警告

警告

●やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。
助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



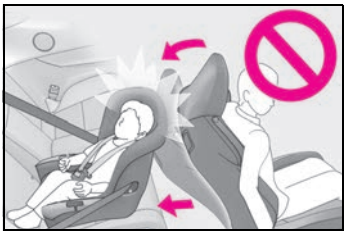
●チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。

●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。



●助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

シート位置別チャイルドシートの適合性について

■ シート位置別チャイルドシートの適合性一覧表について

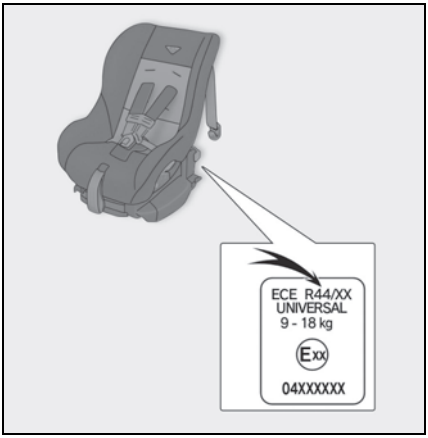
シート位置別チャイルドシートの適合性（→P.61）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。
また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。
次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

1 チャイルドシートの規格を確認する

UN（ECE）R44※1 に適合したチャイルドシートを使用してくだ

さい。
適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。
チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。

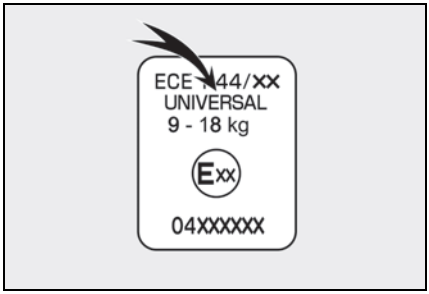


法規番号の表示例

UN（ECE）R44 認可マーク ※2
対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

2 チャイルドシートのカテゴリーを確認する
チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。
また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取扱説明書を確認頂くか、または販売業者へ確認してください。

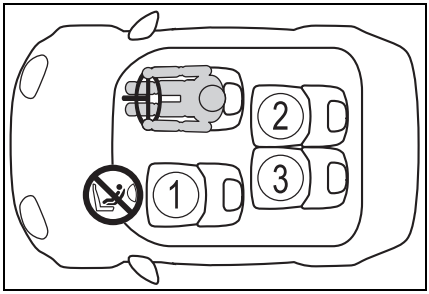
・ ユニバーサル「universal（汎用）」
・ セミユニバーサル「semi-universal（準汎用）」
・ リストリクティッド「restricted（限定）」
・ ビークルスペシフィック「vehicle specific（特定車両）」



※1 UN（ECE）R44 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

※2 表示されているマークは、商品により異なります。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性



1 ※1, 2, 3	U ※4
2	
3	

車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

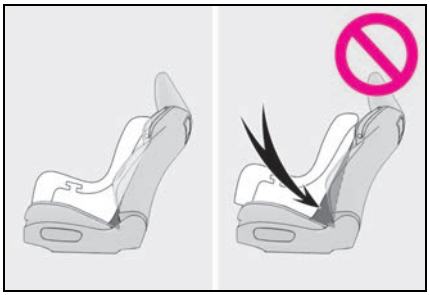
ISOFIX チャイルドシートに適しています。

トップテザーアンカレッジが装備されています。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

※1シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※2背もたれを可能な限り起こしてください。
前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



※3ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。
取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

※4チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置			
シート位置の番号	①	②	③
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有 / 無）	有 前向きのみ	無	無
アイサイズ着座位置（有 / 無）	無	無	無
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1/L2）	×	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1/R2X/R2/R3）	×	×	×
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X/F2/F3）	×	F2X	F2X
搭載可能なジュニアシートの治具（B2/B3）	×	×	×

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。

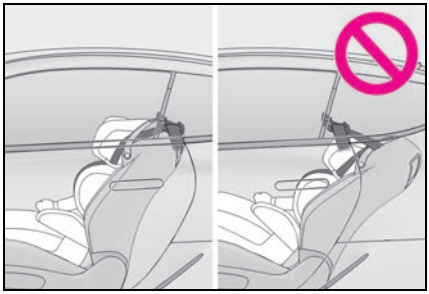
「治具」の種類は、次の表を確認ください。
チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

● リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。

● サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してださい。

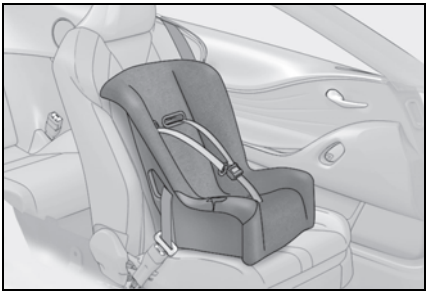
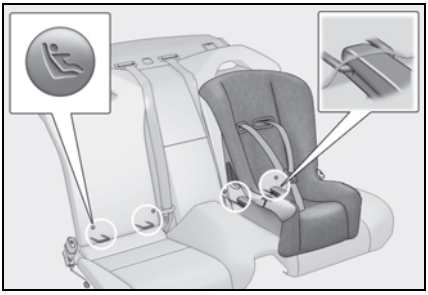
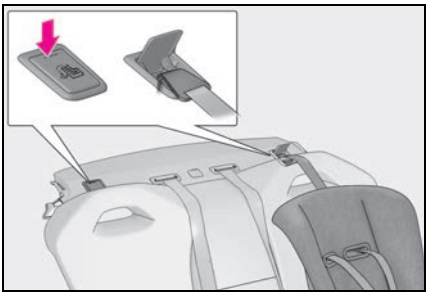
● シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。



● ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートのご使用については、チャイルドシートに付属の取扱説明書をご確認してください。

固定方法		ページ
シートベルトで固定する		P.64
ISOFIX ロアアンカレッジで固定する		P.66
テザーベルトを固定する		P.67

チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

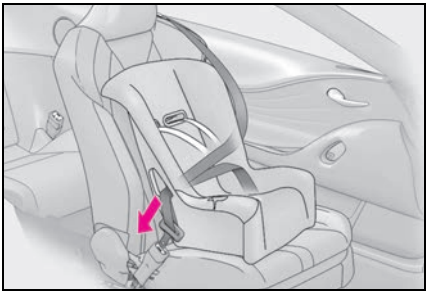
（→P.60, 61）

1 やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整してください。（→P.58）

2 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。（→P.147）

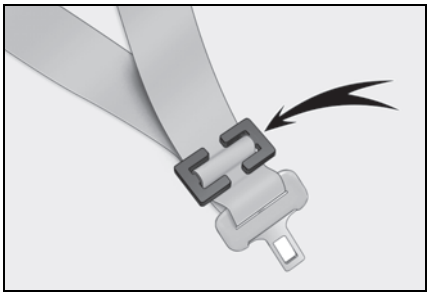
3 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



4 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、レクサス販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）



5 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。（→P.66）

■ チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。

チャイルドシートを抑えながらバックルの解除をしてください。シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくりもどしてください。

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

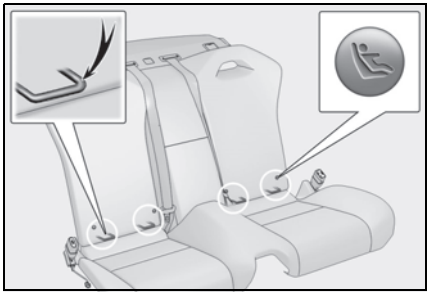
警告

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

■ ISOFIX ロアアンカレッジについて

この車はリヤ席に ISOFIX ロアアンカレッジが装備されています。（ロアアンカレッジが装備されていることを示すボタンがシートに付いています）



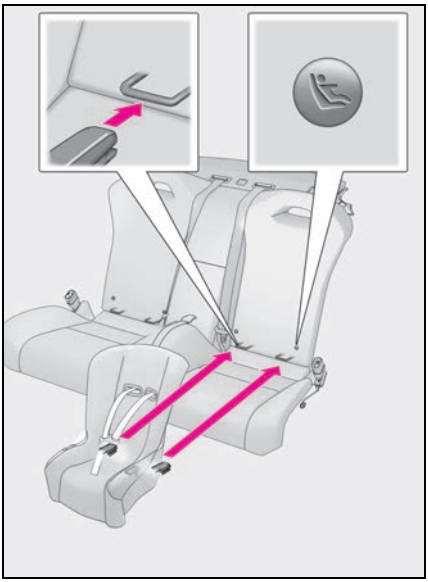
■ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→P.60, 61）

1 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートのコネクタ（取り付け金具）をチャイルドシートロアアンカレッジに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってくだ

さい。



2 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する（→P.66）

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

●ISOFIX ロアアンカレッジを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

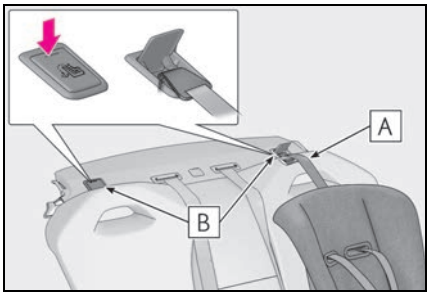
●必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

トップテザーアンカレッジを使用する

■ トップテザーアンカレッジについて

この車はリヤ席にトップテザーアンカレッジが装備されています。

テザーベルトを固定するときに使います。



A テザーベルト

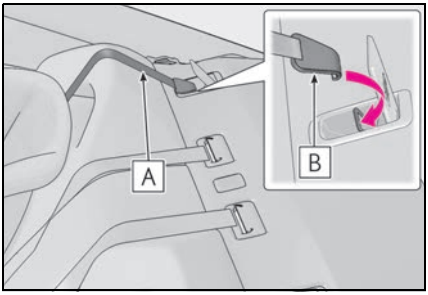
B トップテザーアンカレッジ

■ テザーベルトをトップテザーアンカレッジに固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

フタを開けてトップテザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。（→P.66）



A テザーベルト

B フック

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- テザーベルトはトップテザーアンカレッジ以外に掛けないでください
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

注意

■トップテザーアンカレッジについて

使用しないときはフタを確実に閉めてください。開けたままにしておくとフタが破損するおそれがあります。

チャイルドシート（コンバーチブル）

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
  取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。
- レクサスでは、より安全にお使いいただくために、レクサス純正チャイルドシートの使用を推奨しています。
  レクサス純正チャイルドシートは、レクサス車のために作られたチャイルドシートです。
  レクサス販売店で購入することができます。

目次

知っておいていただきたいこと：P.69

チャイルドシートを使用するときは：P.70

シート位置別チャイルドシートの適合性について：P.72

チャイルドシートの取り付け方法：P.75

・ シートベルトで固定する：P.76
・ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する：P.77

知っておいていただきたいこと

● チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。

● お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。

● お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。

● すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。

警告

■お子さまを乗せるときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。

●レクサスでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。

●お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

■チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いため、再使用しないでください。

●チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください（→P.72）。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

●チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。

●チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、トランク内に容易に動かないように収納してください。

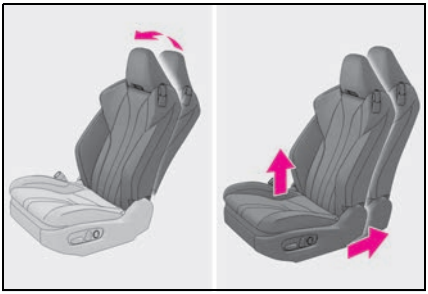
チャイルドシートを使用するときは

■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

- 背もたれを可能な限り起こす
- シートをいちばんうしろに下げる
- シートの高さをいちばん高い位置まで上げる
- ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

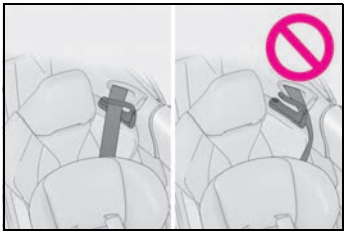


警告

■チャイルドシートを使用するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、シートベルトを必ずベルトガイドに通して、確実にボタンを留めてください。

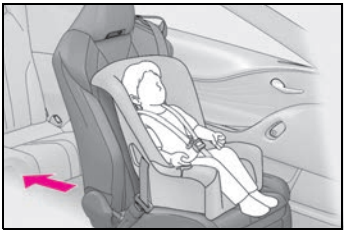


- やむを得ず 助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
  うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

警告

警告

●やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。
助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

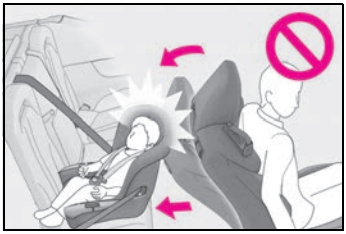


●チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。

●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。



●助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

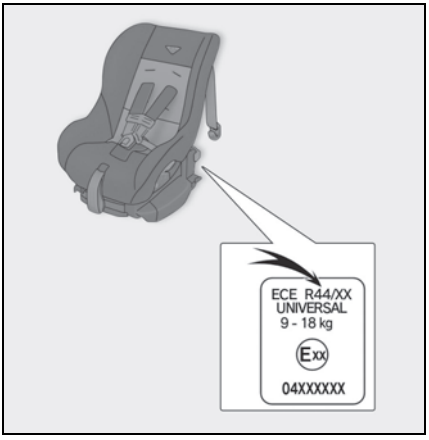
シート位置別チャイルドシートの適合性について

■ シート位置別チャイルドシートの適合性一覧表について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→P.73）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。
また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。
次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

1 チャイルドシートの規格を確認する
UN（ECE）R44※1 に適合したチャイルドシートを使用してください。
適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。
チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。

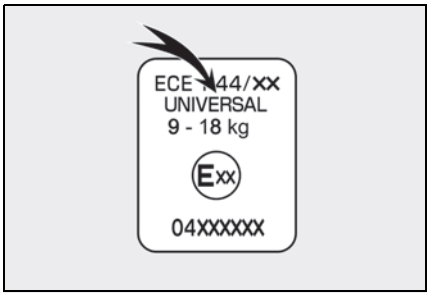


法規番号の表示例

UN（ECE）R44 認可マーク※2
対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

2 チャイルドシートのカテゴリーを確認する
チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。
また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取扱説明書を確認頂くか、または販売業者へ確認してください。

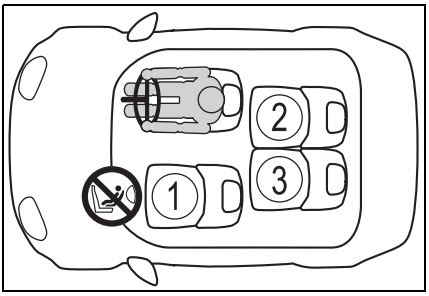
- ユニバーサル「universal（汎用）」
- セミユニバーサル「semi-universal（準汎用）」
- リストリクティッド「restricted（限定）」
- ビークルスペシフィック「vehicle specific（特定車両）」



※1 UN（ECE）R44 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

※2 表示されているマークは、商品により異なります。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性



1 ※1, 2, 3	U ※4
2	
3	

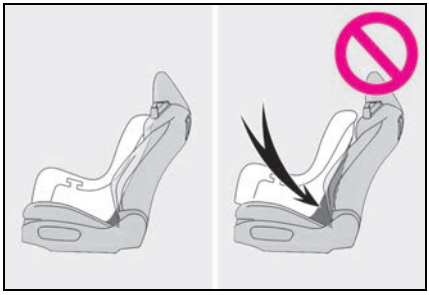
U 車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

ISOFIX チャイルドシートに適しています。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

※1シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※2背もたれを可能な限り起こしてください。
前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



※3ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

※4チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置			
シート位置の番号	1	2	3
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有 / 無）	有 前向きのみ	無	無
アイサイズ着座位置（有 / 無）	無	無	無

着座位置			
シート位置の番号	①	②	③
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1/L2）	×	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1/R2X/R2/R3）	×	×	×
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X/F2/F3）	×	F2X	F2X
搭載可能なジュニアシートの治具（B2/B3）	×	×	×

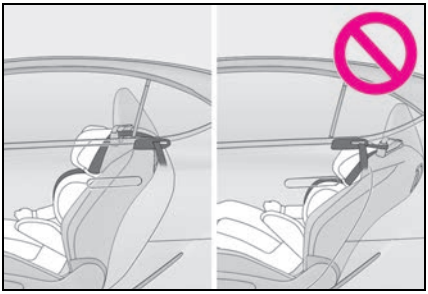
ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。
「治具」の種類は、次の表を確認ください。
チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

- リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。
- サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャ

イルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してください。

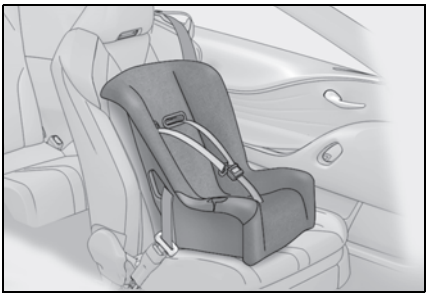
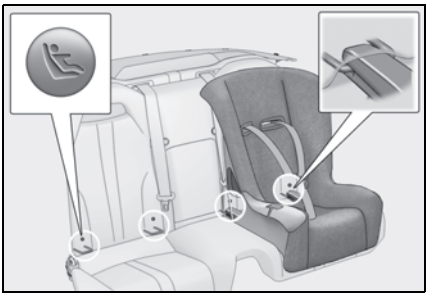
● シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。



● ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートのご使用については、チャイルドシートに付属の取扱説明書をご確認してください。

固定方法		ページ
シートベルトで固定する		P.76
ISOFIX ロアアンカレッジで固定する		P.77

チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シートベルトで固定する

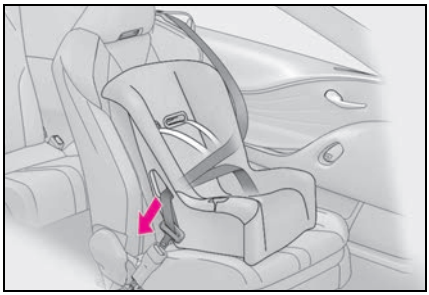
チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→P.72, 73）

1 やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整してください。（→P.70）

2 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。（→P.147）

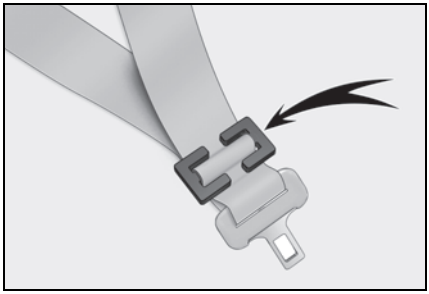
3 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



4 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、レクサス販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）



5 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。（→P.77）

■ チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。

チャイルドシートを抑えながらバックルの解除をしてください。シートベルトは

自動的に巻き取られますので、ゆっくりもどしてください。

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

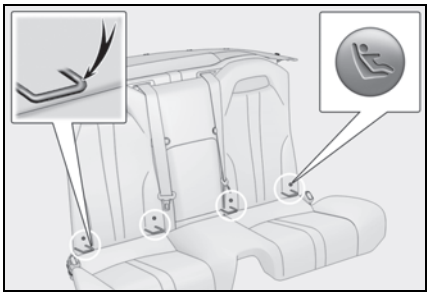
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

■ ISOFIX ロアアンカレッジについて

この車はリヤ席に ISOFIX ロアアンカレッジが装備されています。（ロアアンカレッジが装備されていることを示すボタンがシートに付いています）



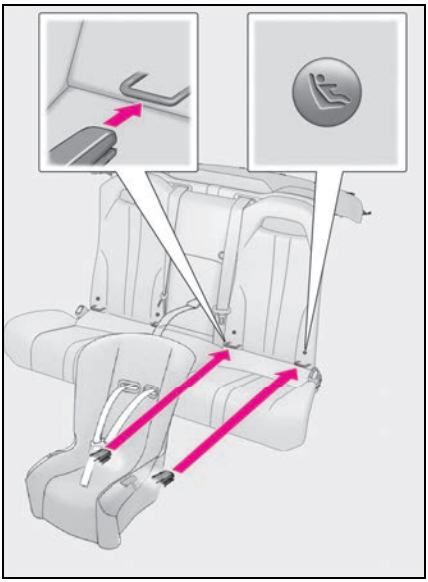
■ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→P.72, 73）

1 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートのコネクタ（取り付け金具）をチャイルドシートロアアンカレッジに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってくだ

さい。



2 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する（→P.77）

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

●ISOFIX ロアアンカレッジを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

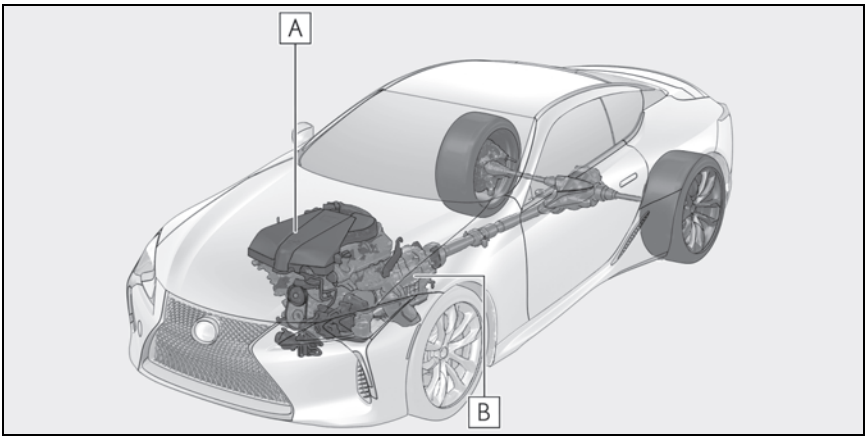
●必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

ハイブリッドシステムの特徴（LC500h）

ハイブリッドシステムは、電気モーターとガソリンエンジンという 2 つのパワーのシナジー（相乗）効果により、優れた動力性能と低燃費化の両立を高い次元で実現したシステムです。さらに、排出ガスを低減、クリーン化した環境に配慮した技術となっています。

また、従来のシステムに加えて、4 つの走行状況（発進・加速・低速走行・高速巡航）に合わせた専用制御により、駆動力や燃費性能などを最適な状態にすることで、より力強く、より燃費を向上させる走行が可能となっています。

システムの構成部品



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

A ガソリンエンジン

B 電気モーター

■ 停車時・発進時

停車中はガソリンエンジンを停止※します。

発進時は電気モーターを使って発進します。

平地や下り坂などで、アクセルペダルの踏み込みが小さいときもガソリンエンジンを停止※し、電気モーターを使って走行します。

シフトポジションが N にあるときは駆動用電池への充電が行われません。

※ 駆動用電池の充電が必要なときやエンジン暖機中など、ガソリンエンジンが自動停止しないことがあります。（→P.80）

■ 通常走行時

主にガソリンエンジンを使用して走

行します。
必要に応じて電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

■ 急加速時

アクセルペダルを強く踏み込むと、ガソリンエンジンに加え、駆動用電池からも電気モーターに電力を供給し、電気モーターの出力を上げ、力強く加速します。

■ 減速時・制動時（回生ブレーキ）

車輪が電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

知識

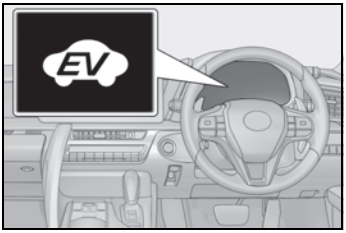
■回生ブレーキについて

次の場合、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、駆動用電池へ充電すると共に減速力を得ることができます。

- シフトポジションがDまたはMで走行中に、アクセルペダルから足を離したとき
- シフトポジションがDまたはMで走行中に、ブレーキペダルを踏んだとき

■EV インジケーターについて

ガソリンエンジン停止中や、電気モーターのみで走行しているときに、EV インジケーターが点灯します。



■ガソリンエンジンの自動停止について

車両状態に応じて、ガソリンエンジンは自動的に始動・停止します。

ただし、次の状態では自動停止しないことがあります。※

- ガソリンエンジン暖機中
- 駆動用電池充電時
- 駆動用電池の温度が高いとき、または低いとき
- 暖房をかけているとき
- シフトポジションが M のとき

※ 状況により、上記の他にもガソリンエンジンが自動停止しない場合があります。

■駆動用電池の充電について

ガソリンエンジンの動力による充電や回生ブレーキにより、駆動用電池が充電されるため、車外からの充電は必要ありません。しかし、車両を長時間放置すると、少しずつ放電します。そのため少なくとも、2 ～ 3ヶ月に一度、約 30 分間または 16km ほど運転してください。
万一、駆動用電池が完全に放電し、ハイブリッドシステムを始動できないときはレクサス販売店にご連絡ください。

■補機バッテリーの充電について

→P.421

■補機バッテリーあがり発生後や、交換などでターミナルを脱着したとき

ガソリンエンジンの自動停止が行われないことがあります。
自動停止しない状態が 2 ～ 3 日続く場合は、レクサス販売店へご連絡ください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

ハイブリッド車は、READY インジケーターが点灯し、走行可能な状態でも、通常の車のように、エンジン音や振動がないことがあるため、走行可能な状態であることに気が付かない場合があります。
安全のため、駐車時は確実にパーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P

にしてください。

ハイブリッドシステム始動後は、次のような音や振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

●エンジンルームからのモーター音

●ハイブリッドシステム始動時や停止時に聞こえる車両後方および駆動用電池からの音

●ハイブリッドシステム始動時および停止時に車両後方から聞こえる“コトン”、“カチッ”などの高電圧リレーの音

●トランクを開けたときに聞こえる作動音

●ガソリンエンジンの始動・停止時や低速走行時、およびアイドリング中にトランスミッション付近から聞こえる音

●急加速時のエンジン音

●ブレーキペダルを踏んだときや、アクセルペダルをゆるめたときに聞こえる回生ブレーキの音

●ガソリンエンジンの始動・停止による振動

●リヤシート下部にある吸入口から聞こえるファンの音

■メンテナンスや修理・廃車について

お車のメンテナンスや修理・廃車の際は必ずレクサス販売店にご相談ください。特に廃車する場合は、レクサス販売店を通じて駆動用電池の回収を行っていますので、ご協力ください。

■カスタマイズ機能

EV インジケーターを点灯しないようにするなどの変更ができます。（カスタマイズ一覧：→P.446）

車両接近通報装置

ガソリンエンジンが停止した状態での走行時、車両の接近を周囲の人に知らせるため、車速に応じた音階で音を鳴らします。車速が約 25km/h をこえると消音します。

知識

■車両接近通報装置について

次のような場合は、周囲の人に通報音が聞こえにくくなることがあります。

●周囲の騒音が大きい場合

●雨または強風の場合

また、車両接近通報装置は車両前側にあるので、車両前方と比較して、車両後方は聞こえにくくなることがあります。

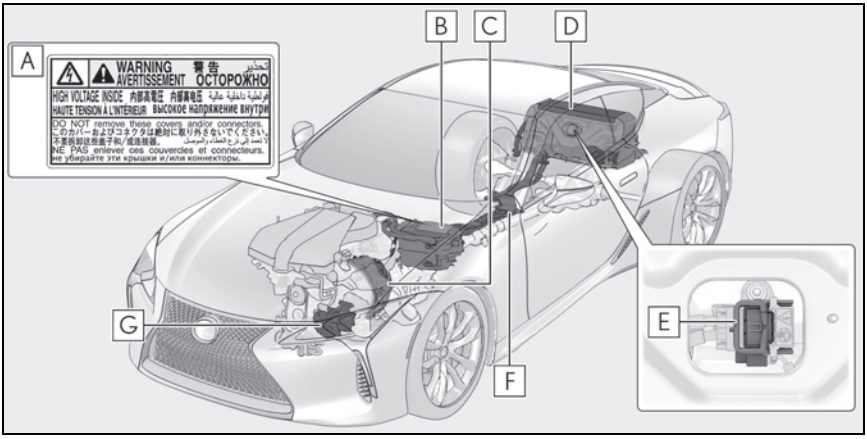
■マルチインフォメーションディスプレイに“車両接近通報装置故障　販売店で点検してください”と表示されたときは

車両接近通報装置に異常があるおそれがあります。レクサス販売店に連絡してください。

ハイブリッドシステムの注意（LC500h）

ハイブリッドシステムには、駆動用電池・パワーコントロールユニット・オレンジ色の高圧ケーブル・電気モーターなどの高電圧部位（最高約650V）や、冷却用ラジエーターなどの高温部位がありますので、ご注意ください。なお、高電圧部位などには、取り扱い上の注意を記載したラベルが貼付してありますので、ラベルの指示に従って正しい取り扱いをしてください。

システムの構成部品



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

A ラベル

B パワーコントロールユニット

C 電気モーター

D 駆動用電池

E サービスプラグ

F 高電圧ケーブル（オレンジ色）

G エアコンコンプレッサー

知識

■ **ガス欠になったとき**

ガス欠でハイブリッドシステムが始動できないときは、燃料残量警告灯（→P.387）が消灯するまで給油してから再始動してください。少量の給油では始動できない場合があります。（給油量の目

安は車両水平状態で約 12.1L です。車両の傾きによって給油量はかわります。傾いているときは、少し多めに給油してください）

■電磁波について

●高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品とくらべて、電磁波が多いということはありません。

●アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■駆動用電池について

駆動用電池には寿命があります。寿命は車の使い方、走行条件により異なります。

■極寒の環境での始動について

外気温の影響により駆動用電池の温度が著しく低くなっている場合（およそ－ 35 ℃以下）、ハイブリッドシステムが始動できなくなることがあります。その場合は気温の上昇を待つなど、駆動用電池の温度が上がってから再度始動操作をしてください。

■適合宣言

この車両は、ECE100（バッテリー電気車両安全）に基づいた水素排出量に適合しています。

警告

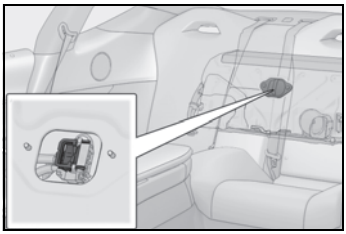
■高電圧・高温について

この車は、高電圧システムを使用しています。
次のことをお守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターの取りはずし・分解などは絶対に行わないでください。

●走行後はハイブリッドシステムが高温になります。車に貼ってあるラベルの指示に従い、常に高電圧・高温部位に注意してください。

●サービスプラグが駆動用電池に設置してあります。サービスプラグは絶対にさわらないでください。サービスプラグは、レクサス販売店での車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。



■事故が発生したとき

次のことをお守りいただかないと、感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●続発事故防止のため、安全な場所に停車して、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にして、ハイブリッドシステムを停止する

●高電圧部位・高電圧配線（オレンジ色）などには、絶対にさわらない

●車室内および車室外に、はみ出している電気配線には絶対さわらない

警告

●液体の付着やもれがある場合は絶対にさわらない
駆動用電池の電解液（炭酸エステルを主とする有機電解液）が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。

●駆動用電池の電解液がもれている場合は、車両に近付かない
万一、駆動用電池が破損しても、電池内部の構造により大量に電解液が流出することはありませんが、流出すると蒸気を発生します。蒸気は目や皮膚に刺激性があり、吸引すると急性中毒を起こすおそれがあり危険です。

●火気や高温のものを絶対に近付けない
電解液に引火するおそれがあり危険です。

●万一、車両火災が発生したときは、ABC 消火器を使用して消火する
水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。

●後輪が接地した状態でけん引しない
電気モーターから発電され、破損の状態によっては、火災のおそれがあり危険です。（→P.377）

●車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかった場合、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままハイブリッドシステムを始動すると燃料に引火するおそれがあり危険ですので、始動しないでください。
この場合は、レクサス販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

■駆動用電池について

●この車両には、リチウムイオンバッテリーが搭載されています。

●絶対に転売・譲渡・改造などをしないでください。廃車から取りはずされた駆動用電池は事故防止のため、レクサス販売店を通じて回収を行っていますので、ご協力ください。
適切に回収されないと、次のようなことが起こり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・不法投棄または放置され、環境汚染となるばかりか、第三者が高電圧部位にふれてしまい、感電事故が発生する

・装備された車両以外で駆動用電池を使用（改造などを含む）し、感電事故、発熱・発煙・発火・爆発事故、電解液漏出事故などが発生する

特に、転売・譲渡などを行うと、相手にこれらの危険性が認識されず、事故につながるおそれがあります。

●駆動用電池を取りはずさないままでお車を廃棄された場合、高電圧部品・ケーブル・それらのコネクターにふれると、深刻な感電の危険があります。お車を廃棄するときには、レクサス販売店で駆動用電池を廃棄してください。駆動用電池は適切に廃棄しないと、感電を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

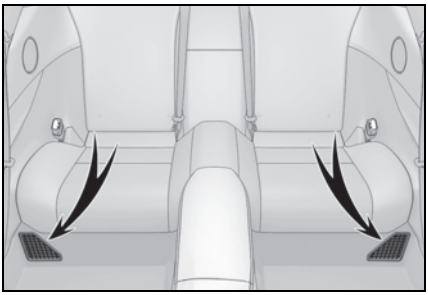
■駆動用電池について

駆動用電池周辺に多量の水をこぼさないよう注意してください。

誤ってこぼしてしまったときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

駆動用電池冷却用吸入口

リヤシート下部には、駆動用電池冷却用の吸入口があります。吸入口をふさいだりすると、駆動用電池の入出力に制限がかかり、出力低下の原因となります。



注意

■駆動用電池冷却用の吸入口について

- シートカバーや荷物などで、吸入口がふさがれないようにしてください。吸入口がふさがれると駆動用電池の入出力に制限がかかり、出力低下や故障の原因になります。
- 吸入口にほこりなどがたまったときは、目づまりしないよう掃除機などで定期的に清掃してください。
- 吸入口にはフィルターが取り付けられています。吸入口を清掃してもフィルターの汚れが目立つときは、フィルターの清掃・交換をお勧めします。フィルターの清掃についてはP.336 を参照してください。
- 吸入口に水や異物を入れないでください。
駆動用電池を損傷するおそれがあります。

緊急停止システム

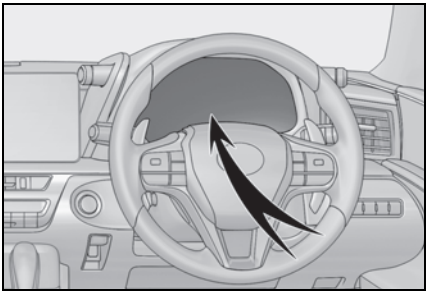
事故により衝撃を受けたときなどは、ハイブリッドシステムを停止して高電圧を遮断します。また、フューエルポンプ制御により燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。この場合、ハイブリッドシステムを再始動させることができなくなるためレクサス販売店へご連絡ください。

警告メッセージ

ハイブリッドシステムの異常やお知らせしたい事項が発生すると自動で表示されます。

警告メッセージは、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

表示された画面の指示に従ってください。



知識

■**警告灯が点灯したときや、警告メッセージが表示されたとき、または補機バッテリーとの接続が断たれたとき**

ハイブリッドシステムを再始動できないおそれがあります。
もう一度始動操作をしても READY インジケーターが点灯しない場合はレクサス販売店にご連絡ください。

エンジンイモビライザーシステム＜イモビライザーシステム＞

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジン＜ハイブリッドシステム＞を始動できません。

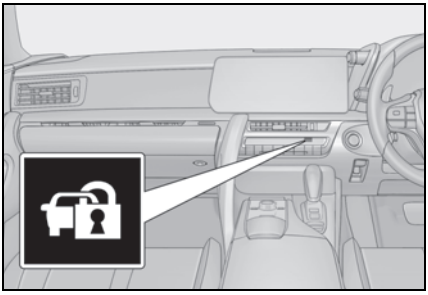
車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

システムを作動させるには

エンジンスイッチ＜パワースイッチ＞を OFF にすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、エンジンスイッチ＜パワースイッチ＞を ACC または ON にするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。



知識

■メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステム＜イモビライザーシステム＞のメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

●キーが金属製のものに接したり、覆われているとき

●キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■エンジンイモビライザーシステム＜イモビライザーシステム＞を正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。
オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

- 施錠されたドアまたはトランクが、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使わずに解錠されたり、開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき
- 侵入センサーが車内で動くものを検知したとき（侵入者がガラスを割るなどして車内に乗り込んだとき）
- 傾斜センサーが車内の傾きを検知したとき

G-Link サービスをご利用のお客様へは、オートアラームが作動した場合、ご登録のメールアドレスやスマートフォンアプリへお知らせすることができます。

G-Link サービスについて詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

オートアラームを設定／解除／停止する

■ ドアを施錠する前の確認

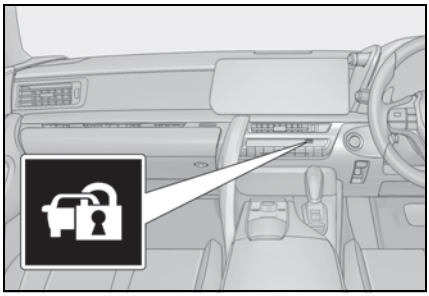
オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスが閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

■ オートアラームを設定するには

ドア・トランク・ボンネットを閉め、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使って施錠します。
30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームがセットされるとインジケーターは点灯から点滅にかわります。



■ オートアラームを解除／停止するには

次のいずれかを行ってください。

- スマートエントリー＆ スタートシステムまたはワイヤレスリモコンを使ってドアまたはトランクを解錠する
- エンジンスイッチ＜パワースイッチ＞を ACC または ON にするか、エンジン＜ハイブリッドシステム＞を始動する（数秒後に解除・停止します）

知識

■ メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■G-Link（ご契約のお客様のみ）

●うっかり通知機能によって、施錠のし忘れや非常点滅灯の消し忘れ、ドアガラスの閉め忘れなどを、ご登録のメールアドレスやスマートフォンアプリへお知らせすることができます。うっかり通知機能は車内の電子キー検知を使用しているため、スマートエントリー＆スタートシステムが正しく作動しない場合は、うっかり通知機能が正しく働かないことがあります。

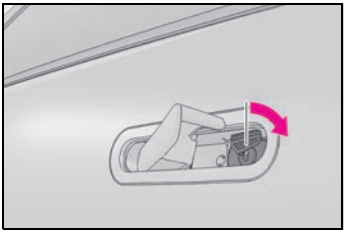
●リモート確認機能によって、ドアの開閉や施錠の状態、非常点滅灯の点滅状態、電子キーの車内への置き忘れなどをスマートフォンアプリで確認できます。

G-Link サービスについて詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■オートアラームの作動について

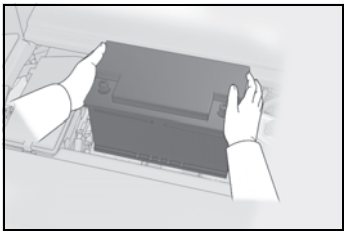
次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームを解除・作動を停止する操作を行ってください。

●メカニカルキーでドアを解錠したとき



●車内に残った人が、ドア・トランク・ボンネットを開けたり、ドアロックスイッチで解錠したとき

●施錠後、補機バッテリーあがりなどで、補機バッテリーの充電や交換をしたとき（→P.416）



■オートアラーム作動によるドアロック機能

次のとき、自動的にドアが施錠されることがあります。

●車内に残った人がドアを解錠し、オートアラームが作動したとき

●オートアラーム作動中に車内に残った人がドアを解錠したとき

●補機バッテリーあがりなどで充電・交換したとき

■カスタマイズ機能

メカニカルキーを使って解錠したときにオートアラームが作動しないよう、設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.446）

⚠注意

■オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

侵入・傾斜センサー

■ 侵入・傾斜センサーの検知について

● 侵入センサーは、車内に不正に入り込んだ侵入者の動きを超音波で検知するセンサーです。侵入者の動きで検知するため、ドアを開けずガラスを割って入り込んだ侵入者なども検知できます。

● 傾斜センサーは、車の傾きの変化を検知するセンサーです。けん引などで車が盗難される場合などを検知します。

このシステムは、車両盗難を防止または抑止する機能であり、すべての侵入・傾きの変化に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

■ 侵入・傾斜センサーを設定するには

オートアラームを設定すると、自動でセットされます。(→P.88)

■ 侵入・傾斜センサーを停止するには

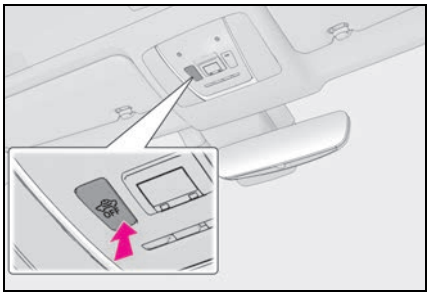
車内で動くものに反応するため、ペットや動くものを車内に残すときは、必ず侵入・傾斜センサーを停止してからオートアラームを設定してください。

1 エンジンスイッチ<パワースイッチ>を OFF にする

2 侵入・傾斜センサー OFF スイッチを押す

もう一度スイッチを押すと、侵入・傾斜センサーは再びセットされます。

侵入・傾斜センサーを OFF ／ ON するたびに、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。



知識

■侵入・傾斜センサーの作動・停止について

●侵入・傾斜センサーの作動を停止しても、オートアラームは作動します。

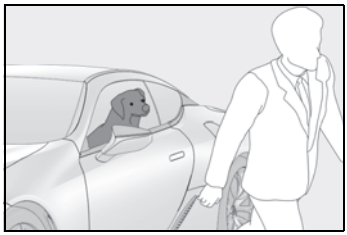
●侵入・傾斜センサーを停止したあとにエンジンスイッチ<パワースイッチ>を押すか、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンによる解錠操作を行うと、侵入・傾斜センサーは復帰します。

●オートアラームの設定を解除するたびに侵入・傾斜センサーは復帰します。

■侵入センサーについて

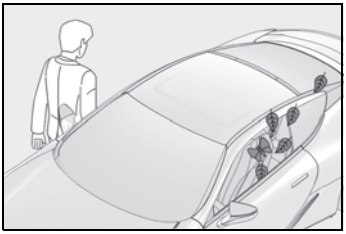
次のような場合、侵入センサーの検知によりオートアラームが作動することがあります。状況に応じ、侵入センサーを停止してからアラームを設定してください。

●車内に乗員やペットなどを残して車両から離れる場合



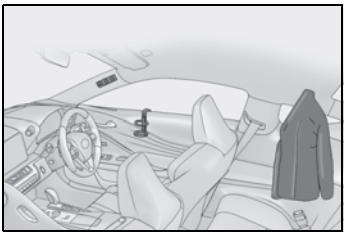
●ドアガラスやソフトトップルーフ※など

が開いている場合、次のものを検知することがあります。
・室内に入った落ち葉・虫・風など
・他車の侵入センサーなどが発する超音波
・室外の歩行者の動き



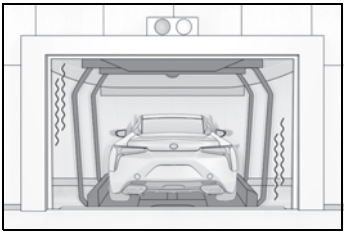
※ コンバーチブル

●マスコットやアクセサリーをぶら下げた状態で取り付けたり、コートフック※に衣類をかけているときなど、動きやすいものが車内にある場合

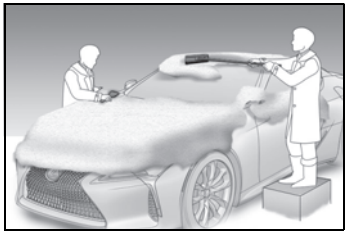


※ コンバーチブル以外

●立体駐車場のような振動や騒音の激しい場所に駐車したとき



●雪かきやガラスに付着した氷を削り落とす際に、連続的な衝撃や振動が車両に伝わったとき



●高圧洗車機や自動洗車機などを使うとき

●ひょうや落雷などにより、連続的な衝撃や振動が車両に伝わったとき

■傾斜センサーについて

次のような場合、傾斜センサーの検知によりオートアラームが作動することがあります。状況に応じ、傾斜センサーを停止してからアラームを設定してください。

●フェリー・トレーラー・列車などで運搬するとき

●立体駐車場に駐車したとき

●車両移動をともなう洗車機を使用するとき

●タイヤ空気圧が少ないとき

●ジャッキアップするとき

●地震や路面陥没が起きたとき

●ルーフキャリアにスキー板やスノーボード等を積んだり、荷降ろしするとき

注意

■**侵入センサーを正しく作動させるために**

●センサーの穴はふさがないようにしてください。

●センサーの穴に向かって、直接消臭スプレーなどを噴霧しないでください。

●運転席と助手席のシートのあいだに、レクサス純正品以外のアクセサリーを装着したりものを放置したりすると、検知性能が低下することがあります。

●電子キーが車両の近くにある場合、侵入センサーの作動を停止することがあります。

走行に関する情報表示

2

2-1. 計器の見方

警告灯／表示灯..... 94
計器類 100
マルチインフォメーションディスプレイ 104
ヘッドアップディスプレイ 111
エネルギーモニター／燃費画面 116

警告灯／表示灯

メーター・センターパネル・ドアミラーの警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。

メーターの警告灯／表示灯

次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。

▶ LC500

▶ LC500h

警告灯一覧

システム異常などを警告します。

（赤色）
ブレーキ警告灯 ※1（→P.383）

充電警告灯 ※2（→P.383）

油圧警告灯 ※2（→P.383）

エンジン警告灯 ※1（→P.384）

SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ※1（→P.384）

ABS ＆ブレーキアシスト警告灯 ※1（→P.384）

（赤色）
パワーステアリング警告灯 ※1（→P.384）

（黄色）
パワーステアリング警告灯 ※1（→P.384）

（点滅または点灯）
PCS 警告灯 ※1（→P.385）

（橙色）
LTA 表示灯（→P.385）

スリップ表示灯 ※1（→P.385）

ブレーキオーバーライドシステム警告灯（→P.386）／ドライブスタートコントロール警告灯（→P.386）※2

（点滅）
ブレーキホールド作動表示灯 ※1（→P.386）

（点滅）
パーキングブレーキ表示灯（→P.386）

（黄色）
ブレーキ警告灯 ※1（→P.386）

燃料残量警告灯（→P.387）

運転席・助手席シートベルト非着用警告灯（→P.387）

リヤ席シートベルト非着用警告灯（→P.387）

マスターウォーニング ※1（→P.387）

（点滅）
タイヤ空気圧警告灯 ※1（→P.388）

高水温警告灯 ※2（→P.388）

ハイブリッドシステム過熱警告灯★ ※2（→P.388）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1 作動確認のためにエンジンスイッチ<パワースイッチ>を ON にすると点灯し、数秒後またはエンジン<ハイブリッドシステム>を始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

※2 マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

警告

■安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなど安全装置の警告灯がエンジンスイッチ<パワースイッチ>を ON にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

表示灯一覧

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯（→P.201）

尾灯表示灯（→P.206）

ハイビーム表示灯（→P.208）

AHB 表示灯 ※1（→P.209）

リヤフォグランプ表示灯★（→P.212）

クルーズコントロール表示灯 ※2（→P.247）

レーダークルーズコントロール表示灯 ※2（→P.247）

クルーズコントロールセット表示灯 ※2（→P.247）

LTA 表示灯 ※3（→P.240）
（白色）

LTA 表示灯 ※3（→P.226, 240）
（緑色）

LTA 表示灯 ※3（→P.240）
（橙色点滅）

クリアランスソナー表示灯（→P.274）

スリップ表示灯 ※1（→P.297）
（点滅）

VSC OFF 表示灯 ※1（→P.298）

PCS 警告灯 ※1, 4（→P.225）

BSM ドアミラーインジケーター ※5, 6（→P.280）

BSM 表示灯（→P.280）

RCTA 表示灯（→P.280）

ブレーキホールドスタンバイ表示灯 ※1（→P.204）

ブレーキホールド作動表示灯 ※1（→P.204）

セキュリティ表示灯 ※7（→P.87, 88）

スマートエントリー＆スタートシステム表示灯 ※2（→P.178, 181）

READY インジケーター★（→P.181）

低温表示灯 ※2, 8（→P.100）

エコドライブインジケーターランプ★ ※1（→P.98）

EV インジケーター★（→P.80）

パーキングブレーキ表示灯
（→P.201）

スノーモード表示灯
（→P.192, 198）

EV ドライブモード表示灯★
（→P.185）

ITS Connect アイコン ※2
（→P.266）

ITS Connect アイコン ※2
（→P.266）

ITS Connect アイコン ※2
（→P.266）

“Normal” 表示灯 ※2
（→P.271）

“Eco” 表示灯 ※2
（→P.271）

“Sport S” 表示灯 ※2
（→P.271）

“Sport S+” 表示灯 ※2
（→P.271）

“Comfort” 表示灯 ※2
（→P.271）

“Custom” 表示灯 ※2
（→P.271）

“EXPERT” 表示灯 ※2
（→P.298）

サーキットモードインジケーター（→P.293）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1 作動確認のためにエンジンスイッチ＜パワースイッチ＞を ON にすると点灯し、数秒後またはエンジン＜ハイブリッドシステム＞を始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

※2 マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

※3 システムの作動状態により、表示色と点灯・点滅の状態が変化します。

※4 システムが OFF のときに点灯します。

※5 作動確認のため次の条件のときインジケーターが点灯します。
BSM メインスイッチが ON の状態で、エンジンスイッチ＜パワースイッチ＞を ON にしたとき
エンジンスイッチ＜パワースイッチ＞が ON で、BSM メインスイッチを ON にしたとき

システムが正常であればインジケーターは数秒後に消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

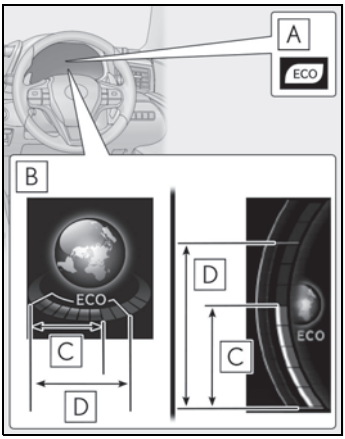
※6 ドアミラーに表示されます。

※7 センターパネルに表示されます。

※8 外気温が約 3 ℃以下のとき、約 10 秒間点滅後に、点灯します。

知識

■エコドライブインジケーターについて（LC500）



A エコドライブインジケーターランプ

環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケーターランプが点灯します。

必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。

マルチインフォメーションディスプレイの設定画面で設定することで表示されるようになります。（→P.104）

B エコドライブインジケーターゾーン表示

エコ運転の範囲と現状のアクセル開度を表示します。

走行モードがノーマルモードまたはコンフォートモードのときは、メーターリングを右側へ切りかえてください。（→P.103）

C 現状のアクセル開度

エコ運転の範囲をこえた部分は白色に点灯します。

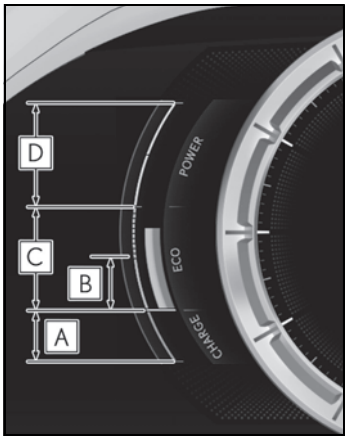
このとき、エコドライブインジケーターランプは消灯します。

D エコ運転の範囲

次の場合、エコドライブインジケーターは作動しません。

- シフトポジションが D 以外にあるとき
- パドルシフトスイッチを操作しているとき
- 走行モードがスポーツSモードまたはスポーツ S+ モードのとき（→P.271）
- 車速が約 100km/h 以上のとき

■ハイブリッドシステムインジケーターについて（LC500h）



A チャージエリア

回生※ ブレーキ機能により、エネルギーを回収している状態を示します。

回生した電力は、駆動用電池を充電します。

B ハイブリッドエコエリア

ガソリンエンジンの動力を使用しない状況を多く含む状態を示します。

ガソリンエンジンは、各種の条件により自動的に停止・再始動します。

C エコエリア

エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

インジケーターのバー表示をエコエリアに保つことで、エコ運転が可能です。

D パワーエリア

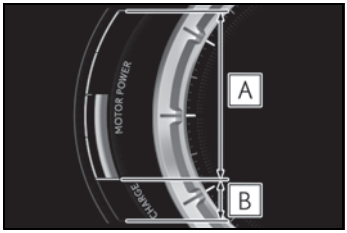
全開走行時など、エコ運転の範囲を超えている状態を示します。

※ ここでの「回生」の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することです。

次の場合、ハイブリッドシステムインジケーターは作動しません。

- シフトポジションがDまたはM以外にあるとき
- 走行モードがエコドライブモード以外のとき（→P.271）

■**モーターパワー表示について（LC500h）**



A モーターパワーエリア

モーターの動力がエンジンをアシストして走行している状態を示します。

B チャージエリア

回生※機能により、エネルギーを回収している状態を示します。回生した電力は、駆動用電池を充電します。

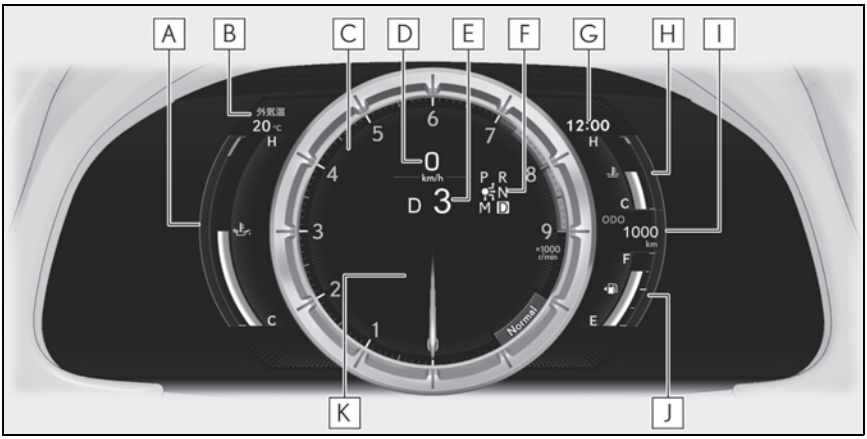
※ ここでの「回生」の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することです。

計器類

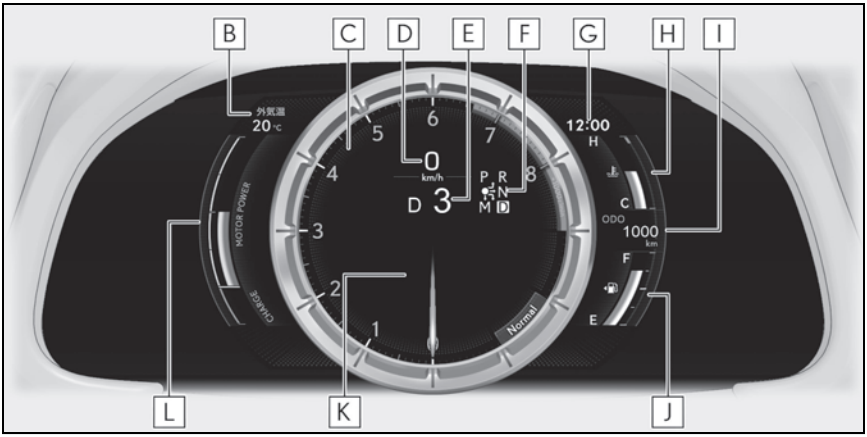
メーターリングの位置に応じて、メーターの表示や一部の計器類の配置が切りかわります。

メーターの表示について

▶ LC500



▶ LC500h



A エンジン油温計／エコドライブインジケーター（LC500）

エンジンオイルの温度、またはエコドライブインジケーター（→P.98）を表示します。

B 外気温

外気温度を -40 ℃～ 50 ℃のあいだで表示します。外気温が約 3 ℃以下のときは、低温表示灯が点灯します。

C タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

D スピードメーター

E シフトポジション・シフトレンジ・ギヤ段表示（→P.187, 194）

F シフトポジション表示灯（→P.188, 195）

G 時計

H 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。水温計の表示がレッドゾーンに入ると、ブザーが鳴り、高水温警告灯が点灯します。

I オドメーター／トリップメーター

オドメーター：
走行した総距離を km の単位で表示します。
トリップメーター：
リセットしてからの走行距離を km の単位で表示します。区間距離は、トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

J 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。
・ 少量給油（約 5L 以下）を行ったとき
・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
・ 坂道やカーブを走行したとき

K マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。（→P.104）
車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。（→P.391）

L モーターパワー表示／ハイブリッドシステムインジケーター（LC500h）

モーターパワー表示（→P.99）、またはハイブリッドシステムインジケーター（→P.98）を表示します。

■ REV インジケーター

設定したエンジン回転数またはレッドゾーンに到達すると、タコメーター内にリング状のインジケーターを表示します。

インジケーターは設定したエンジン回転数に到達したときは橙色（A）、レッドゾーンに到達したときは赤色（B）で表示されます。

マルチインフォメーションディスプレイの設定画面で設定することで表

示されるようになります。
（→P.104）

■ REV ピーク

次の回転域で、エンジン回転数の最高値にタコメーター指針の残像を約1 秒間表示します。

LC500：3600r/min 以上

LC500h：4000r/min 以上

知識

■メーター・ディスプレイの作動条件

エンジンスイッチ<パワースイッチ>がON のとき

■可変レッドゾーン（LC500）

エンジン保護のため、エンジン冷却水温の上昇にあわせて、タコメーターのレッドゾーン開始位置が 3700r/min から 7300r/min まで変化し、エンジン回転を抑える制御が働きます。
高負荷走行前は十分な暖機を行ってください。

■インストルメントパネル照度の減光制御について

インストルメントパネル照度は、周囲の明るさをライトセンサー（→P.207）で感知して自動調整されます。

■外気温表示について

●次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
・停車しているときや、低速走行（約20km/h 以下）のとき
・外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）

●“--” または “E” が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

■割り込み表示について

●スイッチの操作方法などを状況に応じてマルチインフォメーションディスプレイに一定時間表示します。

●一部の割り込み表示の表示／非表示を切りかえることができます。

■液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

■カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイでメーターの表示を変更できます。

（→P.446）

注意

■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

●タコメーターの表示がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。

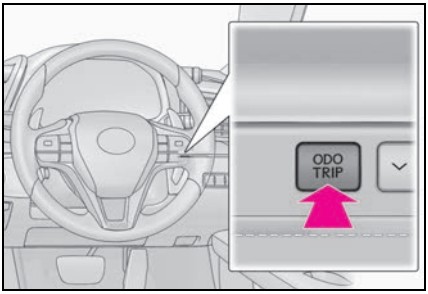
●次のときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→P.430, 433）

・水温計の表示がHのレッドゾーンに入った

・LC500：エンジン油温計の表示がHのレッドゾーンに入った

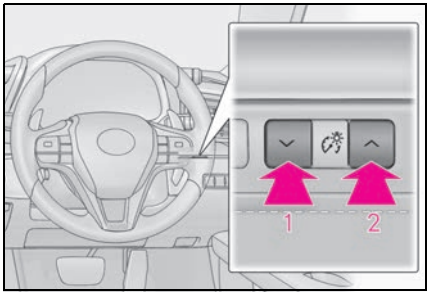
オドメーター／トリップメーターを切りかえるには

ボタンを押すごとに表示が切りかわります。また、トリップメーター表示中に押し続けると、走行距離を0にもどします。



インストルメントパネル照明の明るさを調整するには

インストルメントパネル照明の明るさを調整できます。



1 暗くする

2 明るくする

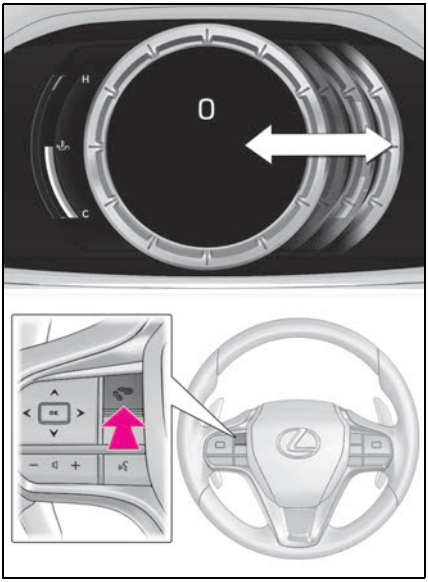
知識

■インストルメントパネルの照度調整について

車幅灯消灯時と点灯時それぞれの明るさのレベルを調節することができます。
ただし、周囲が明るいとき（昼間など）に車幅灯を点灯しても、メーターの明るさは切りかわりません。

メーターの表示・配置を切りかえるには

ボタンを押すごとにメーターリングが移動して表示が切りかわります。



マルチインフォメーションディスプレイ

ディスプレイの表示／メニューアイコン一覧

■ ディスプレイの表示

▶ メーターリングが中央にあるとき

メーターリング内に走行に関するさまざまな情報を表示します。

メーターリングが右側にあるときと同等の内容が表示されます。（→P.106）

▶ メーターリングが右側にあるとき

メニューアイコンを選択し、車両に関するさまざまな情報を表示したり設定したりすることができます。

■ メニューアイコン

ドライブインフォメーション（→P.106）

ナビゲーションシステム連携表示（→P.108）

オーディオシステム連携表示（→P.108）

運転支援機能情報（→P.108）

警告メッセージ（→P.391）

設定（→P.108）

知識

■オープニング画面の表示について

エンジンスイッチ<パワースイッチ>をACC または ON にしたとき、マルチインフォメーションディスプレイにオープニング画面が表示されます。
オープニング画面表示中は、ドライブモード（→P.271）を切りかえてもメーター画面の表示は切りかわりません。
オープニング表示が終了すると、そのとき選択されているドライブモードのメーター画面が表示されます。

■補機バッテリー端子の脱着をしたとき

補機バッテリー端子の脱着を行うと、G モニターで表示される最大 G の軌跡のデータはリセットされます。

■液晶ディスプレイについて

→P.102

警告

■運転中の使用について

●マルチインフォメーションディスプレイを操作する時は、周囲の安全に十分注意してください。

●マルチインフォメーションディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

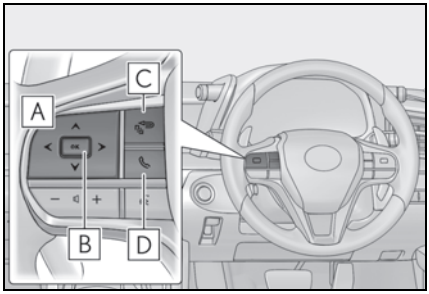
■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えばギヤ段表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにギヤ段の表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

表示を切りかえるには

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。



A ＜・＞：メニューの切りかえ
∧・∨：表示項目の切りかえ・ページ送り・カーソル移動

B 短押し：決定
長押し：リセット

C ひとつ前の画面にもどる・メーターリング移動

D 電話の発着信・履歴表示

ハンズフリーシステムと連携して、発着信の表示や操作を行うことができます。
ハンズフリーシステムに関しては別冊

「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

ドライブインフォメーションについて

■ ドライブインフォメーションで表示される内容

走行に関するさまざまな情報を表示します。

次の項目から選択し、1 画面につき 2 項目ずつ表示します。

項目を切りかえるには、メーター操作スイッチの < または > を押して ⓘ を選択し、∧ または ∨ を押します。

● 瞬間燃費 ※1

現在の瞬間燃費を表示します。

● 平均燃費（リセット間 ※2・始動後・給油後）※1

リセット後・エンジン<ハイブリッドシステム>始動後・給油後の平均燃費を表示します。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

● 平均車速（リセット間 ※2・始動後）※1

リセット後・エンジン<ハイブリッドシステム>始動後の平均車速を表示します。

● 走行時間（リセット間 ※2・始動後）※1

リセット後・エンジン<ハイブリッドシステム>始動後の経過時間を表示します。

● 距離（航続可能・始動後走行）※1

燃料残量による走行可能な距離・エンジン<ハイブリッドシステム>始動後の走行距離を表示します。

- 運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費がかわるため、実際に走行できる距離とは異なります。
- 燃料給油量が少量（約 5L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。

※1 ⚙ のドライブインフォ 1 ／ドライブインフォ 2 で選択した項目が表示されます。

※2 リセットするには、項目表示中にメーター操作スイッチの “OK” を 1 秒以上押します。
リセット可能項目が複数表示されている場合は、リセット項目の選択画面が表示されます。

■ エコドライブインジケーター／エンジン油温計（LC500）

→P.98, 100

■ ハイブリッドシステムインジケーター／モーターパワー表示（LC500h）

→P.98

■ エネルギーモニター（LC500h）

→P.116

■ タイヤ空気圧

→P.348

■ Gear Position

シフトポジションが D または M のとき、現在選択されているシフトレンジ・ギヤ段を表示することができます。

■ G モニター

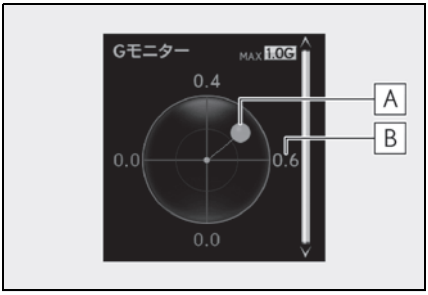
車両にかかる前後左右の G（加速度）

を表示することができます。

● 表示の見方

・ 通常表示

マルチインフォメーションディスプレイに次の内容が表示されます。



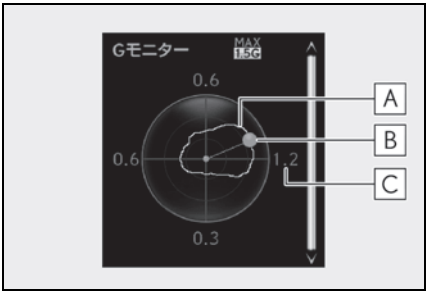
A 車両にかかる G

B 現在の G 値（前後左右に分解した値）

・ 詳細表示

マルチインフォメーションディスプレイとメーターリング内に次の内容が表示されます。

マルチインフォメーションディスプレイ：



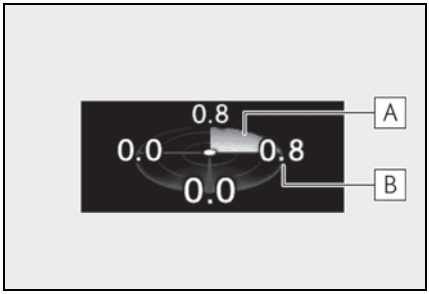
A 最大 G の軌跡

B 車両にかかる G

C リセット後の最大 G 値（前後左右に分解した値）

表示画面については路面状況、気温、車速などによって実際の車両状態と異なる場合があります。表示画面は参考として利用してください。

・ メーターリング内：



A 車両にかかる G の方向

B 現在の G 値（前後左右に分解した値）

表示画面については路面状況、気温、車速などによって実際の車両状態と異なる場合があります。表示画面は参考として利用してください。

● 表示の切りかえ

詳細表示に切りかえるには、“OK” を押してください。

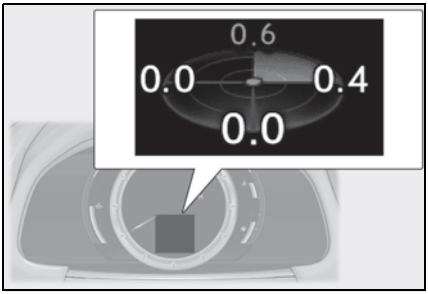
通常表示にもどるには、“OK” を押してください。

● 最大 G の軌跡のリセット

最大 G の軌跡表示中に “OK” を押し続けることで、軌跡をリセットすることができます。

● ピークホールド機能（詳細表示のみ）

0.5G 以上の力を発生した場合、メーターリング内の G 値表示が黄色にかわり、3 秒間保持されます。



■ リヤウィング状態★

リヤウィングの上昇／格納状態を表示することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 表示 OFF

画面表示が OFF になります。

ナビゲーションシステム連携表示について

ナビゲーションシステムと連携して次の情報を表示します。

● 目的地案内

● コンパス

オーディオシステム連携表示について

オーディオソースの選択、選曲などの操作を行うことができます。

運転支援機能情報について

次のシステムの作動状況を表示します。

● LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.235）

● レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）（→P.247）

● RSA （ロードサインアシスト）（→P.244）

● ITS Connect（→P.265）

警告メッセージについて

車両に異常が発生した場合に、内容・対処法などのメッセージを表示します。（→P.391）

表示の設定について

メーターの表示設定などを切りかえることができます。

■ 言語

表示される言語を選択することができます。

■ 単位

燃費表示の単位を選択することができます。

■ エコドライブインジケーターランプ（LC500）

エコドライブインジケーターランプの作動／非作動を選択することができます。

■ EV 表示（LC500h）

EV 走行インジケーターの作動・非作動を選択することができます。

■ ドライブインフォ 1 ／ドライブインフォ 2

ドライブインフォメーションに表示させる項目（→P.106）をドライブインフォ 1 ／ドライブインフォ 2 にそれぞれ 2 つまで選択することができます。

■ 割り込み表示

状況に応じて割り込み表示される項目の表示・非表示を選択することができます。割り込み表示される項目は次のとおりです。

・ ナビゲーションシステム連携表示の目的地案内
・ ハンズフリー発信表示
・ ETC
・ オーディオ操作方法
・ 音声認識表示
・ インストルメントパネル照度調整

■ メーターリング位置の記憶

エンジン<ハイブリッドシステム>始動時のメーターリング位置を選択することができます。

エンジン<ハイブリッドシステム>停止前の位置と中央位置とのどちらかを選択することができます。

■ テーマカラー

カーソルなどの色を選択することができます。

■ REV インジケーター

表示／非表示を選択することができます。

表示されるように設定した場合、さらに表示タイミングを選択します。

■ REV ピーク

表示／非表示を選択することができます。

■ 時計

12 時間表示／ 24 時間表示を選択することができます。

■ 初期化

メーターの表示設定を初期状態にもどすことができます。

知識

■設定画面の操作について

次の状況では、設定画面の操作が一時中断されます。

●警告メッセージが表示されたとき

●走行し始めたとき

■カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイの⚙では、表示設定以外にも次の設定を変更できます。

●運転支援機能の設定（→P.446）

●車両設定（→P.112, 350, 352, 446）

警告

■ディスプレイの設定を変更するとき

エンジンがかかった状態<ハイブリッドシステムが作動している状態>で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ディスプレイの設定を変更するとき

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている<ハイブリッドシステムが作動している>状態で実施してください。

提案サービス機能

状況に応じて運転者に提案メッセージを表示する機能です。提案メッセージが表示されたときにメーター

操作スイッチを操作することで、提案された内容を直接操作することもできます。

■ ヘッドランプ消灯提案

エンジンスイッチ<パワースイッチ>を OFF にしたあとにランプスイッチが AUTO の状態でヘッドランプを点灯したまましばらく車内にいると、ヘッドランプの消灯を提案するメッセージを表示します。
ランプスイッチが AUTO のとき：このとき “ はい ” を選択すると、ヘッドランプが消灯します。

エンジンスイッチ<パワースイッチ>を OFF にしてからメッセージが表示されるまでのあいだに運転席または助手席のドアを開けたときは、提案メッセージが表示されません。

■ 窓閉め提案（ワイパー連動）

雨が車内に入ることを防ぐために、ドアガラスが開いている状態でワイパーが動き始めるとドアガラスを閉める提案メッセージを表示します。このとき “ はい ” を選択すると、開いているすべてのドアガラスが閉まります。

■ ウインドウロック解除提案

コンバーチブル以外：ウインドウロックスイッチ（→P.158）を ON にした状態で運転席ドアのパワーウインドウスイッチで助手席のドアガラスを閉めようとすると、ウインドウロックスイッチを OFF にする提案メッセージを表示します。

コンバーチブル：ウインドウロックスイッチ（→P.158）を ON にした状態で運転席ドアのパワーウインドウスイッチや全ウインドウ一括開閉スイッチで助手席のドアガラスを閉めようとすると、ウインドウロックスイッチを OFF にする提案メッセージを表示します。

知識

■ カスタマイズ機能

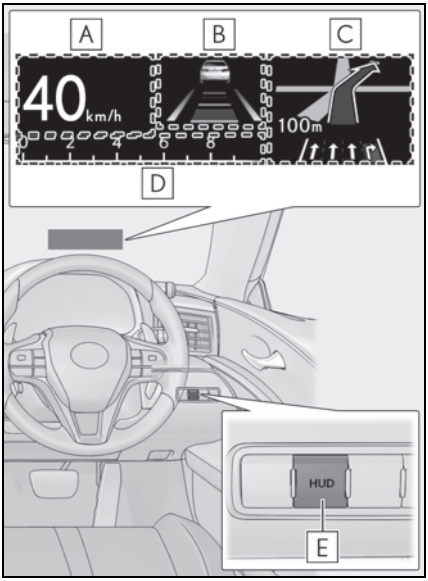
提案サービス機能の作動・非作動を変更できます。（カスタマイズ一覧：→P.446）

ヘッドアップディスプレイ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ヘッドアップディスプレイは、フロントウインドウに現在の車速やナビゲーションシステムのルート案内表示などの情報を表示することができます。

システムの構成部品



A 車速表示

B 運転支援表示エリア

選択されているシフトポジションやシフトレンジ・ギヤ段、または次のシステムの作動状況を表示します。

・プリクラッシュセーフティ（→P.225）
・レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）（→P.247）
・LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.235）

表示される内容はマルチインフォメーションディスプレイの表示と同様です。詳しくは各システムの説明を参照してください。

C ナビゲーションシステム連携表示エリア（→P.114）
RSA（ロードサインアシスト）表示エリア（→P.244）

ナビゲーションシステムと連携して、次の内容を表示します。

・目的地案内
・レーン表示

D 情報表示エリア（→P.113）

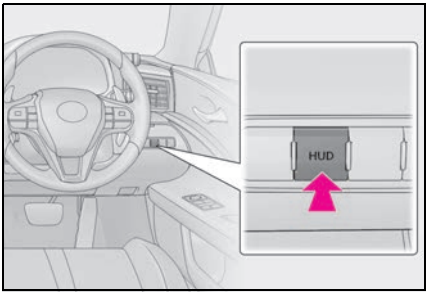
・メッセージ表示
・⚠／ⓘアイコン（→P.113）
・オーディオ作動表示
・レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）作動表示
・ハンズフリー作動表示
・エコドライブインジケーター／タコメーター（LC500）
・ハイブリッドシステムインジケーター／モーターパワー表示／タコメーター（LC500h）

E HUD スイッチ

ヘッドアップディスプレイの使い方

■ ヘッドアップディスプレイの表示／非表示切りかえ

HUD スイッチを押すと表示／非表示が切りかわります。



■ ヘッドアップディスプレイの設定

マルチインフォメーションディスプレイの⚙で次の設定を変更することができます。(→P.104)

● 表示の明るさ／位置

表示の明るさや位置を調整することができます。

● エコドライブインジケーター／タコメーター（LC500）

エコドライブインジケーター表示／タコメーター表示／表示なしのいずれかから表示内容を選択することができます。

● ハイブリッドシステムインジケーター／モーターパワー表示／タコメーター（LC500h）

ハイブリッドシステムインジケーター表示／タコメーター表示／表示なしのいずれかから表示内容を選択することができます。

モーターパワー表示は、走行モード（→P.271）がエコドライブモード以外のときにハイブリッドシステムインジケーターを選択すると表示されます。

● 表示内容

次の内容の表示／非表示を設定することができます。

- 目的地案内
- レーン表示
- 運転支援
- オーディオ作動表示

● 表示の傾き

表示の傾きを調整することができます。

知識

■ヘッドアップディスプレイについて

●サングラス（特に偏光サングラス）を着用していると、ヘッドアップディスプレイの表示が見づらくなる場合があります。表示が見づらい場合は、輝度を調整するか、サングラスをはずしてください。

●ヘッドアップディスプレイを OFF にしたときは、エンジンスイッチ<パワースイッチ>を OFF にしたあとで再度 ON にしても、ヘッドアップディスプレイは OFF のままです。

●エンジンスイッチ<パワースイッチ>を ACC または ON にしたとき、ヘッドアップディスプレイが ON になっているとスタートアップムービーが表示されます。

■表示の明るさについて

マルチインフォメーションディスプレイの⚙による明るさの調整に加えて、周囲の明るさに応じて表示の明るさが自動で調整されます。

■ヘッドアップディスプレイ表示位置の自動調整

お好みのヘッドアップディスプレイ表示位置をポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。(→P.143)

■バッテリー端子の脱着をしたとき

ヘッドアップディスプレイの設定がリセットされます。

■カスタマイズ機能

表示の設定などを変更できます。
(カスタマイズ一覧：→P.446)

警告

■ヘッドアップディスプレイ使用上の留意点

●映像の明るさ、および表示位置は、安全運転に支障がないよう適切な状態に調整してください。
調整が不適切だと運転者の視界のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ヘッドアップディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

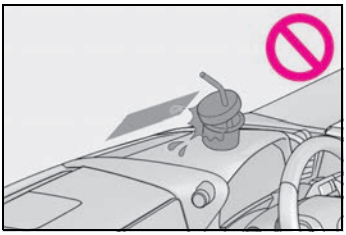
■ヘッドアップディスプレイの設定を変更するとき

エンジンがかかった状態<ハイブリッドシステムが作動している状態>で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ヘッドアップディスプレイ映写部についての注意

●映写部の付近に飲み物を置かないでください。水やその他の液体が映写部にかかると、装置が故障する原因になります。



●映写部の上にものを置いたり、シールなどを貼り付けたりしないでください。
ヘッドアップディスプレイの表示のさまたげとなります。

●映写部の内部にふれたり、とがったものを押し付けたりしないでください。
装置が故障する原因となります。

■ヘッドアップディスプレイの設定を変更するとき

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

情報表示エリア

状況に応じて、次の内容が表示されます。

■ メッセージ表示

次のメッセージを表示します。
・ 警告メッセージ
・ レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）に関する通知
・ ETC に関する通知
・ その他のメッセージ

■ ⚠/ⓘアイコン

マルチインフォメーションディスプレイと連携して、次のアイコンが表示されます。

⚠: マスターウォーニングアイコン

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているときに表示されます。（→P.391）

ⓘ: インフォメーションアイコン

マルチインフォメーションディスプレイ

に提案メッセージ・操作アドバイスメッセージが表示されているときに表示されます。(→P.109)

■ ハンズフリー作動表示

ハンズフリーの使用中に表示されます。

■ オーディオ作動表示

オーディオの使用中に表示されます。

■ エコドライブインジケーター／タコメーター（LC500）

エコドライブインジケーター表示／タコメーター表示／表示なしのいずれかから選択することができます。

■ ハイブリッドシステムインジケーター／モーターパワー表示／タコメーター（LC500h）

ハイブリッドシステムインジケーター表示／タコメーター表示／表示なしのいずれかから選択することができます。

モーターパワー表示は、走行モード（→P.271）がエコドライブモード以外のときにハイブリッドシステムインジケーターを選択すると表示されます。

ナビゲーションシステム連携表示エリア

ナビゲーションシステムと連携して、次の内容が表示されます。

■ 目的地案内

ナビゲーションシステムで目的地案内を実行しているときに表示されます。交差点に接近すると、進行方向を矢印で指示します。

■ レーン（車線）表示

交差点にさしかかったとき、車線・進行方向などのレーン情報が表示されます。

ナビゲーションシステムで目的地案内を実行しているときには、走行を推奨する車線が青色で表示されます。

知識

■レーン表示について

地図データに情報のない交差点では、レーン表示は行われません。また交差点によっては、レーン表示と実際の交差点形状が異なる場合があります。実際の道路標識・表示や道路状況に従って走行してください。

割り込み表示について

状況に応じて、次のシステムの警告／注意喚起／通知／作動状況が割り込み表示されます。

- PCS（プリクラッシュセーフティ）（→P.225）
- 先行車発進告知機能（→P.258）
- ドライバー異常時対応システム（→P.260）
- ITS Connect★（→P.265）
- ブレーキオーバーライドシステム（→P.171）
- ドライブスタートコントロール（→P.171）

知識

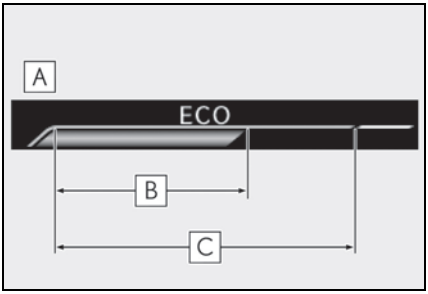
■割り込み表示について

割り込み表示される項目によっては、一部の表示エリアが非表示になります。割り込み表示終了後、もとの表示にもどり

ます。

エコドライブインジケーター／タコメーター（LC500）

■ エコドライブインジケーター



A エコドライブインジケーターゾーン表示

B 現状のアクセル開度

C エコ運転の範囲

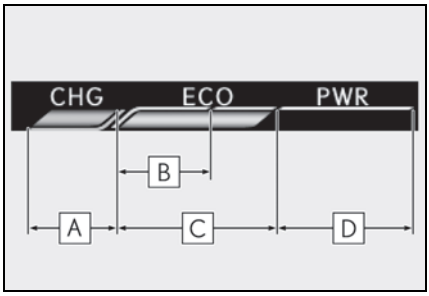
表示される内容はマルチインフォメーションディスプレイのエコドライブインジケーターと同様です。詳しくは、P.98を参照してください。

■ タコメーター

毎分のエンジン回転数を表示します。

ハイブリッドシステムインジケーター／モーターパワー表示／タコメーター（LC500h）

■ ハイブリッドシステムインジケーター



A チャージエリア

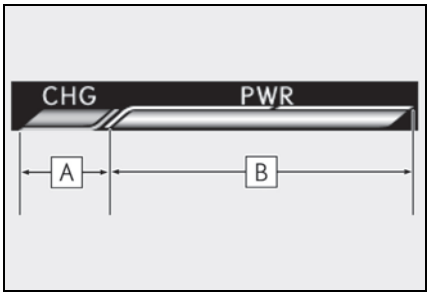
B ハイブリッドエコエリア

C エコエリア

D パワーエリア

表示される内容はメーターのハイブリッドシステムインジケーターと同様です。詳しくは、P.98を参照してください。

■ モーターパワー表示



A チャージエリア

B パワーエリア

表示される内容はメーターのモーターパワー表示と同様です。詳しくは、P.99を参照してください。

モーターパワー表示は、走行モード（→P.271）がエコドライブモード以外のときにハイブリッドシステムインジケーターを選択すると表示されます。

■ タコメーター

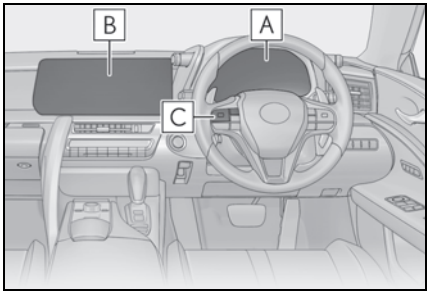
毎分のエンジン回転数を表示します。

エネルギーモニター★／燃費画面

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ハイブリッドシステムの状態（LC500h）や燃費に関する情報を、マルチインフォメーションディスプレイおよびセンターディスプレイに表示します。

システムの構成部品



A マルチインフォメーションディスプレイ ※

B センターディスプレイ

C メーター操作スイッチ ※

※ LC500h

エネルギーモニターの見方（LC500h）

車両の駆動状況、ハイブリッドシステムの作動状況、およびエネルギーの回収状況を確認できます。

■ 表示のしかた

▶ マルチインフォメーションディスプレイ表示

メーター操作スイッチの＜または＞を押して ⓘ を選択し、∧または∨を押してエネルギーモニターを表示させる

▶ センターディスプレイ

1 メインメニューの を選択する

2 “エネルギーフロー” を選択する

■ 表示について

エネルギーの流れに応じて矢印が表示されます。エネルギーの流れがないときは、矢印は表示されません。

矢印の色は次のように変化します。

青色：電気エネルギーを回収・充電しているとき

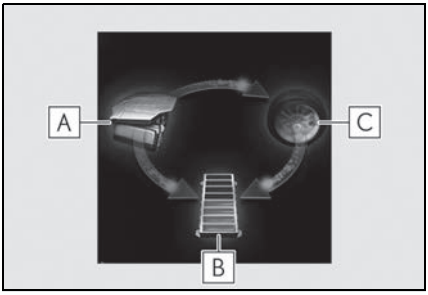
黄色※1／橙色※2：電気エネルギーを使用しているとき

赤色：ガソリンエンジンの動力を使用しているとき

※1マルチインフォメーションディスプレイ

※2センターディスプレイ

▶ マルチインフォメーションディスプレイ



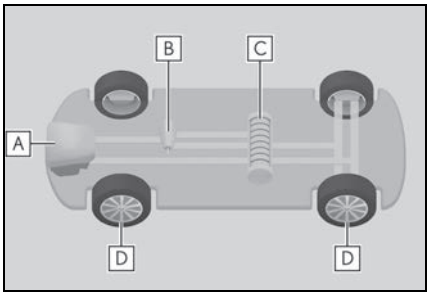
図は説明のためにすべての矢印を掲載しており、実際の表示内容とは異なります。

A エンジン

B 駆動用電池

C タイヤ

▶ センターディスプレイ



図は説明のためにすべての矢印を掲載しており、実際の表示内容とは異なります。

A エンジン

B モーター

C 駆動用電池

D タイヤ

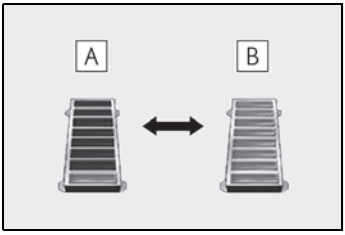
知識

■駆動用電池の表示について

駆動用電池の残量に応じて、8 段階で表示されます。

●図は例として、マルチインフォメーションディスプレイで説明します。

●実際の表示内容とは異なる場合があります。



A 少ない

B 多い

■駆動用電池の残量警告について

●シフトレバーがNで、駆動用電池の充電ができない状態が継続、もしくは、駆動用電池の残量が一定未満まで低下すると、ブザーが断続的に吹鳴します。その後、さらに残量が低下したときは、ブザー音が断続から連続にかわります。

●マルチインフォメーションディスプレイのメッセージとブザー音で警告されたときは、画面の指示に従って対処して下さい。

瞬間燃費画面の見方

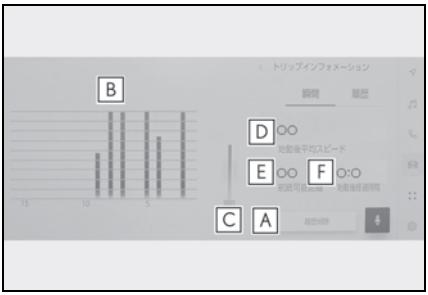
■ 表示のしかた

1 メインメニューの を選択する

2 “トリップインフォメーション” を選択する

3 “瞬間” を選択する

■ 表示について



A 履歴削除

B 過去 15 分間の 1 分ごとの燃費（平均燃費）

C 瞬間燃費

D エンジン＜ハイブリッドシステム＞始動後平均車速

E 航続可能距離

F エンジン＜ハイブリッドシステム＞始動後経過時間

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

燃費履歴画面の見方

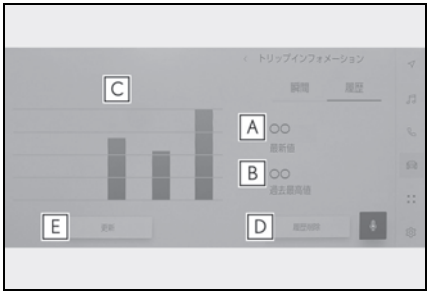
■ 表示のしかた

1 メインメニューの を選択する

2 “トリップインフォメーション” を選択する

3 “履歴” を選択する

■ 表示について



A 最新値表示

B 過去最高値表示

C 過去平均燃費表示

D 履歴削除

E 最新値更新

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

知識

■過去の区間平均燃費の記録を更新するには

燃費履歴画面で “ 更新 ” を選択すると、平均燃費の値とグラフが更新され、新たに平均燃費の記録を開始します。

■燃費データをリセットするには

“ 履歴削除 ” を選択すると、燃費データがリセットされます。

■航続可能距離について

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を示します。

表示される距離は、過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。

運転する前に 3

3-1. キー

キー 122

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた

ドア 126

トランク 130

スマートエントリー＆スタートシステム 134

3-3. シートの調整

フロントシート..... 141

パワーイージーアクセスシステム／運転席ポジションメモリー／メモリーコール機能 143

ヘッドレスト 147

3-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル 149

インナーミラー..... 150

ドアミラー 151

3-5. ドアガラスの開閉

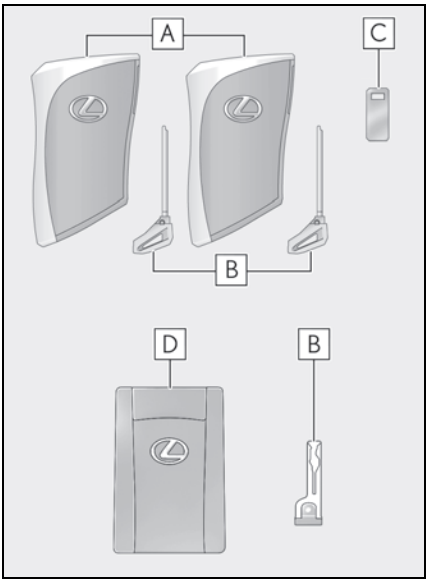
パワーウインドウ..... 154

ソフトトップルーフ（コンバーチブル）..... 159

キー

キーの種類

お客様へ次のキーをお渡しします。



A 電子キー

・スマートエントリー＆スタートシステムの作動（→P.134）
・ワイヤレス機能の作動

B メカニカルキー

C キーナンバープレート

D カードキー

スマートエントリー＆スタートシステムの作動（→P.134）

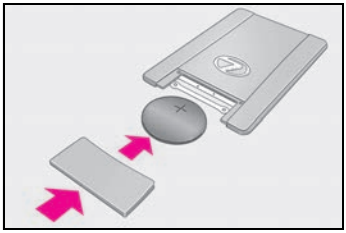
知識

■カードキーについて

●カードキーは非防水です。

●カードキーに内蔵されているメカニカルキーは、カードキーが正常に作動しないなどの緊急時にのみ使用してください。

●電池カバーがはずれたときやぬれたときに電池をはずした場合は、電池の＋極をレクサスエンブレム面側にして取り付けてください。



■航空機に乗るとき

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■電池の消耗について

●電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。（カードキーは 1 ～ 1 年半程度で消耗します）

●電池残量が少なくなると、エンジン＜ハイブリッドシステム＞を停止した際に車内から警告音が鳴ります。

●長期間使用しない電子キーは、節電モードにすることで電池の消耗を抑えることができます。（→P.137）

●電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。（→P.364）

・スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
・作動範囲が狭くなった
・電子キーの LED が点灯しない

●電池はお客様自身で交換することができます（→P.364）が、交換の際にキーが破損するおそれがあるため、レクサス販売店での交換をおすすめします。

●電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の 1m 以内に電子キーを保管しないでください。
・TV
・パソコン
・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
・電気スタンド
・電磁調理器

■電池の交換方法

→P.364

■キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはレクサス販売店へご相談ください。

■電子キーの取り扱いについて

JP

電子キーは電波法の認証に適合しています。
必ず以下のことをお守り下さい。
・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
・必ず日本国内でご使用下さい。

00

■マルチインフォメーションディスプレイに“新しいキーが登録されました 詳しくは販売店に問い合わせください”と表示されたときは

追加で新しく電子キーが登録された場合、車外から解錠して運転席ドアを開けたときにメッセージが表示されることが 10 日ほど続きます。電子キーの登録をした覚えがないにも関わらずメッセージが表示されたときは、お持ちの電子キー以外に登録されている電子キーがないかをレクサス販売店で確認してください。

⚠注意

■キーの故障を防ぐために

●落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない

●温度の高いところに長時間放置しない

●ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない

●キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない

●分解しない

●電子キー表面にシールなどを貼らない

●テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品の近くに置かない

●電気医療機器（マイクロ波治療機器や低周波治療機器など）の近くに置いたり、身につけたまま治療を受けない

■キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

注意

■スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

→P.413

■電子キーを紛失したとき

→P.411

■カードキーの取り扱いについて

●コンバーチブル以外：メカニカルキーをカードキーに挿し込むときは、無理な力を与えないでください。
カードキーが破損するおそれがあります。

●電池やカードキーの電極がぬれた場合は、電池が腐食するおそれがあります。
水の中に落としたときや飲料水などをこぼしたときは、ただちに電池カバーをはずして電池および電極部分をふき取ってください（電池カバーをはずすには、軽く持って引き抜いてください）。電池が腐食した場合は、レクサス販売店で電池を交換してください。

●電池カバーを取りはずす場合は、押しつぶしたりドライバーなどを使用したりしないでください。
無理にこじ開けようとすると、曲がったり傷を付けたりするおそれがあります。

●電池カバーをひんぱんに取りはずすと、電池カバーが抜けやすくなることがあります。

●電池を取り付けるときは、必ず電池の向きを確認してください。電池の向きを間違えると、電池が急激に消耗する原因になります。

●次のような使い方をした場合は、カードキーの表面に傷を付けたり塗装がはがれたりするおそれがあります。

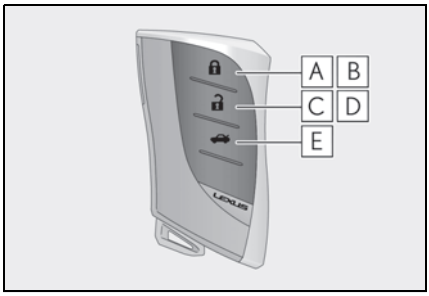
・小銭や鍵などの硬いものと同時に携帯したとき

・シャープペンシルの先端などの鋭利なものでこすったとき

・シンナーやベンジンでカードキーの表面をふいたとき

ワイヤレス機能について

キーには次のワイヤレス機能が搭載されています。



A ドアの施錠（→P.126）

B ドアガラスを閉める ※（→P.126）

C ドアの解錠（→P.126）

D ドアガラスを開く ※（→P.126）

E トランクを開ける（→P.132）

※ レクサス販売店での設定変更が必要です。

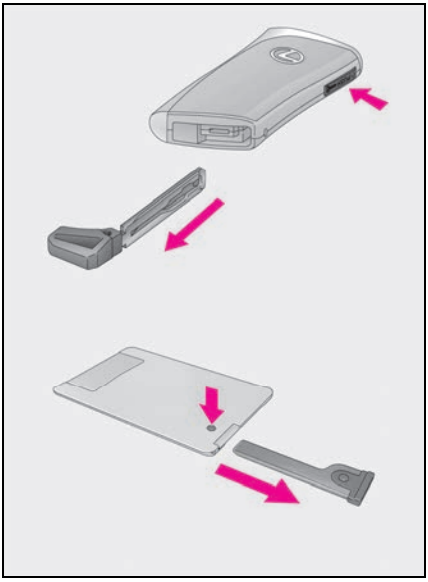
メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除ボタンを押してキーを取り出して

ください。

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。
（→P.413）



知識

■駐車場などでキーを預けるとき

必要に応じてグローブボックスを施錠（→P.322）します。
メカニカルキーを取り出し、電子キーのみを渡してください。

■メカニカルキーを紛失したとき

→P.411

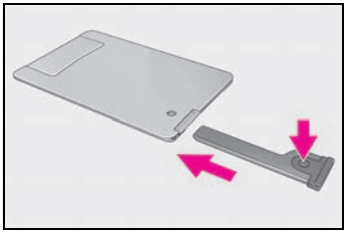
■不正キーの使用について

指定のメカニカルキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

■カードキーについて

●メカニカルキーが取り出しにくいときは、ボールペンの先などで解除ボタンを押してください。引き出しにくいときは、コインなどで引っかけてください。（→P.124）

●メカニカルキーをカードキーへ入れるときは、解除ボタンを押しながら奥まで入れてください。



注意

■カードキーの取り扱いについて

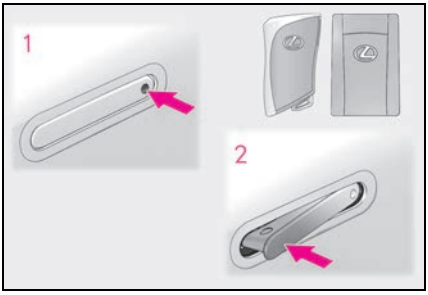
●メカニカルキーをカードキーに挿し込むときは、無理な力を与えないでください。カードキーが破損するおそれがあります。

ドア

車外から解錠／施錠するには

■ スマートエントリー＆スタートシステムを使用する

電子キーを携帯して操作します。



1 ドアハンドル前端のくぼみを押して解錠する

ドアハンドルが展開します。

展開したドアハンドルは約 60 秒後に自動で格納されます。

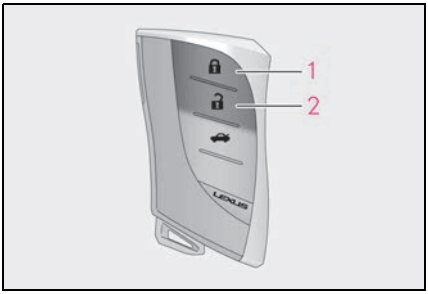
施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

2 展開しているドアハンドルの後端を押して施錠する

ドアハンドルが格納されます。

施錠後は、ドアロックインジケーター（→P.129）で施錠されたことを必ず確認してください。

■ ワイヤレス機能を使用する



1 全ドアを施錠する

ドアハンドルが展開している場合は格納されます。

施錠後は、ドアロックインジケーター（→P.129）で施錠されたことを必ず確認してください。

押し続けるとドアガラスが閉まります。※

2 全ドアを解錠する

ドアハンドルが展開します。

押し続けるとドアガラスが開きます。※

※ レクサス販売店での設定変更が必要です。

知識

■ ドア連動ドアガラス開閉機能

ドアの開閉に連動して、ドアガラスが少し開閉します。

■ 車速連動ドアハンドル格納機能

ドアハンドルが展開したまま車速が約 10km/h 以上になると、ドアハンドルが格納されます。

■ 自動で格納されたドアハンドルを展開させるには

ハンドル前端のくぼみを押すことで展開させることができます。いったん展開させたあと、ハンドル後端を押すと施錠されます。

■ 解錠するドアを切りかえるには

ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー＆スタートシステムで解錠できるドアの設定を切りかえることができます。

1 エンジンスイッチ<パワースイッチ>を OFF にする

2 オートアラームの侵入・傾斜センサーを停止する
（操作中のオートアラーム誤作動防止：→P.90）

3 キー表面のインジケーターが消灯しているときに ボタンと同時に、 または のいずれかを約5秒間押し続ける

操作を行うごとに次のように設定が切りかわります。（続けて切りかえ操作を行う場合は、ボタンから手を離したあと5秒以上間隔をあけてから手順 **3** を行ってください）

マルチインフォメーションディスプレイ表示／ブザー音	解錠できるドア
   車外：“ピピッ”（3回） 車内：“ポーン”（1回）	運転席のドアハンドル前端のくぼみを押すと運転席のみ解錠
	助手席のドアハンドル前端のくぼみを押すと全席解錠
   車外：“ピピッ”（2回） 車内：“ポーン”（1回）	いずれかのドアハンドル前端のくぼみを押すと全席解錠

オートアラームの誤作動防止のため、登録後はいったんワイヤレスリモコンで解錠し、ドアを開閉してください。

（ ボタンを押して30秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます）

オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作を行ってください。（→P.88）

■衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。
衝撃の度合いや事故の状況によっては作動しないことがあります。

■作動の合図

ドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は1回、解錠は2回）

ドアガラスの開閉をブザーで知らせます。

コンバーチブル：ソフトトップルーフの開閉状況により、ブザーが遅れる場合があります。

■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約30秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。
ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■オートアラームの設定制御

施錠するとオートアラームが設定されます。（→P.88）

■スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのあるとき

→P.137

■スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→P.413）電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換し

てください。（→P.364）

■補機バッテリーがあがったときは

スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンでドアを施錠・解錠することはできません。

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠をしてください。（→P.413）

■カスタマイズ機能

キー操作によって解錠されるドアの設定などを変更できます。
（カスタマイズ一覧：→P.446）

警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- 走行中はドア内側のドアレバーを引かない
  特に、運転席は施錠されていてもドアが開くため、注意してください。

■ドアを開閉するときの留意事項

傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

■ドア連動ドアガラス開閉機能

ドアガラスの上端を持ってドアを閉めないでください。ドアガラスで指などを挟むおそれがあります。

■ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスを操作するとき（コンバーチブル以外）

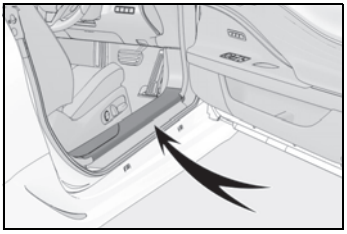
ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

■ワイヤレスリモコンを使ってドア/リヤクォーターガラスを操作するとき（コンバーチブル）

ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

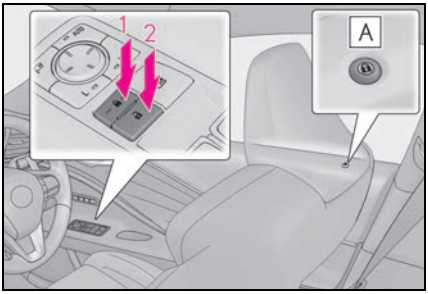
■車に乗り降りするときは

スカッフプレートを踏まないでください。すべってけがをするおそれがあります。



車内から解錠／施錠するには

■ ドアロックスイッチを使用する



1 全ドアを施錠する

ドアロックインジケーター A が点灯します。

2 全ドアを解錠する

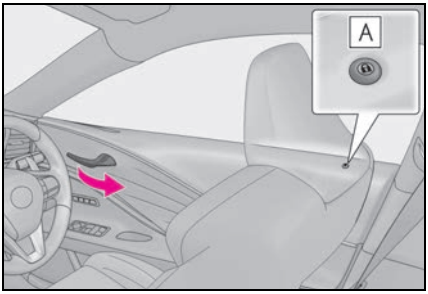
ドアロックインジケーター A が消灯します。

■ ドアレバーを使用する

ドアレバーを引いてドアを解錠する

ドアロックインジケーター A が消灯します。

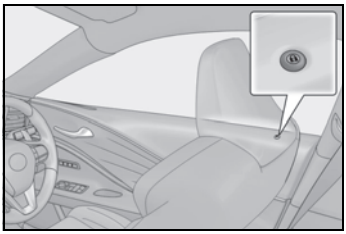
運転席は、ドアロックインジケーター A が点灯していても、ドアレバーを引くとドアが開きます。



知識

■ ドアロックインジケーター

ドアロックインジケーターはドアが施錠されると点灯します。エンジンスイッチ＜パワースイッチ＞が OFF の場合、約 30 秒後に自動消灯します。



■ マルチインフォメーションディスプレイにドアが開いているメッセージが表示されたときは

ボンネット、いずれかのドア、またはトランクが確実に閉まっていません。ボンネット、各ドア、またはトランクが確実に閉まっていない状態のまま、車速が 5km/h をこえるとマスターウォーニングが点滅し、警告ブザーが鳴ります。ボンネット、全ドア、およびトランクを確実に閉めてください。

■ カスタマイズ機能

ドアロックインジケーターが消灯するまでの時間を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→P.446）

オートドアロック・アンロック機能

次の機能を設定・解除することができます。

設定変更のしかたについては、P.446 を参照してください。

機能	作動内容
車速感応オートドアロック	速度が約 20km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
シフト操作連動ドアロック	エンジン回転中<ハイブリッドシステム作動中>にシフトポジションを P 以外にしたとき全ドアが施錠されます。
シフト操作連動アンロック	シフトポジションを P にしたとき全ドアが解錠されます。
運転席ドア開連動アンロック	エンジンスイッチ<パワースイッチ>を OFF にしてから約 45 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます

トランク

トランクオープナースイッチやスマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレスリモコンを使って開けることができます。

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行する前に

- 走行前にトランクが閉まっていることを必ず確認してください。
  完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたったり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。
- トランクの中でお子さまを遊ばせないでください。
  誤って閉じ込められた場合、熱射病や窒息などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはトランクの開閉操作をさせないでください。
  不意にトランクリッドが開いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■走行中の留意事項

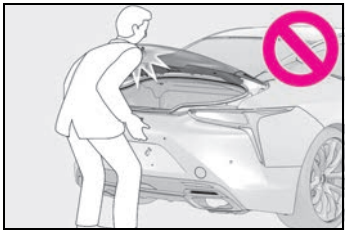
トランク内には絶対に人を乗せないでください。
急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

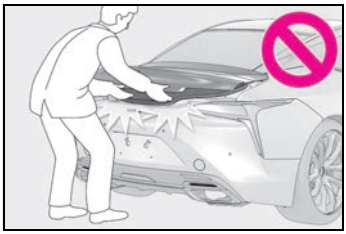
■トランクの使用にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- トランクを開ける前に、トランクリッド上の雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでトランクリッドが突然閉じるおそれがあります。
- トランクを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
  トランクリッドが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- 傾斜地では、平坦な場所よりもトランクの開閉がしにくく、急にトランクが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずトランクが全開で静止していることを確認して使用してください。
- トランクを開けるときは、顔や体などをぶつけないよう注意してください。



- トランクを閉めるときは、トランクリッドで指などを挟まないよう十分注意してください。



- トランクは必ず外からトランクリッド上面を軽く押して閉めてください。トランクグリップで直接トランクを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。
- トランクダンパーステーを持ってトランクを閉めたり、ぶら下がったりしないでください。
  手を挟んだり、トランクダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- トランクリッドにレクサス純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。トランクリッドの重量が重くなると、開いたあとに突然閉じるおそれがあります。

注意

■トランクダンパーステーについて

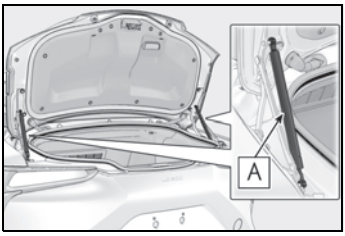
トランクにはトランクリッドを支えるためのダンパーステー A が取り付けられています。

ダンパーステー A の損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などでふれない

注意

- トランクリッドにレクサス純正品以外のアクセサリー用品を付けない
- ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

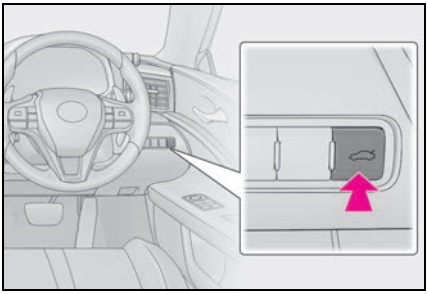


トランクを開けるには

■ トランクオープナースイッチを使用する

トランクオープナースイッチを押す

コンバーチブル：スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンを使ってドアが施錠されているときは、トランクを開くことができません。

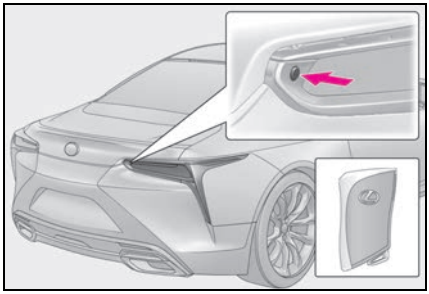


■ スマートエントリー＆スタートシステムを使用する

電子キーを携帯し、スイッチを押す

次のいずれかの方法ですべてのドアを解錠したときは、電子キーを携帯しなくてもトランクを開けることができます。

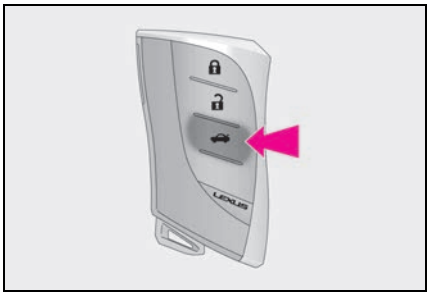
- スマートエントリー＆スタートシステム
- ワイヤレス機能
- ドアロックスイッチ
- メカニカルキー
- オートドアアンロック機能



■ ワイヤレス機能を使用する

スイッチを押し続ける

ブザーが鳴ります。



知識

■ソフトトップの作動が完了していないときは（コンバーチブル）

トランクが開きません。ソフトトップルーフの作動が完全に終了してからトランクを操作してください。（→P.159）

■トランクランプ

トランクを開けたとき、トランクランプが点灯します。

■トランク内キー閉じ込み防止機能について

●すべてのドアが施錠されている場合、トランク内に電子キーを置いたままトランクを閉めると、警告音が鳴ります。この場合、車外にあるトランクオープンスイッチで開けられます。

●すべてのドアが施錠されている状態で、予備のキーをトランクに入れたときも、キー閉じ込み防止機能が働き、トランクを開けることができます。盗難防止のため、車から離れるときは必ずすべての電子キーを携帯してください。

●すべてのドアが施錠されている状態でトランク内に電子キーを置いても、電子キーが置かれた場所や、周囲の電波状況によっては、トランク内の電子キーを検知できないことがあります。この場合は、キー閉じ込み防止機能が働かず、トランクを閉めたときに施錠されてしまいます。トランクを閉めるときには、必ず電子キーの所在を確認してください。

●ドアがひとつでも解錠されている場合は、キー閉じ込み防止機能は働きません。この場合は、車内のトランクオープナースイッチでトランクを開けてください。

●すべてのドアが施錠されている場合、電子キーを持った手でトランクを閉めると、警告音が鳴ることがあります。この場合、トランクは施錠されません。トランクを閉めるときには、電子キーを持った手で閉めないでください。

■スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

トランクオープナースイッチを使ってトランクを開けることができます。
（→P.413）
電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。（→P.364）

■マルチインフォメーションディスプレイにトランクが開いているメッセージが表示されたときは

→P.129

■補機バッテリーがあがったときは

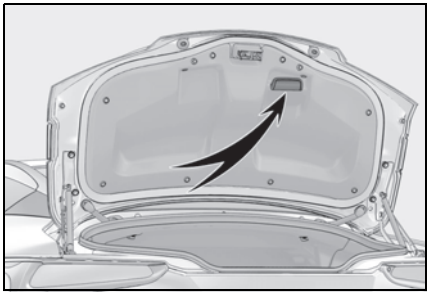
スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンでトランクを施錠・解錠することはできません。
メカニカルキーを使ってトランクの施錠・解錠をしてください。（→P.416）

■カスタマイズ機能

トランクの解錠設定を変更できます。（カスタマイズ一覧：→P.446）

トランクを閉めるには

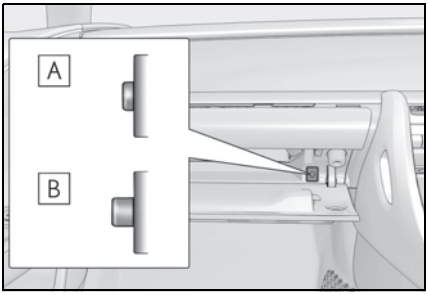
トランクグリップを持って、横方向に力をかけないようにトランクを引き下げ、外から押して閉めてください。



荷物の盗難防止などのために

トランクに積んだ荷物の盗難防止などのために、トランクオープナースイッチを一時的に無効にすることができます。

グローブボックス内のトランクオープナーメインスイッチを OFF にする



A ON

B OFF

ワイヤレスリモコン・スマートエントリー＆スタートシステムでもトランクを開けられなくなります。

知識

■駐車場などでキーを預けるときは

→P.125

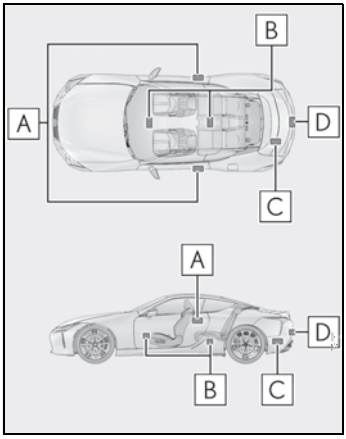
スマートエントリー＆スタートシステム

電子キー（カードキー含む）をポケットなどに携帯すると、次の操作が行えます。必ず運転者がキーを携帯してください。

- ドアを解錠・施錠する（→P.126）
- トランクを開ける（→P.132）
- エンジン<ハイブリッドシステム>を始動する（→P.178, 181）

知識

■アンテナの位置（コンバーチブル以外）



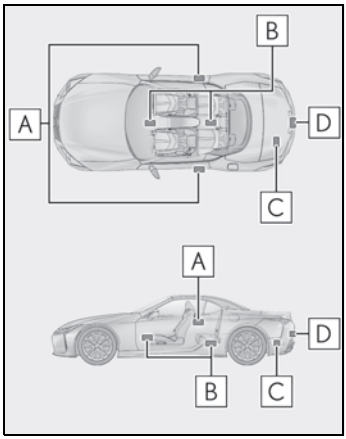
A 車外アンテナ

B 車室内アンテナ

C トランク内アンテナ

D トランク外アンテナ

■アンテナの位置（コンバーチブル）



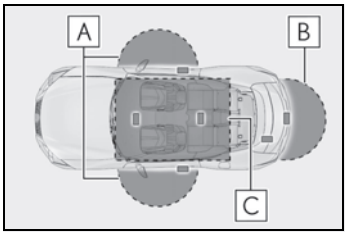
A 車外アンテナ

B 車室内アンテナ

C トランク内アンテナ

D トランク外アンテナ

■作動範囲（電子キーの検知エリア）（コンバーチブル以外）



A ドアの施錠・解錠時

ドアハンドルから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

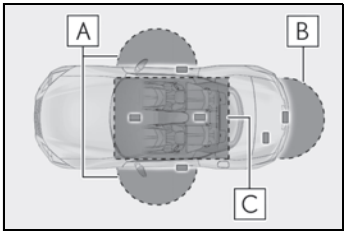
B トランクの解錠時

トランクオープンスイッチから周囲約 70 cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。

C エンジン<ハイブリッドシステム>始動時またはエンジンスイッチ<パワースイッチ>切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

■作動範囲（電子キーの検知エリア）（コンバーチブル）



A 車外アンテナ

ドアハンドルから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

B 車室内アンテナ

トランクオープンスイッチから周囲約 70 cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。

C エンジン始動時またはエンジンスイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

■マルチインフォメーションディスプレイに “ 車室内にキーがあります ” と表示されたとき

車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠しようとすると、警告メッセージが表示されます。車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠してください。

■警告音が鳴ったり警告表示が出たりしたとき

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次の通りです。

●車外から警告音が“ピー”と5秒鳴るとき

状況	対処方法
いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー＆スタートシステムもしくは、ワイヤレス機能で施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠する
全ドアが施錠されている状態で電子キーをトランク内に置いたままトランクを閉じた	トランク内から電子キーを取り出した後、トランクを閉じる

●コンバーチブル以外：車内から警告音が“ポーン、ポーン”と鳴り続けるとき

状況	対処方法
運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチ＜パワースイッチ＞をACCにした（エンジンスイッチ＜パワースイッチ＞がACCのとき運転席ドアを開いた）	エンジンスイッチ＜パワースイッチ＞をOFFにしたあと、運転席ドアを閉める
運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチ＜パワースイッチ＞をOFFにした	運転席ドアを閉めてください。

●コンバーチブル：車内から警告音が“ポーン、ポーン”と鳴り続けるとき

状況	対処方法
運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチをACCにした（エンジンスイッチがACCのとき運転席ドアを開いた）	エンジンスイッチをOFFにしたあと、運転席ドアを閉める
運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチをOFFにした	運転席ドアを閉めてください。

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両の補機バッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

●次の状況では、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。
・車の外約2m以内に電子キーを10分以上放置した
・5日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった

●14 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった場合、助手席での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドル前端のくぼみを押す、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■電子キーを節電モードにするには

●節電モードに設定すると、電子キーによる、電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの を押しながら、

を 2 回押し、電子キーのインジケータが 4 回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー＆スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。

●長期間使用しない電子キーは、節電モードにしておくことをおすすめします。

■電子キーの機能が停止するとき

電子キーを置いたままにするなど、一定時間電子キーの位置に変化がなかった場合、電池の消耗を抑えるために電子キーの機能が停止します。この場合は、電子キーを持ち上げるなどして位置を動かすことで、自動的に復帰します。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー＆スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコン、エンジンイモビライザーシステム<イモビライザーシステム>が正常に作動しない場合があります。（対処方法：→P.413）

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき

●電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア

●近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
・他の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
・パソコンや携帯情報端末（PDA など）
・デジタルオーディオプレーヤー
・ポータブルゲーム機器

●リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

●充電器など電子機器の近くに電子キーを置いたとき

●コインパーキングなど通信をさまたげ

る電波がある場所に駐車したとき

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のようなときは正しく作動しないことがあります。
・施錠・解錠時、電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎている、または地面の近くや高い場所にある
・トランクを開けるとき、電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央に近付きすぎている
・エンジン<ハイブリッドシステム>始動時やエンジンスイッチ<パワースイッチ>の切りかえ時、電子キーがインストルメントパネルやフロア上・リヤシート後方のパッケージトレイ上・ドアポケット、またはグローブボックス内などに置かれている

●インストルメントパネル上面やドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外から施錠でき、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあります。

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外は解錠しません。

●車外でも電子キーがドアガラスに近付いていると、エンジン<ハイブリッドシステム>を始動できることがあります。

●電子キーが作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠します）

●ワイヤレスリモコンなどでの施錠時にキーが車両の近くにあると、スマートエントリー＆スタートシステムでの解錠ができないことがあります。（ワイヤレスリモコンを使用すると解錠できます）

●ロック操作は、連続で 2 回まで有効です。3 回目以降はロック動作しません。

●電子キーを携帯したまま洗車をすると、水がドアハンドルにかかったときに施錠・解錠をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をしてください。
・キーを車両から 2m 以上離れた場所におく（盗難に注意し保管してください）
・キーを節電モードに設定してスマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する（→P.137）

●洗車機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときに、マルチインフォメーションディスプレイに警報が表示され車外のブザーが吹鳴することがあります。全てのドアを施錠すると警報は止まります。

●洗車機での洗車中にドアハンドルが格納されていないと、ドアが開いたり、ドアハンドルが破損したりするおそれがあります。洗車する前に、ドアハンドルが格納されていることを確認してください。

●すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。ドアハンドル前端のくぼみを押し解錠したことを確認してからドアハンドルを引いてください。

●作動範囲内に他の電子キーがあると、解錠に時間がかかることがあります。

■長期間運転しないとき

●盗難防止のため、電子キーを車両から 2m 以上離しておいてください。

●あらかじめスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることができます。

●電子キーを節電モードに設定すると、

電池の消耗を抑えることができます。（→P.137）

■システムを正しく作動させるために

●電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります。：→P.133）

●トランク内に電子キーを置かないでください。
電子キーの場所（トランク内側の端）、状況（金属製のかばんの中、金属製のものの付近など）、または周囲の電波環境によっては、キー閉じ込み防止機能が作動しない場合があります。（→P.133）

■電子キーが正常に働かないときは

●ドアの施錠・解錠ができないとき、またはトランクが開けられないときは、次の方法を行ってください。
・電子キーをドアハンドルに近づけて施錠・解錠の操作をする
・電子キーをトランクにあるスイッチ（→P.132）に近づけてスイッチを押す
・ワイヤレスリモコンを使用する

上記の方法で施錠・解錠できないときは、メカニカルキーを使って操作してください。（→P.413）

なお、オートアラーム設定中にメカニカルキーで解錠すると、警報が鳴りますのでご注意ください。（→P.88）

●エンジン<ハイブリッドシステム>の始動ができないときは、次の方法を行ってください。（→P.415）

■カスタマイズ機能

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。（カスタマイズ一覧：→P.446）

カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたときは、次の操作の説明を参照してください。

●ドア・トランクの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドア・トランクの施錠・解錠ができます。（→P.126, 132, 413）

●エンジン<ハイブリッドシステム>の始動・エンジンスイッチ<パワースイッチ>のモード切りかえ：→P.415

●エンジン<ハイブリッドシステム>の停止：→P.179, 183

警告

■電波がおよぼす影響について（スマートエントリー＆スタートシステムアンテナ）

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器を装着されている方は、スマートアンテナ（→P.134）から 22cm 以内に植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器が近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器の作動に影響を与える場合があります。

警告

- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合には、電波による影響について個別に医療用電気機器メーカーなどにご確認ください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与える場合があります。

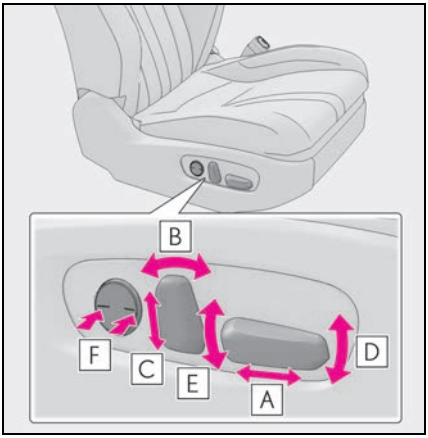
スマートエントリー＆スタートシステムを作動しないようにすることもできます。
詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

フロントシート

スイッチ操作により、シートの前後・上下位置などの調整ができます。

正しい運転姿勢がとれるよう調整してください。(→P.32)

調整するには



A 前後位置調整

B リクライニング調整

C ヘッドレストの上下調整★
(→P.147)

D クッション前端の上下調整

E シート全体の上下調整

F 腰部位置調整
(ランバーサポート)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■シートを調整するときは

●周囲の人やものがシートに挟まれないよう注意してください。

●ヘッドレストが天井にあたらないよう注意してください。

●電動式ヘッドレスト装着車：ヘッドレストが天井に近い場合は、ヘッドレストの上方への作動が制限されることがあります。

■シート連動機構

●シートの前後位置やリクライニングを後方に一定以上操作すると、連動して作動します。

●電動式ヘッドレスト装着車：シートを前方に一定以上操作すると、ヘッドレストが下方に作動します。

●電動式ヘッドレスト装着車：シートの上下位置を上方に一定以上操作すると、上方作動は停止し、ヘッドレストが下方に作動します。

■パワーイージーアクセスシステム

エンジンスイッチ<パワースイッチ>のモード切りかえ・運転席のシートベルト脱着に連動して、運転席シートとハンドルが動きます。(→P.143)

警告

■シートを調整するとき

●同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。

●シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

警告

■リクライニング調整について

背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

リヤシートへ乗り降りするには（ワンタッチウォークインシート）

■ 乗り降りする前に

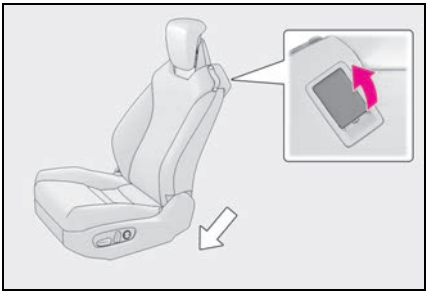
● シートベルトガイドからシートベルトをはずしてください。（→P.35）

● サンバイザーを格納してください。

■ 乗るとき／降りるとき

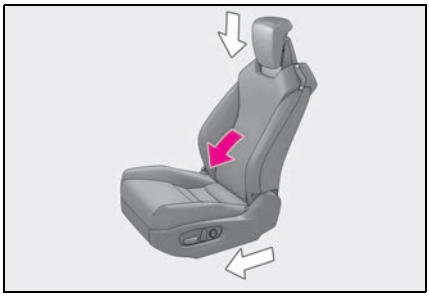
1 レバーを引く

フロントシートの高さが低くなります。



2 背もたれを前に倒す

フロントシートが前方に、ヘッドレストが下方※に移動します。



※ 電動式ヘッドレスト装着車のみ

■ フロントシートをもとにもどすとき

固定される位置まで背もたれを起こすと、自動でもとの位置にもどります。

知識

■ワンタッチウォークインシートについて

●前方への操作後、復帰させる前にシート調整スイッチや運転席ポジションメモリースイッチを押したときは、背もたれを起こしても復帰作動しません。

●次のときはワンタッチウォークインシートが作動しません。
・シートベルトを装着しているとき
・エンジンスイッチ<パワースイッチ>がONでシフトポジションがP以外のとき

●次のときは、作動が途中で停止します。
・シート調整スイッチや運転席ポジションメモリースイッチを押したとき
・シートベルトを装着したとき
・エンジンスイッチ<パワースイッチ>がONでシフトポジションをP以外にしたとき

●フロントシートがサンバイザーなどの周辺部品に近い場合は、前方や上方への作動が制限されることがあります。

■挟み込み防止機能

ドライビングポジション呼び出し中、またはパワーイージーアクセスシステムの作動中に、シートの後ろに異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し前方に少し移動します。

ワンタッチウォークインシートの作動中に、シートの前後に異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し反対方向に少し移動します。

挟み込み防止機能作動時はシートポジションが設定した位置とは異なる位置で停止します。シートポジションを確認してください。

警告

■ワンタッチウォークインシートについて

- 操作する前に、周囲の人やものがシートに挟まるおそれがないことを確認してください。
- 走行時は背もたれを確実に固定させてください。
- 走行中は絶対に操作しないでください。

■挟み込み防止機能

挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、乗員の手・体・足などを挟んだりしないでください。

パワーイージーアクセスシステム／運転席ポジションメモリー／メモリーコール機能

自動でシート・ハンドル・ドアミラー・ヘッドアップディスプレイ★を動かし、乗り降りしやすい位置に調整したり、お好みのドライビングポジションに調整します。

ドライビングポジションは、3パターンまで登録できます。

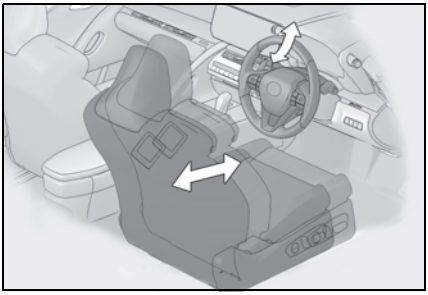
ドライビングポジションを電子キーに登録することで、電子キー（カードキー含む）ごとにドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パワーイージーアクセスシステム

次のすべての操作を行ったとき、シートとハンドルが乗り降りしやすい位置に自動で調整されます。

- シフトポジションをPにする
- エンジンスイッチ<パワースイッチ>をOFFにする
- シートベルトをはずす



次のいずれかの操作を行ったとき、シートとハンドルがもとの位置にもどります。

● エンジンスイッチ<パワースイッチ>をアクセサリモードまたはONにする

● シートベルトを着用する

知識

■パワーイージーアクセスシステムの作動について

●降車時に、シートの位置が最後方または最上方にあるときやリヤ席に近いときは、パワーイージーアクセスシステムが作動しない場合があります。

●パワーイージーアクセスシステム作動中にシートや電動式ヘッドレスト★の位置を調整すると、オート作動が停止しマニュアル調整になります。

●降車時、パワーイージーアクセスシステム作動中または作動後にシートや電動式ヘッドレスト★の位置を調整すると、乗車時にパワーイージーアクセスシステムは作動しません。

●電動式ヘッドレスト装着車：降車時、ヘッドレストが天井に近い場合は、パワーイージーアクセスシステム作動中にヘッドレストが下方へ作動したり、パワーイージーアクセスシステム作動後にヘッドレストの上方への作動が制限されることがあります。

乗車時、ヘッドレストはもとの位置にもどります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■カスタマイズ機能

パワーイージーアクセスシステムによるシート移動量などを変更できます。
（カスタマイズ一覧：→P.446）

ドライビングポジションを登録するには

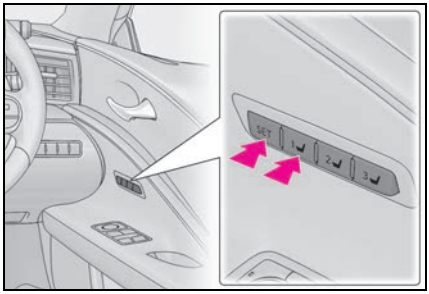
1 エンジンスイッチ<パワースイッチ>をONにする

2 シフトポジションがPにあることを確認する

3 運転席・ハンドル・ドアミラー角度・ヘッドアップディスプレイ表示★をお好みの位置に調整する

4 SETボタンを押しながら、またはSETボタンを押したあと3秒以内に1～3のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す

すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■登録できるシート位置（→P.141）

腰部位置調整（ランバーサポート）以外の位置が登録できます。

■ポジションメモリーを正しくお使いいただくために

登録位置がシート各調整位置の最端部にある状態で、さらに同じ方向に操作をすると、呼び出し位置にずれが生じることがあります。

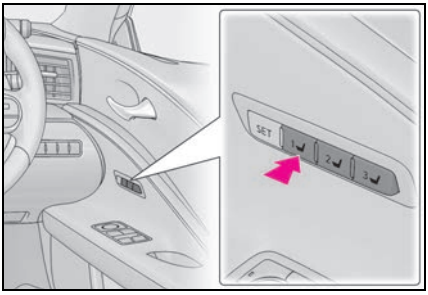
警告

■シート調整時の警告

シート調整中は、シートがリヤ席乗員にあたったり、運転者の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

ドライビングポジションを呼び出すには

1 エンジンスイッチ＜パワースイッチ＞を ON にする
2 シフトポジションが P にあることを確認する
3 1 ～ 3 のうち呼び出したいポジションのボタンをブザーが鳴るまで押す



知識

■ポジションの呼び出し作動を途中で止めたいとき

次のいずれかの操作をします。

●SET ボタンを押す
●1 ～ 3 のボタンを押す
●シート調整スイッチのいずれかを操作する（シートのみ作動停止）
●ハンドル位置調整スイッチを操作する（ハンドルのみ作動停止）
●ヘッドアップディスプレイ表示位置調整スイッチ★を操作する（ヘッドアップディスプレイのみ作動停止）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■エンジンスイッチ＜パワースイッチ＞OFF 後の作動

運転席ドアを開けて 180 秒以内、または運転席ドアを閉め 60 秒以内に呼び出したいポジションのボタンを押すと、シートの位置が調整されます。

■登録したシート位置が呼び出せないとき

シート位置を特定の範囲内に登録した場合、状況によってはシート位置を呼び出せないことがあります。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

電子キー（カードキー含む）にドライビングポジションを登録／解除／呼び出しをするには（メモリーコール機能）

■ 登録方法

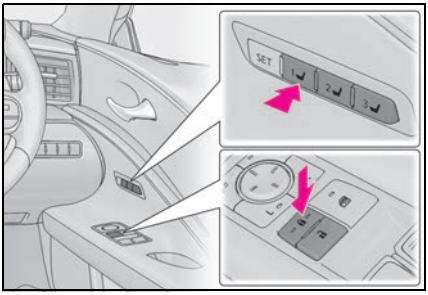
お好みのポジションをあらかじめ 1 ～ 3 のいずれかのボタンに登録しておきます。

登録させたいキーのみ携帯して、運

転席ドアを閉めてください。
車内にキーが 2 つ以上あると、正確に登録できません。

1 エンジンスイッチ<パワースイッチ>を ON にする
2 シフトポジションが P にあることを確認する
3 登録させたいドライビングポジション（1 ～ 3）を呼び出す
4 呼び出したドライビングポジションのボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を “ ピー ” とブザーが鳴るまで押す

登録できなかった場合は、約 3 秒間ブザーが鳴り続けます。



■ 解除方法

1 解除させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉める

車内にキーが 2 つ以上あると、正確に解除できません。

2 エンジンスイッチ<パワースイッチ>を ON にする
3 シフトポジションが P にあることを確認する
4 SET ボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を “ ピッピッ ” とブザーが鳴るまで押す

解除できなかった場合は、約 3 秒間ブザーが鳴り続けます。

■ 呼び出し方法

1 ドライビングポジションを登録した電子キーを携帯し、運転席ドアをスマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンでドアを解錠してドアを開ける

ハンドルおよびヘッドアップディスプレイ表示★を除くドライビングポジションが登録された位置へ動きます。

ドライビングポジションがすでに登録された位置にある場合は、シートやミラーは動きません。

2 エンジンスイッチ<パワースイッチ>を ACC または ON にするか、シートベルトを着用する

ハンドルおよびヘッドアップディスプレイ表示★が登録したドライビングポジションに動きます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■メモリーコール機能によるドライビングポジションの呼び出しについて

●電子キーごとにドライビングポジションを登録できるため、携帯するキーによっては呼び出されるドライビングポジションが異なる場合があります。

●助手席ドアをスマートエントリー＆スタートシステムで解錠した場合は、ドライビングポジションの呼び出しは行われません。その場合は、登録したドライビングポジションのボタンを押してください。

■カスタマイズ機能

メモリーコール機能と連動するドアを変更できます。
（カスタマイズ一覧：→P.446）

ヘッドレスト

ヘッドレストはフロントシートに装備されています。

コンバーチブル：ヘッドレストの取りはずし・取り付けについてはレクサス販売店へご相談ください。

警告

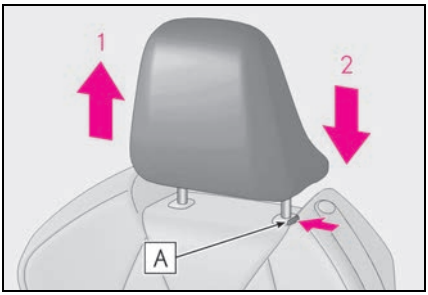
■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- 手動式ヘッドレスト：ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- 手動式ヘッドレスト：ヘッドレストをはずしたまま走行しない

上下調整するには

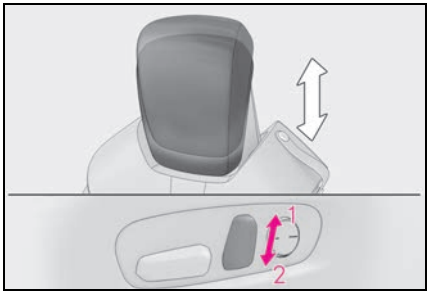
▶ 手動式



1 上げる
2 下げる

下げるときは、解除ボタン A を押しながら操作します。

▶ 電動式



1 上げる
2 下げる

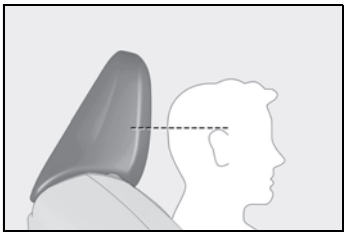
知識

■ヘッドレスト（電動式）について

ヘッドレストが天井に近い場合は、ヘッドレストの上方への作動が制限されることがあります。

■ヘッドレストの高さについて

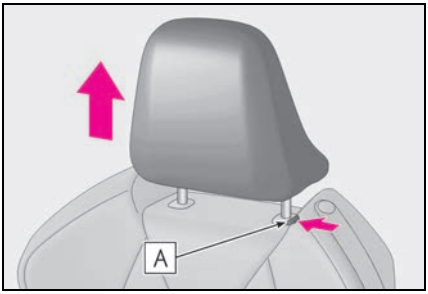
必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



ヘッドレストを取りはずすには（コンバーチブル以外の手動式ヘッドレスト）

解除ボタン A を押しながらヘッドレストを引き上げます。
ヘッドレストが天井にあたって取りはずしにくいときは、シートの高さや角度をかえてください。

（→P.141）



知識

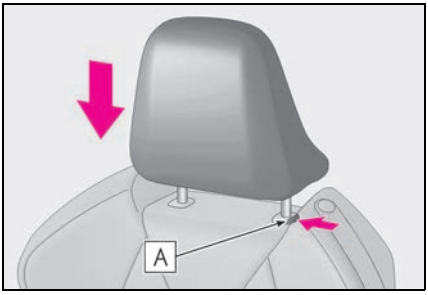
■ **ヘッドレストの取りはずしについて（電動式のみ）**

ヘッドレストの取りはずし・取り付けについてはレクサス販売店へご相談ください。

ヘッドレストを取り付けるには（コンバーチブル以外の手動式ヘッドレスト）

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

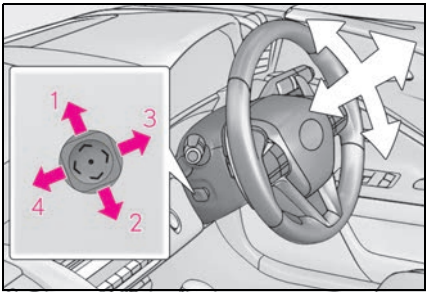
さらに下げるときは、解除ボタン A を押しながら操作してください。



ハンドル

調整のしかた

スイッチを操作すると、ハンドルを次の方向に動かします。



1 上方へ
2 下方へ
3 手前へ
4 前方へ

知識

■ハンドル位置調整の作動条件

エンジンスイッチ<パワースイッチ>がACC または ON のとき

■ハンドル位置の自動調整

お好みのハンドル位置を運転席ポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。(→P.144)

■パワーイージーアクセスシステム

エンジンスイッチ<パワースイッチ>のモード切りかえ・運転席のシートベルト脱着に連動して、ハンドルとシートが動きます。(→P.143)

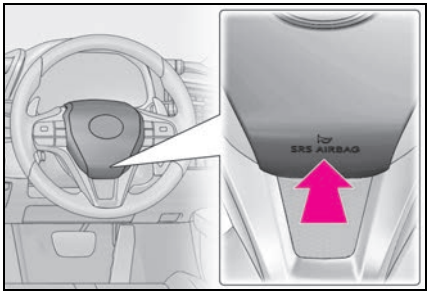
警告

■走行中の留意事項

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ホーン（警音器）を使うには

ハンドルの 周辺部を押すとホーンが鳴ります



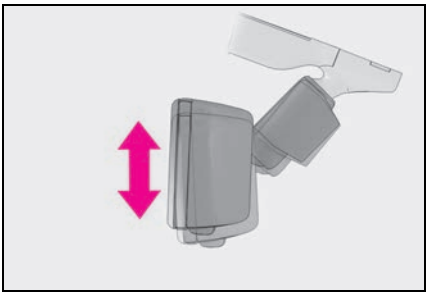
インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整するには

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



警告

■走行中の留意事項

走行中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

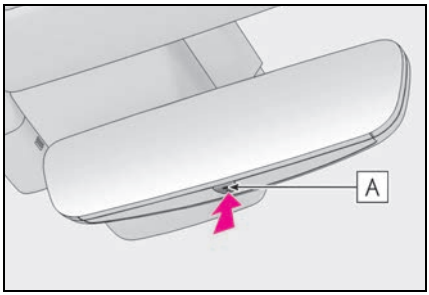
自動防眩機能を使うには

後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に減少させます。

自動防眩機能の ON ／ OFF を切りかえる

ON のときはインジケーター A が点灯します。

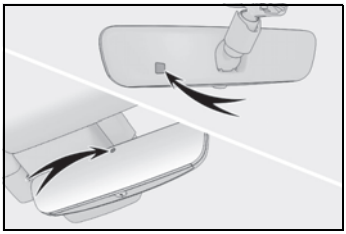
エンジンスイッチ<パワースイッチ>を ON にしたときは、ミラーは常に自動防眩機能が ON になっています。
ボタンを押すと OFF になりインジケーター A が消灯します。



知識

■センサーの誤作動防止

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。



ドアミラー

安全に運転していただくためには、運転する前に視界が確保できるようミラーの角度を調整してください。

知識

■寒冷時にドアミラーを使用するとき

寒冷時にドアミラーが凍結していると、ドアミラーの格納・復帰や鏡面の調整ができない場合があります。ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いてください。

警告

■走行中の留意事項

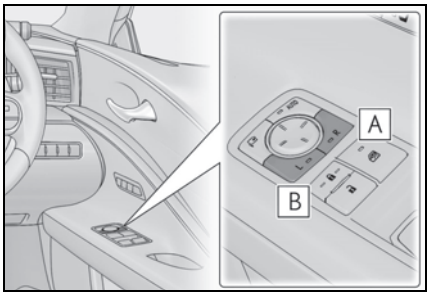
走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

調整するには

1 調整するミラーを選ぶには、スイッチを押す

インジケーターが点灯します。

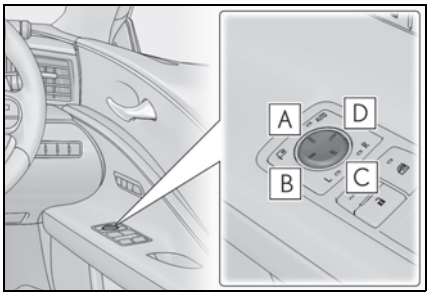


A 右（R）

B 左（L）

もう一度押すと、選択が解除されます。

2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを押す



A 上

B 左

C 下

D 右

知識

■鏡面調整の作動条件

エンジンスイッチ<パワースイッチ>がACC または ON のとき

■ミラーの曇りを取りたいときは

リヤウインドウデフォッガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、

曇りを取ることができます。(→P.310)

■自動防眩機能

インナーミラーの自動防眩機能を ON にしておくと、ドアミラーも連動して防眩機能が作動します。(→P.150)

■ミラー角度の自動調整

お好みのミラー角度を運転席ポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。(→P.144)

警告

■ミラーヒーターが作動しているとき

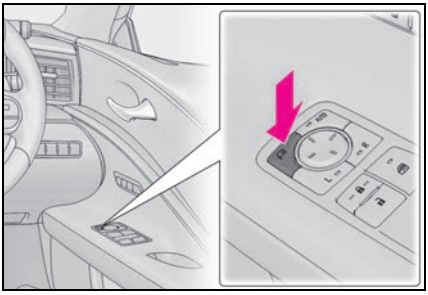
ドアミラーの鏡面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

ドアミラーを格納するには

■ マニュアル作動での格納・復帰

ボタンを押す

もう一度押すと、もとの位置にもどります。



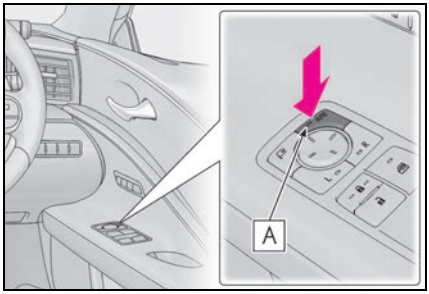
■ オート作動での格納・復帰

スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠に連動して、ドアミラーを自動的に格納・復帰させることができます。

ボタンを押す

ボタンを押すと、インジケーター A が点灯します。

もう一度ボタンを押すとマニュアル作動にもどります。



知識

■補機バッテリー端子の脱着をしたとき

オート電動格納機能の設定がリセットされ、OFF の状態にもどります。機能を ON にするときは、再度、オート電動格納機能の ON・OFF 切りかえを行ってください。

■カスタマイズ機能

オート格納の設定を変更できます。(カスタマイズ一覧：→P.446)

警告

■ミラーが動いているとき

手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

リバース連動機能

ミラー選択スイッチの L または R どちらかが選択されているときは、後退時に鏡面が下向きになり、下方が見やすくなります。

この機能を使用しないときは、ミラー選択スイッチの選択が解除された状態にしてください。

■ 後退時に下向きになる角度を調整するときは

シフトポジションをRにした状態で鏡面位置を調整することで、下向きに動く角度を調整できます。

次回からシフトポジションをRにするたびに、その角度で作動します。

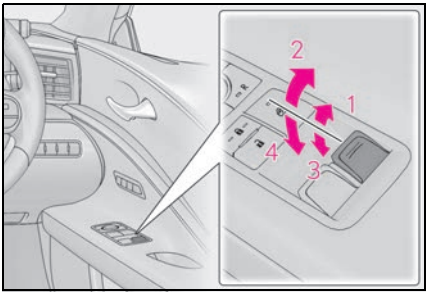
通常時（シフトポジションがR以外のとき）の鏡面位置を基準に下向きに動く角度を記憶するため、調整後に通常時の鏡面位置を変更すると、それに伴って後退時の鏡面位置も変化します。

通常時の鏡面位置を変更したときは、後退時に下向きになる角度も調整してください。

パワーウインドウ

ドアガラスを開閉するには

スイッチを操作し、自動でドアガラスを開閉できます。



1 閉める

2 自動全開 ※1, 2

3 開ける

4 自動全開 ※1

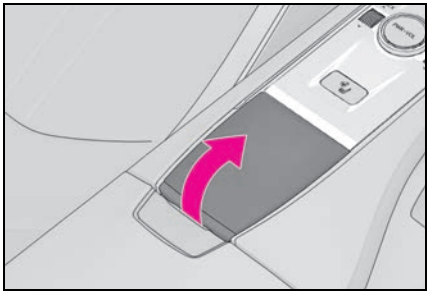
※1途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

※2リヤクォーターガラスが途中で停止しているときは、作動しません。

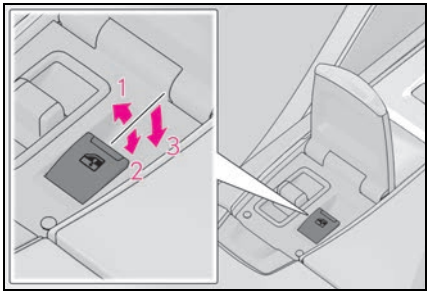
ドアガラスとリヤクォーターガラスを開閉するには（コンバーチブル）

スイッチを操作し、自動 ※1 でドアガラスとリヤクォーターガラスを開閉できます。

1 パームレストを開ける



2 スイッチを操作する



1 閉める

2 開ける

3 自動全開 ※2

※1全開のみ可能です。

※2途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

知識

■**作動条件**

エンジンスイッチ<パワースイッチ>がONのとき

■**エンジン<ハイブリッドシステム>停止後の作動**

エンジンスイッチ<パワースイッチ>をACCまたはOFFにしたあとでも、約45秒間はドアガラスやリヤクォーターガラス★を開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

▶コンバーチブル以外

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

▶コンバーチブル

ドアガラスやリヤクォーターガラスを閉めているときに、ソフトトップルーフとドアガラスやリヤクォーターガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■巻き込み防止機能

▶ドアガラス

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアの間に巻き込まれると、作動が停止します。

▶リヤクォーターガラス★

リヤクォーターガラスを開けているときに、異物がリヤクォーターガラスと車体の間に巻き込まれると、作動が停止します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ドアガラスを開閉することができないとき

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉できないドアのパワーウインドウスイッチで、次の操作を行ってください。

●車を停止し、エンジンスイッチ<パワースイッチ>を ON の状態で、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続ける。または、「自動全開」の位置で押し続けることでドアガラスを閉じることができます。

●上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

▶コンバーチブル以外

1 全ドアを閉める
2 エンジンスイッチ<パワースイッチ>を ON にする
3 パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする
4 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で約 6 秒以上引き続ける
5 パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上押し続ける
6 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で約 4 秒以上押し続ける。
7 再度、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

▶コンバーチブル

●上記の操作を行ってもリヤクォーターガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

1 全ドアを閉める
2 エンジンスイッチを ON にする
3 ソフトトップルーフを閉じ、ドアガラスを閉める

4 全ウインドウ一括開閉スイッチを「閉める」の位置で約 6 秒以上引き続ける
5 全ウインドウ一括開閉スイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスとリヤクォーターガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上押し続ける
6 いったん全ウインドウ一括開閉スイッチから手を離して、再度全ウインドウ一括開閉スイッチを「自動全開」の位置で約 4 秒以上押し続ける
7 パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉める
8 全ウインドウ一括開閉スイッチを「閉める」の位置で引き続け、リヤクォーターガラスを閉めたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上引き続ける

ドアガラスやリヤクォーターガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ドアロック連動ドアガラス開閉機能

▶コンバーチブル以外

●メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。※（→P.413）

●ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。※（→P.126）

●オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動ドアガラス開閉機能でドアガラスを閉めると、オートアラームが作動することがあります。（→P.88）

※ レクサス販売店での設定変更が必要です。

▶コンバーチブル

●メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。※（→P.414）

●ワイヤレスリモコンでドア / リヤクォーターガラスを開閉できます。※（→P.126）

●オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動ドア / リヤクォーターガラス開閉機能でドア / リヤクォーターガラスを閉めると、オートアラームが作動することがあります。（→P.88）

※ レクサス販売店での設定変更が必要です。

■窓開警告ブザー

▶コンバーチブル以外

エンジンスイッチ＜パワースイッチ＞が OFF でドアガラスが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに “ 窓が開いています ” と表示されます。

▶コンバーチブル

エンジンスイッチが OFF でドアガラスやリヤクォーターガラスが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに “ 窓が開いています ” と表示されます。

■カスタマイズ機能

ドアロック連動ドアガラス開閉機能などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→P.446）

警告

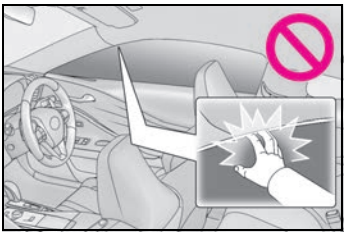
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■ドアガラスを開閉するとき（コンバーチブル以外）

●運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。（→P.158）

●ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



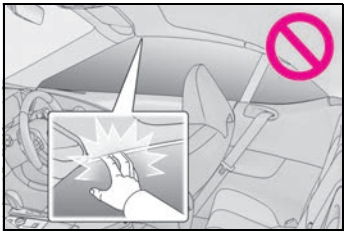
●ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

●車から離れるときはエンジンスイッチ<パワースイッチ>をOFFにし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ドアガラスやリヤクォーターガラスを開閉するとき（コンバーチブル）

●運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラスやリヤクォーターガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスやリヤクォーターガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやリヤクォーターガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。（→P.158）

●ドアガラスやリヤクォーターガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



警告

- ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってドア / リヤクォーターガラスを操作するときは、ドア / リヤクォーターガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドア / リヤクォーターガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
- 車から離れるときはエンジンスイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- コンバーチブル以外：挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- コンバーチブル：挟み込み防止機能は、ドアガラスやリヤクォーターガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

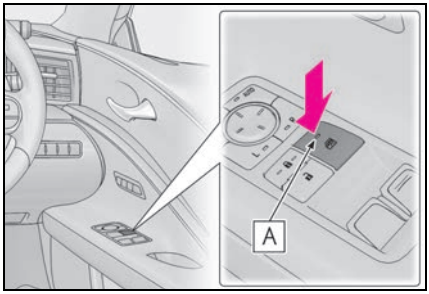
■巻き込み防止機能

- 巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。
- コンバーチブル以外：巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などを巻き込まないように注意してください。
- コンバーチブル：巻き込み防止機能は、ドアガラスやリヤクォーターガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などを巻き込まないように注意してください。

誤操作を防止するには（ウインドウロックスイッチ）

お子さまが誤ってドアガラスとリヤクォーターガラス★を開閉することを防止できます。

スイッチを押すと、インジケーター A が点灯し、助手席のドアガラスとリヤクォーターガラス★が非作動になります。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■作動条件

エンジンスイッチ<パワースイッチ>が ON のとき

■補機バッテリーをはずしたとき

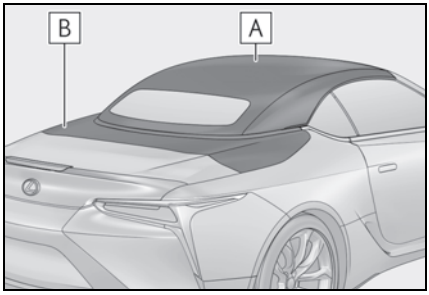
ウインドウロックスイッチが OFF になるため、補機バッテリーを接続したあと、再度ウインドウロックスイッチを ON にする必要があります。

ソフトトップルーフ（コンバーチブル）

スイッチ操作でソフトトップを開閉することができます。

システムの構成部品

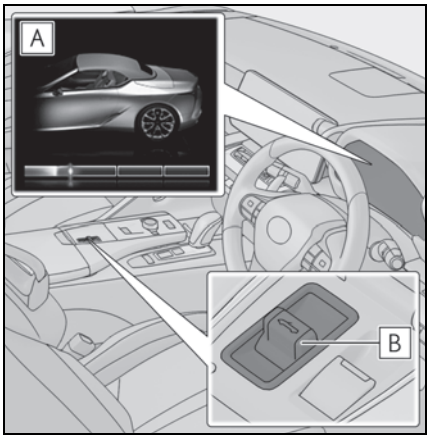
▶ 車外



A ソフトトップ

B トノカバー

▶ 室内

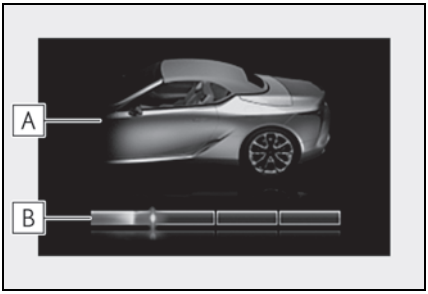


A マルチインフォメーションディスプレイ表示（→P.104）

ソフトトップの開閉状態を表示します。

B ルーフスイッチ

マルチインフォメーションディスプレイ表示



A ソフトトップの作動表示

ルーフスイッチの操作と連動して、ソフトトップの作動部を示します。

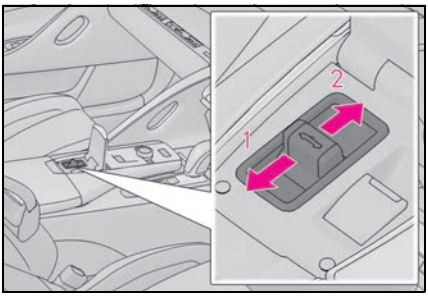
B バー表示

ソフトトップの作動表示と連動してバーが表示されます。ソフトトップの作動が完了すると、バーが灰色になります。

ソフトトップを開閉するには

1 パームレストを開ける。(→P.154)

2 スイッチを操作する



1 開ける

2 閉める

ソフトトップの開閉と連動して、ドアガラスとリヤクォーターガラスが作動します。

マルチインフォメーションディスプレイにソフトトップの開閉状態を表示します。

作動が完了するとバーが灰色になり、ブザーが鳴ります。

作動が完了したあとも、ルーフスイッチを操作し続けると、ドアガラスとリヤクォーターガラスが全閉します。

知識

■作動条件

●車速が約 50 km/h 未満のとき（約 50km/h 未満であればソフトトップを開閉できますが、車両を停止した状態で開閉することをおすすめします。）

●エンジンがかかっている（エンジンスイッチが ON の状態でも作動しますが、バッテリーあがりを防ぐために、エンジンがかかっている状態をおすすめします。）

●トランクが閉まっている

■作動の途中停止ついて

次のときは、作動が途中で停止します。

●作動中にルーフスイッチから手を離したとき

●車速が約 50 km/h 以上のとき

●システムに異常があるとき

●短時間でくり返し操作を行ったとき

●バッテリーがあがったとき

■正しく作動しない状況

次の場合はソフトトップが正しく作動しない場合があります。

●パワーウインドウの挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が作動したとき

●ルーフスイッチの操作中にエンジンを始動したとき（作動中のソフトトップが途中で停止する、または作動前の位

置にもどります。）

●ソフトトップ開閉作動の途中で、スイッチ操作を長時間行わなかったとき（“ルーフ作動が完了していませんまもなく徐々に動きます” が約 10 秒間表示されたあと、停止中のソフトトップがゆっくり動きます）

●急な坂道や大きな段差があるところでルーフスイッチを操作したとき

●凹凸のある路面を走行しているとき

●強風時

■**作動条件を満たしていないときのスイッチ操作について**

ソフトトップが全閉状態で車両が停車している場合は、作動条件を満たしていないときでもルーフスイッチを操作し続けるとドアガラスとリヤクォーターガラスのみ作動します。

■**ソフトトップが作動しているときは**

●トランクオープナースイッチが作動しません。ソフトトップの作動が完全に終了してからスイッチを操作してください。（→P.132）

●パワーウインドウスイッチや全ウインドウ一括開閉スイッチでドアガラスとリヤクォーターガラスは作動しません。ただし、ソフトトップの作動が途中で止まっているときは作動しますが、ドアガラスとリヤクォーターガラスは全閉できません。

■**洗車や雨などでソフトトップに水がかかったときは**

ソフトトップを開ける前に水をふき取ってください。しわを防止するため、完全に乾いてから開けることおすすめします。

■**ソフトトップ半開警告ブザーについて**

ソフトトップの開閉作動が完了していないと、警告ブザーがなります。なるべく早く、ソフトトップの開閉作動を完了させてください。

■**バッテリー端子を脱着したときは**

エンジンを始動してマルチインフォメーションディスプレイに “ルーフ作動が完了していません” が表示されている場合は、次の操作を行ってください。

▶ソフトトップのリヤウインドウガラス側が全閉付近で止まっている

1 ルーフスイッチで開操作を行い、トノカバーが開いた状態でスイッチから手を離す

2 ルーフスイッチでソフトトップの閉操作を完了させる

▶ソフトトップが全開付近で止まっている

ルーフスイッチでソフトトップの閉操作を完了させる

上記の方法でもトノカバーが作動しない場合は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されていないかや、作動条件が満たされているかを確認してください。それでも作動しない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■**ルーフスイッチ操作時に正しく作動しないときの対処方法**

ルーフスイッチ操作時に次のような状況になったときは、考えられる原因と対処方法を参考にし、もう一度操作をしてください。

●作動が途中で止まる

考えられる原因	警告メッセージ	対処方法
ソフトトップ作動中にエンジンスイッチを OFF 又は ACC に切りかえた	無し	エンジンを始動するかエンジンスイッチを ON にしてから、ルーフスイッチを操作してください。
ソフトトップ作動中に約 50km/h 以上まで加速した	“ 速度を落としルーフ作動を完了させてください ”	約 50km/h 未満まで減速し、ルーフスイッチを操作してください。
ソフトトップ作動中にメカニカルキーを使用してトランクを開けた	無し	トランクを確実に閉めてルーフスイッチを操作してください。
衝突を検知した	無し	レクサス販売店に連絡してください。
パワーウインドウの巻き込み防止機能が作動した	無し	→P.155
ソフトトップを手動で操作した	“ 速度を落としルーフ作動を完了させてください ” “ ルーフ作動が完了していません ”	手動で操作する前の位置にもどし、ルーフスイッチを操作してください。ルーフスイッチを操作しても作動しないときは、開操作と閉操作を数回くり返してください。
外気温が低い	無し	ルーフスイッチを再度操作してください。
バッテリーの電圧が低下した	無し	エンジンを始動して、ルーフスイッチを操作してください。
ソフトトップの作動範囲に物などが置いてあり、作動の障害となっている	無し	フロントガラスフレームの上部・トノカバーの上・ソフトトップの格納スペースに置いてある物を取り除いてください。

考えられる原因	警告メッセージ	対処方法
ソフトトップが閉まり切っていないまま、向かい風が強い中走行した	無し	車両を停止させる、または速度を落として途中まで開操作を行い、その後、閉操作を行ってください。
ソフトトップが故障した	“ルーフシステム故障 取扱書を確認してください”	ルーフスイッチを数回操作してもソフトトップが作動しないときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

●作動が開始しない

考えられる原因	警告メッセージ	対処方法
エンジンスイッチが OFF 又は ACC になっている	無し	エンジンを始動するかエンジンスイッチを ON にしてから、ルーフスイッチを操作してください。
車速が約 50km/h 以上で走行している	“約 50km/h 以上のためルーフ作動できません”	約 50km/h 未満まで減速し、ルーフスイッチを操作してください。
トランクが開いている	“トランクが開いているためルーフ作動できません”	トランクを確実に閉めてルーフスイッチを操作してください。
バッテリーの電圧が低下している	“バッテリー充電不足のためルーフ作動できません”	エンジンを始動してルーフスイッチを操作してください。
ソフトトップを短期間に繰り返し操作した	“システム保護のためルーフオープン作動できません” “システム保護のためルーフ作動できませんしばらくお待ちください”	しばらくお待ちください。その後、ルーフスイッチを操作してください。場合によっては、“ルーフ作動可能です” が表示されルーフスイッチで操作が可能なことをお知らせします。しばらく待っても、ルーフスイッチで操作ができないときは、手動で操作を行う（→P.424）か、レクサス販売店で点検を受けてください。

考えられる原因	警告メッセージ	対処方法
トノカバーロックが作動中にルーフスイッチを操作した	無し	再度、ルーフスイッチを操作してください。
パワーウインドウの挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が作動している	無し	→P.155
ソフトトップを手動で操作した	“速度を落としルーフ作動を完了させてください” “ルーフ作動が完了していません”	手動で操作する前の位置にもどし、ルーフスイッチを操作してください。開操作ができない場合は閉操作し、閉操作ができない場合は開操作をしてください。

●ソフトトップがゆっくり動いた

考えられる原因	警告メッセージ	対処方法
開閉途中で長時間ルーフスイッチから手を離した	“ルーフが徐々に動きます 閉め忘れに注意してください” “ルーフ作動が完了していません 閉め忘れに注意してください”	●エンジンがかかっている または、エンジンスイッチが ON のとき “ルーフ作動が完了していませんまもなく徐々に動きます” が約 10 秒間表示されたあと、作動が制限されソフトトップがゆっくりと動きます。 ▶ルーフスイッチで操作が可能な場合 ソフトトップがゆっくりと動いているときにルーフスイッチを操作すると、操作に応じた作動を行います。 ただし、直前にソフトトップを短期間に繰り返し操作した場合は、閉操作しかできないことがあります。 (→P.161) ▶ルーフスイッチで操作が不可能な場合 ソフトトップの作動が停止した状態で、しばらくお待ちください。その後、ルーフスイッチを操作しても、ソフトトップが作動しないときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

考えられる原因	警告メッセージ	対処方法
開閉途中で長時間ルーフスイッチから手を離した	“ルーフが徐々に動きます 閉め忘れに注意してください” “ルーフ作動が完了していません 閉め忘れに注意してください”	●エンジンスイッチが ACC または OFF のとき “ルーフ作動が完了していませんまもなく徐々に動きます” が約 10 秒間表示されたあと、作動が制限されソフトトップがゆっくりと動きます。 ▶ エンジンを始動したまたはエンジンスイッチを ON にした場合 ソフトトップの作動が停止します。その後、ルーフスイッチを操作すると、操作に応じた作動を行います。 ただし、直前にソフトトップを短期間に繰り返し操作した場合は、閉操作しかできないことがあります。 (→P.161) ▶ エンジンスイッチを操作しなかった場合 ソフトトップの作動が停止するまで、しばらくお待ちください。その後、ルーフスイッチを操作すると、操作に応じた作動を行います。 ただし、直前にソフトトップを短期間に繰り返し操作した場合は、閉操作しかできないことがあります。 (→P.161)

警告

■ソフトトップを開閉するときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ソフトトップを開閉するときは、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだり巻きこんだりしないようにしてください。体の一部や物が挟まれそうになる、または万一、体などが挟まれた場合は、ただちに操作を中止してください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせるよう声かけをしてください。
- リヤシートに乗員がいるときは、ソフトトップと当たらないように注意してください。
- 開閉中は、動作や周囲の安全に十分注意してください。
- 可動範囲内に手などを挟まないようにしてください。
- 後退時はソフトトップを操作しないでください。後方視界が制限され、重大な事故に繋がるおそれがあります。
- 停止中のソフトトップがゆっくり動き出したときは、ソフトトップに挟まれたり巻きこまれたりしないように注意してください。
- 車から離れるときはエンジンスイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■走行中は

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- ソフトトップを必要以上に操作しないでください。
- ソフトトップが半開状態のまま走行しないでください。
- シートに立ったり、パッケージトレイ（→P.54）に座ったり、身を乗り出さないでください。

■お子様を乗せるときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子様にはソフトトップの操作をさせないでください。
- ソフトトップの格納スペースにお子様を乗せないでください。
- お子様を可動範囲に近づかせないようにしてください。

注意

■ソフトトップの損傷を防ぐために

- ルーフスイッチを操作するときは、ルーフ上方の約 65 cm 以内に障害物がないことを確認してください。
  また、トンネル・地下道・高架下などの高さに制限がある場所を走行するときは、注意してください。
- ソフトトップの格納スペースに物などを入れないでください。
- ソフトトップやトノカバー上に座ったり、荷物を積んだりしないでください。

注意

- ソフトトップやトノカバー上に積雪したり、荷物を積んであるときは、取り除いてから、ルーフスイッチを操作してください。
- トランクリッドの上に物をのせたまま、ソフトトップの開閉操作を行わないでください。
- フロントガラスフレームの上部に物をのせたまま、ソフトトップを閉めないでください。
- 外気温が -5 ℃以下のとき、またはドアガラスとリヤクォーターガラスが凍結しているときは、開閉しないでください。
- 開閉中の状態で、長時間放置しないでください。
- ソフトトップを長期間、開いたままの状態にしないでください。ソフトトップのしわや劣化の原因になります。
- メカニカルキーを使用してトランクを開けるときは、ソフトトップの操作を完了させてください。
- ソフトトップにルーフキャリアを取り付けないでください。
- 緊急時以外は、手動でソフトトップを開閉しないでください。(→P.424)

4-1. 運転にあたって

運転にあたって..... 170

荷物を積むときの注意..... 177

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション）スイッチ（LC500）..... 178

パワー（イグニッション）スイッチ（LC500h）..... 181

EV ドライブモード（LC500h）185

オートマチックトランスミッション（LC500）..... 187

ハイブリッドトランスミッション（LC500h）..... 194

方向指示レバー..... 201

パーキングブレーキ..... 201

ブレーキホールド..... 204

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ..... 206

AHB（オートマチックハイビーム）..... 209

フォグランプスイッチ..... 212

ワイパー＆ウォッシャー 213

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方..... 217

4-5. 運転支援装置について

Lexus Safety System + ... 220

PCS（プリクラッシュセーフティ）..... 225

LTA（レーントレーシングアシスト）..... 235

RSA（ロードサインアシスト）. 244

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）..... 247

先行車発進告知機能..... 258

ドライバー異常時対応システム 260

ITS Connect.....265

ドライブモードセレクトスイッチ.....271

クリアランスソナー.....273

BSM（ブラインドスポットモニター）.....279

アクティブリヤウィング.....289

固定リヤウィング 292

サーキットモード（LC500）...293

運転を補助する装置.....296

4-6. 運転のアドバイス

ハイブリッド車運転のアドバイス（LC500h）.....303

寒冷時の運転 305

運転にあたって

安全運転を心がけて、手順に従って走行してください。

安全に走行するには

■ エンジン<ハイブリッドシステム>を始動する

→P.178, 181

■ 発進する

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトポジションを D にする

シフトポジション表示灯が D であることをメーターで確認します。

2 パーキングブレーキがかかっているときは、パーキングブレーキを解除する（→P.201）

3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

1 ブレーキペダルを踏む

2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

LC500h：長時間停車する場合は、シフトポジションを P にします。（→P.195）

■ 駐車する

1 ブレーキペダルを踏み、車を完全に停止させる

2 パーキングブレーキが解除されているときは、パーキングブレーキをかける（→P.201）

3 シフトポジションを P にする（→P.188, 195）

シフトポジション表示灯が P であることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

4 エンジンスイッチ<パワースイッチ>を押してエンジン<ハイブリッドシステム>を停止する

5 ブレーキペダルからゆっくり足を離す

6 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車する場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※ 輪止めはレクサス販売店で購入することができます。

■ 上り坂で発進する

1 ブレーキペダルをしっかり踏み、シフトポジションを D にする

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。

2 パーキングブレーキをかける（→P.201）

3 ブレーキペダルから足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み車を発進する

4 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除する（→P.201）

知識

■燃費を良くする走り方（LC500h）

ハイブリッド車も急加速を控えるなど、通常のガソリン車と同様の心がけが必要です。（→P.303）

■駐車するときは（コンバーチブル）

盗難防止や天候による室内への影響を防ぐため、ソフトトップルーフを閉めて駐車してください。

■雨の日の運転について

●雨の日は視界が悪くなり、またガラス

が曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

●雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■走行中のエンジン回転数について

次の場合、走行中にエンジン回転数が高くなることがあります。これは走行状況に合わせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うためで、急加速を示すものではありません。

●車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき

●アクセルペダルを離したとき

●ブレーキペダルを大きくまたはすばやく踏み込んだとき

■エンジン出力<ハイブリッドシステム出力>の抑制制御（ブレーキオーバーライドシステム）

●アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、エンジン出力<ハイブリッドシステム出力>を抑制する場合があります。

●ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→P.386）

■急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

●次のような通常と異なる操作が行われた場合、エンジン出力<ハイブリッドシステム出力>を抑制する場合があります。

・アクセルペダルを踏み込んだまま、シフトポジションを切りかえた（R から D、D から R、N から R、P から D※、P から R※）とき（D は M ポジションを含む）
この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

・後退時にアクセルペダルを踏みすぎたとき

※状況によっては操作できない場合があります。

●ドライブスタートコントロールが作動していると、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合があります。そのようなときは、TRC の作動を停止（→P.297）することにより、ドライブスタートコントロールが停止し、脱出しやすくなります。

■運転標識の取り付けについて

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などをバンパー・アルミ部分・カーボン部品★に取り付けることはできません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■オーバーヒートについて

次のようなきびしい走行状況ではオーバーヒートになるおそれがあります。

●暑い日に長い上り坂を走行する

●高速走行直後に急減速や急停止をする

■高摩擦ブレーキパッドについて（LSD 装着車）

車速、制動力や車両を取り巻く環境（気温、湿度など）によってはブレーキノイズが発生することがあります。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき

LC500：エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

LC500h：READY インジケーターが点灯している状態で停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。

・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。

・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。

・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●LC500h：ハイブリッド車は電気モーターでの走行時にエンジン音がしないため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が装備されていても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。
排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

●通常走行時は、走行中にエンジン<ハイブリッドシステム>を停止しないでください。走行中にエンジン<ハイブリッドシステム>を停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P.374 を参照してください。

●急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。（→P.187, 194）

●走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。

●すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

警告

■すべりやすい路面を運転するとき

●急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。

●急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■シフトポジションを変更するとき

●LC500：前進側のシフトポジションのまま惰性で後退したり、R のまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったりハンドル操作が重たくなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
LC500h：前進側のシフトポジションのまま惰性で後退したり、R のまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

●車両が動いているあいだは、P ポジションスイッチを押さないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が前進しているあいだは、シフトポジションを R にしないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が後退しているあいだは、シフトポジションを前進側のシフトポジションにしないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●LC500：走行中にシフトポジションを N にすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
LC500h：走行中にシフトポジションを N にすると、ハイブリッドシステムの動力伝達が解除され、回生ブレーキが効かなくなります。

●アクセルペダルを踏み込んだままシフト操作をしないでください。
シフトポジションが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
シフトポジションの変更後は、メーター内のシフトポジション表示灯で現在のシフトポジションを必ず確認してください。

■ブレーキパッドの摩耗について

次のいずれかのときは、できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。

●ブレーキパッドの厚さを4輪とも目視で点検し、どれか 1 つでも使用限度をこえている場合（使用限度については P.444 を参照してください）

警告

●ブレーキパッド摩耗の警告メッセージが表示された場合（右輪のみ検知）

必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限度をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■停車するとき

●LC500：空ぶかしをしないでください。
シフトポジションがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
LC500h：不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。
シフトポジションがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●LC500：車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
LC500h：車が動き出すことによる事故を防ぐため、READYインジケーターが点灯しているときは常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

■駐車するとき

●炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

警告

- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。
  直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- LC500：車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にし、エンジンを停止し、施錠してください。
  エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。
  パーキングブレーキをかけずにシフトポジションを P にした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
  LC500h：車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にし、ハイブリッドシステムを停止し、施錠してください。
  READY インジケーターが点灯しているあいだは、車から離れないでください。
  パーキングブレーキをかけずにシフトポジションを P にした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- LC500：エンジン回転中またはエンジン停止直後は排気管にふれないでください。
  やけどをするおそれがあります。
  LC500h：READY インジケーターが点灯しているとき、またはハイブリッドシステム停止直後は排気管にふれないでください。
  やけどをするおそれがあります。

■仮眠するとき

LC500：必ずエンジンを停止してください。
エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

LC500h：必ずハイブリッドシステムを停止してください。
READY インジケーターが点灯した状態のまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やハイブリッドシステムの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
  ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。
  また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。
- 電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
  この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。
  また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

警告

●ブレーキシステムは2つ以上の独立したシステムで構成されており、1つの油圧システムが故障しても、残りは作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

注意

■運転しているとき

●運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、エンジン出力<ハイブリッドシステム出力>を抑制する場合があります。

●坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■部品の損傷を防ぐために

●パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

●ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

●ハンドルがとられる

●異常な音や振動がある

●車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法はP.398を参照してください。

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

●エンストする

●電装品がショートする

●水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずレクサス販売店で次の点検をしてください。

●ブレーキの効き具合

●エンジン・トランスミッション・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化

●プロペラシャフト・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

冠水によりシフト制御システムが損傷すると、シフトポジションがPに切りかえられない、またはPから他のシフトポジションに切りかえられなくなる可能性があります。その場合はレクサス販売店へご連絡ください。

■駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにしてください。パーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏みこんだときに急発進するおそれがあります。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

警告

■積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

●燃料が入った容器

●スプレー缶

■荷物を積むとき

お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●できるだけ荷物はトランクに積んでください。

●次の場所には荷物を積まないでください。

・運転席足元

・助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）

・パッケージトレイ

・インストルメントパネル

・ダッシュボード

・センターディスプレイの前

●室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

■荷物の重量・荷重のかけ方について

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

エンジン（イグニッション）スイッチ（LC500）

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、エンジンの始動またはエンジンスイッチのモードを切りかえることができます。

エンジンをかけるには

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを押す（→P.201）

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

2 ブレーキペダルをしっかり踏む

コンバーチブル以外：マルチインフォメーションディスプレイに とメッセージが表示されます。
表示されないと、エンジンは始動しません。

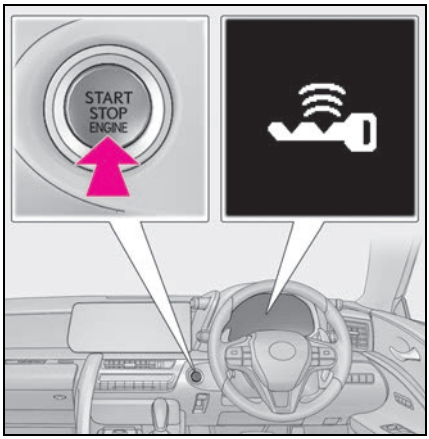
3 エンジンスイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

エンジンが始動するまで最大 30 秒間スターターが回転します。

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

エンジンスイッチのどのモードからでもエンジンを始動できます。



知識

■エンジンスイッチ照明

状況に応じて、次のようにエンジンスイッチ照明が切りかわります。

- いずれかのドアが開いているとき、もしくはエンジンスイッチを ACC または ON から OFF にしたときは、エンジンスイッチ照明が遅く点滅します。
- 電子キーを携帯したままブレーキペダルを踏むと、エンジンスイッチ照明が速く点滅します。
- エンジンスイッチが ACC、または ON のときは、エンジンスイッチ照明が点灯します。

■エンジンが始動しないときは

- エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。（→P.87）
  レクサス販売店へご連絡ください。
- 始動操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されている場合は、画面の指示に従ってください。
- メカニカルキーを使ってドアを解錠した場合は、スマートエントリー＆ス

タートシステムでエンジンを始動することができません。エンジンを始動するには、P.415 を参照してください。または、乗車中に電子キーを携帯し、施錠した場合（→P.129）はエンジンを始動できます。

■補機バッテリーがあがったときは

スマートエントリー＆スタートシステムでエンジンを始動することができません。エンジンを始動するには、P.417 を参照してください。

■電池の消耗について

→P.364

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P.137

■ご留意いただきたいこと

→P.138

■スマートエントリー＆スタートシステムに異常があるとき

マルチインフォメーションディスプレイに“スマートエントリー＆スタートシステム故障　取扱書を確認”が表示されたときは、システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■電子キーの電池交換

→P.364

■エンジンスイッチの操作について

- スイッチを短く確実に押せていない場合は、モードの切りかえやエンジンの始動ができない場合があります。
- エンジンスイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、エンジンが始動しない場合があります。エンジンスイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■カスタマイズ機能

カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたときは、P.413 を参照してください。

警告

■エンジンを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。
思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■エンジンを始動するとき

- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■エンジンスイッチの操作について

エンジンスイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにレクサス販売店にご連絡ください。

エンジンを停止するには

1 車両を完全に停止させる
2 パーキングブレーキがマニュアルモードのときは、パーキングブレーキをかける（→P.201）
3 P ポジションスイッチを押す（→P.188）

シフトポジション表示灯が P であることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

4 エンジンスイッチを押す

エンジンが停止し、メーター表示が消えます。（シフトポジション表示灯は、メーター表示が消えたあとも数秒間表示されています）

5 メーターの“アクセサリー”や“イグニッションON”の表示が消灯していることを確認する

知識

■自動Pポジション切りかえ機能について

→P.190

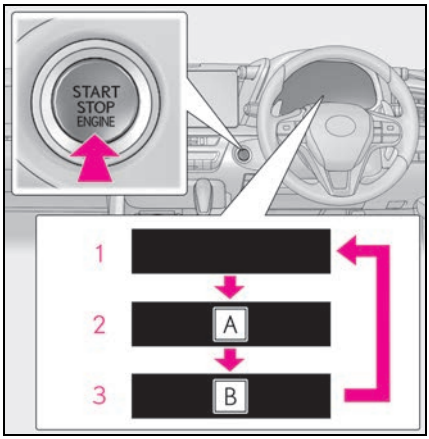
警告

■緊急時のエンジン停止方法

- 走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、エンジンスイッチを2秒以上押し続けるか、素早く3回以上連続で押してください。（→P.374）ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
- 走行中にエンジンスイッチを操作すると、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、警告ブザーが鳴ります。
- 走行中にエンジンを緊急停止したあと、走行中にエンジンを再始動させる場合は、エンジンスイッチを押してください。

エンジンスイッチを切りかえるには

ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります）



A アクセサリー

B イグニッションON

1 OFF

非常点滅灯が使用できます。

2 ACC

オーディオなどの電装品が使用できます。
メーターに“アクセサリー”が表示されます。

3 ON

すべての電装品が使用できます。
メーターに“イグニッションON”が表示されます。

知識

■自動電源OFF機能

シフトポジションがPにあるとき、20分以上ACCか1時間以上ON（エンジンがかかっていない状態）にしたままにしておくと、エンジンスイッチが自動でOFFになります。
ただし、自動電源OFF機能は、補機バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチをACC、または

ON にしたまま長時間放置しないでください。

■シフト制御システムについて

シフト制御システムが故障すると、エンジンスイッチを操作して OFF にしようとしても OFF にならないことがあります。その場合は、パーキングブレーキをかけてからエンジンスイッチを操作すると OFF にすることができる場合があります。

システムが故障した場合は、すみやかにお近くのレクサス販売店で点検を受けてください。

⚠注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

●エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチを ACC または ON にしたまま長時間放置しないでください。

●エンジンがかかっていないときに、メーターの “アクセサリー” または “イグニッション ON” の表示が消灯していない場合、エンジンスイッチが OFF になっていません。エンジンスイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

パワー（イグニッション）スイッチ（LC500h）

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、ハイブリッドシステムの始動またはパワースイッチのモードを切りかえることができます。

ハイブリッドシステムを始動するには

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを押す（→P.201）

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

2 ブレーキペダルをしっかり踏む

マルチインフォメーションディスプレイに とメッセージが表示されます。

表示されないと、ハイブリッドシステムは始動しません。

シフトポジションが N と表示されているときは、ハイブリッドシステムを始動できません。ハイブリッドシステムの始動時は、シフトポジションを P にしてください。（→P.195）

3 パワースイッチを短く確実に押す

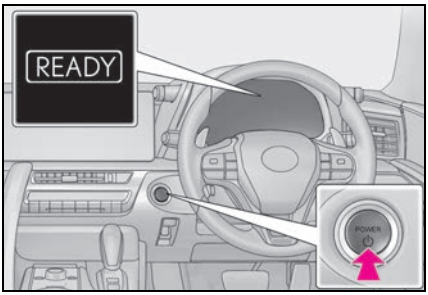
短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

READY インジケーターが点灯すれば、ハイブリッドシステムは正常に始動しています。

READY インジケーターが点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

パワースイッチのどのモードからでもハ

イブリッドシステムを始動できます。



4 READY インジケーターが点灯したことを確認する

READY インジケーターが点滅から点灯にかわり、ブザーが鳴れば、ハイブリッドシステムは正常に始動しています。

READY インジケーターが消灯している状態では走行できません。

READY インジケーターが点灯していれば、ガソリンエンジンが停止していても走行できます。（車両の状態に応じて、ガソリンエンジンは自動で始動・停止します）

知識

■パワースイッチ照明

状況に応じて、次のようにパワースイッチ照明が切りかわります。

●いずれかのドアが開いているとき、もしくはパワースイッチを ACC または ON から OFF にしたときは、パワースイッチ照明が遅く点滅します。

●電子キーを携帯したままブレーキペダルを踏むと、パワースイッチ照明が速く点滅します。

●パワースイッチが ACC、または ON のときは、パワースイッチ照明が点灯します。

■ハイブリッドシステムが始動しないときは

●イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。（→P.87）レクサス販売店へご連絡ください。

●始動操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されている場合は、画面の指示に従ってください。

●メカニカルキーを使ってドアを解錠した場合は、スマートエントリー＆スタートシステムでハイブリッドシステムを始動することができません。ハイブリッドシステムを始動するには、P.415 を参照してください。または、乗車中に電子キーを携帯し、施錠した場合（→P.129）はハイブリッドシステムを始動できます。

■外気温が低いときは

●ハイブリッドシステム始動時に READY インジケーターの点滅時間が長くなることがあります。READY インジケーターが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。

●極寒の環境などで駆動用電池の温度が著しく低くなっている場合（およそ－30 ℃以下）、ハイブリッドシステムが始動できなくなることがあります。その場合は気温の上昇を待つなど、駆動用電池の温度が上がってから再度始動操作をしてください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

→P.80

■補機バッテリーがあがったときは

スマートエントリー＆スタートシステムでハイブリッドシステムを始動することができません。ハイブリッドシステムを始動するには、P.417 を参照してくださ

い。

■電池の消耗について

→P.364

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P.137

■ご留意いただきたいこと

→P.138

■スマートエントリー＆スタートシステムに異常があるとき

マルチインフォメーションディスプレイに“スマートエントリー＆スタートシステム故障　取扱書を確認”が表示されたときは、システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■万一、READY インジケーターが点灯しないときは

正しい手順で始動操作を行っても READY インジケーターが点灯しない場合は、ただちにレクサス販売店へご連絡ください。

■ハイブリッドシステムに異常があるときは

→P.85

■電子キーの電池交換

→P.364

■パワースイッチの操作について

●スイッチを短く確実に押せてない場合は、モードの切りかえやハイブリッドシステムの始動ができない場合があります。

●パワースイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、ハイブリッドシステムが始動しない場合があります。パワースイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■カスタマイズ機能

カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたときは、P.413 を参照してください。

警告

■ハイブリッドシステムを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。
思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ハイブリッドシステムを始動するとき

もしハイブリッドシステムが始動しにくい場合は、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■パワースイッチの操作について

パワースイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにレクサス販売店にご連絡ください。

ハイブリッドシステムを停止するには

1 車両を完全に停止させる

2 パーキングブレーキがマニュアルモードのときは、パーキングブレーキをかける（→P.201）

3 P ポジションスイッチを押す（→P.195）

シフトポジション表示灯が P であることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

4 パワースイッチを押す

ハイブリッドシステムが停止し、メーター表示が消えます。（シフトポジション表示灯は、メーター表示が消えたあとも数秒間表示されています）

5 メーターの“アクセサリー”や“イグニッションON”の表示が消灯していることを確認する

知識

■自動Pポジション切りかえ機能について

→P.196

警告

■緊急時のハイブリッドシステム停止方法

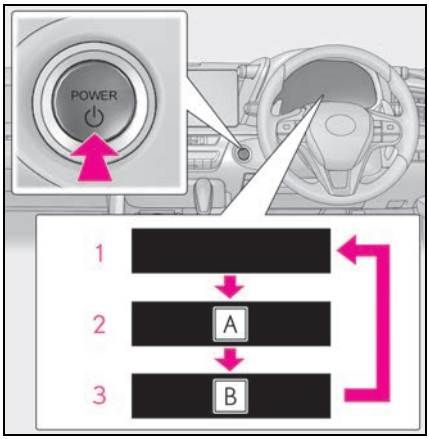
●走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したい場合には、パワースイッチを2秒以上押し続けるか、素早く3回以上連続で押してください。（→P.374）
ただし、緊急時以外は走行中にパワースイッチにふれないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

●走行中にパワースイッチを操作すると、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、警告ブザーが鳴ります。

●走行中にハイブリッドシステムの緊急停止したあと、走行中にハイブリッドシステムを再始動させる場合は、パワースイッチを押してください。

パワースイッチを切りかえるには

ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります）



A アクセサリー

B イグニッションON

1 OFF

非常点滅灯が使用できます。

2 ACC

オーディオなどの電装品が使用できます。
メーターに“アクセサリー”が表示されます。

3 ON

すべての電装品が使用できます。
メーターに“イグニッションON”が表示されます。

知識

■自動電源OFF機能

シフトポジションがPにあるとき、20分以上ACCか1時間以上ON（ハイブリッドシステムが作動していない状態）にしたままにしておくと、パワースイッチが

自動で OFF になります。
ただし、自動電源 OFF 機能は、補機バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。ハイブリッドシステムが作動していないときは、パワースイッチを ACC、または ON にしたまま長時間放置しないでください。

■シフト制御システムについて

シフト制御システムが故障すると、パワースイッチを操作して OFF にしようとしても OFF にならないことがあります。その場合は、パーキングブレーキをかけてからパワースイッチを操作すると OFF にすることができる場合があります。

システムが故障した場合は、すみやかにお近くのレクサス販売店で点検を受けてください。

注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

●ハイブリッドシステム停止中は、パワースイッチを ACC または ON にしたまま長時間放置しないでください。

●ハイブリッドシステム停止中に、メーターの “アクセサリー” や “イグニッション ON” の表示が消灯していない場合、パワースイッチが OFF になっていません。パワースイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

EV ドライブモード（LC500h）

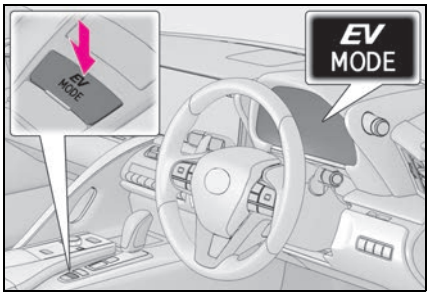
EV ドライブモードは、駆動用電池から電力を供給し、電気モーターのみを使って走行するモードです。早朝、深夜の住宅街や屋内の駐車場などで、騒音や排気ガスを気にすることなく走行することができます。

EV ドライブモードの切りかえ

EV ドライブモードスイッチを押す

EV ドライブモードになると、EV ドライブモード表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）にもどります。



知識

■EV ドライブモードの切りかえについて

次のときは EV ドライブモードに切りかわらない場合があります。EV ドライブモードに切りかわらないときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●ハイブリッドシステムが高温のとき
炎天下に駐車したあとや登降坂、高速走行後など

●ハイブリッドシステムが低温のとき
約 0 ℃を下まわるような低温下に長時間駐車したあとなど

●ガソリンエンジンが暖機運転中のとき

●駆動用電池の充電量が低いとき
エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→P.116）

●車速が高いとき

●アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など

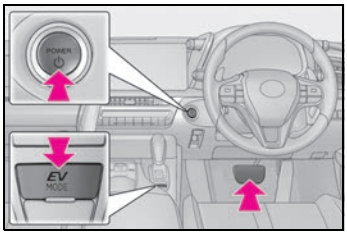
●フロントウインドウガラスの曇り取りを使用しているとき

●シフトポジションが M のとき

■ガソリンエンジンが冷えているときの EV ドライブモードの切りかえについて

ガソリンエンジンが冷えているときにハイブリッドシステムを始動した場合、暖機運転のためガソリンエンジンが自動的に始動し、EV ドライブモードに切りかえることができなくなります。

ブレーキペダルをしっかり踏み、EV ドライブモードスイッチを押しながらパワースイッチを押すことで、ガソリンエンジンを始動せずにハイブリッドシステムを始動でき、暖機運転を控えて騒音を抑えることができます。



■EV ドライブモードの自動解除について

EV ドライブモードで走行中、次のときは自動的に通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）になることがあります。EV ドライブモードが解除されるときは、ブザーが鳴り、EV ドライブモード表示灯が点滅したあと、消灯します。

●駆動用電池の充電量が低下したとき
エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→P.116）

●車速が高いとき

●アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など

自動解除されるときは、前もってマルチインフォメーションディスプレイに表示して知らせます。

■EV ドライブモードの走行可能距離

EV ドライブモードの走行可能距離は数百 m から約 1km 程度です。ただし、車両の状況によっては EV ドライブモードが使用できない場合があります。（走行距離は、駆動用電池の充電量や走行状態によって異なります）

■燃費について

ハイブリッドシステムは、通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）において、最も燃費がよくなるように制御されています。EV ドライブモードを多用すると、燃費が悪くなることがあります。

■マルチインフォメーションディスプレイに “EV モードに現在切りかえできません” と表示されたときは

EV ドライブモードを使用できません。
EV ドライブモードを使用できない理由（暖機中／電池充電不足／ EV 速度域超過／アクセル踏み過ぎ）が表示される場合があります。EV ドライブモードが使用できる状況になってから使用してください。

■マルチインフォメーションディスプレイに “EV モードが解除されました” と表示されたときは

EV ドライブモードが自動解除されています。EV ドライブモードを使用できない理由（電池充電不足／ EV 速度域超過／アクセル踏み過ぎ）が表示される場合があり

ます。しばらく走行してから使用してください。

警告

■走行中の警告

EV ドライブモードではエンジン音がしないため、周囲の人が車両の発進や接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が作動していても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かない場合がありますので、十分注意して運転してください。特に車両接近通報装置が作動していないときは、注意が必要です。

オートマチックトランスミッション（LC500）

目的や状況に応じてシフトポジションを選択してください。

シフトポジションの使用目的について

シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはエンジンの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行 ※1
M	M モード走行 ※2 （→P.193）

※1 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D を使用してください。パドルスイッチの操作で、走行に適したレンジを選択することができます。

※2 M モードは任意のギヤ段に固定して走行することができます。

知識

■オートマチックトランスミッションの保護制御

トランスミッションフルードの温度が高くなると、マルチインフォメーションディスプレイに “AT オイル高温 取扱書を確認してください” が表示され、自動的に保護モードに入ります。レクサス販売店で点検を受けてください。

■レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使って走行しているとき

エンジンブレーキを目的に次の操作を

行っても、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が解除されないためエンジンブレーキは効きません。

●D ポジションでのレンジ選択走行中に 9・8・7・6・5 または 4 にレンジダウンしたとき（→P.192）

●Dポジションで走行中に走行モードをスポーツモードにしたとき（→P.271）

■**急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）**

→P.171

■**AI-SHIFT**

AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に適切なギヤ段に切りかえます。
AI-SHIFT は、シフトポジションを D にしているとき自動的に作動します。（シフトポジションを M にすると機能が解除されます）

■**シフト操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されたとき**

誤操作やシステムの状況等によりシフトポジションが切りかわらない、またはシフト操作が無効にされたときには、切りかえができない原因や、正しい操作方法などに関するメッセージが、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。その場合は、メッセージに従って操作し直してください。

■**補機バッテリーを脱着したとき**

→P.421

警告

■**すべりやすい路面を走行するとき**

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

注意

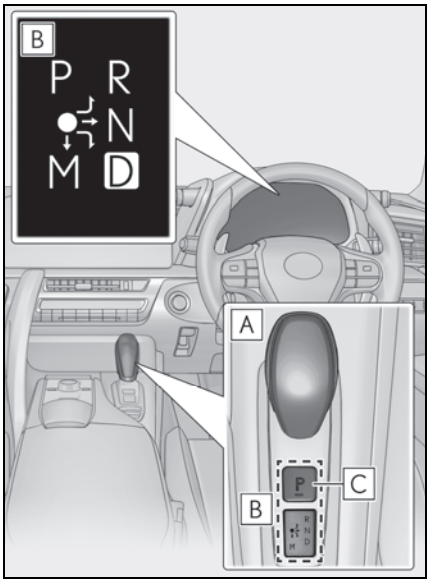
■**シフト制御システムの異常が考えられるとき**

次のような状態になったときは、シフト制御システムの異常が考えられます。安全で平坦な場所に停車し、パーキングブレーキをかけて、レクサス販売店にご連絡ください。

●マルチインフォメーションディスプレイにシフト制御システムに関する警告メッセージが表示されたとき（→P.391）

●シフトポジションが選択されていない表示状態が、数秒以上続いているとき

シフトポジションの切りかえ方法と表示について



A シフトレバー

シフトレバーは、シフトポジション表示灯の矢印に従って、ゆっくり確実に操作してください。

N に切りかえるときは、矢印に沿って操作したあと、しばらく保持します。

シフトレバーを操作したあとは、シフトレバーから手を離してください。シフトレバーが定位置（●）にもどります。

M への切りかえは、シフトポジションが D のときのみ可能です。

P から N・D・R、および N・D・M・R から P へ、または D・M から R、および R から D へ切りかえるときは、ブレーキペダルを踏み、車が完全に停止している状態で行ってください。

B シフトポジション表示灯

メーター表示：

現在のシフトポジションが強調表示されます。

D、M 以外のときは、シフトポジション表示灯の M 方向への矢印と M 表示がグレー表示されます。

シフトレバー表示：

現在のシフトポジションが点灯表示されます。

シフトレバーを操作したあとは、シフトポジション表示灯で、目的のシフトポジションに切りかわったことを必ず確認してください。

C P ポジションスイッチ

P ポジションに切りかえるには、車を完全に停止させ、パーキングブレーキをかけ、P ポジションスイッチを押してください。

シフトポジションを P にすると、スイッチが点灯します。
シフトポジション表示灯が P であることを必ず確認してください。

知識

■エンジンスイッチの各モードにおけるシフトポジション切りかえ

●エンジンスイッチが OFF または ACC のときはシフトポジションの切りかえはできません。

●エンジンスイッチが ON のときは、N のみに切りかえが可能です。

●エンジンがかかっているときは、P から、D・N・R を選択できます。

■P から他のシフトポジションに切りかえる

●ブレーキペダルをしっかり踏みながら、シフトレバーを操作します。（ブレーキペダルを踏まずにシフトレバーを操作すると、ブザーが鳴りシフトポジションの切りかえができません）

●操作後は、シフトポジション表示灯で、目的のシフトポジションに切りかわったことを必ず確認してください。

●P から直接、シフトポジションを M に切りかえることはできません。

■シフトポジションを切りかえられなかった場合

次の操作を行うとブザーが鳴り、シフトポジションが切りかえられなかったことをお知らせします。適切な操作で、再度シフトポジションを切りかえてください。

●ブレーキペダルを踏まずに、P からシフトレバーを操作したとき

●アクセルペダルを踏んだまま、P からシフトレバーを操作したとき

●ブレーキペダルを踏まずに、停車中または極低速走行中に N からシフトレバーを操作したとき

●アクセルペダルを踏んだまま、停車中または極低速走行中に N からシフトレバーを操作したとき

●P または N から、M を選択した

●走行中に、P ポジションスイッチを押した

極低速走行時は、P に切りかわることがあります。

■シフトポジションが自動的にNに切りかわった場合

次の操作を行うとブザーが鳴り、シフトポジションが N に切りかわったことをお知らせします。適切な操作で、再度シフトポジションを切りかえてください。

●車両が前進しているときにRを選択した

低速走行時は R に切りかわることがあります。

●車両が後退しているときにDを選択した

低速走行時は D に切りかわることがあります。

●R から M を選択した

■走行中に N を選択した場合

一定以上の速度で走行中に N を選択した場合、シフトレバーを N の位置で保持しなくても N に切りかわります。この場合はブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに確認メッセージが表示され、N にかわったことを運転者に知らせます。

■リバース警告ブザー

シフトポジションを R にするとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■自動Pポジション切りかえ機能について

次のときは、自動的にシフトポジションが P に切りかわります。

●エンジンスイッチが ON、かつシフトポジションが P 以外の状態で、車両を停止させエンジンスイッチを押したとき（シフトポジションが P に切りかわったあと、エンジンスイッチが OFF になります）※

●シフトポジションが P 以外の状態で、万が一、運転席ドアを開け、次の条件をすべて満たしているとき

・エンジンスイッチが ON
・運転席シートベルトを着用していない
・ブレーキペダルを踏んでいない

シフトポジションが P に切りかわったあと、車両を発進させるときは、シフトレバーを操作してください。

●走行中にエンジンを緊急停止したあと、停車したとき

●シフトポジションが P 以外の状態で、補機バッテリーの電圧が低下したとき

※停車直前など、極低速走行時にエンジンスイッチを押すと、自動的にシフトポジションが P に切りかわる場合があります。必ず車両が完全に停止している状態でエンジンスイッチを押してください。

■シフトポジションがPから切りかわらない場合は

補機バッテリーあがりの可能性があります。補機バッテリーがあがってしまった場合の対処法は、P.417 を参照してください。

警告

■シフトレバーについて

●シフトレバーのノブを取りはずしたり、純正品以外のノブを取り付けたりしないでください。また、ものをぶら下げたりしないでください。シフトレバーが定位置にもどらなくなって、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●意図せぬシフトポジションの切りかわりを防止するため、操作時以外はシフトレバーにふれないでください。

警告

■P ポジションスイッチについて

●車が動いているときは、P ポジションスイッチにふれないでください。
停車直前など、極低速走行中に P ポジションスイッチを押すと、シフトポジションが P に切りかわることがあるため、車が急停止して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●意図せぬシフトポジションの切りかわりを防止するため、操作時以外は P ポジションスイッチにふれないでください。

注意

■シフトポジションの切りかえ操作について

P から P 以外、および P 以外から P への切りかえ操作を短時間にくり返し行わないでください。そのような操作を行うと、システム保護のため、一定時間 P からの切りかえができなくなることがあります。その場合は、時間をおいてから操作し直してください。

■車を降りるとき（運転席のみ）

シフトポジション表示灯が P であることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認してから、ドアを開け、降車してください。

自動 P ポジション切り替え機能を作動させずに、シフトポジションを N に保持したいときは

● 次の操作を行うと、シフトポジションが P に切りかわるまでの間、自動 P ポジション切り替え機能を作動させずに、シフトポジションを N に保持することができます。

1 エンジンが始動しているときにシフトレバーを操作し、シフトポジションを N に切りかえる

2 シフトレバーを定位置（●）にもどす

3 シフトレバーを N の位置に操作しブザーが鳴るまで保持する

4 ブザーが鳴ったあと、5 秒以内にエンジンスイッチを押す

シフトポジションが N のままエンジンが停止します。※
ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに “N 保持中 解除するには P スイッチを押してください” が表示されたことを必ず確認してください。

● シフトポジションを N 以外にするには、P ポジションスイッチを押して、一旦シフトポジションを P に切りかえてください

● 必ずエンジンが始動している状態で操作してください。

エンジン停止状態では、シフトポジションを N に保持できない場合があります。

※ この状態を維持したい場合は、エンジンスイッチを操作しないでください。
エンジンスイッチを繰り返し操作すると、自動的にシフトポジションが P に切りかわったあと、エンジンスイッチが OFF になります。

注意

■自動Pポジション切り替え機能を作動させずに、シフトポジションを N に保持したいときは

必ずエンジンが始動状態であることを確認してください。

エンジン始動状態以外で操作を行うと、P ポジションに切り替わるおそれがあります。

走行モードの選択

■ ドライブモード

→P.271

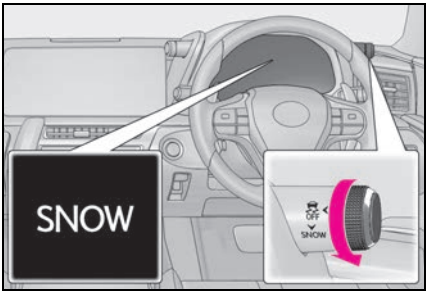
■ スノーモード

雪道など、すべりやすい路面での発進・走行に適した制御に切りかえることができます。

OFF SNOW スイッチを手前側へ回す

スノーモード表示灯が点灯します。

通常走行モードにもどすときは OFF SNOW スイッチをもう一度手前側へ回します。



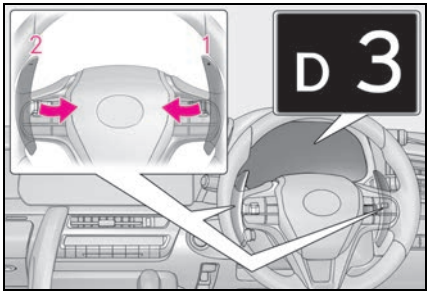
知識

■スノーモードの自動解除

スノーモードを選択して走行後、エンジンを停止すると、自動的に通常走行モードに切りかわります。

D ポジションでレンジ選択するには

パドルシフトスイッチの “－” または “＋” 側を操作すると、一時的にレンジを選択する走行へ切りかわります。
パドルシフトスイッチの “－” 側を操作したとき、走行状態に適したエンジンブレーキ力を得られるレンジに切りかえます。パドルシフトスイッチの “＋” 側を操作したときは、現在のレンジより 1 つ上のレンジに切りかえます。
レンジを選択することで、使用するギヤ段の上限を制限し、不要なシフトアップを抑えたり、エンジンブレーキ力を切りかえることができます。



1 シフトアップ

2 シフトダウン

D1 から D10 レンジのあいだで選択されているレンジがメーターに表示されます。

通常走行にもどすときは、パドルシフトスイッチの “＋” 側を一定時間以上保持します。

メーター表示	機能
D2 ～ D10	スピードや走行条件に応じて、D1 レンジから選択したシフトレンジまで自動的にかわります。
D1	シフトレンジが D1 レンジに固定されます。

レンジの数字が小さい方がエンジンブレーキ力は大きくなります。

知識

■Dポジションでのレンジ選択の自動解除

次のとき、自動的に D ポジションでのレンジ選択が解除されます。

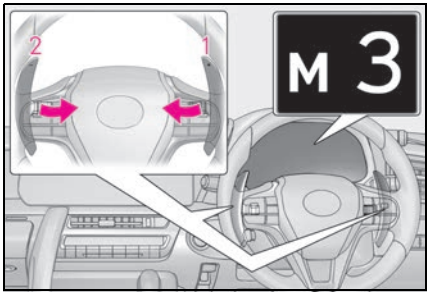
- 停車したとき
- アクセルペダルを一定時間以上踏み続けたとき
- シフトレバーで再びDポジションを選択したとき
- パドルシフトスイッチの“+”側を長押ししたとき

■シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、パドルシフトスイッチを操作してもシフトダウンできない場合があります。（このときブザーが 2 回鳴ります）

M モードでギヤ段選択するには

シフトポジションを M にすると、M モードに切りかわります。パドルシフトスイッチの操作で思い通りのギヤ段を選択し、運転することができます。



1 シフトアップ

2 シフトダウン

パドルシフトスイッチを操作するごとに 1 速ずつ変速します。
M1 から M10 の中で選択したギヤ段に固定され、ギヤ段がメーターに表示されます。

M ポジションでは、次の場合を除いてパドルシフトスイッチを操作しない限り、変速しません。

- 車速が低下した場合（シフトダウンのみ）
- エンジン冷却水が低温のときや、オートマチックトランスミッションフルードが高温または低温のときなど、エンジンやオートマチックトランスミッションの保護が必要な場合

また、車速が低い場合はシフトアップ操作をしても変速しません。

知識

■シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、パドルシフトスイッチを操作してもシフトダウンできない場合があります。（このときブザーが 2 回鳴ります）

ハイブリッドトランスミッション（LC500h）

目的や状況に応じてシフトポジションを選択してください。

シフトポジションの使用目的について

シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはハイブリッドシステムの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行 ※1
M	M モード走行 ※2（→P.200）

※1燃費向上や騒音の低減のために、通常は D を使用してください。パドルスイッチの操作で、走行に適したレンジを選択することができます。

※2M モードは任意のギヤ段に固定して走行することができます。

知識

■ハイブリッドトランスミッションの保護制御

トランスミッションフルード（AT オイル）の温度が高くなると、マルチインフォメーションディスプレイに “AT オイル高温 取扱書を確認してください” が表示され、自動的に保護モードに入ります。レクサス販売店で点検を受けてください。

■レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使って走行しているとき

●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）の作動中は、パドルシフトスイッチ操作が無効になります。

●エンジンブレーキを目的に走行モードをスポーツモードにしても、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が解除されないためエンジンブレーキは効きません。

■急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

→P.171

■AI-SHIFT

AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に適切なギヤ段に切りかえます。
AI-SHIFT は、シフトポジションを D にしているとき自動的に作動します。（シフトポジションを M にすると機能が解除されます）

■シフト操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されたとき

誤操作やシステムの状況等によりシフトポジションが切りかわらない、またはシフト操作が無効にされたときには、切りかえができない原因や、正しい操作方法などに関するメッセージが、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。その場合は、メッセージに従って操作し直してください。

■補機バッテリーを脱着したとき

→P.421

警告

■すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

注意

■駆動用電池の充電について

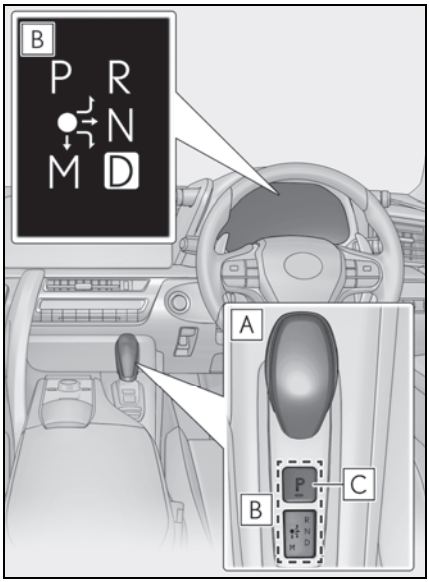
シフトポジションがNでは、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、Nで長時間放置すると駆動用電池の残量が低下し、走行不能になるおそれがあります。

■シフト制御システムの異常が考えられるとき

次のような状態になったときは、シフト制御システムの異常が考えられます。安全で平坦な場所に停車し、パーキングブレーキをかけて、レクサス販売店にご連絡ください。

- マルチインフォメーションディスプレイにシフト制御システムに関する警告メッセージが表示されたとき（→P.391）
- シフトポジションが選択されていない表示状態が、数秒以上続いているとき

シフトポジションの切りかえ方法と表示について



A シフトレバー

シフトレバーは、シフトポジション表示灯の矢印に従って、ゆっくり確実に操作してください。

Nに切りかえるときは、矢印に沿って操作したあと、しばらく保持します。

シフトレバーを操作したあとは、シフトレバーから手を離してください。シフトレバーが定位置（●）にもどります。

Mへの切りかえは、シフトポジションがDのときのみ可能です。

PからN・D・R、およびN・D・M・RからPへ、またはD・MからR、およびRからDへ切りかえるときは、ブレーキペダルを踏み、車が完全に停止している状態で行ってください。

B シフトポジション表示灯

メーター表示：

現在のシフトポジションが強調表示され

ます。

D、M 以外のときは、シフトポジション表示灯の M 方向への矢印と M 表示がグレー表示されます。

シフトレバー表示：

現在のシフトポジションが点灯表示されます。

シフトレバーを操作したあとは、シフトポジション表示灯で、目的のシフトポジションに切りかわったことを必ず確認してください。

C P ポジションスイッチ

P ポジションに切りかえるには、車を完全に停止させ、パーキングブレーキをかけ、P ポジションスイッチを押してください。

シフトポジションを P にすると、スイッチが点灯します。

シフトポジション表示灯が P であることを必ず確認してください。

知識

■**パワースイッチの各モードにおけるシフトポジション切りかえ**

●パワースイッチが OFF または ACC のときはシフトポジションの切りかえはできません。

●パワースイッチが ON で、READY インジケーターが消灯しているときは、N のみに切りかえが可能です。

●READY インジケーターが点灯中は、P から、D・N・R を選択できます。

●READY インジケーターが点滅しているときは、シフトレバーを操作しても、P から他のシフトポジションへ切りかえることはできません。READY インジケーターが点滅から点灯にかわってから、再度シフトレバーを操作してください。

■**P から他のシフトポジションに切りかえる**

●ブレーキペダルをしっかり踏みながら、シフトレバーを操作します。（ブレーキペダルを踏まずにシフトレバーを操作すると、ブザーが鳴りシフトポジションの切りかえができません）

●操作後は、シフトポジション表示灯で、目的のシフトポジションに切りかわったことを必ず確認してください。

●P から直接、シフトポジションを M に切りかえることはできません。

■**シフトポジションを切りかえられなかった場合**

次の操作を行うとブザーが鳴り、シフトポジションが切りかえられなかったことをお知らせします。適切な操作で、再度シフトポジションを切りかえてください。

●ブレーキペダルを踏まずに、P からシフトレバーを操作したとき

●アクセルペダルを踏んだまま、P からシフトレバーを操作したとき

●ブレーキペダルを踏まずに、停車中または極低速走行中に N からシフトレバーを操作したとき

●アクセルペダルを踏んだまま、停車中または極低速走行中に N からシフトレバーを操作したとき

●P または N から、M を選択した

●走行中に、P ポジションスイッチを押した

極低速走行時は、P に切りかわることがあります。

■**シフトポジションが自動的にNに切りかわった場合**

次の操作を行うとブザーが鳴り、シフトポジションが N に切りかわったことをお知らせします。適切な操作で、再度シフトポジションを切りかえてください。

●車両が前進しているときにRを選択した

低速走行時はRに切りかわることがあります。

●車両が後退しているときにDを選択した

低速走行時はDに切りかわることがあります。

●RからMを選択した

■走行中にNを選択した場合

一定以上の速度で走行中にNを選択した場合、シフトレバーをNの位置で保持しなくてもNに切りかわります。この場合はブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに確認メッセージが表示され、Nにかわったことを運転者に知らせます。

■リバース警告ブザー

シフトポジションをRにするとブザーが鳴り、Rにあることを運転者に知らせます。

■自動Pポジション切りかえ機能について

次のときは、自動的にシフトポジションがPに切りかわります。

●パワースイッチがON、かつシフトポジションがP以外の状態で、車両を停止させパワースイッチを押したとき（シフトポジションがPに切りかわったあと、パワースイッチがOFFになります）※

●シフトポジションがP以外の状態で、万が一、運転席ドアを開け、次の条件をすべて満たしているとき

・パワースイッチがON
・運転席シートベルトを着用していない
・ブレーキペダルを踏んでいない

シフトポジションがPに切りかわったあと、車両を発進させるときは、シフトレバーを操作してください。

●走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したあと、停車したとき

●シフトポジションがP以外の状態で、補機バッテリーの電圧が低下したとき

※停車直前など、極低速走行時にパワースイッチを押すと、自動的にシフトポジションがPに切りかわる場合があります。必ず車両が完全に停止している状態でパワースイッチを押してください。

■シフトポジションがPから切りかわらない場合は

補機バッテリーあがりの可能性があります。補機バッテリーがあがってしまった場合の対処法は、P.417を参照してください。

警告

■シフトレバーについて

●シフトレバーのノブを取りはずしたり、純正品以外のノブを取り付けたりしないでください。また、ものをぶら下げたりしないでください。シフトレバーが定位置にもどらなくなって、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●意図せぬシフトポジションの切りかわりを防止するため、操作時以外はシフトレバーにふれないでください。

■Pポジションスイッチについて

●車が動いているときは、Pポジションスイッチにふれないでください。
停車直前など、極低速走行中にPポジションスイッチを押すと、シフトポジションがPに切りかわることがあるため、車が急停止して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●意図せぬシフトポジションの切りかわりを防止するため、操作時以外はPポジションスイッチにふれないでください。

注意

■シフトポジションの切りかえ操作について

P から P 以外、および P 以外から P への切りかえ操作を短時間にくり返し行わないでください。そのような操作を行うと、システム保護のため、一定時間 P からの切りかえができなくなることがあります。その場合は、時間をおいてから操作し直してください。

■車を降りるとき（運転席のみ）

シフトポジション表示灯が P であることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認してから、ドアを開け、降車してください。

自動 P ポジション切り替え機能を作動させずに、シフトポジションを N に保持したいときは

● 次の操作を行うと、シフトポジションが P に切りかわるまでの間、自動 P ポジション切り替え機能を作動させずに、シフトポジションを N に保持することができます。

1 ハイブリッドシステムが始動しているときにシフトレバーを操作し、シフトポジションを N に切りかえる

2 シフトレバーを定位置（●）にもどす

3 シフトレバーを N の位置に操作しブザーが鳴るまで保持する

4 ブザーが鳴ったあと、5 秒以内にパワースイッチを押す

シフトポジションが N のままハイブリッドシステムが停止します※

ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに “N 保持中 解除するには P スイッチを押してください” が表示されたことを必ず確認してください。

● シフトポジションを N 以外にするには、P ポジションスイッチを押して、一旦シフトポジションを P に切りかえてください

● 必ずハイブリッドシステムが始動している状態で操作してください。

ハイブリッドシステム停止状態では、シフトポジションを N に保持できない場合があります。

※ この状態を維持したい場合は、パワースイッチを操作しないでください。パワースイッチを繰り返し操作すると、自動的にシフトポジションが P に切りかわったあと、パワースイッチが OFF になります。

注意

■自動Pポジション切り替え機能を作動させずに、シフトポジションを N に保持したいときは

必ずハイブリッドシステムが始動状態であることを確認してください。

ハイブリッドシステム始動状態以外で操作を行うと、P ポジションに切り替わるおそれがあります。

走行モードの選択

■ ドライブモード

→P.271

■ スノーモード

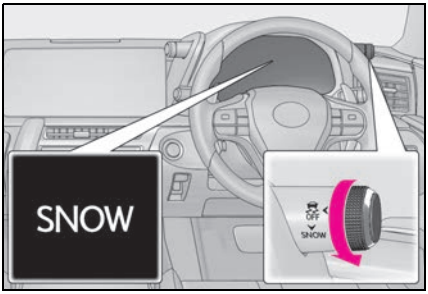
雪道など、すべりやすい路面での発進・走行に適した制御に切りかえる

ことができます。

OFF SNOW スイッチを手前側へ回す

スノーモード表示灯が点灯します。

通常走行モードにもどすときは OFF SNOW スイッチをもう一度手前側へ回します



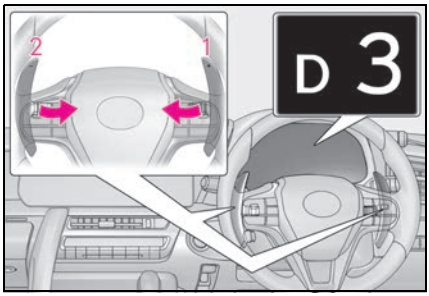
知識

■スノーモードの自動解除

スノーモードを選択して走行後、ハイブリッドシステムを停止すると、自動的に通常走行モードに切りかわります。

D ポジションでレンジ選択するには

パドルシフトスイッチの “－” または “＋” 側を操作すると、一時的にレンジを選択する走行へ切りかわります。
パドルシフトスイッチの “－” 側を操作したとき、走行状態に適したエンジンブレーキ力を得られるレンジに切りかえます。パドルシフトスイッチの “＋” 側を操作したときは、現在のレンジより 1 つ上のレンジに切りかえます。
レンジを選択することで、使用するギヤ段の上限を制限し、不要なシフトアップを抑えたり、エンジンブレーキ力を切りかえることができます。



1 シフトアップ
2 シフトダウン

D1 から D10 レンジのあいだで選択されているレンジがメーターに表示されます。
通常走行にもどすときは、パドルシフトスイッチの “＋” 側を一定時間以上保持します。

メーター表示	機能
D2 ～ D10	スピードや走行条件に応じて、D1 レンジから選択したシフトレンジまで自動的にかわります。
D1	シフトレンジが D1 レンジに固定されます。

レンジの数字が小さい方がエンジンブレーキ力は大きくなります。

知識

■Dポジションでのレンジ選択の自動解除

次のとき、自動的に D ポジションでのレンジ選択が解除されます。

- 停車したとき
- アクセルペダルを一定時間以上踏み続けたとき
- シフトレバーで再びDポジションを選択したとき

●パドルシフトスイッチの“+”側を長押ししたとき

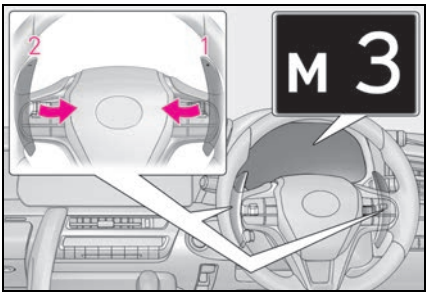
●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を ON にしたとき

■シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、パドルシフトスイッチを操作してもシフトダウンできない場合があります。（このときブザーが 2 回鳴ります）

M モードでギヤ段選択するには

シフトポジションを M にすると、M モードに切りかわります。パドルシフトスイッチの操作で思い通りのギヤ段を選択し、運転することができます。



1 シフトアップ

2 シフトダウン

パドルシフトスイッチを操作するごとに 1 速ずつ変速します。
M1 から M10 の中で選択したギヤ段に固定され、ギヤ段がメーターに表示されます。

M ポジションでは、次の場合を除いてパドルシフトスイッチを操作しない限り、変速しません。

● 車速が低下した場合（シフトダウンのみ）

● 車速が増加した場合（シフトアップのみ）

● アクセルペダルを大きく踏み込んだとき

● トランスミッションフルードが高温または低温のときなど、トランスミッションの保護が必要な場合

● エキゾーストフィルターに粒子状物質がたまった場合

また、車速が低い場合はシフトアップ操作をしても変速しません。

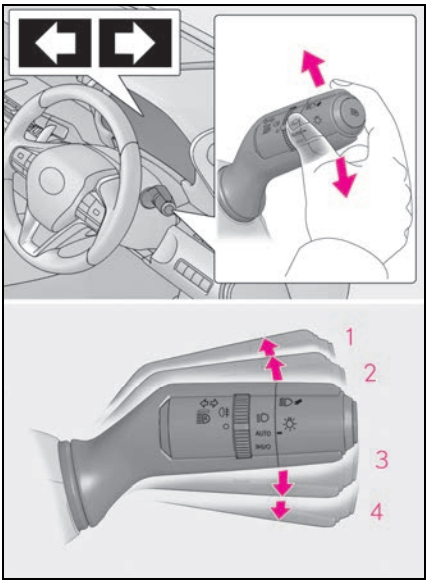
知識

■シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、パドルシフトスイッチを操作してもシフトダウンできない場合があります。（このときブザーが 2 回鳴ります）

方向指示レバー

操作のしかた



1 左折

2 左側へ車線変更
（レバーを途中まで動かして離す）

左側方向指示灯が 5 回点滅します。

3 右側へ車線変更
（レバーを途中まで動かして離す）

右側方向指示灯が 5 回点滅します。

4 右折

知識

■作動条件

エンジンスイッチ<パワースイッチ>が ON のとき

■表示灯の点滅が異常に速くなったとき

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

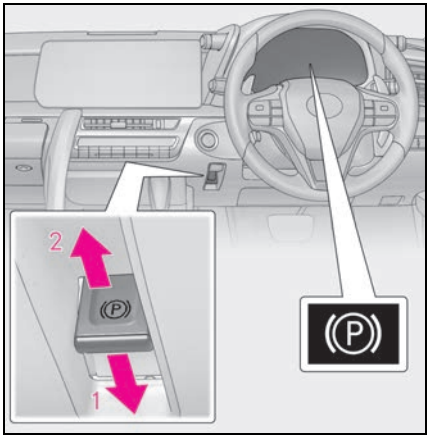
自動または手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

オートモードのときは、シフトレバーの操作に応じてパーキングブレーキが自動で作動します。また、オートモードのときでも手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

操作のしかた

■ マニュアルモード

手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。



1 スイッチを押し、パーキングブレーキをかける

作動後、パーキングブレーキ表示灯が点灯します。（→P.203）

緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるときは、スイッチを押し続けてください。

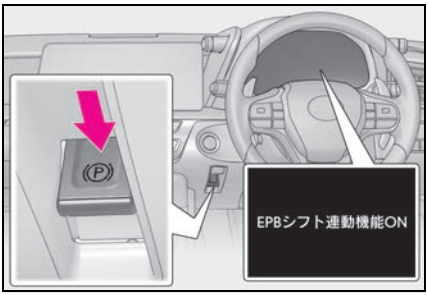
2 スイッチを引き、パーキングブレーキを解除する

・ブレーキペダルを踏みながら操作してください。
・パーキングブレーキ自動解除機能により、アクセルペダルを踏むことでパーキングブレーキを解除することができます。アクセルペダルを踏むときはゆっくり踏んでください。

解除後、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。

■ オートモードを ON にする

停車中に、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを押し続ける



オートモードを ON にすると、パーキングブレーキが次のように作動します。

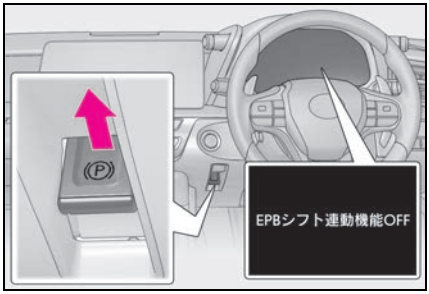
● シフトポジションを P から P 以外にすると、パーキングブレーキが解除され、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。

● シフトポジションを P 以外から P にすると、パーキングブレーキがかかり、パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

シフトレバーおよび P ポジションスイッチは、停車した状態でブレーキペダルを踏みながら操作してください。

■ オートモードを OFF にする

停車中に、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを引き続ける



知識

■パーキングブレーキの作動

●エンジンスイッチ<パワースイッチ>が ON 以外では、パーキングブレーキスイッチによる解除はできません。

●エンジンスイッチ<パワースイッチ>が ON 以外では、オートモードによる作動（かける・解除する）はできません。

■パーキングブレーキ自動解除について

オートモード：シフトポジションを P から P 以外 にすると、パーキングブレーキが自動的に解除されます。

マニュアルモード：

次の条件をすべて満たしたとき、アクセルペダルを踏むことによりパーキングブレーキを解除することができます。

●運転席ドアが閉まっているとき

●運転席シートベルトを着用しているとき

●シフトポジションが D､M または R のとき

■マルチインフォメーションディスプレイに “EPB が連続で操作されました しばらくお待ちください ” と表示されたときは

短時間に作動をくり返すと、システム過熱防止のために作動制限することがあり

ます。その場合は、操作を控えてください。1 分程度でもとの状態にもどります。

■マルチインフォメーションディスプレイに “EPB 動作が途中で停止しました” または “EPB 現在使用できません” と表示されたときは

パーキングブレーキスイッチを操作してください。何度か操作しても表示が消えない場合は、システムに異常があるおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

■パーキングブレーキの作動音

パーキングブレーキが作動するとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■パーキングブレーキ表示灯について

●パーキングブレーキをかけたとき、エンジンスイッチ<パワースイッチ>のモードによって、次のようにパーキングブレーキ表示灯が点灯します。
ON：パーキングブレーキを解除するまで点灯します。
ON 以外：約 15 秒間点灯します。

●パーキングブレーキをかけた状態でエンジンスイッチ<パワースイッチ>を OFF にしたとき、パーキングブレーキ表示灯が約 15 秒間点灯したままになりますが、異常ではありません。

■パーキングブレーキスイッチが故障したとき

自動的にオートモードが ON になります。

■駐車するとき

→P.170

■パーキングブレーキ未解除警告ブザー

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに “EPB がロックされています” と表示されます（車速が 5km/h をこえたとき）

■ブレーキ警告灯が点灯したとき

→P.383

■冬季のパーキングブレーキの使用について

→P.306

警告

■駐車するとき

お子さまだけを車の中に残したままにしないでください。お子さまが誤ってパーキングブレーキを解除し、車が動き出して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■駐車するとき

車から離れるときは、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にし、車が動かないことを確認してください。

■システムに異常が発生したら

安全な場所に車を停め、警告メッセージを確認してください。

■故障などでかかったままになったとき

パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。この場合は、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

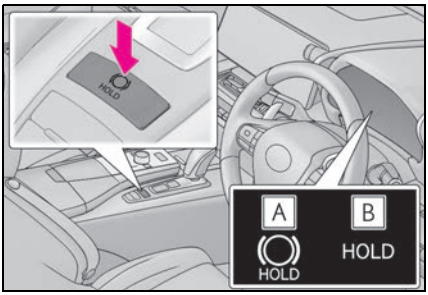
ブレーキホールド

シフトポジションがD・MまたはNでブレーキホールドシステムがONのとき、ブレーキペダルを踏んで停車するとブレーキがかかったまま保持されます。シフトポジションがDまたはMのとき、アクセルペダルを踏むと同時に解除され、スムーズに発進できます。

システムを作動させるには

スイッチを押して、ブレーキホールドシステムをONにする

ブレーキホールドスタンバイ表示灯A（緑）が点灯します。ブレーキ保持中はブレーキホールド作動表示灯B（黄）が点灯します。



知識

■ **システムの作動条件**

次のときはブレーキホールドシステムをONにできません。

- 運転席ドアが閉まっていない
- 運転席シートベルトを着用していない
- マルチインフォメーションディスプレイに、“EPB動作が途中で停止しました”や“EPB故障 販売店で点検してください”が、表示されている

ブレーキホールドシステムがONのときにいずれかを検出したときは、システムがOFFになり、ブレーキホールドスタンバイ表示灯が消灯します。ブレーキ保持中に検出した場合は、さらに警告音と共にマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、自動的にパーキングブレーキがかかります。

■ **ブレーキ保持について**

- ブレーキ保持中にブレーキペダルが踏まれていない状態が約3分継続すると、自動的にパーキングブレーキがかかります。このときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- 急坂路ではブレーキ保持できないことがあり、その場合運転者が、ブレーキをかける必要があります。このときブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。
- ブレーキ保持中にシステムをOFFにするときは、ブレーキペダルをしっかり踏み、もう一度スイッチを押してください。

■ **ブレーキ保持中にパーキングブレーキが自動的にかかったとき**

発進時は次のいずれかの操作でパーキングブレーキを解除してください。

- 運転席シートベルトを着用した状態でアクセルペダルを踏む
- ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキスイッチを操作して手動で解除する

操作したあとパーキングブレーキ表示灯が消灯したことを確認してください。（→P.201）

■レクサス販売店で点検が必要なとき

ブレーキホールドシステムの作動条件を満たしているときに、ブレーキホールドスイッチを押してもブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が点灯しないときはシステムの異常が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■マルチインフォメーションディスプレイに “BrakeHold 作動不可” と表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■警告メッセージ・警告ブザーについて

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ブレーキホールド作動表示灯（黄）が点滅したときは

→P.386

警告

■急坂路では

急坂路でブレーキホールドシステムを使用するときは注意してください。急坂路ではブレーキホールドシステムにてブレーキを保持できないことがあります。

■すべりやすい路面では

タイヤのグリップ限界をこえて停車させることはできません。すべりやすい路面での使用は控えてください。

注意

■駐車するとき

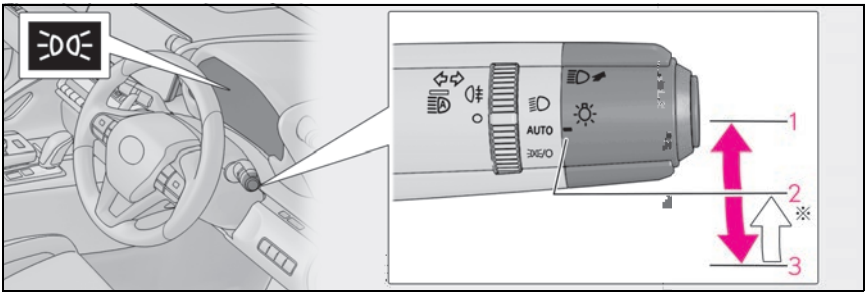
ブレーキホールドは長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保持中にエンジンスイッチ＜パワースイッチ＞を OFF にすると、保持が解除されて車が動き出す場合があります。エンジンスイッチ＜パワースイッチ＞を操作するときは、ブレーキペダルを踏み、シフトポジションを P にして、パーキングブレーキをかけてください。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯・消灯できます。

点灯のしかた

次のように スイッチを操作すると、ランプが点灯します。



※ スイッチを 3 の位置へ操作し手を離すと、自動的に 2 AUTOの位置へ戻ります。

	点灯状態	
ポジション	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
1	ヘッドランプ・スモールランプが点灯	
2 AUTO※1	LED デイライト（→P.207）が点灯	ヘッドランプ・スモールランプが点灯
3 ※1	スモールランプが点灯	スモールランプが点灯 ※2

上記の表のスモールランプは、車幅灯・尾灯・インストルメントパネルランプを意味します。

※1操作するたびに、2 AUTOによる点灯状態と 3 による点灯状態が切りかわります。

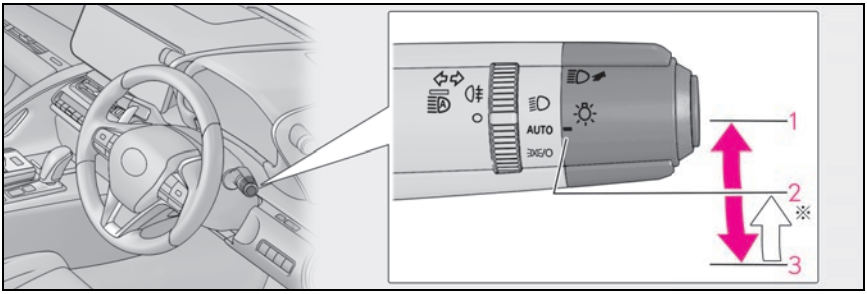
※2停車中のみ点灯可能。車両を発進させると 2 AUTOによる点灯状態に切りかわります。

消灯のしかた

スイッチを 3 の位置で 1 秒以上保持すると、次のように作動しま

す。

消灯中に 1 ≡D か 3 ≡DOFF/ONの位置へ操作すると消灯状態が解除されます。



※ スイッチを 3 ≡DOFF/ONの位置へ操作し手を離すと、自動的に 2 AUTOの位置へ戻ります。

	点灯状態	
ポジション	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
3 ≡DOFF/ON	ヘッドランプ・スモールランプ・LED デイライト（→P.207）が消灯	ヘッドランプ・スモールランプが消灯 ※

※ 停車中のみ消灯可能。車両を発進させると消灯状態が解除されます。

知識

■AUTO モードの作動条件

エンジンスイッチ<パワースイッチ>が ON のとき

■LED デイライト機能

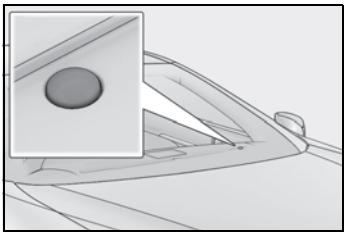
日中での走行時、自車が他の運転者から見えやすくなるように、エンジン<ハイブリッドシステム>始動後、パーキングブレーキを解除して、ランプスイッチを AUTO にすると、LED デイライトが自動で点灯します。（車幅灯より明るく点灯します）
LED デイライトは夜間の使用を意図したものではありません。

■自動で点灯 / 消灯する明るさについて

周囲の明るさに応じて自動的にランプが点灯／消灯します。日中走行中でも周囲の環境や明るさによって、ヘッドランプが自動点灯する場合があります。

■ライトセンサーについて

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ランプ消し忘れ防止機能

エンジンスイッチ<パワースイッチ>を ACC または OFF にして運転席ドアを開けるとすべてのランプが自動的に消灯します。

再びランプを点灯する場合は、エンジンスイッチ<パワースイッチ>を ON にするか、一度ランプスイッチをAUTOにしてからまたはの位置にします。

■オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■節電機能

車両の補機バッテリーあがりを防止するため、エンジンスイッチが OFF の状態でヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

エンジンスイッチ<パワースイッチ>を ON にすると節電機能は解除されます。次のいずれかを行った場合、節電機能はいったん解除され、再度節電機能が働き、約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

● ランプスイッチを操作したとき

● ドアを開閉したとき

■おもてなし照明

ランプスイッチが AUTO の位置で車両周辺が暗いとき、スマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンでドアを解錠すると、車幅灯、尾灯および番号灯が自動で点灯します。

■ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能

日中での走行時、ランプスイッチが AUTO でワイパーを作動してしばらくすると、自車が他車から見やすくなるようにヘッドランプが自動点灯します。

■カスタマイズ機能

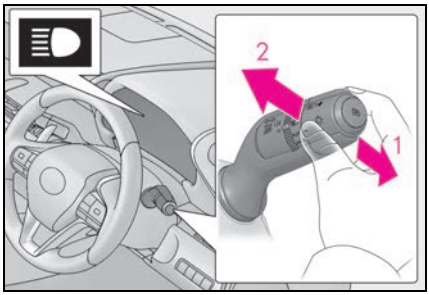
ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。（カスタマイズ一覧：→P.446）

注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

エンジン<ハイブリッドシステム>を停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

ハイビームにするには



1 ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

コーナリングランプ

ヘッドランプ（ロービーム）点灯時に次のいずれかの条件を満たしたとき、夜間走行時の交差点や駐車時に優れた視認性を確保するため、コーナリングランプが追加点灯し車両進行方向を照射します。

● ハンドルを操作したとき

● 方向指示レバーを操作したとき

● シフトポジションが R のとき（左

右両側のコーナリングランプが点灯）

知識

■コーナリングランプ制御について

●車速が約 30 km/h 以下のときに点灯します。ただし、約 35 km/h 以上になると消灯します。

●点灯した状態で 30 分間経過すると、自動で消灯します。

AHB（オートマチックハイビーム）

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

警告

■安全にお使いいただくために

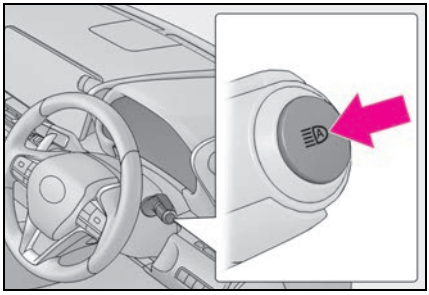
オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■オートマチックハイビームの誤操作を防ぐために

荷物を積み過ぎないでください。

オートマチックハイビームを使うには

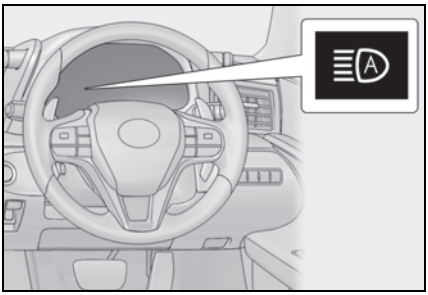
1 オートマチックハイビームスイッチを押す



2 ランプスイッチを または AUTOの位置にする

オートマチックハイビームが作動すると、

AHB 表示灯が点灯します。



知識

■**ハイビームとロービームの自動切りかえ条件**

●次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。
・車速が約 30km/h 以上
・車両前方が暗い
・前方にランプを点灯した車両がいない
・前方の道路沿いの街路灯の光が少ない

●次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。
・車速が約 25km/h 以下
・車両前方が明るい
・前方車両がランプを点灯している
・前方の道路沿いの街路灯の光が多い

■**前方カメラの検知について**

●次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。
・見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
・他車が前方を横切ったとき
・連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
・前方車両が離れた車線から接近してきたとき
・前方車両が無灯火のとき

●前方車両のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。

●街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。

●次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。
・前方車両のランプの明るさ
・前方車両の動きや向き
・前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
・前方車両が二輪車のとき
・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
・乗車人数や荷物の量

●ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。
・悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
・フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
・フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
・前方カメラが変形しているときや、汚れているとき
・前方カメラが極端に高温になっているとき
・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
・前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
・急激な明るさの変化が連続するとき
・起伏や段差が多い道路を走行しているとき

・カーブが多い道路を走行しているとき
・車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
・コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
・自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
・パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
・ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
・ハイビームの使用に問題がある、またはほかの運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき

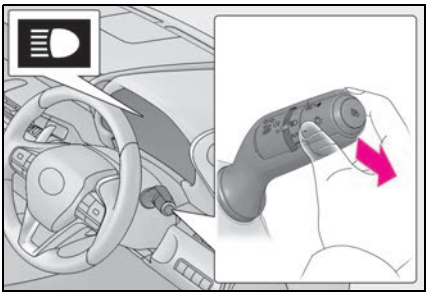
手動制御に切りかえるには

■ ハイビームへの切りかえ

レバーを前方へ押す

AHB 表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度レバーをもとの位置にもどします。

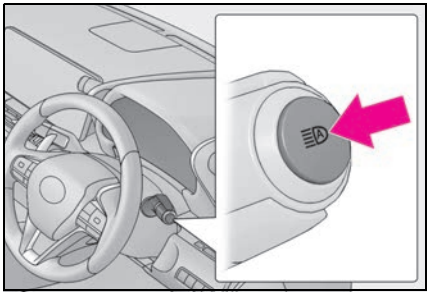


■ ロービームへの切りかえ

オートマチックハイビームスイッチを押す

AHB 表示灯が消灯します。

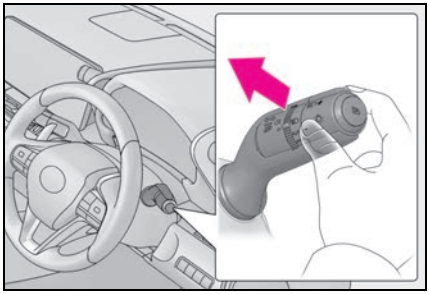
オートマチックハイビームにもどすには、再度オートマチックハイビームスイッチを押します。



■ 一時的なロービームへの切りかえ

レバーを引き、もとの位置にもどす

レバーを引いているあいだは、ハイビームが点灯しますが、レバーがもとの位置にもどるとしばらくのあいだロービームが点灯します。その後、再度オートマチックハイビームが作動します。



知識

■ 一時的なロービームへの切りかえについて

ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるときに使用します。

フォグランプスイッチ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

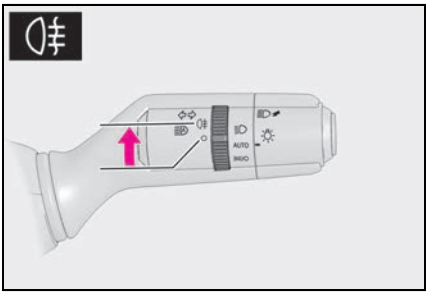
雨や霧などの悪天候下では、後続車に自車の存在を知らせるためにリヤフォグランプを点灯させます。

操作のしかた

点灯する

手を離すと ○ の位置までもどります。

再度操作すると消灯します。



知識

■点灯条件

ヘッドランプが点灯しているときに使用できます。

■リヤフォグランプについて

- ヘッドランプを消灯するたびに、リヤフォグランプは消灯します。
- リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。
- 雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。
  視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。
  必要なとき以外は使用しないでください。

ワイパー＆ウォッシャー

レバー操作で、ワイパーの作動を自動／手動に切りかえたり、ウォッシャーを作動させたりすることができます。

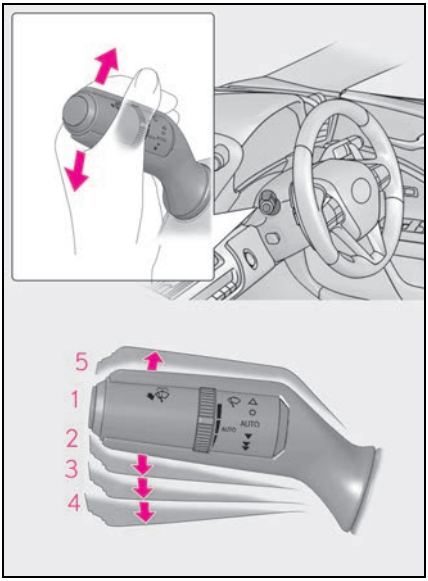
⚠ 注意

■フロントウインドウガラスが乾いているとき

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

操作のしかた

次のように レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。AUTO を選択したときは、雨滴量や車速に応じてワイパーが自動で作動します。



1 停止

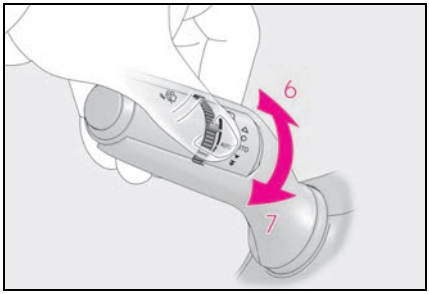
2 AUTO雨滴感知オート作動（AUTO）

3 低速作動（LO）

4 高速作動（HI）

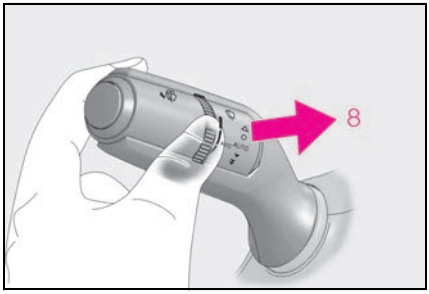
5 一時作動（MIST）

AUTO が選択されているときは、次のようにツマミをまわして、雨滴センサーの感度を調整できます。



6 雨滴センサーの感度調整（高）

7 雨滴センサーの感度調整（低）



8 ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。（数回作動したあと、液だれ防止としてさらに 1 回作動します。ただし、走行中は液だれ防止作動は働きません。）

エンジンスイッチ＜パワースイッチ＞が ON の状態でヘッドランプが点灯しているとき、5 回手前に引くごとにヘッドラ

ンプクリーナーが作動します。

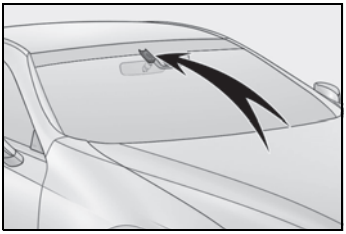
知識

■作動条件

エンジンスイッチ<パワースイッチ>がONのとき

■雨滴感知センサー

●雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。
光学センサーを使用しているため、フロントウインドウガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに、正しく作動しないことがあります。



●エンジンスイッチ<パワースイッチ>がONのときにAUTOを選択すると、動作確認のためワイパーが1回作動します。

●雨滴感知センサーの温度が85℃以上または－30℃以下のときは、AUTO作動しないことがあります。その場合は、AUTO以外を選択してワイパーを使用してください。

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■ドア開連動ワイパー停止機能

AUTO選択中、停車している状態でワイパーが作動しているとき、ドアを開けるとワイパーの水しぶきが車両の近くにいる人にかかるのを防ぐためにワイパーの作動が停止します。ドアを閉めると作動を再開します。

■ワイパーの保護制御

雪などの障害物でワイパーの作動が大きく制限されると、保護のため自動で作動が停止することがあります。また、片側のワイパーの作動のみが制限された場合、運転席側と助手席側のワイパーが接触することがあります。その場合は、ワイパースイッチをOFFにし、障害物を取り除いたあとでワイパーを使用してください。

■走行中にエンジン<ハイブリッドシステム>を緊急停止したときは

エンジン<ハイブリッドシステム>を停止したときにワイパーが作動していた場合は、高速作動でワイパーの作動が継続します。車両停止後にエンジンスイッチ<パワースイッチ>をONにすると通常作動を再開し、運転席ドアを開けるとワイパーの作動を停止します。

■カスタマイズ機能

雨滴感知オート作動の設定を変更できます。（カスタマイズ一覧：→P.446）

警告

■AUTO 選択時のワイパー作動について

AUTO を選択しているときは、センサーにふれたり、フロントウインドウガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが動くおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

■ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍り付き、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったとき

ノズルがつまったときはレクサス販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

ワイパーの停止位置切りかえ／ワイパーの立て方

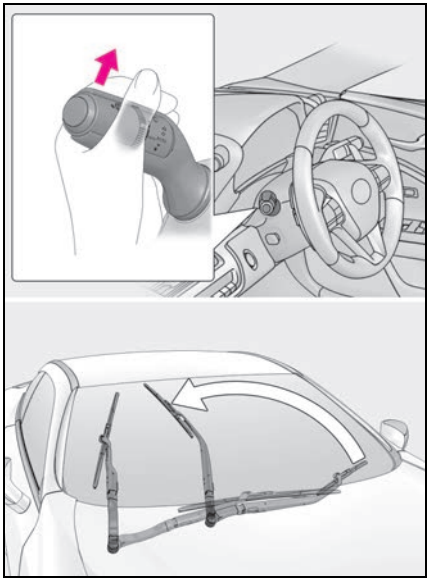
ワイパーは使用していないとき、ボンネット下に格納されています。

寒冷時やワイパーゴムを交換するときは、ワイパーの停止位置を格納位置からサービスポジションに切りかえた上でワイパーを立ててください。

■ サービスポジションへ切りかえる

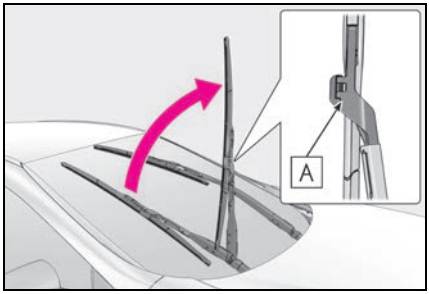
エンジンスイッチ<パワースイッチ>を OFF にしたあと、約 45 秒以内にワイパースイッチを △ の位置で約 2 秒以上保持する

ワイパーがサービスポジションに移動します。



■ ワイパーを立てる

ワイパーアームのフック部 A を持ってガラス面から引き上げる



知識

■ワイパーを格納位置にもどすには

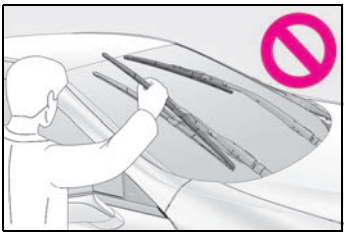
ワイパーを倒した状態でエンジンスイッチ<パワースイッチ>を ON にし、いずれかのワイパー操作をしてください。作動後は格納位置で停止します。エンジンスイッチ<パワースイッチ>が OFF のときにワイパーがずれてしまっていても、作動後は正常な位置にもどります。

注意

■ワイパーを立てるときは

●ワイパーがボンネット下の格納位置にあるときは、ワイパーを立てないでください。格納位置でワイパーを立てるとボンネットに干渉し、傷が付くおそれがあります。

●ワイパーブレードのみを持ってワイパーを立てないでください。ブレードが変形するおそれがあります。



●ワイパーを立てた状態でワイパーを作動させないでください。ワイパーがボンネットに干渉し、傷が付くおそれがあります。

給油口の開け方

給油する前に

▶ コンバーチブル以外

● ドアとドアガラスを閉め、エンジンスイッチ<パワースイッチ>をOFF にしてください。

● 燃料の種類を確認してください。

▶ コンバーチブル

● エンジンスイッチをOFF にしてください。

● ソフトトップルーフを閉めているときは、ドア、ドアガラスとリヤクォーターガラスを閉めてください。

● 燃料の種類を確認してください。

知識

■燃料の種類について

●無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）

●バイオ混合ガソリン（プレミアム）

■バイオ混合ガソリンについて

エタノールの混合率 10% 以下、またはETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7% 以下）を使用することができます。

警告

■給油するときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。
除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。
静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

●キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー” という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。
すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。

●気化した燃料を吸わないようにしてください。
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

●喫煙しないでください。

●給油口にノズルを確実に挿入してください。

●継ぎ足し給油をしないでください。

●正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

注意

■給油するとき（コンバーチブル以外）

指定のガソリンを使用してください。指定以外のガソリン（無鉛レギュラーガソリン）や他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度バイオ混合ガソリン※）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
次のような状態になるおそれがあります。

●エンジンの始動性が悪くなる

●エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する

●エンジン出力が低下する

●排気制御システムが正常に機能しない

●燃料系部品が損傷する

●塗装が損傷する

※ エタノール混合率 10% をこえるもの、または ETBE 混合率 22%をこえるもの

■給油するとき（コンバーチブル）

●燃料をこぼさないでください。塗装が損傷する可能性があります。

●無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）が入手できないときは、無鉛レギュラーガソリンを使用することもできますが、次のような状態になるおそれがあります。

・ ガソリンエンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する

・ ガソリンエンジンの出力が低下する

●その他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度バイオ混合ガソリン※）を使用しないでください。その他の燃料を使用すると、次のような状態になるおそれがあります。

・ ガソリンエンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する

・ ガソリンエンジンの出力が低下する

・ ガソリンエンジンの始動性が悪くなる

・ 排気制御システムが正常に機能しない

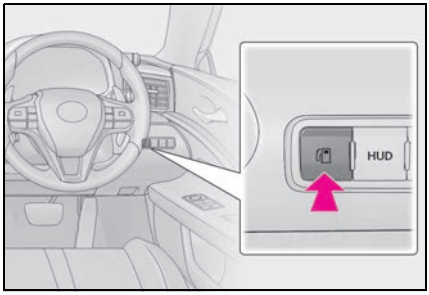
・ 燃料系部品が損傷する

※ エタノール混合率 10% をこえるもの、または ETBE 混合率 22%をこえるもの

給油口を開けるには

▶ コンバーチブル以外

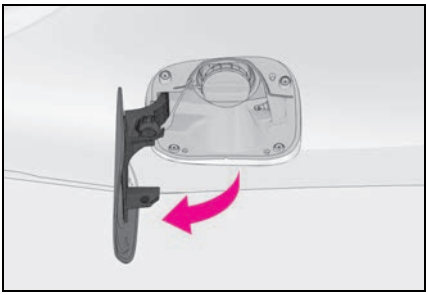
1 給油口オープナースイッチを押す



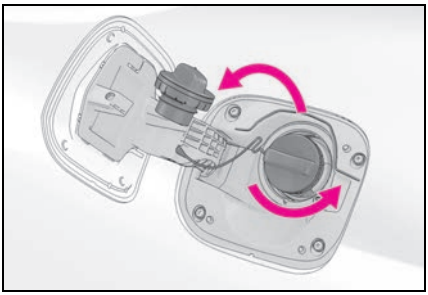
2 給油扉が確実にロックするまで開ける

扉が垂直になるまで開くとロックされま

す。



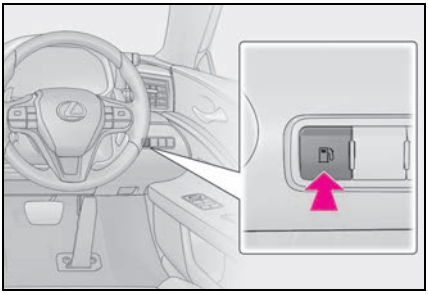
3 キャップをゆっくりまわして開け、ホルダーにはめ込む



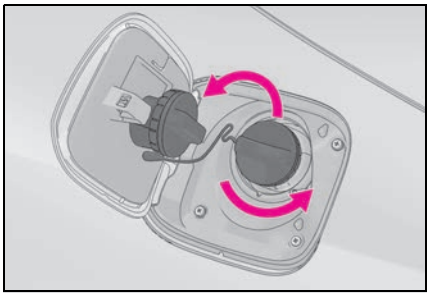
▶ コンバーチブル

1 給油口オープナースイッチを押す

スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンを使ってドアが施錠されているときは、給油扉を開くことができません。



2 キャップをゆっくりまわして開け、ホルダーにはめ込む



知識

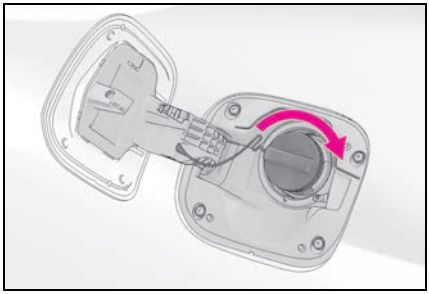
■給油扉が開かないとき

→P.412

給油口を閉めるには

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。



警告

■キャップが正常に閉まらないとき

必ずレクサス販売店へご連絡ください。正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

Lexus Safety System +

Lexus Safety System + は、次の運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

運転支援装置

■ **PCS（プリクラッシュセーフティ）**

→P.225

■ **LTA（レーントレーシングアシスト）**

→P.235

■ **AHB（オートマチックハイビーム）**

→P.209

■ **RSA（ロードサインアシスト）**

→P.244

■ **レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）**

→P.247

■ **先行車発進告知機能**

→P.258

■ **ドライバー異常時対応システム**

→P.260

警告

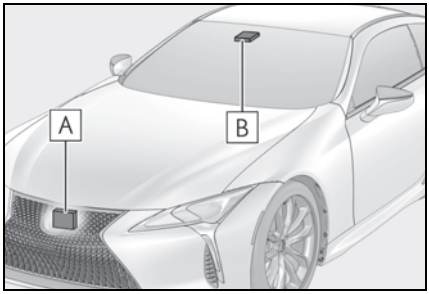
■ **Lexus Safety System + について**

Lexus Safety System + は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

前方センサー

フロントグリルとフロントウインドウガラスにある 2 種類のセンサーにより、各運転支援装置に必要な情報を認識します。



A レーダー

B 前方カメラ

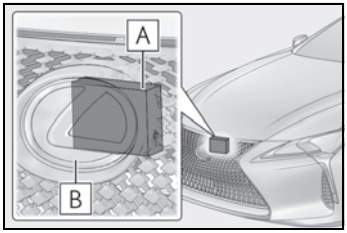
警告

■ **レーダーの故障や誤作動を防ぐために**

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、レーダーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

●レーダーとレーダー専用カバーは常にきれいにしておく



A レーダー

B レーダー専用カバー

レーダー前面やレーダー専用カバー前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

お手入れをする際は、レーダーやレーダー専用カバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。

●レーダーやレーダー専用カバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない

●レーダー周辺への強い衝撃を避ける
レーダー・フロントグリル・フロントバンパーに強い衝撃を受けた際は、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。

●レーダーを分解しない

●レーダーやレーダー専用カバーを改造したり、塗装したりしない

●次のようなときは、レーダーの再調整が必要です。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

・レーダー・フロントグリルを脱着や交換したとき

・フロントバンパーを交換したとき

■前方カメラの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、前方カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

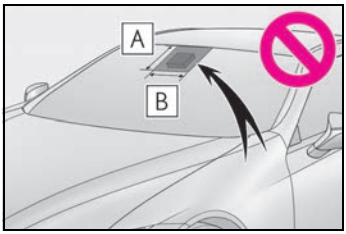
●フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく

・フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

・フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、前方カメラ前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。

・フロントウインドウガラス内側の前方カメラ取り付け部が汚れた場合は、レクサス販売店にご相談ください。

●フロントウインドウガラスの前方カメラ前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない



A フロントウインドウガラス上端から前方カメラ下端より下約 1cm まで

B 約 20cm（前方カメラ中心から左右約 10cm）

警告

- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、エアコンの機能を使用する（フロントウインドウガラスの曇りを取る：→P.310）
- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する
- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない
- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する
  フロントウインドウガラスの交換後は、前方カメラの再調整が必要です。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。
- 前方カメラに液体をかけない
- 前方カメラに強い光を照射しない
- 前方カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
  フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
  レンズに汚れ・傷がある場合は、レクサス販売店にご相談ください。
- 前方カメラに強い衝撃を加えない
- 前方カメラの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方カメラを分解しない
- インナーミラーなどの前方カメラ周辺部品や天井を改造しない
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない
  詳しくはレクサス販売店にご相談ください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方カメラの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

知識

■レーダーの取り扱い

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

JP 01

■マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

前方センサーが一時的に作動しない、または異常があるおそれがあります。

●次の状況が改善されると警告メッセージが消え、作動可能状態になります。

対処を行っても警告メッセージが表示されたままの場合はレクサス販売店にご相談ください。

状況	対処法
前方カメラ周辺に汚れや付着物（曇り、結露、凍結などを含む）があるとき	ワイパーやエアコンの機能などを使って、汚れや付着物を取り除く（フロントウインドウガラスの曇りを取る：→P.310）
炎天下や極寒の環境など、前方カメラ周囲の温度などが作動条件外のとき	炎天下での駐車時など、前方カメラが高温のときは、エアコンでカメラ周辺の温度を下げる 特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウインドウガラスに使用すると前方カメラが高温になりやすくなります。
	極寒での駐車時など、前方カメラが低温のときは、エアコンで前方カメラ周辺の温度を上げる
ボンネットが開いているときや、フロントウインドウガラスの前方カメラ前部にステッカーが貼り付けられているときなど、前方カメラの前方がさえぎられているとき	ボンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、前方カメラの視界がさえぎられないようにする
“プリクラッシュセーフティ レーダー向き調整中 取扱書確認ください” が表示されたとき	レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除く

●次のときは周囲の環境が前方センサーの作動可能状態になれば警告メッセージが消えます。

周囲の環境が改善されたり、しばらく走行したりしても警告メッセージが表示されたままの場合はレクサス販売店にご相談ください。

・ 炎天下や極寒の環境など、レーダー周囲の温度などが作動条件外のとき
・ 暗闇・逆光・雪・霧など、前方カメラが周囲の状況を認識できないとき
・ 車両周辺の状況によってはレーダーが正しく周囲の環境を認識できないとき
その場合には “ プリクラッシュセーフティ 現在使用できません 取扱書確認ください ” が表示されます。

PCS（プリクラッシュセーフティ）

進路上の作動対象（→P.225）を前方センサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティの ON ／ OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。（→P.228）

システムの作動対象

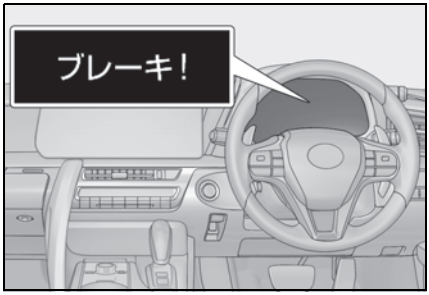
システムは次のものを作動対象として検出しています。（機能によって、作動対象が異なります）

- 車両
- 自転車運転者
- 歩行者

機能一覧

■ 衝突警報

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、回避操作をうながします。



■ プリクラッシュブレーキアシスト

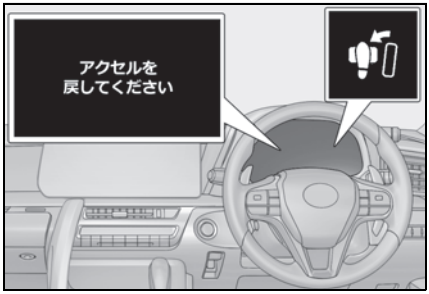
衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに応じてブレーキ力を増強します。

■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の低減に寄与します。

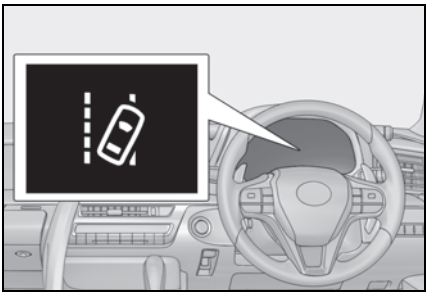
■ 低速時加速抑制

低速走行時にアクセルペダルが強く踏み込まれ、衝突の可能性があるとシステムが判断したとき、エンジン出力<ハイブリッドシステム出力>を抑制または弱いブレーキをかけることで加速を抑制します。作動時には、ブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに警告灯とメッセージを表示します。



■ 緊急時操舵支援

衝突する可能性が高く自車線内に回避するための十分なスペースがあるとシステムが判断した場合で、運転者の回避操舵があったとき、操舵支援を行い、車両安定性確保と車線逸脱抑制に寄与します。作動時には、表示灯が緑色に点灯します。

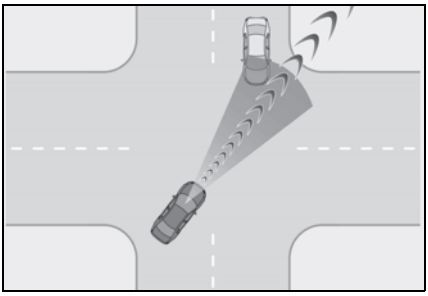


■ 交差点右左折支援

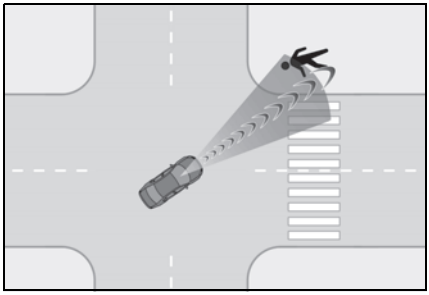
次のような状況において衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報およびプリクラッシュブレーキによる支援を行います。

交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。

● 交差点で右折して対向車の進路を横切るとき



● 右左折中に、対向方向からの横断歩行者を検出したとき（自転車運転者は対象ではありません）



■ サスペンションコントロール

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、AVS（→P.296）によってショックアブソーバーの減衰力を制御することで、安定した車両姿勢の維持に寄与します。

警告

■安全にお使いいただくために

● 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

●プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

・衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき：→P.231

・システムが正常に作動しないおそれがあるとき：→P.233

●お客様ご自身でプリクラッシュセーフティの作動テストを行わないでください。対象（マネキンや段ボールで作動対象を模したものなど）や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■プリクラッシュブレーキについて

●プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。

●プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、約 2 秒後にプリクラッシュブレーキが解除されます。必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。

●プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。

●プリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

●ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

■低速時加速抑制について

運転者がハンドルを操作していると、回避操作とシステムが判断し、低速時加速抑制が作動しない場合があります。

■緊急時操舵支援について

●緊急時操舵支援は車線逸脱抑制制御が完了したとシステムが判断した段階で作動を解除します。

●緊急時操舵支援は運転者の操作状態によっては作動しない、または作動中に解除される場合があります。

・運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいたり、方向指示レバーを操作すると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援が作動しない場合があります。

・緊急時操舵支援作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援の作動が解除されます。

・緊急時操舵支援作動中に、ハンドルを保持したりシステムと逆方向にハンドル操作した場合には、緊急時操舵支援の作動が解除されます。

警告

■**プリクラッシュセーフティを OFF にするとき**

次のときは、システムを OFF にしてください。
システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●けん引されるとき

●けん引するとき

●トラック・船舶・列車などに積載するとき

●車両をリフトで上げ、エンジン<ハイブリッドシステム>を始動しタイヤを空転させるとき

●点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき

●事故などにより、フロントバンパーやフロントグリルに強い衝撃が加わったとき

●事故や故障で自車の走行が不安定なとき

●オフロード走行やスポーツ走行をするとき

●タイヤの空気圧が適正でないとき

●著しく摩耗したタイヤを装着しているとき

●メーカー指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●応急用タイヤやタイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

●車両に前方センサーをさえぎるような装備品（除雪装置など）を一時的に取り付けているとき

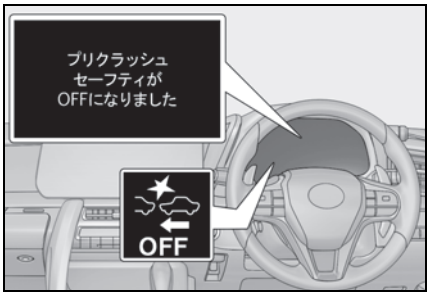
プリクラッシュセーフティの設定変更

■ プリクラッシュセーフティの ON ／ OFF を変更する

マルチインフォメーションディスプレイの⚙(→P.104）から、プリクラッシュセーフティの ON（作動）／ OFF（非作動）を変更することができます。

エンジンスイッチ<パワースイッチ>が ON になるとシステムは ON になります。

システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。



■ 衝突警報の作動タイミングを変更する

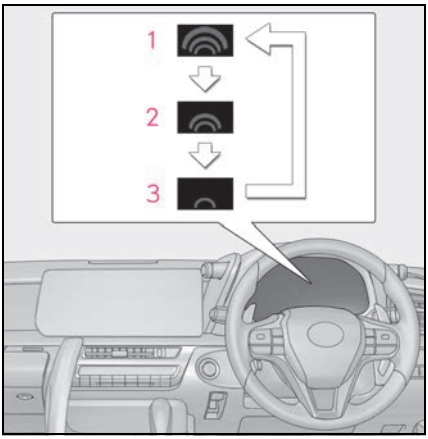
マルチインフォメーションディスプレイの⚙(→P.104）から、衝突警報の作動タイミングを変更することができます。

変更した作動タイミングはエンジンスイッチ<パワースイッチ>を OFF にしても継続しますが、プリクラッシュセーフティを OFF から ON の状態にすると「中間」に戻ります。

衝突警報の作動タイミングを変更すると、緊急時操舵支援のタイミング

も変更されます。

「遅い」を選択した場合、緊急時操舵支援はほとんどの場合作動しません。



1 早い

2 中間

初期設定

3 遅い

知識

■ **プリクラッシュセーフティ各機能の作動条件**

プリクラッシュセーフティが ON で、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。

ただし、次のときシステムは作動しません。

・ 補機バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ

・ シフトポジションが R のとき

・ コンバーチブル：VSC OFF 表示灯が点灯しているとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

各機能の作動速度、作動解除は次のとおりです。

●衝突警報

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両・静止車両	約 10 ～ 180km/h	約 10 ～ 180km/h
対向車両	約 10 ～ 180km/h	約 20 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 10 ～ 80km/h	約 10 ～ 80km/h

衝突警報が作動中にハンドルを大きく操作するか、すばやく操作すると、衝突警報が解除される場合があります。

●プリクラッシュブレーキアシスト

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両・静止車両	約 30 ～ 180km/h	約 30 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 30 ～ 80km/h	約 30 ～ 80km/h

●プリクラッシュブレーキ

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両・静止車両	約 10 ～ 180km/h	約 10 ～ 180km/h
対向車両	約 10 ～ 180km/h	約 20 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 10 ～ 80km/h	約 10 ～ 80km/h

プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除される場合があります。

・ アクセルペダルを強く踏み込む

・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

●低速時加速抑制

方向指示灯が点滅しているときは、低速時加速抑制が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両・静止車両・自転車運転者・歩行者	約 15km/h 以下	約 15km/h 以下

低速時加速抑制の作動中に次の動作をすると、低速時加速抑制の作動が解除されます。

・ アクセルペダルを離す

・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

●緊急時操舵支援

方向指示灯が点滅しているときは、緊急時操舵支援が作動しません。

VSC OFF 表示灯が点灯しているときは、緊急時操舵支援が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両・静止車両・自転車運転者・歩行者	約 40 ～ 80km/h	約 40 ～ 80km/h

緊急時操舵支援作動中に次の操作をすると、緊急時操舵支援の作動が解除される場合があります。

・ アクセルペダルを強く踏み込む

・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

・ ブレーキペダルを踏む

●交差点右左折支援（衝突警報）

方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

作動対象	自車速度	対向車速度	相対速度
対向車両	約 10 ～ 25km/h	約 30 ～ 55km/h	約 40 ～ 80km/h
歩行者	約 10 ～ 25km/h	—	約 10 ～ 25km/h

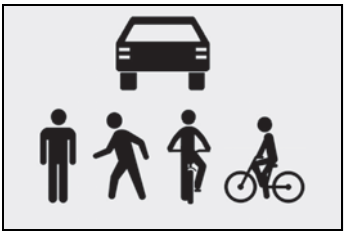
●交差点右左折支援（プリクラッシュブレーキ）

方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

作動対象	自車速度	対向車速度	相対速度
対向車両	約 15 ～ 25km/h	約 30 ～ 45km/h	約 45 ～ 70km/h
歩行者	約 10 ～ 25km/h	—	約 10 ～ 25km/h

■**作動対象の検出**

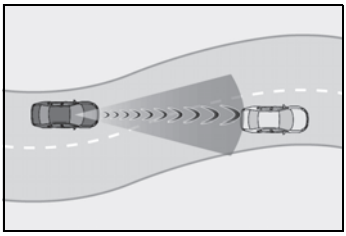
大きさ・輪郭・動きなどから検出します。周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・角度などによっては、作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。（→P.233）
図は作動対象として検出する対象のイメージです。



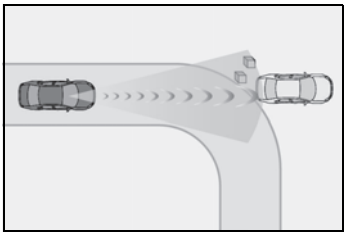
■**衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき**

●例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性が高いと判断し、作動するおそれがあります。

・作動対象などのすぐそばを通過するとき
・車線を変更して作動対象などを追いこすとき
・進路変更時や曲がりくねった道を走行時など、自車前方の隣車線や路側に作動対象が存在するとき

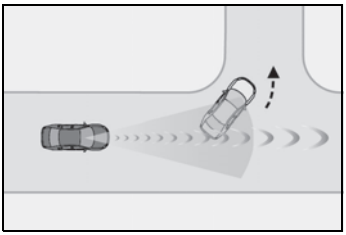


・作動対象などに急接近したとき
・道路脇の作動対象や物体（ガードレール・電柱・木・壁など）などに近付いたとき
・カーブ入り口の道路脇に作動対象や物体などが存在するとき

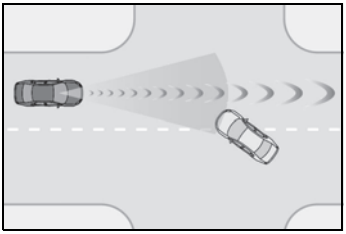


・自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき
・自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの

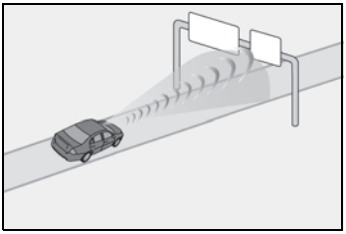
巻き上げがあるとき
・車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき



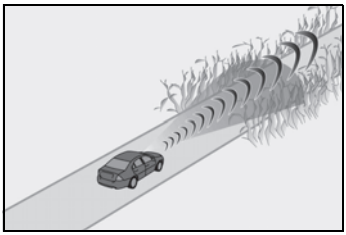
・右左折待ちの作動対象などとすれ違うとき



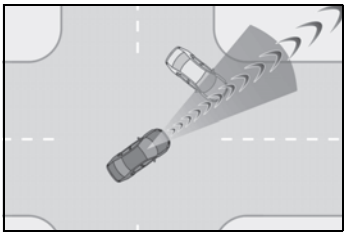
・作動対象などが自車進路内に入る手前で停止したとき
・路面にうねり・凹凸があるときなど、車両姿勢が変化しているとき
・構造物に囲まれた道（トンネルや鉄橋など）を走行するとき
・自車の前方に金属物（マンホール・鉄板など）・段差・突起物があるとき
・道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき



・ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに接近したとき
・洗車機を使用するとき
・自車に覆い被さるような障害物（生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など）がある場所を走行するとき



・自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
・電波の反射が強い物体（大型トラック・ガードレールなど）の横を走行するとき
・テレビ塔・放送局・発電所・レーダー搭載車両など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき
・周囲にレーダーの電波を反射するものが多いとき（トンネルやトラス橋、砂利道、轍のある雪道など）
・右折中に、対向車が自車の前方を通過したとき
・右折中に、対向車の手前を通過しようとしたとき
・右折中に、対向車が自車進路に入る手前で停止したとき
・交差点内で右折中、対向車が右折しているとき、または左折しているとき

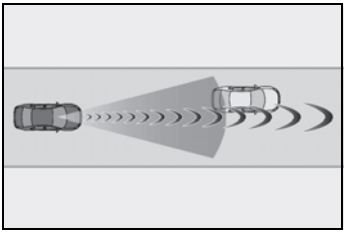


・対向車の進路に接近するようにハンドルを操作したとき
・右左折中に、横断歩行者が自車進路に入る手前で停止したとき
・右左折中に、横断歩行者が自車の前方を通過したとき
・右左折中に、横断歩行者の手前を通過しようとしたとき

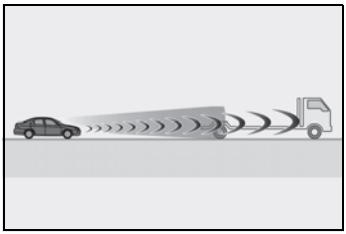
■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●例えば次のような状況では、前方センサーが作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

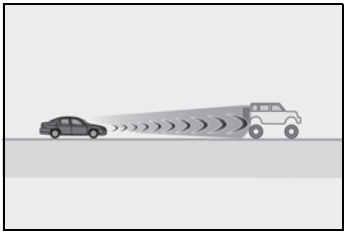
・自車に向かって作動対象が近付いてくるとき
・自車や作動対象がふらついているとき
・作動対象が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
・作動対象に急接近したとき
・作動対象が自車の中心軸からずれているとき



・作動対象が壁やフェンス・ガードレール・マンホール・路面の鉄板、他の車両などのそばにいるとき
・上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
・作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
・周囲にレーダーの電波を反射するものが多いとき（トンネルやトラス橋、砂利道、轍のある雪道など）
・他車両に載っているレーダーにより電波の影響を受けているとき
・作動対象が複数重なっているとき
・作動対象が太陽光などの強い光を反射しているとき
・作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
・作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
・作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
・自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき
・自車の正面方向から強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラにあたっているとき
・横向き、または自車方向を向いている前方車両に近付いたとき
・前方車両がオートバイのとき
・前方車両の全幅が狭いとき（超小型モビリティなど）
・前方車両の後端面積が小さいとき（空荷のトラックなど）
・前方車両の後端が低い位置にあるとき（低床トレーラーなど）

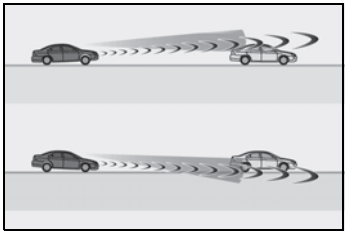


・前方車両の最低地上高が極端に高いとき

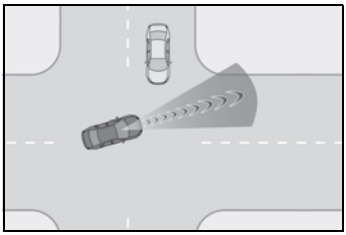


・前方車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
・前方車両が特殊な形状のとき（トラクター・サイドカーなど）
・子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2 人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）
・歩行者・自転車運転者の大きさが約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
・歩行者・自転車運転者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロン

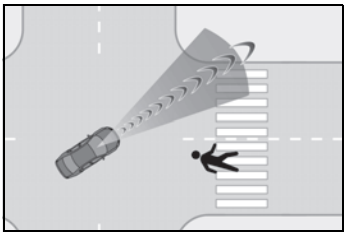
グスカートを着用している場合など）
・歩行者・自転車運転者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
・歩行者・自転車運転者の移動速度が速いとき
・歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
・悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき
・自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
・周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、または周囲が暗い（夜間やトンネル内など）など、作動対象が背景に溶け込んでいるとき
・周囲の明るさが急激に変化する場所を走行するとき（トンネルの出入り口など）
・エンジン<ハイブリッドシステム>を始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
・右左折中および右左折後の数秒間
・カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからの数秒間
・自車が横すべりしているとき
・車両姿勢が変化しているとき



・ホイールアライメントがずれているとき
・ワイパーブレードが前方カメラの視界をさえぎっているとき
・過度な高速走行をしているとき
・坂道を走行しているとき
・前方センサーの向きがずれているとき
・右折中に、対向車が自車の走行する車線よりも 2 つ以上離れた車線を走行しているとき
・右折中に、自車の向きが対向車線に対する正対方向から大きく外れているとき



・右左折中に、横断歩行者が自車と同じ方向から直進して近づいてくるとき



●上記に加えて、例えば次のような状況では緊急時操舵支援が作動しないおそれがあります。
・車線を区切る白（黄）線が認識できない（かすれている、分岐・合流している、影が重なっているなど）とき
・車線幅が狭いとき、または広いとき
・工事の補修跡などで、道路面に濃淡の模様があるとき
・対象に近づきすぎたとき
・回避するための十分なスペースがない、または回避先に物があるとき
・対向車がいるとき
・VSC が作動しているとき

●例えば次のような状況では、制動力や旋回力が十分に得られず、システムの性能を発揮できないおそれがあります。
・ブレーキ性能が十分に発揮できない場合（ブレーキ部品が極度に冷えている・過熱している・ぬれているなど）
・車両の整備状態（ブレーキ部品・タイヤの摩耗や空気圧など）が良好でない

とき
・ 砂利道やすべりやすい路面を走行しているとき
・ 道路面に深いわだちがあるとき
・ 坂道を走行しているとき
・ 左右に傾きのある道路を走行しているとき

■VSC を停止したとき

▶ コンバーチブル以外

●VSC の作動を停止（→P.298）したときは、緊急時操舵支援の作動も停止します。

●PCS 警告灯が点灯します。

▶ コンバーチブル

●VSC の作動を停止（→P.298）したときは、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。

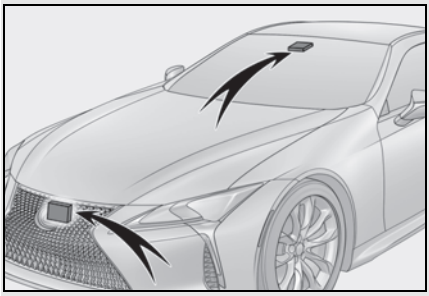
●PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに “VSC が OFF のためプリクラッシュブレーキも停止します ” が表示されます。

LTA（レーントレーシングアシスト）

白（黄）線が整備された道路を走行中、車線または走路※からの逸脱の可能性を警告するとともに、車線または走路※からの逸脱を避けるためのハンドル操作の一部を支援します。また、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）（→P.247）の作動中は、車線維持に必要なハンドルの操作を支援します。

白（黄）線または走路※を前方カメラで認識します。また、先行車を前方カメラやレーダーで認識します。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界



警告

■LTA をお使いになる前に

●LTA を過信しないでください。LTA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。

●適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■LTA を使用してはいけない状況

次の状況では、LTA スイッチでシステムを OFF にしてください。
思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●雨天時や積雪・凍結などで、すべりやすい路面を走行しているとき

●雪道を走行しているとき

●水たまりや雨・雪・霧・砂ぼこりなどで白（黄）線が見えにくいとき

●工事によって規制された車線・仮設の車線を走行しているとき

●工事区間を走行しているとき

●応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき

●タイヤの残り溝が十分にないとき、または空気圧が不足しているとき

●車両けん引時

■LTA の故障、または誤作動を防ぐために

●ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。

●サスペンションなどを改造しないでください。交換が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

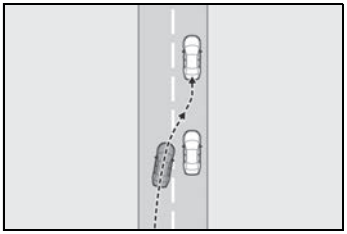
●ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）を取り付けたりしないでください。

●フロントウインドウガラスの修理が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

●先行車追従表示中（→P.240）に、先行車が車線変更したとき（先行車の動きに合わせて自車も車線変更するおそれがあります）

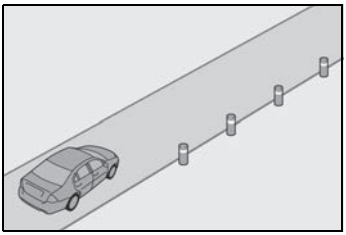


●先行車追従表示中（→P.240）に、先行車がふらついたとき（先行車の動きに合わせて自車もふらついて走行しレーンをはみ出すおそれがあります）

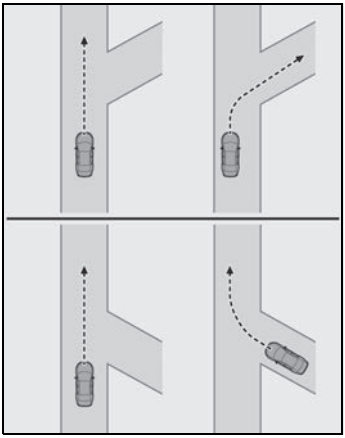
●先行車追従表示中（→P.240）に、先行車が車線から逸脱したとき（先行車の動きに合わせて自車も車線から逸脱するおそれがあります）

警告

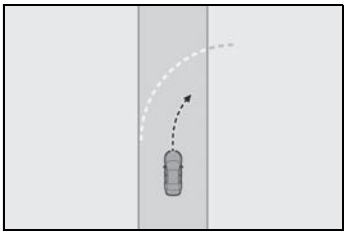
- 先行車追従表示中（→P.240）に、先行車がレーン内を右、または左に片寄って走行したとき（先行車の動きに合わせて自車も片寄って走行しレーンをはみ出すおそれがあります）
- 急カーブを走行しているとき
- 路側物に白（黄）線と見間違えるような構造物や模様があるとき（ガードレール・反射ポールなど）



- 分岐・合流路などを走行するとき



- 道路の修復で、アスファルト修復後や白（黄）線の跡が残っているとき



- 白（黄）線に平行するような影がある、または白（黄）線が影の中にあるとき
- 料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき
- 白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイ（道路鋲）や置き石などがあるとき
- 白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき
- 雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行しているとき
- 車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）
- 白（黄）線が縁石等の上に引かれているとき
- コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき
- アスファルトと草・土・縁石等の境界が不明瞭または直線的でないとき
- 照り返しなどにより明るくなった路面を走行しているとき
- トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行しているとき
- 対向車のヘッドランプ光・太陽光などが前方カメラに入射しているとき
- 坂道を走行しているとき

警告

- 左右に傾いた道路やうねった道路を走行しているとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行しているとき
- 車線の幅が極端に狭いとき、または広いとき
- 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の不足などで、車両が著しく傾いているとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなったとき
- 走行中の路面状況（悪路・道路の継ぎ目など）により、車両が上下に大きく揺れているとき
- 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、またはレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
- 横風を受けているとき
- 周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- 車線変更をした直後、または交差点を通過した直後
- 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用したとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- 冬用タイヤなどを装着しているとき
- 過度な高速走行をしているとき

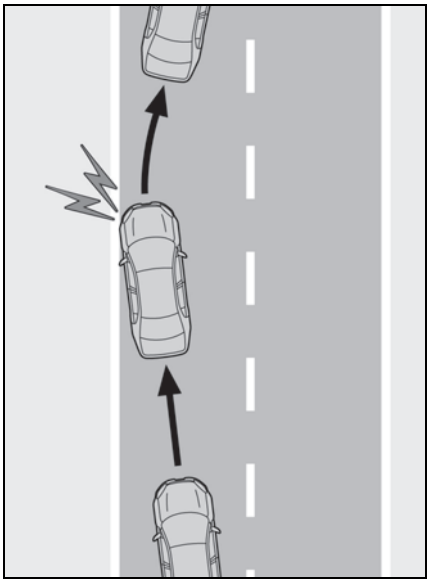
LTA に含まれる機能

■ 車線逸脱警報機能

車両が車線または走路※から逸脱する可能性がある場合に、マルチインフォメーションディスプレイの表示および、警報ブザーにより注意をうながします。

警報ブザーが鳴ったときは、まわりの道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、白（黄）線または走路※内の中央付近にもどってください。

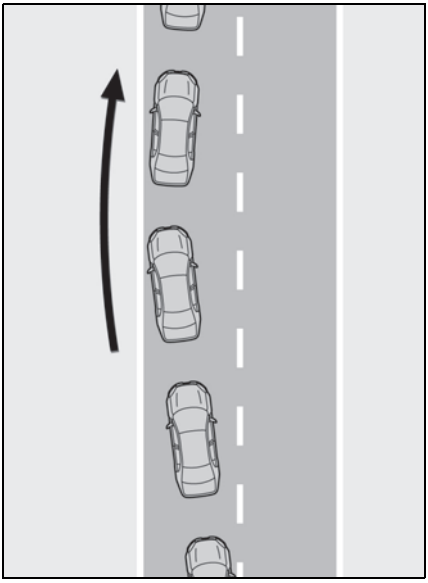
※ アスファルトと草・土・縁石等の境界



■ 車線逸脱抑制機能

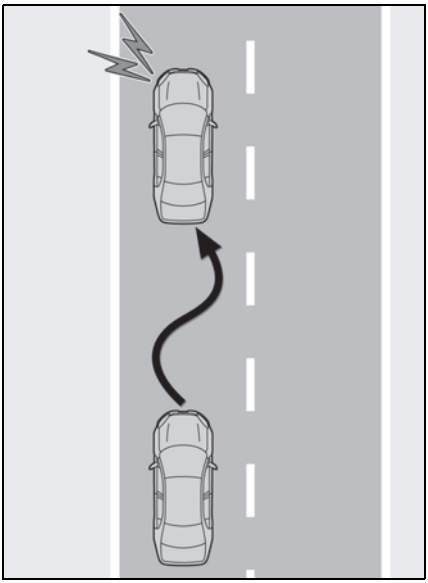
車両が車線または走路※から逸脱する可能性がある場合に、短時間、小さな操舵力をハンドルに与えて、車線からの逸脱を避けるために必要なハンドル操作の一部を支援します。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界



■ ふらつき警報機能

車両がふらついて走行しているときに、警報ブザーおよびマルチインフォメーションディスプレイの表示により注意をうながします。

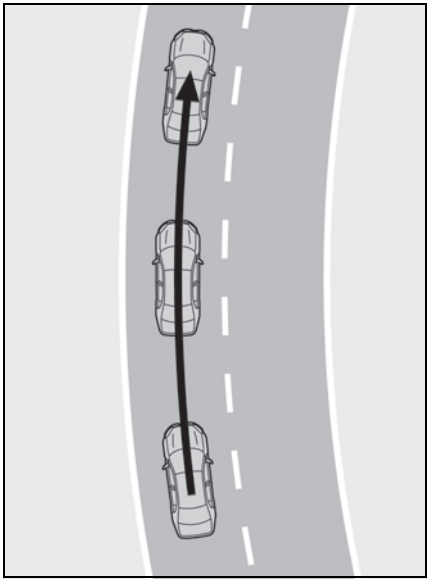


■ 車線維持支援機能

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）と連携し、現在の車線内を走行するために必要なハンドル操作の一部を、システムが支援します。

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が作動していないときは、車線維持支援機能は作動しません。

渋滞のときなど白（黄）線が見えにくい、または見えない場合、先行車の軌跡を利用して先行車に追従する支援を行います。



設定のしかた

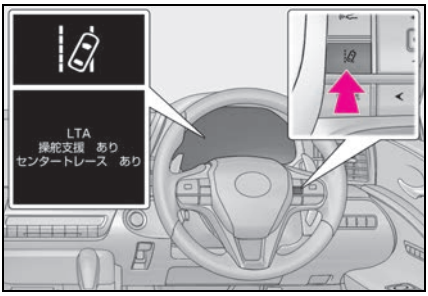
LTA を ON にするには LTA スイッチを押す

LTA 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

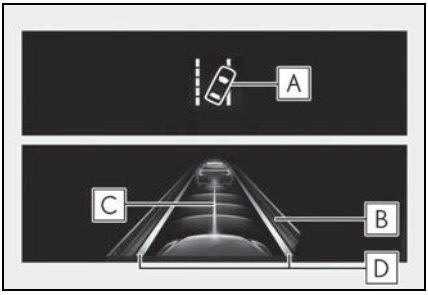
OFF にするには、再度スイッチを押します。

いったん LTA を ON ／ OFF すると、次

回エンジン<ハイブリッドシステム>を始動したときにも、そのままの状態が続きます。



マルチインフォメーションディスプレイ表示



A LTA 表示灯

表示灯の点灯状態で、システムの作動状況をお知らせします。

白色に点灯：車線逸脱監視中

緑色に点灯：車線逸脱抑制機能、または車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中

橙色に点滅：車線逸脱警報中

B ハンドル操舵支援の作動表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報に切りかえると表示されます。

車線逸脱抑制機能、または車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中であることを示しています。

両側点灯：車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中

片側点灯：車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援が作動中

両側点滅：車線維持支援機能の注意喚起が作動中

C 先行車追従表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報に切りかえると表示されます。

車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中（先行車に追従中）であることを示しています。

先行車の動きに合わせて自車も同じ動きをする場合があります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。

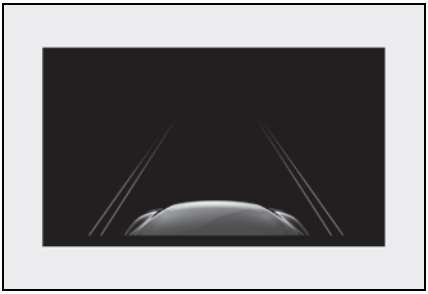
D 車線逸脱警報機能表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報に切りかえると表示されます。

▶ 白線表示の内側が白いとき

システムが白（黄）線または走路※を認識していることを示しています。車両が車線から逸脱した場合、逸脱している側の白線表示が橙色で点滅します。

▶ 白線表示の内側が黒いとき



システムが白（黄）線または走路※を認識できていない、またはシステムが一時的に解除されていることを示しています。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

知識

■各機能の作動条件

●車線逸脱警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・ LTA を ON にしているとき
・ 車速が約 50km/h 以上のとき※1
・ システムが白（黄）線または走路※2を認識しているとき（白 [黄] 線または走路※2が片側しかないとき、認識している方向のみ作動します）
・ 車線の幅が約 3m 以上のとき
・ 方向指示レバーを操作していないとき
・ 急カーブを走行していないとき
・ システムの異常が検知されていないとき（→P.243）

※1車線維持支援機能が作動中は約 50km/h 以下でも作動します。

※2アスファルトと草・土・縁石等の境界

●車線逸脱抑制機能

車線逸脱警報機能の作動条件に加えて、次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・ 一定以上の加減速がないとき
・ 車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
・ ABS・VSC・TRC・PCS が作動していないとき
・ TRC または VSC を OFF にしていないとき

●ふらつき警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・ マルチインフォメーションディスプレイの⚙で“ふらつき検知”を“有”に設定しているとき（→P.104）
・ 車速が約 50km/h 以上のとき
・ 車線の幅が約 3m 以上のとき
・ システムの異常が検知されていないとき（→P.243）

●車線維持支援機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・ LTA を ON にしているとき
・ マルチインフォメーションディスプレイの⚙で“センタートレース制御”を“有”に設定しているとき（→P.104）
・ システムが白（黄）線を認識しているとき、または先行車の軌跡を認識しているとき（先行車が二輪車の場合を除く）
・ レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が車間制御モードで作動しているとき
・ 車線の幅が約 3 ～ 4m のとき
・ 方向指示レバーを操作していないとき
・ 急カーブを走行していないとき
・ システムの異常が検知されていないとき（→P.243）
・ 一定以上の加減速がないとき
・ 車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
・ ABS・VSC・TRC・PCS が作動していないとき

・TRC または VSC を OFF にしていないとき
・手放し運転に対する注意喚起（→P.242）が行われていないとき
・車線中央付近を走行しているとき
・車線逸脱抑制機能が作動していないとき

■機能の一時解除

●作動条件（→P.241）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

●車線維持支援機能作動中に、作動条件（→P.241）が満たされなくなった場合、“ピピッ”とブザー音で、一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。

■車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能について

●車速や車線の逸脱状況・路面状況などにより、車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能の作動を感じなかったり、車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能が作動しなかったりすることがあります。

●これらの各機能によるステアリング制御は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

●車線逸脱抑制機能の作動テストを行わないでください。

■車線逸脱警報機能について

●外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。

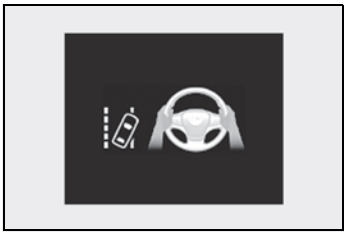
●走路※がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は走路逸脱に対する警報・制御が作動しない場合があります。

●車線逸脱警報機能の作動テストを行わないでください。

※アスファルトと草・土・縁石等の境界

■手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。



●車線維持支援機能作動中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに操作しない状態が続くとブザーが鳴り、注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。

●車線維持支援機能作動中にカーブを曲がりきれず車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断したとき

車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。

●車線逸脱抑制機能による車線逸脱を避けるためのハンドル操舵支援中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに、操作しない状態が続きハンドル操舵支援が行われると、ブザーが鳴り注意喚起が行われます。ハンドル操舵支援の回数が増えるごとに、ブザーの継続時間が長くなります。

■ふらつき警報機能について

システムの作動中に、車両がふらついて走行しているとシステムが判断したとき、ブザーと同時にマルチインフォメーションディスプレイに休憩をうながすメッセージと図で示すシンボルで注意喚起を行います。

車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。

■警告メッセージ

次のメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示され、LTA 表示灯が橙色で点灯した場合は、対処方法に従って適切に対処してください。また、その他の警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

● “LTA 故障　販売店で点検してください ”

システムが正常に作動しなくなっているおそれがあります。
レクサス販売店で点検を受けてください。

● “LTA 現在利用できません ”

前方カメラ以外のセンサーの異常によりシステムが一時停止しています。いったん LTA を OFF にして、しばらくしてから再度、LTA を ON にしてください。

● “LTA 現在の車速では使用できません ”

車速が LTA の作動可能範囲をこえたため、使用できません。車速を落として走行してください。

■カスタマイズ機能

機能の設定を変更することができます。

（カスタマイズ一覧：→P.448）

RSA（ロードサインアシスト）

前方カメラまたはナビゲーションシステム（情報を取得した場合）を使って特定の道路標識を認識し、ディスプレイ表示によって道路標識の情報を運転者にお知らせします。

認識した道路標識の制限速度に対し、運転者が制限速度を超過して走行、または禁止行為を行っている等とシステムが判断した場合に、告知表示およびブザー音で運転者に告知します。

警告

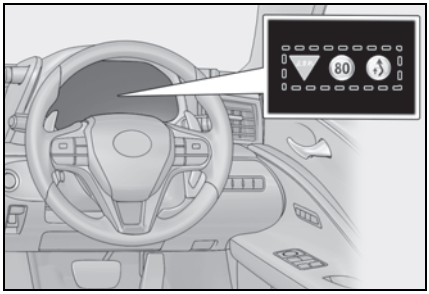
■RSA をお使いになる前に

RSA は、道路標識の情報を知らせることで運転者を支援しますが、運転者自身の確認や認識を代行するものではありません。安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

マルチインフォメーションディスプレイ表示

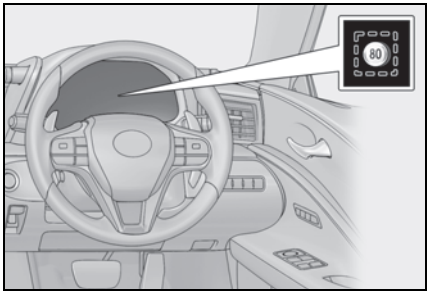
前方カメラまたはナビゲーションシステム（情報を取得した場合）によって標識を認識すると、マルチインフォメーションディスプレイに表示します。

● 運転支援機能情報を選択したときは、最大 3 つの標識を表示できます。（→P.104）



● 運転支援機能情報以外を選択したときは、次のいずれかの標識が表示されます。

- 最高速度標識
- 車両進入禁止標識（告知時のみ）



速度制限標識以外を認識した場合、速度標識の重複表示にてお知らせします。

認識される道路標識の種類

電光標識も含めて、次の種類の道路標識を認識します。

ただし、規定外の標識、新しく導入された標識は認識されない場合があります。

：最高速度

：車両進入禁止

：一時停止

：はみ出し通行禁止

：終わり ※

※ マルチインフォメーションディスプレイに、表示されません。

告知機能

次の状況では、システムが告知表示で運転者に告知します。

- 自車の車速がマルチインフォメーションディスプレイに表示されている制限速度より、一定の速度を超過すると、最高速度標識の強調やブザーの吹鳴をします。
- システムが進入禁止の標識を認識し、自車が進入禁止区域に進入したと判定したときには、マルチインフォメーションディスプレイに表示される車両進入禁止標識の点滅やブザーの吹鳴をします。
- はみ出し通行禁止標識がマルチインフォメーションディスプレイに表示されているときに、自車の追い越しを検出すると、はみ出し通行禁止標識の点滅やブザーの吹鳴をします。

状況によっては、告知表示が正常に作動しない場合があります。

知識

■設定のしかた

1 メーター操作スイッチの < または > を押して ⚙ を選択する

2 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して “車両設定” を選択し、“OK” を押す

3 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して を選択し、“OK” を押す

4 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して “RSA” を選択し、“OK” を押す

■RSA 標識表示

次の状況では、最高速度・はみ出し通行禁止・車両進入禁止の標識表示が消えます。

- 一定の距離を走行中、新しい標識が認識されないとき
- 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき
- 終わり標識の下に対象標識を認識したとき

次の状況では、一時停止の標識表示が消えます。

- 標識を通過したとシステムが判定したとき
- 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、システムが正常に標識を認識できず、正しい標識の表示がされない場合があります。

- 前方カメラやセンサー周辺への強い衝

撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき

- 汚れ・雪・ステッカー等がフロントウインドウの前方カメラの近くにあるとき
- 悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
- 強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラに直接あたっているとき
- 標識に汚れ・色あせ・傾きや曲がりがあるとき
- 電光標識のコントラストが低いとき
- 標識の全体または一部が、木・電柱などで隠れているとき
- 前方カメラが標識を認識する時間が短いとき
- 運転の状況（曲がる・車線変更等）が誤って判断されたとき
- 標識が高速道路の分岐した直後、または合流直前の隣の車線にあるとき
- 先行車の後部分にステッカーが貼ってあるとき
- システムが対応している標識と類似した標識が認識されたとき
- 側道の速度標識が前方カメラの認識範囲内に入ったとき
- ロータリー（環状交差路）を走行しているとき
- 重い荷物を積むなど車両が傾いているとき
- 十分な光がなかったり、明るさが急激に変化したりしたとき
- トラックなどの車両を対象にした標識を認識したとき
- ナビゲーションシステムの地図情報が古いとき
- ナビゲーションシステムを利用できないとき
- マルチインフォメーションディスプレイとナビゲーションシステムに表示される最高速度標識が異なる場合があります。

■速度制限標識表示

マルチインフォメーションディスプレイに最高速度標識が表示されているときに、エンジンスイッチ<パワースイッチ>をOFFにすると、次回エンジンスイッチ<パワースイッチ>をONにしたときには再度同じ標識が表示されます。

■マルチインフォメーションディスプレイに“RSA故障　販売店で点検してください”が表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

一部の機能は、設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.449）

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行い、自動的に加速・減速・停止をします。定速制御モードでは、一定の車速で走行できます。

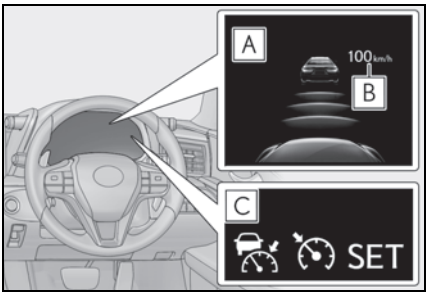
通信利用型レーダークルーズコントロールは ITS Connect を装備している車両のみ使用できます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

- 車間制御モード（→P.249）
- 定速制御モード（→P.253）
- 通信利用型レーダークルーズコントロール（ITS Connect 装着車のみ）（→P.265）

システムの構成部品

■ メーター表示

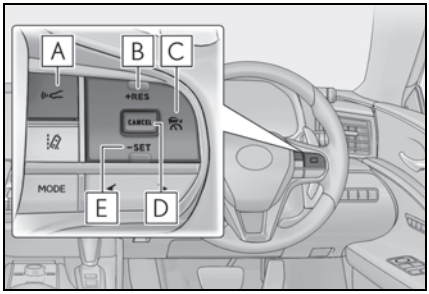


A マルチインフォメーションディスプレイ

B 設定速度

C 表示灯

■ 操作スイッチ



A 車間距離切りかえスイッチ

B “+RES” スイッチ

C クルーズコントロールメインスイッチ

D キャンセルスイッチ

E “-SET” スイッチ

警告

■安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。
  次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。
  - センサーが正しく検知しないおそれのある先行車：→P.256
  - 車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況：→P.257

警告

- 設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。
- システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使わないときはクルーズコントロールメインスイッチでシステムを OFF にしてください。

■システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。
システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者が見る過程での支援内容
  レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。
  運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。
- 運転者が判断する過程での支援内容
  レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。
- 運転者が操作する過程での支援内容
  レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

■レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用してはいけない状況

次の状況では、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 歩行者や自転車等が混在している道
- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
  急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。
- 高速道路や自動車専用道路の出入り口
- センサーが正しく検知できないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）

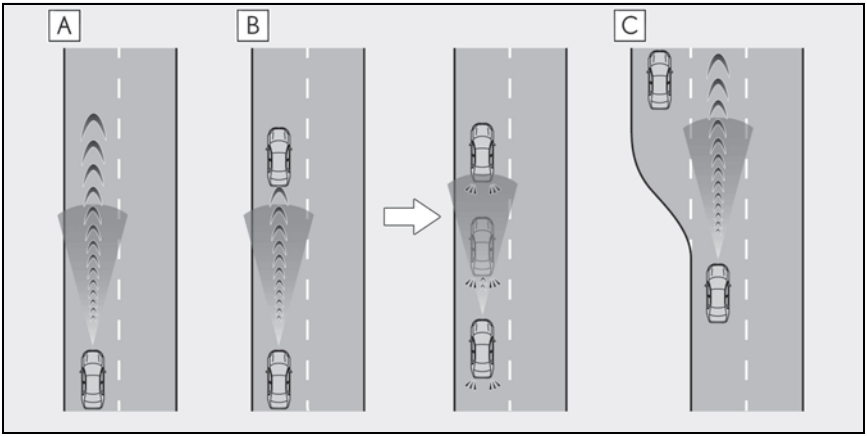
警告

- レーダー前面または、前方カメラ前面に雨滴や雪などが付着しているとき
- ひんぱんに加速・減速をくり返すような交通状況のとき
- 車両けん引時
- 接近警報がひんぱんに鳴るとき

車間制御モードでの走行

車間制御モードでは、レーダーにより車両前方約 100m 以内の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

下り坂を走行しているときは、車間距離が短くなることがあります。



A 定速走行：
　先行車がいないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。

B 減速走行一追従走行：
　設定した速度より、遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

先行車が停止したときは、続いて停止します（制御停車）。先行車の発進後、“+RES” スイッチを押すか、アクセルペダルを踏むと追従走行にもどります（発進操作）。自車が発進操作を行わなかった場合は、制御停車を続けます。

約 80km/h 以上で走行中に追い越し車線側へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して設定速度まで加速することで、追い越しを支援します。

C 加速走行：

設定した速度より、遅い先行車がいなくなったとき

設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

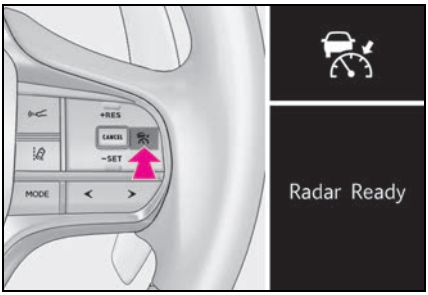
速度を設定する（車間制御モード）

1 クルーズコントロールメインスイッチを押して、システムを ON にする

レーダークルーズコントロール表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

OFF にするには再度スイッチを押します。

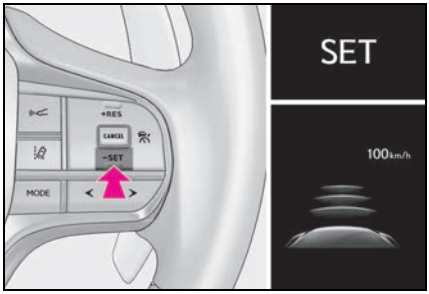
クルーズコントロールメインスイッチを 1.5 秒以上押し続けると定速制御モードでシステムが ON します。（→P.253）



2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、“-SET” スイッチを押して速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

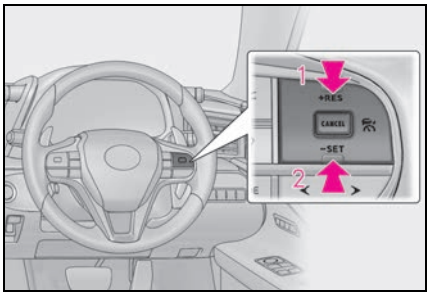
スイッチを離したときの車速で定速走行できます。



設定速度をかえる

● スイッチで設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまで “+RES” スイッチまたは “-SET” スイッチを押します。



1 速度を上げる（車間制御モードの制御停車中は除く）

2 速度を下げる

微調整：スイッチを押す

大幅調整：スイッチを押し続けて速度をかえ、希望の速度で手を離す

車間制御モードでは、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：スイッチを押すごとに 1km/h

大幅調整：スイッチを押し続けているあいだ、5km/h ずつ

定速制御モード（→P.253）では、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：スイッチを押すごとに 1km/h

大幅調整：スイッチを押し続けているあいだ連続して変化

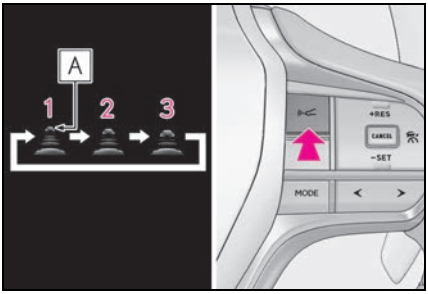
● アクセルペダルで設定速度を上げる

1 設定したい車速になるまで、アクセルペダルを踏んで加速する

2 “-SET” スイッチを押す

車間距離を変更する（車間制御モード）

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。



1 長い

2 中間

3 短い

先行車がいる場合、先行車マーク A も表示されます。

車間距離選択の目安（車間制御モード）

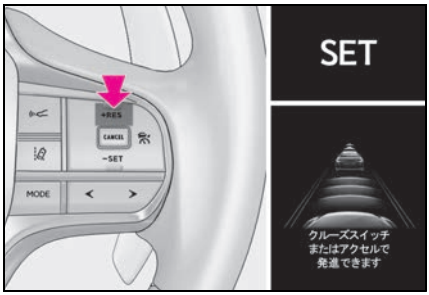
次の目安を参考に車間距離を選択してください。
（車速 80km/h で走行している場合）
なお、車速に応じて車間距離は増減します。また、制御停車時は設定にかかわらず状況に応じた車間距離で停車します。

車間距離選択	車間距離
長い	約 50m
中間	約 40m
短い	約 30m

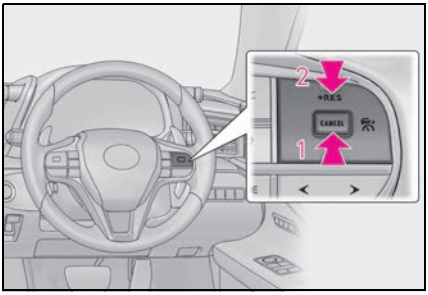
制御停車から追従走行に復帰させる（車間制御モード）

先行車の発進後、“+RES” スイッチを押す

先行車の発進後にアクセルペダルを踏んでも追従走行に復帰します。



制御を解除する・復帰させる



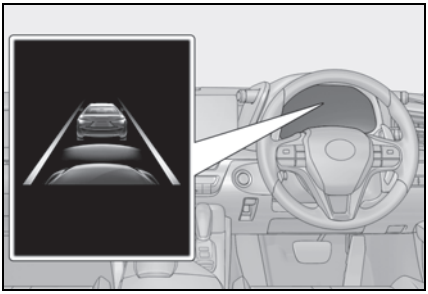
1 制御を解除するには、キャンセルスイッチを押す

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。（車間制御モードの制御停車中は、ブレーキペダルを踏んでも解除されません）

2 制御を復帰させるには、“+RES” スイッチを押す

接近警報（車間制御モード）

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。



■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルを踏んだとき

カーブ速度抑制機能

車間制御モードでの走行中、システムが必要と判断したときに車速を抑制します。

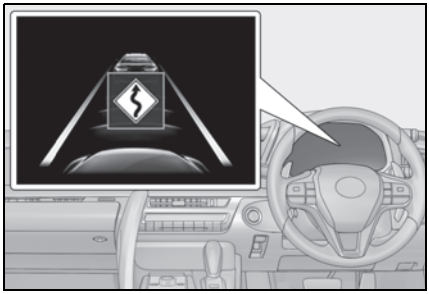
■ システム作動について

ハンドルをまわし始めると、車速の抑制を開始します。その後、ハンドルを戻すと車速の抑制が終了します。

状況に応じて車間制御モードの設定速度まで復帰します。

先行車に割り込まれる等で、追従走行が優先された場合も車速抑制は終了します。

■ システム作動時の表示



車速抑制中であることを示しています。

車速の抑制が終了すると、表示が消灯します。

■ **カーブ速度抑制機能の設定を変更する**

マルチインフォメーションディスプレイの⚙(→P.104）から、カーブ速度抑制機能の速度抑制の強弱や、ON ／ OFF を切りかえることができます。

“OK” を押すごとに設定が切りかわります。

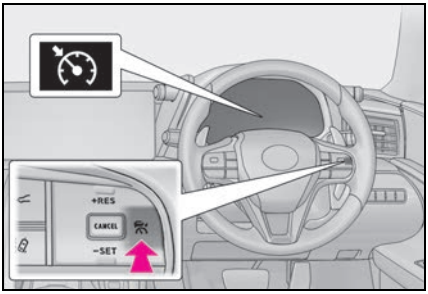
定速制御モードでの走行

定速制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行わず、一定の車速で走行します。レーダーの汚れなどにより、車間制御モードで走行できない場合のみご使用ください。

1 クルーズコントロールが OFF の状態で、クルーズコントロールメインスイッチを 1.5 秒以上押し続ける

クルーズコントロールメインスイッチを押した直後は、レーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。その後、クルーズコントロール表示灯に切りかわります。

システムが OFF の状態から操作したときのみ、定速制御モードへの切りかえが可能です。



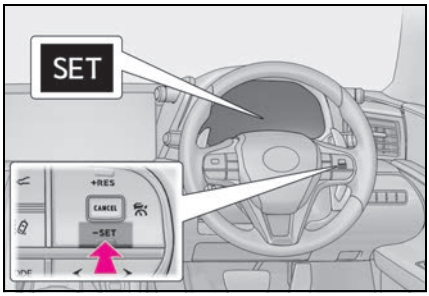
2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、“-SET” スイッチを押して速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

スイッチを離したときの車速で定速走行できます。

設定速度をかえる
→P.250

制御を解除する・復帰させる
→P.252



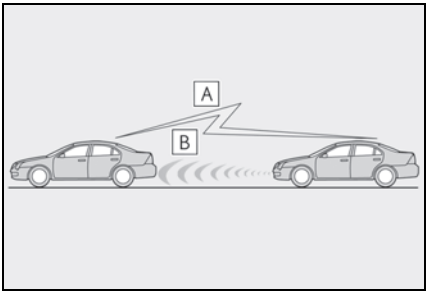
通信利用型レーダークルーズコントロール

通信利用型レーダークルーズコントロールは、ITS Connect が装着されている車両のみ利用できます。

ITS Connect については P.265 を参照してください。

このシステムは車間制御モードでの追従走行中、先行車も通信利用型レーダークルーズコントロールに対応している場合に自動的に作動します。

■ 情報取得



A 先行車との通信

加減速情報などを取得します。

B レーダー

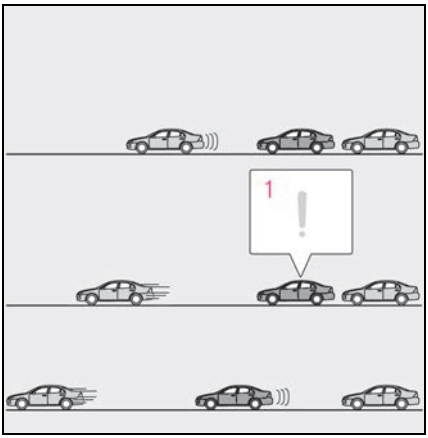
車間距離情報などを取得します。

■ システム作動について

先行車の加減速の情報を通信で取得することにより、先行車の加減速に素早く追従して車間距離や速度の変動を抑制し、スムーズな追従走行に寄与します。また、先行車が認識できなくなった場合は自動的に車間制御モードに切りかわります。

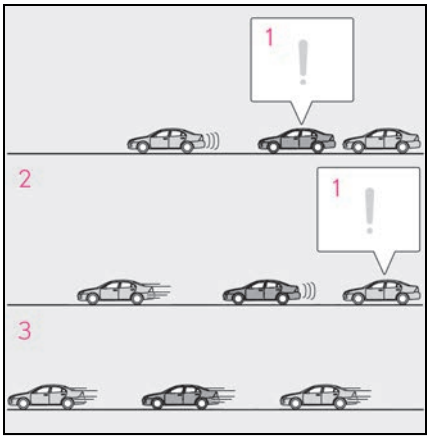
車間制御モードに比べて、次のような作動になります。

● 車間制御モード



1 先行車の発進に遅れて気づく

● 通信利用型レーダークルーズコントロール



1 先行車の発進に素早く気づく

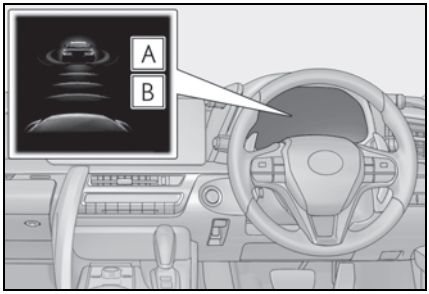
2 スムーズな加速で追従

3 短時間で渋滞解消

■ 通信利用型レーダークルーズコントロールの ON ／ OFF を変更する

マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ (→P.104) から、通信利用型クルーズコントロールの ON（作動）／ OFF（非作動）を変更することができます。

■ システム作動時の表示



A 先行車通信マーク

B 車間距離表示

■ 通信利用型レーダークルーズコントロールの作動目安

レーダークルーズコントロールの車間距離設定に応じて、本機能の作動レベルがかわります。（→P.251）

車間距離設定	作動目安
長い	ゆったりとした加減速による追従走行
中間	中間の追従走行
短い	きびきびとした加減速による追従走行

知識

■設定条件について

●シフトポジションがDのとき設定できます。

●車速が約 30km/h 以上のとき、希望の設定速度に設定できます。
（ただし車速が約 30km/h 未満で設定したときは、設定速度が約 30km/h に設定されます）

■車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■追従走行中の停車制御について

●制御停車中に“+RES”スイッチを押した場合、約 3 秒以内に先行車が発進すれば追従走行にもどります。

●先行車に続いて停車したあと約3秒以内に先行車が発進した場合、追従走行にもどります。

■車間制御モードの自動解除

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。

●VSC が作動したとき

●TRC が一定時間作動したとき

●TRC または VSC を OFF にしたとき

●センサーが何かでふさがれて正しく検知できないとき

●運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき
（例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）

●パーキングブレーキが作動したとき

●急坂路で制御停車したとき

●制御停車中に次を検出したとき
・運転席シートベルトを着用していない
・運転席ドアが開いた
・車両が停止したあと約 3 分経過した

上記以外の理由で車間制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。レクサス販売店にご相談ください。

■定速制御モードの自動解除

次のとき、自動的に定速制御モードが解除されます。

●設定速度より車速が約16km/h以上低下したとき

●車速が約 30km/h 未満になったとき

●VSC が作動したとき

●TRC が一定時間作動したとき

●TRC または VSC を OFF にしたとき

●運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき
（例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）

●パーキングブレーキが作動したとき

上記以外の理由で定速制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。レクサス販売店にご相談ください。

■カーブ速度抑制機能が作動しないおそれがある状況

次のような状況では、カーブ速度抑制機能が作動しない場合があります。

●緩やかなカーブを走行しているとき

●アクセルペダルを操作しているとき

●極端に短いカーブを走行しているとき

■通信利用型レーダークルーズコントロールについて

●本機能によって、車間制御モードの速度や車間距離設定が変更されることはありません。

●先行車が通信利用型レーダークルーズコントロールに対応していないときは、本機能は作動しません。

●先行車や周囲の車両の走行状態によっては、スムーズな追従走行が行われない場合や、自車の速度や先行車との車間距離に影響がおよぶ場合があります。必要に応じてブレーキ・アクセルを操作してください。

■通信利用型レーダークルーズコントロールが作動しないおそれがある状況

次のような状況では、通信利用型レーダークルーズコントロールが作動しない、または通信利用型レーダークルーズコントロールから車間制御モードに切りかわる場合があります。

●先行車との通信が途絶したとき

●センサーが先行車を誤って検知したとき

●トンネルやビル街などで、自車または先行車の GPS 受信状態や通信状態が悪化しているとき

●雪道などスリップしやすい路面を走行しているとき

●急な坂道を走行しているとき

●追従していた先行車が車線変更などで離脱したとき

●通信していた先行車とのあいだに、通信利用型レーダークルーズコントロールに対応していない車両が割りこんできたとき

■ブレーキが作動したとき

ブレーキの作動音が聞こえたり、ブレーキペダルの踏み応えがかわったりすることがありますが異常ではありません。

■レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。（→P.223，391）

■センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

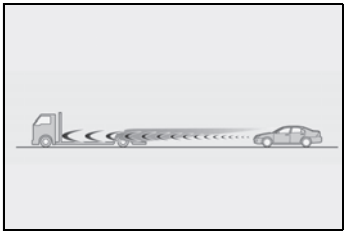
次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。
センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→P.252）も作動しないおそれがあります。

●先行車が急に割り込んできたとき

●先行車が低速で走行中のとき

●同じ車線に停車中の車がいるとき

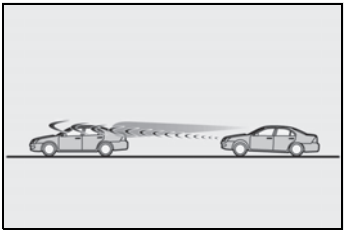
●先行車の後部分が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）



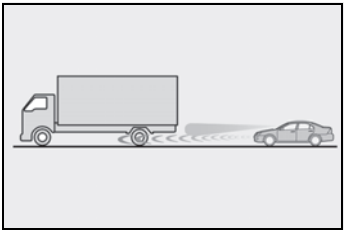
●同じ車線を二輪車が走行中のとき

●周囲の車より水や雪がまき散らされ、レーダーの検知のさまたげになる場合

●自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）



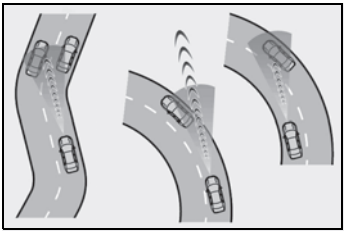
●先行車の車高が極端に高いとき



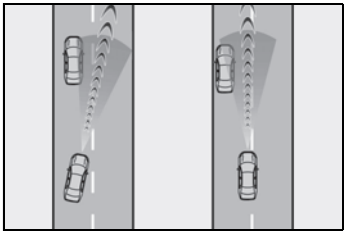
■**車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況**

次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってアクセルペダルを操作）してください。
センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

●カーブや車線幅が狭い道路などを走行する場合



●ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合



●先行車が急ブレーキをかけた場合

●道路脇に構造物がある道（トンネル・橋など）を走行する場合

●アクセルペダルを踏んで加速したあと、車速が設定速度にもどるとき

■**カーブ速度抑制機能が正しく作動しないおそれのある状況**

次のような状況では、カーブ速度抑制機能が正しく作動しない場合があります。

●上り坂、または下り坂のカーブを走行しているとき

●カーブの形状とは異なる経路で走行しているとき

●カーブへの進入速度が過度に高いとき

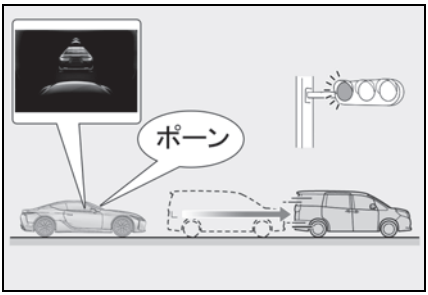
●急なハンドル操作を行ったとき

先行車発進告知機能

先行車の発進後、自車が停止し続けた場合、警告ブザーとマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせする機能です。

先行車発進告知機能

前の車に続いて停止しているときに先行車を認識し続け、先行車が発進してしばらく進んでも自車が停止し続けた場合にお知らせします。



知識

■作動条件

次のいずれかの条件を満たしたときに作動します。

- シフトポジションがP・R以外でブレーキペダルを踏んで、停止している、またはシフトポジションがNで停止しているとき
- ブレーキホールドが作動中のとき
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が作動していて、制御停車中のとき

■先行車が発進していても告知しない場合があるとき

例えば次のような状況では、前方カメラとレーダーが対象を検出できず、システムが正常に作動しない場合があります。

- 自車と先行車の停止位置がずれており、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなり、先行車を正しく認識できないとき
- 坂道やカーブなどにより、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車の背面形状（けん引をしている車両や荷物を積んでいないトレーラー、雪や泥などが大量に付着している車両など）やボデーカラーなどにより、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車がオートバイ・自転車などのとき
- 先行車の右左折や車線変更などにより、先行車を認識できなくなったとき
- 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）・煙・水蒸気などにより、先行車を認識できないとき
- 前方カメラとレーダー前面に雨滴、雪などが付着し、先行車を正しく認識できないとき
- 前方カメラとレーダー周辺への強い衝撃などにより、前方カメラとレーダーの向きがずれ、先行車を正しく認識できないとき
- プリクラッシュセーフティが一時的に使用できないときや、故障などによりPCS警告灯が点滅または点灯しているとき
- 右左折や車線変更などのために、ハンドルを大きくまわしたとき

■先行車が発進していなくても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、先行車が発進したと判断し、システムが作動する場合があります。

- 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）により、先行車の発進を誤認識したとき

●坂道やカーブなどにより、先行車ではないものを先行車と認識しているとき

●前方カメラとレーダー周辺への強い衝撃などにより、前方カメラとレーダーの向きがずれ、先行車ではないものを先行車と認識しているとき

●先行車がいない状態での停止時に、交差点の先にいる車両や自車の正面を横切る車両などを先行車として認識したとき

●自車と先行車とのあいだに、ほかの車両が割り込んだり通過したりしたとき

■**先行車発進告知機能の設定を変更するには**

●先行車発進告知機能の ON ／ OFF

システムの ON ／ OFF を切りかえることができます。（→P.104）

1 メーター操作スイッチの ＜ または ＞ を押して ⚙ を選択する

2 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して “ 車両設定 ” を選択し、“OK” を押す

3 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して “ 先行車発進告知 ” を選択し、“OK” を押す

4 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して “ 先行車発進告知 ” を選択し、“OK” を押す

●先行車発進告知機能の告知距離

告知する距離を切りかえることができます。（→P.104）

1 メーター操作スイッチの ＜ または ＞ を押して ⚙ を選択する

2 ∧ または ∨ を押して “ 車両設定 ” を選択し、“OK” を押す

3 ∧ または ∨ を押して “ 先行車発進告知 ” を選択し、“OK” を押す

4 ∧ または ∨ を押して “ 告知タイミング ” を選択し、“OK” を押す

ドライバー異常時対応システム

ドライバー異常時対応システムは、自動車専用道路（一部除く）を走行中の運転者が、急病などにより運転の継続が困難になった場合に、自動的に自車線内で自車を減速、停車させるシステムです。

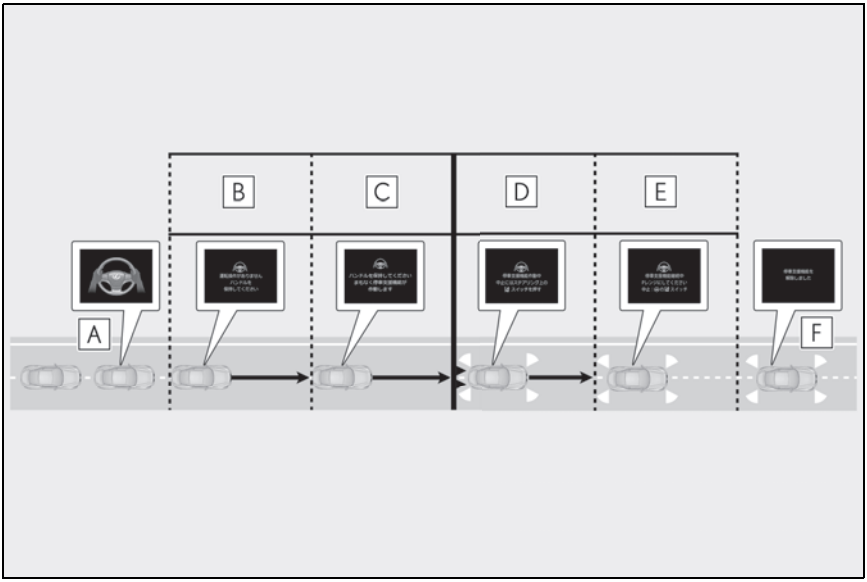
LTA（レーントレーシングアシスト）制御中に、手放しなどの無操作運転状態からシステムが運転者が異常状態であると判断すると、周囲に警告を行いながら自車線内で減速、停車し、衝突事故の回避・衝突被害の低減に寄与します。

ドア解錠やヘルプネット※ 自動接続による運転者の救命要請も行います。

※ 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

システム概要

本システムは 4 つの状態に分けられます。B「警告 1 状態」、C「警告 2 状態」で運転者への注意喚起や速度抑制を実施しながら、運転者の正常 / 異常判定を行います。システムが、運転者が異常状態であると判断した場合には D「減速停止制御」、E「停止保持」で自車を減速、停車させ、E「停止保持」を継続します。



A 手放し運転警告（→P.242）

B「警告 1 状態」

C「警告 2 状態」

D「減速停止制御」

E「停止保持」

F 制御解除

警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。ドライバー異常時対応システムは、運転者が急病などにより運転の継続が困難になった場合を対象とするシステムであり、居眠り運転や注意散漫な運転、体調が悪い場合の運転を対象とするものではありません。

●ドライバー異常時対応システムは、システムが運転者による運転の継続が困難と判断した場合に、自車線内で減速、停車を行うことで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。また、作動には条件があり、作動条件を満たさない場合は作動しません。

●お客様自身でドライバー異常時対応システムの作動テストを行わないでください。状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ヘルプネット自動接続は、G-Link 通信エリア内、かつ G-Link 契約がされている場合にのみ行われます。G-Link 通信エリア外や G-Link 未契約、G-Link 契約が未更新の場合は接続が行われず、警察・救急への通報が行われません。あらかじめ通信エリアとご自身の G-Link 契約をご確認の上、システムをご利用ください。

●システム作動後、異常から復帰できた場合には、速やかに運転を再開するか、路肩へ避難し、停止表示板・停止表示灯および発煙筒を設置して後続車両に停車していることをお知らせください。(→P.372)

●システム作動後、同乗者は運転者への救護措置をはじめとした必要な危険防止措置をとり、路側帯やガードレールの外側などの安全な場所にすみやかに退避してください。

●本システムは運転者の異常をハンドルの操作状態などで判断しています。正常な運転者が意図的に無操作を続けた場合には、システムが作動することがあります。また、運転者が異常状態であっても、ハンドルにもたれかかるなどシステムが手放し運転と判断できない場合は、システムが作動しないことがあります。

知識

■システムの作動条件

次の条件をすべて満たすと作動します。

●車速と前方カメラによって自動車専用道路と認識しているとき

システムが誤って一般道を自動車専用道路と認識する場合があります。

●LTA スイッチを ON し、LTA 制御中

●レーダークルーズコントロールメインスイッチを ON し、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）制御中

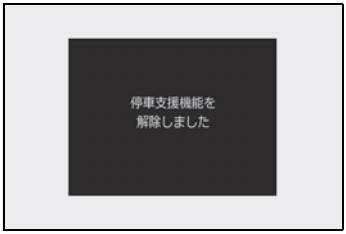
●自車速が約 50km/h 以上

■システムの作動解除条件

●B「警告 1 状態」、C「警告 2 状態」、D「減速停止制御」作動時、次のいずれかの条件を満たすとシステムの作動が解除されます。

・LTA 制御がキャンセルされたとき（LTA スイッチを押した場合など）
・レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）制御がキャンセルされたとき（レーダークルーズコントロールメインスイッチを押した場合など）
・手放し運転を終了したとき（ハンドルを握る、ハンドルに手や体が触れるなど）
・自車が一般道を走行しているとシステムが判断したとき
・運転者がブレーキ操作をしたとき
・運転者がアクセル操作をしたとき
・ブレーキ異常検出時
・方向指示レバーを操作したとき

●E「停止保持」中、次のいずれかの条件を満たすとシステムの作動が解除されます。



・シフトポジションを P にした状態で LTA スイッチを押したとき
・エンジンスイッチ<パワースイッチ>を ON から OFF にしたとき
・ブレーキ異常検出時

■システム作動解除時の LTA 制御

下記の条件でシステム作動が解除された場合、LTA 制御がキャンセルされます。

LTA を再度使用する場合は、LTA スイッチを押し LTA 制御を ON にしてください。

●B「警告 1 状態」において、LTA スイッチを押しシステム作動を解除したとき

●C「警告 2 状態」、D「減速停止制御」において、システム作動を解除したとき

●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）制御がキャンセルされたとき（レーダークルーズコントロールメインスイッチを押した場合など）

●手放し運転を終了したとき（ハンドルを握る、ハンドルに手や体が触れるなど）（C「警告 2 状態」および D「減速停止制御」のみ）

●運転者がブレーキ操作をしたとき

●運転者がアクセル操作をしたとき

●方向指示レバーを操作したとき

■警告メッセージ

LTA システムに異常が発生した場合や、

一時使用不可となった場合、警告メッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示され、ドライバー異常時対応システムが使用できなくなります。(→P.243)

■ **ドライバー異常時対応システムの留意事項**

- ヘルプネット通話中は、音声が聞き取りやすいようブザー吹鳴を中止します。
- LTA 制御が継続できない場合は、システムがキャンセルされます。

B 「警告 1 状態」

手放し運転警告がされてからも運転操作がない場合、ブザー吹鳴(「ピッ、ピッ、・・・」)とマルチインフォメーションディスプレイ表示により注意喚起を行い、運転者の正常／異常判定を行います。レーダークルーズコントロール(全車速追従機能付き)および LTA による制御が継続され、警告を継続してもハンドル保持などの運転者による操作がされなかった場合、C「警告 2 状態」に移行します。

C 「警告 2 状態」

ブザー吹鳴(「ピッピッピッピッ・・・」)とマルチインフォメーションディスプレイ表示により注意喚起を行い、引き続き運転者の正常／異常判定を行います。このとき、ブザーを聞き取りやすくするために、オーディオがミュート(消音)※ されます。LTA 制御は継続され、緩やかな減速度で車速を一定速度内(約 40km/h ～ 50km/h の間)まで減速させます。この状態で、約 30 秒以上警告を継続してもハンドル保持などの運転者による操作がされなかった場合には、システムが運転者が異常状態であると判断し、D「減速停止制御」に移行します。

※ 異常状態から復帰するまで継続します。

知識

■ **非常点滅灯(ハザードランプ)について**

C「警告 2 状態」移行後に、約 10km/h 程度減速した場合、非常点滅灯(ハザードランプ)が点滅します。すでに運転者がハザードスイッチを操作していた場合は、システムによる非常点滅灯の点滅は行われません。また、ハザードスイッチを 2 回押すと、非常点滅灯が消灯されます。

D 「減速停止制御」

本制御では運転者が異常状態にあると判断し、緩やかな減速度で車両を

停車させます。車内ではブザー吹鳴（「ピッピッピッピッ・・・」）とマルチインフォメーションディスプレイ表示で運転者に状況を知らせ、車外ではストップランプ、非常点滅灯（ハザードランプ）とホーン吹鳴によって周囲に緊急事態を知らせます。

車両が停車するとE「停止保持」に移行します。

知識

■**非常点滅灯（ハザードランプ）について**

D「減速停止制御」においては、非常点滅灯（ハザードランプ）が点滅します。すでに運転者がハザードスイッチを操作していた場合は、システムによる非常点滅灯の点滅は行われません。また、ハザードスイッチを 2 回押すと、非常点滅灯が消灯されます。

E 「停止保持」

車両停車後、停止保持制御により車両停車状態を保持します。ストップランプは消灯しますが、引き続き、非常点滅灯（ハザードランプ）とホーン吹鳴によって周囲に緊急事態を知らせ、ドア解錠やヘルプネット自動接続による運転者の救命・救護要請を行います。

知識

■**非常点滅灯（ハザードランプ）について**

E「停止保持」においては、非常点滅灯（ハザードランプ）が点滅します。すでに運転者がハザードスイッチを操作していた場合は、システムによる非常点滅灯の点滅は行われません。

■**ヘルプネット自動接続について**

ヘルプネット自動接続後、ヘルプネットのオペレーターからの声掛けに対して車内からの応答がない場合、救命・救護のために救急や警察へ通報を行います。

ヘルプネット通話中は音声が聞き取りやすいよう、ブザー吹鳴を停止します。

■**非常点滅灯（ハザードランプ）について（制御解除後）**

システムの作動が終了しても、非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅は継続します。ハザードスイッチを 2 回押すと、非常点滅灯が消灯します。

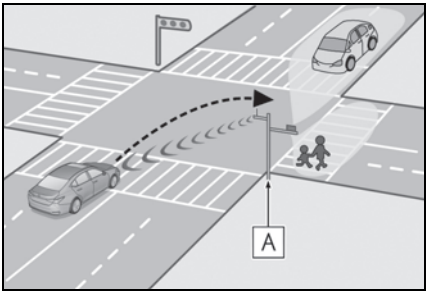
ITS Connect

ITS Connect は、交通情報や周辺車両の情報を受信することにより、安全運転や快適な運転を支援するシステムです。

ITS Connect の概要

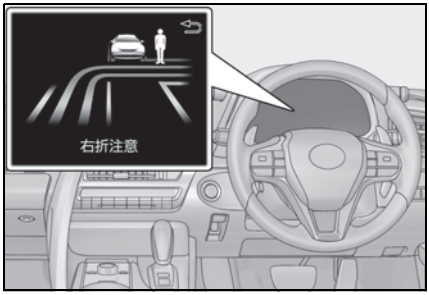
■ 安全運転を支援する通知・案内・注意喚起

ITS Connect は、道路に設置された DSSS※ 用路側装置や通信機を搭載した車両と無線通信することで、見通しが悪い交差点の交通状況などの情報を受信します。



A 路側装置

受信した情報は、状況に応じて通知・案内や注意喚起としてマルチインフォメーションディスプレイなどに表示され、運転者に注意を促すことにより安全運転を支援します。



※ DSSS（Driving Safety Support Systems）とは、運転者の認知・判断の遅れや誤りによる交通事故を未然に防止することを目的とするシステムで、警察庁が推進しているプロジェクトです。

■ 通信利用型レーダークルーズコントロール

先行車との通信により受信した加速／減速情報をレーダークルーズコントロールの制御に利用し、よりスムーズな追従走行に寄与することで快適な運転を支援します。詳細はP.253 を参照してください。

知識

■ITS Connect 機器に関する情報

- 本システムは、トロンフォーラム（www.tron.org）の T-License2.0 に基づき T-Kernel ソースコードを利用しています。
- 本システムは、ITS Connect 推進協議会が規定する相互接続性確認試験に適合しています。
  機種名：DTU-1010
  型式認定番号：10005
- 本システムは、周波数 760MHz の電波を発信するため、お車を海外へ持ち込んだ場合はその国の関連法規に違反する場合があります。

■ITS Connect に関するお問い合わせについて

ITS Connect に関するお問い合わせ（機器の調子・機能・使用方法や路側装置の整備計画など）はレクサスオーナーズデスクにお問い合わせください。

レクサスオーナーズデスクについて詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
ITS Connect はあらゆる状況で安全運転の支援をするものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ITS Connect は安全運転の支援を目的として設計していますが、その効果はさまざまな条件によりかわり、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
「システムが正常に作動しないおそれがあるとき」（→P.269）をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

■ITS Connect について

●次のような状況では、ITS Connect は作動しません。

・交差点に DSSS 用路側装置が設置されていないとき

・先行車や接近してくる車両に通信機が搭載されていないとき

●交差点に進入する方向によっては、作動する通知・案内・注意喚起が異なる場合があります。

■右折時注意喚起（DSSS 用路側装置との通信）について

DSSS 用路側装置が設置された交差点であっても、DSSS 用路側装置の種類や交差点に進入する方向によっては、対向車のみを検知し、歩行者に対する注意喚起をしない場合があります。
そのため、注意喚起の表示内容が実際の交通状況と異なる場合があります。
「割り込み表示による通知・案内・注意喚起」（→P.267）をお読みいただき、必ず自らの目視による安全確認を行ってください。

■右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）・出会い頭注意喚起について

通信機を搭載した車両が接近してきても、地図データと実際の道路状況が異なるときは、交差点付近であることが判断できず、注意喚起をしなかったり、注意喚起の表示内容が実際の交通状況と異なる場合があります。

注意

■ITS Connect 機器取り扱いの注意

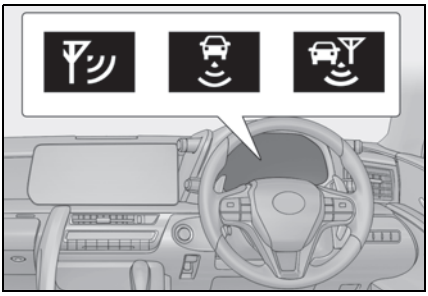
●ITS Connect 機器は電波法の基準に適合しています。ITS Connect 機器に貼り付けられているラベルはその証明ですのではがさないでください。

●ITS Connect 機器を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

ITS Connect アイコンの見方

ITS Connect の機能が利用可能なとき、メーターに次のアイコンを表示

して通信の接続状態をお知らせします。



アイコン	接続状態
	道路に設置された DSSS 用路側装置から必要な情報を取得できている
	通信機を搭載した車両から必要な情報を取得できている
	道路に設置された DSSS 用路側装置、および通信機を搭載した車両、両方から必要な情報を取得できている

割り込み表示による通知・案内・注意喚起

状況に応じて、次の通知・案内・注意喚起をマルチインフォメーションディスプレイに割り込み表示します。

ヘッドアップディスプレイ装着車：右折時注意喚起・赤信号注意喚起・出会い頭注意喚起はヘッドアップディスプレイにも割り込み表示します。

■ 右折時注意喚起（DSSS 用路側装置との通信）

交差点で右側方向指示灯を点滅させて右折待ちをしているときに、対向車や歩行者がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、対向車や右折先の歩行者を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

交差点に設置されている DSSS 用路側装置（感知器）の種類によって、注意喚起の表示は次のように異なります。

▶ 対向車および歩行者を感知する交差点

▶ 対向車のみを感知する交差点

・ 注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
・ 一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

■ 右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）

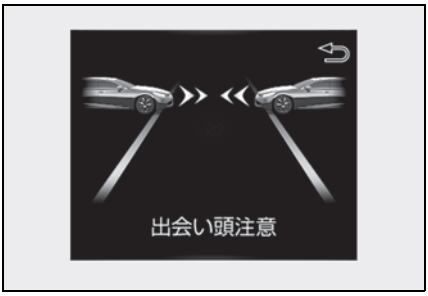
DSSS 用路側装置が設置されていな

い交差点で、地図データを用いることにより右側方向指示灯を点滅させて右折待ちをしているときに、通信機を搭載した対向車がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、対向車を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

・ 注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
・ 一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

■ **出会い頭注意喚起**

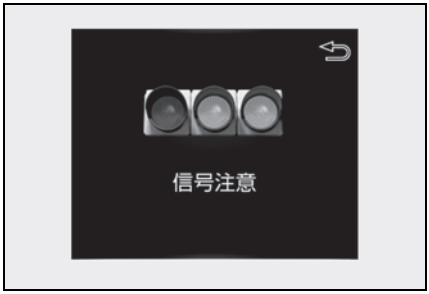
地図データを用いることにより交差点で停車しているときに、右または左方向から交差点に進入してくる車両がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、接近する右または左方向の車両を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。



・ 注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
・ 一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

■ **赤信号注意喚起**

赤信号の交差点手前にさしかかってもアクセルペダルを踏み続けているなど、赤信号を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。



■ **信号待ち発進準備案内**

赤信号で停車したとき、青信号にかわるまでの待ち時間の目安をバー表示で表します。

待ち時間が残り少なくなるとバー表示が消え、まもなく信号がかわることを表します。

■ **緊急車両存在通知**

緊急車両（救急車）がサイレンを鳴らして近辺を走行しているときに、

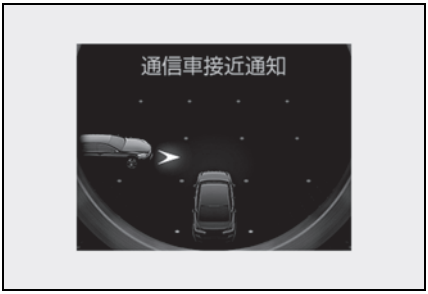
ブザーが鳴り、自車に対する緊急車両のおおよその方向・距離・進行方向を表示します。

緊急車両の距離と進行方向が表示されていないときは、自車のすぐ近くに緊急車両がいることを表します。

通信車両接近通知

交差点などで停車しているときに、通信機を搭載した車両が接近してくると、通信車両のおおよその方向を表示します。

接近してくる方向が正面の場合は、右側方向指示灯を点滅させているときのみ表示します。



■ 通信車両接近通知の使い方

● マルチインフォメーションディスプレイで専用の通知画面を表示しているときに使用することができます。
ハンドルのメーター操作スイッチの < または > を押して を選択し、∧ または ∨ を押して、通知画面を表示してください。

● 車両が停止しているときに表示が有効になります。車両が完全に停止していないときは通知されません。

知識

■ 交差点ごとの作動する通知・案内・注意喚起について

道路に設置されている DSSS 用路側装置の種類により発信している情報が異なるため、交差点によって作動する通知・案内・注意喚起は異なります。

■ システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●例えば次のような状況などでは、車両の位置や向きを正しく特定できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
・高いビルや高い街路樹に囲まれているとき
・トンネルや高架下を通過しているとき
・エンジン<ハイブリッドシステム>を始動してから、しばらく走行するまでの間

●例えば次のような状況などでは、正しく通信ができず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
・周囲に大型車が走行しているときなど、通信が遮られたとき
・通信を妨害する電波が発せられているとき
・DSSS 用路側装置の向きが変わってしまっているとき
・DSSS 用路側装置がメンテナンス中や故障しているとき
・他車両の通信機が故障しているとき

●右折時注意喚起（DSSS 用路側装置との

通信）は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・交差点内で一旦停止せずに右折しようとしたとき
・周囲の環境や天候、DSSS 用路側装置の劣化などの影響により、対向車や歩行者の検知性能が低下しているとき
・対向車や歩行者が周囲の建物や別の車両に隠れているとき
・DSSS 用路側装置の検知範囲外に対向車や歩行者がいるとき
・DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき

●右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・交差点内で一旦停止せずに右折しようとしたとき
・地図データと実際の道路状況が異なるため、交差点付近であることが判断できないとき
・相手通信車両から受信した情報が誤っているとき

●出会い頭注意喚起は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・交差点手前で一旦停止せずに通過しようとしたとき
・地図データと実際の道路状況が異なるため、交差点付近であることが判断できないとき
・相手通信車両から受信した情報が誤っているとき

●赤信号注意喚起は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・遅い速度で走行しているとき
・停車しているとき
・交差点付近の側道や駐車場内の通路など、DSSS 路側装置が設置された道路と並行する場所を走行しているとき
・DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき

●信号待ち発進準備案内は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・前方の信号機が青信号、黄信号または矢印信号のとき
・青信号にかわるまでの待ち時間が残り少ないとき
・停車していないとき
・交差点付近の側道や駐車場など、DSSS 路側装置が設置された道路と並行する場所に停車しているとき
・DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき

●緊急車両存在通知は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・緊急車両と自車の距離が一定以上離れているとき
・緊急車両が自車から遠ざかる方向に走行しているとき
・立体交差付近を走行しているとき
・緊急車両から受信した情報が誤っているとき

●通信車両接近通知は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・相手通信車両から受信した情報が誤っているとき

各機能の設定変更

マルチインフォメーションディスプレイの⚙(→P.104）で、機能の設定を変更することができます。

● 信号情報

次の機能の作動・非作動を変更することができます。※1（初期設定：ON）

- 赤信号注意喚起
- 信号待ち発進準備案内

● 道路環境情報

次の機能の作動・非作動を変更することができます。※1（初期設定：ON）

- 右折時注意喚起
- 出会い頭注意喚起

● 支援タイミング

次の機能の表示タイミングを変更することができます。※2（初期設定：早い）

- 右折時注意喚起
- 出会い頭注意喚起
- 赤信号注意喚起

● 緊急車両通知

緊急車両存在通知の作動・非作動を変更することができます。（初期設定：ON）

● クルーズ（ITS）

通信利用型レーダークルーズコントロールの作動・非作動を変更することができます。（初期設定：ON）

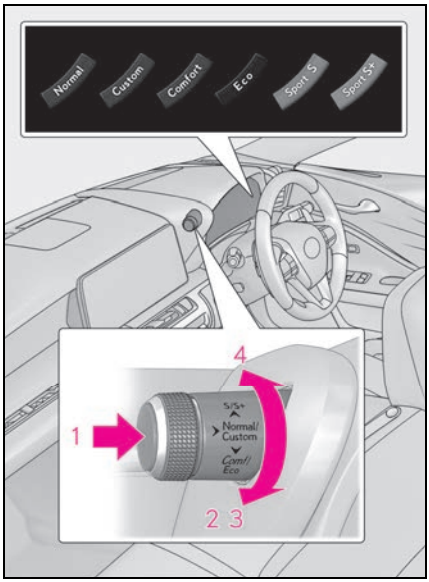
※1「信号情報」または「道路環境情報」に含まれる各機能を個別に ON ／ OFF することはできません。

※2各機能の支援タイミングを個別に変更することはできません。

ドライブモードセレクトスイッチ

走行・使用状況に合わせて次のモードを選択できます。

走行モードを選択するには



1 ノーマルモード／カスタムモード

ノーマル／カスタムモードは、スイッチを押して選択します。スイッチを押すごとに、ノーマル／カスタムモードが切りかわります。カスタムモードのとき、“Custom” 表示灯が点灯します。

ノーマルモード以外のときにスイッチを押すと、ノーマルモードにもどります。

・ノーマルモード

燃費性能、静粛性、運動性能のバランスがよく、市街地を走行する場合に適しています。

シフトポジションが D のとき、運転者の運転操作と走行状況により、自動的にスポーツ走行に適したギヤ段に切りかわる

場合があります。

・ カスタムモード

パワートレーン制御、シャシー制御またはエアコン動作の機能をお好みで設定し、走行することができます。カスタムモードは、センターディスプレイで設定します。（→P.446）

2 コンフォートモード

サスペションを制御することにより、より快適な乗り心地になります。市街地走行に適しています。

コンフォートモード以外のときにスイッチを手前側へまわすとコンフォートモードに切りかわり、“Comfort” 表示灯が点灯します。

3 エコドライブモード

スロットル特性をおだやかに設計することで、エコ運転中の運転者のアクセル操作をアシストします。またエアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費の向上を意識した走行に適しています。

コンフォートモードのときにスイッチを手前側へまわすとエコドライブモードに切りかわり、“Eco” 表示灯が点灯します。

4 スポーツモード

・ スポーツ S モード

トランスミッションとエンジンの制御により、アクセルレスポンスを向上させ、力強い加速が可能です。コーナーの多い道などで、きびきびした走りを楽しみたいときに適しています。

スポーツ S モード以外のときにスイッチを奥側へまわすとスポーツ S モードに切りかわり、“Sport S” 表示灯が点灯します。

・ スポーツ S ＋モード

スポーツ S モードよりも早いタイミングのシフトダウンにより、高いエンジン回転を保持するほか、素早い変速を行います。さらに、ステアリングの応答性、サスペンションの制御、および VDIM の制御が変化することで、本格的なスポーツ走行にも対応します。

スポーツ S モードのときにスイッチを奥側へまわすとスポーツ S ＋モードに切りかわり、“Sport S ＋” 表示灯が点灯します。

知識

■エコドライブモード時のエアコン作動について

エコドライブモードは、暖房／冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。空調の効きをよりよくしたいときは、次の操作を行ってください。

・ エコ空調モードを OFF にする（→P.313）

・ 風量を調整する（→P.309）

・ エコドライブモードを解除する

■スポーツ／ カスタムモードの自動解除

スポーツ／ カスタムモードを選択して走行後、エンジンスイッチ＜パワースイッチ＞を OFF にし、再度エンジンスイッチ＜パワースイッチ＞を ON にした場合は、自動でノーマルモードにもどります。

■センターディスプレイの割り込み表示

モードを切りかえるごとに、選択したモードがセンターディスプレイに表示されます。（ノーマルモードを除く）

カスタムモード時は、この画面に表示される “ 設定 ” を選択すると、ドライブモード設定画面が表示されます。

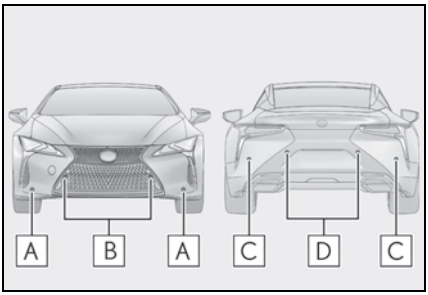
クリアランスソナー

クリアランスソナーは、車両と障害物とのおおよその距離を超音波センサーによって感知して、センターディスプレイの距離表示とブザー音、音声案内で運転者にお知らせします。

システムの構成部品

■ **センサーの位置・種類**

▶ コンバーチブル以外



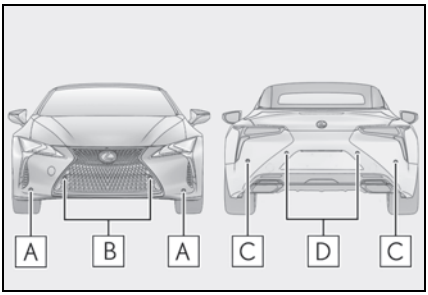
A フロントコーナーセンサー

B フロントセンターセンサー

C リヤコーナーセンサー

D リヤセンターセンサー

▶ コンバーチブル



A フロントコーナーセンサー

B フロントセンターセンサー

C リヤコーナーセンサー

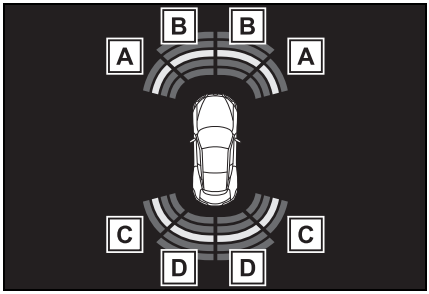
D リヤセンターセンサー

■ **クリアランスソナーの表示のしかた**

障害物を感知すると、センターディスプレイに表示されます。

▶ コンバーチブル以外

表示例：



A フロントコーナーセンサー作動表示

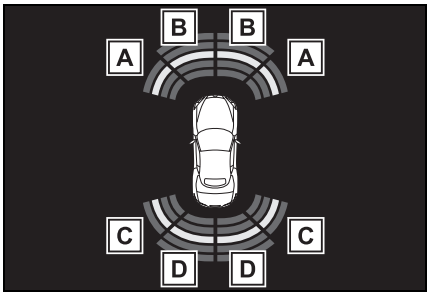
B フロントセンターセンサー作動表示

C リヤコーナーセンサー作動表示

D リヤセンターセンサー作動表示

▶ コンバーチブル

表示例：



A フロントコーナーセンサー作動表示

B フロントセンターセンサー作動表示

C リヤコーナーセンサー作動表示

D リヤセンターセンサー作動表示

システムを作動させるには

1 メーター操作スイッチの < または > を押して ⚙ を選択する

2 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して “クリアランスソナー” を選択し、“OK” を押す

クリアランスソナーが ON になると、クリアランスソナー表示灯の点灯で知らせます。

知識

■作動条件

●フロントコーナーセンサー：
・エンジンスイッチ<パワースイッチ>が ON のとき
・シフトポジションが P 以外にあるとき
・車両の速度が約 10km/h 以下のとき（シフトポジションが R にあるときは除く）

●フロントセンターセンサー：
・エンジンスイッチ<パワースイッチ>が ON のとき
・シフトポジションが P・R 以外にあるとき
・車両の速度が約 10km/h 以下のとき

●リヤコーナーセンサー・リヤセンターセンサー：
・エンジンスイッチ<パワースイッチ>が ON のとき
・シフトポジションが R にあるとき

■ブザー音のミュート（消音）について

●ミュート（消音）させるとき：

センターディスプレイに感知した画面が表示されているときに、メーター操作スイッチの “OK” を押すと、一時的にブザー音を消すことができます。

●ミュート（消音）が解除されるとき：

次のとき、自動的にミュート（消音）が解除されます。
・シフトポジションを切りかえたとき（D から N、および N から D への切りかえを除く）
・シフトポジションが D で、車速が約 10 km/h 以上になったとき
・クリアランスソナーを OFF にし、再度 ON にしたとき
・エンジンスイッチ<パワースイッチ>を OFF にし、再度 ON にしたとき

■マルチインフォメーションディスプレイに “ソナーの汚れを除去してください” が表示されたときは

クリアランスソナーのセンサーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。
この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。
また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、障害物があっても感知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。

■マルチインフォメーションディスプレイに “クリアランスソナー故障” または “クリアランスソナー通信異常” が表示されたときは

センサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

■センサーの感知について

●センサーの感知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。

●障害物の形状・条件によって感知できる範囲が短くなることや、感知できないことがあります。

●センサーが障害物に近付きすぎると感知できないことがあります。

●障害物を感知してから、表示やブザーが出るまでに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示やブザーが出る前に、障害物まで約 30cm 以内に接近するおそれがあります。

●オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。

●他システムのブザーの音などにより本システムの音が聞き取りづらくなる場合があります。

■システムが正しく検知できないことがある静止物

静止物の形状・条件によっては検知できる範囲が短くなることや、次のようなものは検知しないことがあります。注意して運転してください。

●針金・フェンス・ロープなどの細いもの

●綿・雪などの音波を吸収しやすいもの

●鋭角的な形のもの

●背の低いもの

●背が高く上部が張り出しているもの

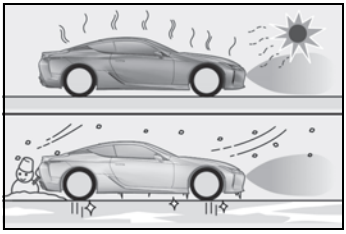
■システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、センサーが正常に作動しないことがあります。

●センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）

●センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、壁などの静止物があっても検知しないことがあります。

●炎天下や寒冷時



●凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など

●他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき

●大雨や水しぶきがかかったとき

●センサーに静止物が近付きすぎたとき

●超音波を反射しにくい歩行者（例：ギャザーやフリルの多いスカートなど）

●地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凹凸なもの、波打っているものが検知範囲にあるとき

●風が強いとき

●霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき

●作動対象物と車両の間に検知できない対象物があるとき

●車・オートバイ・自転車・歩行者などの作動対象が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき

●衝突などで、センサーの方向がずれたとき

●センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノー

ブラウ）などを取り付けたとき

●積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）

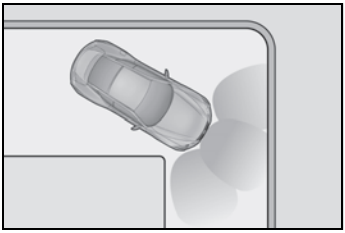
●事故や故障で自車の走行が不安定なとき

●タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

■**衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況**

次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

●狭い道路を走行するとき



●垂れ幕や旗やのれん、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー・ETC のバー・駐車場のバーなど）に向かって走行するとき

●地面にわだちや穴がある場合

●排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時

●急な登坂路や降坂路を走行するとき

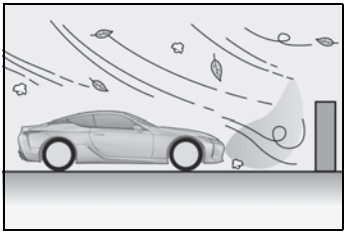
●冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき

●センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）

●大雨や水しぶきがかかったとき

●霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき

●風が強いとき



●他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき

●積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）

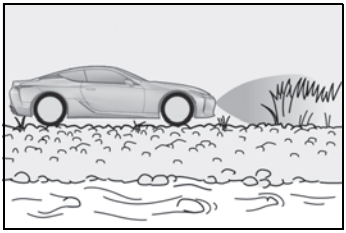
●衝突などで、センサーの方向がずれたとき

●背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき

●立体駐車場や工事現場などで柱（H 形鋼など）の付近を走行するとき

●事故や故障で自車の走行が不安定なとき

●凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など



●タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

■**カスタマイズ機能**

クリアランスソナーの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→P.446）

警告

■安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■システムを正しく作動させるために

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けないでください。
- センサー周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はレクサス販売店で点検を受けてください。前後のバンパーやグリルの脱着や交換が必要な場合はレクサス販売店にご相談ください。
- 改造・分解・塗装をしないでください。
- ライセンスプレートカバーを取り付けないでください。
- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。

■クリアランスソナーを OFF にするとき

次のときはシステムを OFF にしてください。クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 上記の内容が守られないとき
- レクサス純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

■洗車時の注意

- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

注意

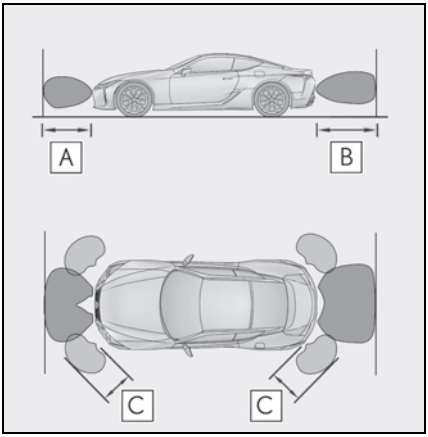
■クリアランスソナー使用時の注意

次のとき、センサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

- 障害物を感知していない状態で、クリアランスソナーの作動表示が点灯もしくは点滅し、ブザーが鳴ったとき
- バンパーをぶつけたとき
- ブザー音がしないのに表示が点灯もしくは点滅したままのとき（ミュート選択時は除く）

距離表示の見方

■ 障害物を感知できる範囲



A 約 100cm

B 約 150cm

C 約 60cm

感知できる範囲は右図のとおりです。ただし、障害物がセンサーに近付きすぎると感知できません。

障害物の形状・条件によっては、感知できる距離が短くなることや、感知できないことがあります。

■ 検知距離とブザー音

静止物までのおおよその距離	ブザー音
フロントセンターセンサー： 約 100cm ～ 60cm リヤセンターセンサー： 約 150cm ～ 60cm	断続音
フロントセンターセンサー： 約 60cm ～ 50cm フロントセンターセンサー以外： 約 60cm ～ 45cm	速い断続音
フロントセンターセンサー： 約 50cm ～ 40cm フロントセンターセンサー以外： 約 45cm ～ 35cm	非常に速い断続音
フロントセンターセンサー： 約 40cm ～ 30cm フロントセンターセンサー以外： 約 35cm ～ 30cm	連続音
約 30cm 以下	

音声案内とブザー音

障害物を感知すると、ブザーが鳴ります。

ブザー音と同時に音声案内を行います。

■ フロント側またはリヤ側のみで障害物を感知しているとき

● 障害物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。障害物との距離が次のとき、ブザーは断続音「ピピピ」から連続音「ピー」になります。

- フロントセンターセンサーが感知した障害物との距離が約 40cm 以下
- フロントセンターセンサー以外が感知した障害物との距離が約 35cm 以下

● 複数のセンサーが同時に障害物を感知しているときは、もっとも近い障害物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。

■ 障害物を車両の前後で同時に感知したとき

● フロント側、またはリヤ側で障害物を感知してブザーが連続で鳴っているとき、反対の側（フロントまたはリヤ）で新たに障害物を感知すると、ブザー音は「ピピピピピピピ　ピー」をくり返します。

● フロント側、またはリヤ側で障害物を感知してブザーが連続で鳴っているとき、反対の側（フロントまたはリヤ）でもブザーが連続で鳴る範囲内に障害物を感知すると、ブザー音は「ピピピ　ピー」をくり返します。

ブザーの音量と鳴るタイミングを変更することができます。

BSM（ブラインドスポットモニター）

リヤバンパー内側にあるセンサーを使用し、運転者の目視だけでは感知しづらい領域の確認を補助する機能です。

次の 2 つの機能が装備されています。

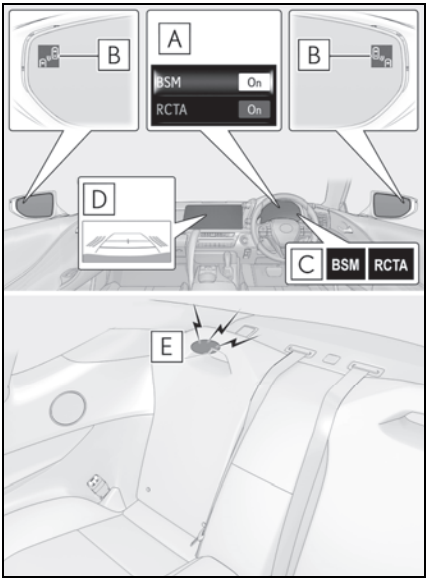
● BSM（ブラインドスポットモニター）機能
運転者による車線変更時の判断を支援します。

● RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能
後退時に運転者を支援します。

これらの機能は同じセンサーを使用します。

システムの構成部品

▶ コンバーチブル以外



A マルチインフォメーションディスプレイ

BSM 機能または RCTA 機能の ON ／ OFF を切り替えます。
BSM 機能が ON のとき、RCTA 機能を ON できます。

B ドアミラーインジケーター

BSM 機能：
ドアミラーの死角領域に車両を検知したとき、または後方からその死角領域に急速に接近してくる車両を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーターが点灯します。検知した側に方向指示レバーを操作している場合は、ドアミラーインジケーターが点滅します。

RCTA 機能：
自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、両側のドアミラーインジケーターが点滅します。

C BSM 表示灯／ RCTA 表示灯

BSM 機能または RCTA 機能が ON のとき、それぞれのインジケーターが点灯します。

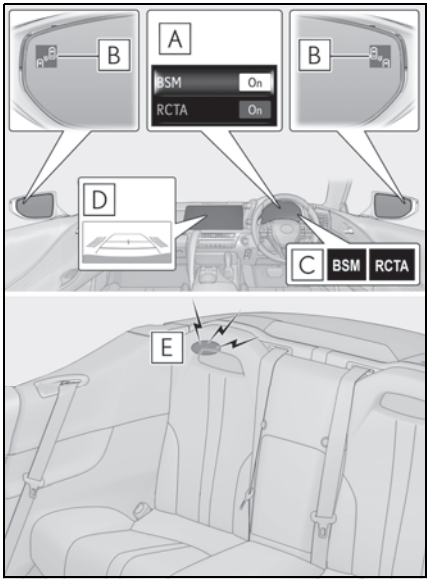
D モニター画面の表示（RCTA 機能のみ）

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、モニター画面に検知した側の RCTA アイコン（→P.286）が点灯します。
イラストは車両後方から車両が接近している例です。

E RCTA ブザー（RCTA 機能のみ）

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、ブザーが鳴ります。
BSM 機能を ON にした直後の約 1 秒間はブザーが鳴ります。

▶ コンバーチブル



A マルチインフォメーションディスプレイ

BSM 機能または RCTA 機能の ON ／ OFF を切り替えます。

BSM 機能が ON のとき、RCTA 機能を ON できます。

B ドアミラーインジケーター

BSM 機能：
ドアミラーの死角領域に車両を検知したとき、または後方からその死角領域に急速に接近してくる車両を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーターが点灯します。検知した側に方向指示レバーを操作している場合は、ドアミラーインジケーターが点滅します。

RCTA 機能：
自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、両側のドアミラーインジケーターが点滅します。

C BSM 表示灯／RCTA 表示灯

BSM 機能または RCTA 機能が ON のとき、それぞれのインジケーターが点灯します。

D モニター画面の表示（RCTA 機能のみ）

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、モニター画面に検知した側の RCTA アイコン（→P.286）が点灯します。

イラストは車両後方から車両が接近している例です。

E RCTA ブザー（RCTA 機能のみ）

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、ブザーが鳴ります。

BSM 機能を ON にした直後の約 1 秒間はブザーが鳴ります。

設定のしかた

1 メーター操作スイッチの < または > を押して ⚙ を選択する

2 ∧ または ∨ を押して “BSM” を選択し、“OK” を押す

3 ∧ または ∨ を押して “BSM” ／ “RCTA” を選択し、“OK” を押す

“OK” を押すたびに ON ／ OFF が切りかわります。

設定を終了する場合は、↩ スイッチを押します。

知識

■ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■RCTA ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオなど大きな音がする場合、RCTA ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■マルチインフォメーションディスプレイに “BSM 現在使用できません” が表示されたときは

センサー周辺のバンパーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。センサー周辺のバンパーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、極めて高温または低温の環境で使用した場合、正常に作動しないことがあります。

■マルチインフォメーションディスプレイに “BSM 故障販売店で点検してください” が表示されたときは

センサーの故障や電圧異常などが考えられます。レクサス販売店にて点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。

（カスタマイズ一覧：→P.446）

■レーダーセンサーの取り扱いについて

▶コンバーチブル以外

本製品は各国の電波法に適合しています。製品表面の印字はその証明ですので消さないでください。
製品を改造しないでください。改造すると認証番号が無効となります。

R 202 -LSC077

C3-001

▶コンバーチブル

本製品は各国の電波法に適合しています。製品表面の印字はその証明ですので消さないでください。
製品を改造しないでください。改造すると認証番号が無効となります。

R 202 -LSC077

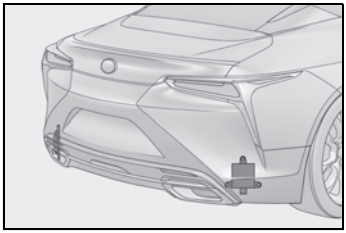
C3-001

警告

■システムを正しく作動させるために

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両リヤバンパー内側に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

●センサー周辺のリヤバンパーは常にきれいにしておく
センサー周辺のリヤバンパーに汚れや着雪がある場合、警告表示（→P.281）とともにシステムが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落としたあと、BSM機能の作動条件（→P.284）でしばらく走行してください（目安：約10分）。それでも警告表示が消えない場合はレクサス販売店にて点検を受けてください。



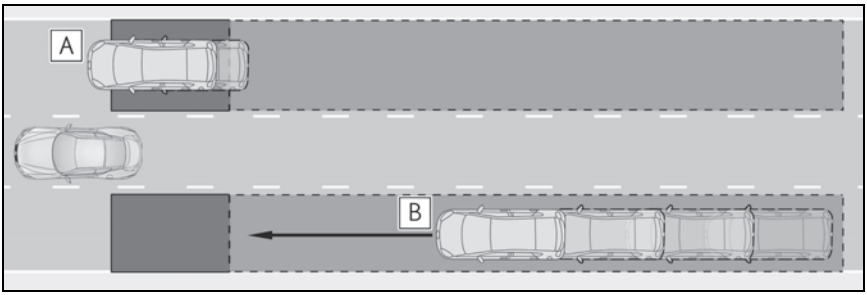
警告

- センサー周辺のリヤバンパーへの強い衝撃を避ける
  センサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなるおそれがあります。
  次のような場合には、必ずレクサス販売店にて点検を受けてください。
  - センサーやセンサー周辺に強い衝撃を受けた
  - センサー周辺のリヤバンパーなどに傷や凹みがある、一部が外れている
- センサーを分解しない
- センサーやセンサー周辺のリヤバンパーにステッカーを貼らない
- センサーやセンサー周辺のリヤバンパーを改造しない
- リヤバンパーの塗装修理の際にはレクサス設定色以外への変更は行わないでください

BSM 機能

■ BSM 機能の作動

BSM 機能はレーダーセンサーにより隣の車線を走行する次の車両を検知し、ドアミラーのインジケーターによってその車両の存在を運転者に知らせます。



A ドアミラーに映らない領域（死角領域）を併走する車両

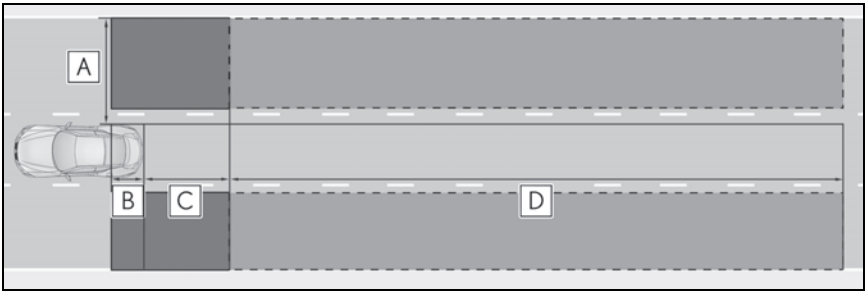
B 後方からドアミラーに映らない領域（死角領域）に急速に接近してくる車

両

■ BSM 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。

検知できる範囲：



A 車両の両側面について、側面から約 0.5m 離れた面から約 3.5m の領域 ※1

B リヤバンパーから約 1m 前方の領域

C リヤバンパーから約 3m 後方の領域

D リヤバンパーから後方約 3m ～ 60m の領域 ※2

※1車両側面から外側に約 0.5m は検知しません。

※2自車と他車の速度差が大きいほど、ドアミラーインジケーターは他車がより遠くにいる状況で点灯・点滅します。

知識

■BSM 機能の作動条件

BSM 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

●BSM 機能が ON のとき

●シフトポジションが R 以外のとき

●車速が約 10km/h 以上のとき

■BSM 機能が車両を検知する条件

BSM 機能は、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

●隣の車線を走行する他車に自車が追いこされるとき

●小さい速度差で隣の車線を走行する他車を追いこすとき

●他車が車線変更中に検知範囲に進入するとき

■システムが検知しない条件

BSM 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●小型のオートバイ・自転車・歩行者など ※

●対向車

●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※

●同じ車線を走行する後続車 ※

●2 つ隣の車線を走行する他車 ※

●大きい速度差で自車が追いこす他車※

※状況によっては検知をすることがあります。

■システムが正しく作動しないおそれがある状況

●BSM 機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。
・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
・複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
・自車と後続車の車間距離が短いとき
・検知範囲に入る他車と自車の速度差が大きすぎるとき
・自車と他車の速度差に変化があるとき
・検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど等しいとき
・停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
・車線の幅が広い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーやけん引フックを装着しているとき
・検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
・BSM 機能を ON にした直後

●BSM 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。
・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
・車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線以外を走行する車両が検知範囲に入ったとき
・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
・タイヤがスリップ（空転）しているとき
・自車と後続車の車間距離が短いとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーやけん引フックを装着しているとき

警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

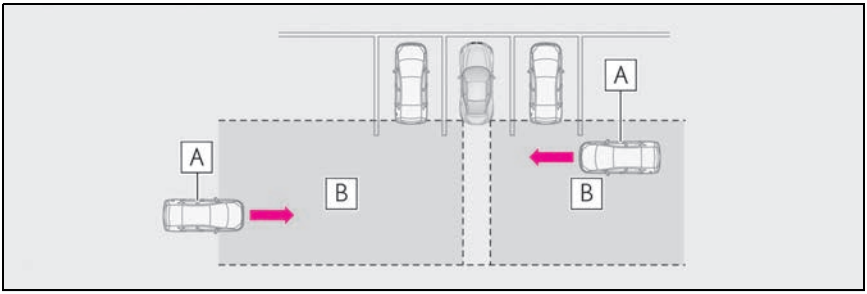
BSM 機能は、ドアミラーの死角領域に入った車両の存在とその死角領域に急速に接近してくる車両の存在を運転者に提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視とミラーによる安全確認を行う必要があります。

RCTA 機能

■ RCTA 機能の作動

RCTA 機能はレーダーセンサーにより自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、ドアミラーのインジケーターとブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。



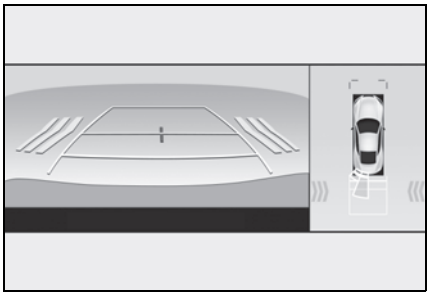
A 接近車両

B 接近車両を検知できる範囲

■ RCTA アイコンの表示

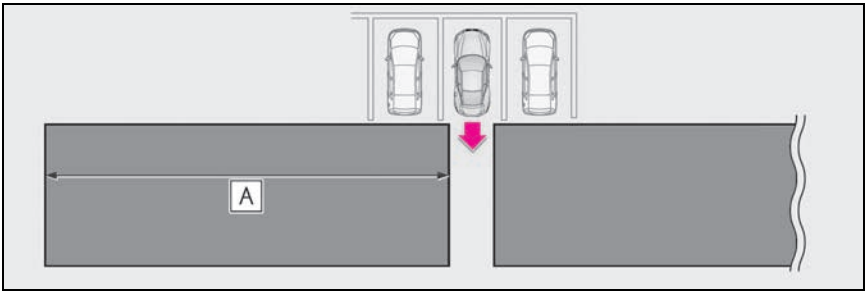
自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、モニター画面上に次の表示をします。

例：両方向から車両が接近しているとき



■ RCTA 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



速度が速い車両に対しては、より離れた位置で警報ブザーを鳴らします。

例：

接近車両の速度	A 警報距離（概算）
56km/h（速い）	30m
8km/h（遅い）	4m

知識

■RCTA 機能の作動条件

RCTA 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

●RCTA 機能が ON のとき

●シフトポジションが R のとき

●自車の車速が約 15km/h 以下のとき

●接近する他車の車速が約 8km/h ～ 56km/h のあいだのとき

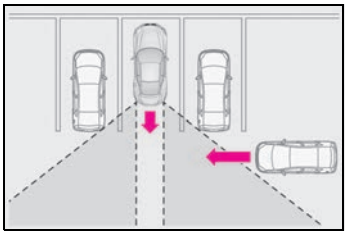
■システムが検知しない車両について

RCTA 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●真後ろから接近する車両

●自車の隣の駐車スペースで後退する車両

●障害物のためにセンサーが検知できない車両



●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※

●小型の二輪車・自転車・歩行者など ※

●自車から遠ざかる車両

●自車の隣の駐車スペースから接近する車両 ※

●センサーと接近車両との距離が近すぎる場合

※ 状況によっては検知をすることがあります。

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

RCTA 機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。

●センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき

●泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき

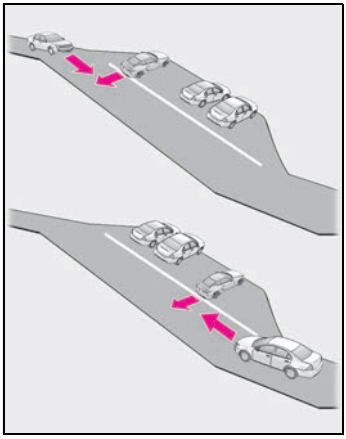
●大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき

●複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき

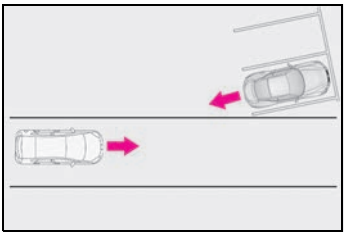
●車両が高速で接近するとき

●センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき

●勾配の変化が激しい坂で後退しているとき



●斜めの駐車場から出庫するとき



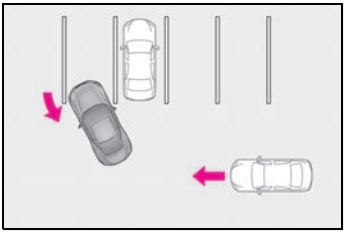
●検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき

●炎天下や寒冷時

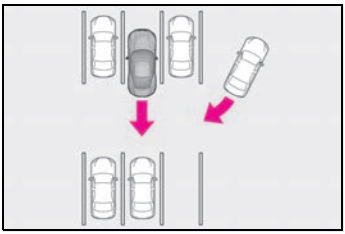
●ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき

●車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

●自車が旋回しているとき



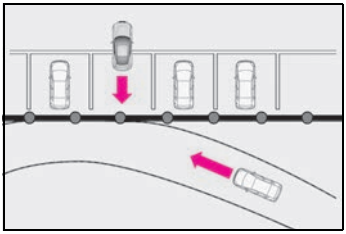
●旋回しながら車両が近づいてきたとき



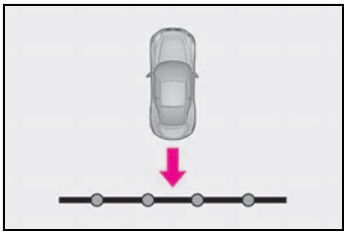
■**衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況**

RCTA 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

●駐車場に面した道を車両が走行しているとき

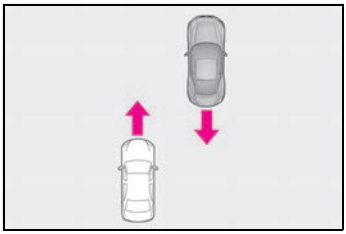


●車両後方に電波の反射しやすい金属（ガードレール・壁・標識・駐車車両など）が存在するとき

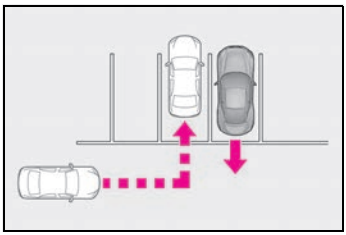


●センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき

●車両が自車の横を通過するとき



●自車の近くで旋回していく移動物が存在するとき



●自車近くに室外機などの回転体があるとき

●センサーに向けてスプリンクラーなどによる水の飛散があったとき

●動いているもの（旗・排気ガス・大粒の雨や雪、路面の雨水など）

●ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき

●グレーチングや側溝

●炎天下や寒冷時

●ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき

●車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

警告

■安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。（→P.285）

■システムを正しく作動させるために

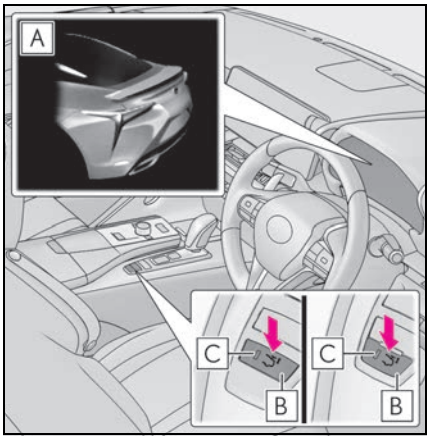
→P.282

アクティブリヤウィング★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

走行時に自動で作動するアクティブリヤウィングを装備しています。特に高速走行時に空力性能を高めることで、走行安定性の向上に貢献します。
スイッチ操作でマニュアル作動させることもできます。

システムの構成部品



A マルチインフォメーションディスプレイ表示（→P.104）

アクティブリヤウィングの状態を表示することができます。

B アクティブリヤウィングスイッチ

アクティブリヤウィングをマニュアル作動させることができます。

C インジケーター

アクティブリヤウィングが上昇すると点灯し、完全に格納すると消灯します。

知識

■作動条件

●エンジンスイッチ<パワースイッチ>がONのとき

●トランクが閉まっているとき

●カスタマイズ機能でアクティブリヤウィング作動の設定がありになっているとき

■作動の停止

次のときは、作動が途中で停止します。

●作動中にエンジンスイッチ<パワースイッチ>がACCまたはOFFにされたとき

●作動中にトランクが開けられたとき

●上昇作動中に異物などで作動をさまたげられたとき

●その他特殊な動作により、アクティブリヤウィングの位置が不定になったとき

この場合、次回アクティブリヤウィングスイッチを操作するとアクティブリヤウィングが上昇作動します。また、スイッチ操作をしなくても、走行を開始して車速が25km/h以上になると自動的に上昇作動します。

■システムに異常があるとき

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されます。
(→P.391)

■カスタマイズ機能

アクティブリヤウィングの作動・非作動を変更できます。
(カスタマイズ一覧：→P.446)

注意

■システムの損傷・故障を防ぐために

●車両を押したり引いたりするときは、アクティブリヤウィングに力をかけないようにしてください。

●アクティブリヤウィングにもたれたりしないでください。

●アクティブリヤウィングにアクセサリーなどを取り付けないでください。

●分解・改造しないでください。

●強い衝撃をあたえないでください。

■補機バッテリーあがりを防止するために

エンジン<ハイブリッドシステム>停止中に、長時間マニュアル操作をしないでください。

オート作動

走行モード（→P.271）に合わせて、次の速度でアクティブリヤウィングが自動的に作動します。（公道では法定速度・制限速度をお守りください）

● エコドライブモード以外のとき
上昇：約80km/h
格納：約40km/h

● エコドライブモードのとき
上昇：約130km/h
格納：約40km/h

マニュアル作動に切りかえる

アクティブリヤウィングスイッチの操作により、現在のアクティブリヤウィングの位置と反対の位置へ作動させます。

上昇時は格納作動、格納時は上昇作

動します。ただし、アクティブリヤウィングの作動中はスイッチ操作が無効になります。

車速	上昇作動／格納作動
0km/h（停車時）	短押し／長押し ※
約 0 ～ 20km/h	作動不可
約 20 ～ 120km/h	短押し／短押し
約 120km/h 以上	作動不可

※ スイッチのインジケーターが消灯するまで押し続けてください。作動途中でスイッチを離すと、上昇位置まで自動でもどります。

知識

■マニュアル操作後のオート作動復帰について

マニュアル操作でアクティブリヤウィングを作動させた場合でも、車速に応じてオート作動に復帰します。

警告

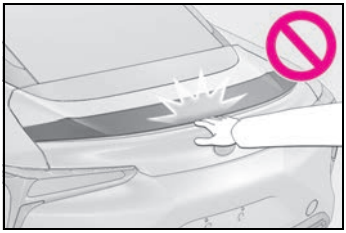
■マニュアル操作するときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●操作する前にアクティブリヤウィング付近に障害物がないか、異物が挟み込まれる危険がないか確認してください。

●アクティブリヤウィング付近に人がいるときは、手や指など体の一部を挟んだり、着衣や荷物を巻き込んだりする危険がないか確認してください。特にお子さまへは手などを出さないよう「声かけ」をしてください。

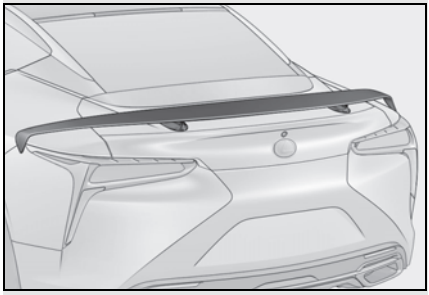


●操作中に異物が挟み込まれるおそれのある場合は、ただちに操作を中止してください。

固定リヤウィング★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

固定リヤウィングを装備することで、走行時の空力性能が高まり、走行安定性の向上に貢献します。



知識

■固定リヤウィングについて

リヤウィングはカーボン部品を使用しているため、次のことにご注意ください。

- 長期にわたって紫外線を浴び続けると変色することがありますので、直射日光のあたらない場所で車を保管されることをおすすめします。
- 成分にコンパウンド（磨き粉）が含まれるワックス類は使用しないでください。
- カーボン部品に傷が付き塗装を損なったり、リヤウィングが破損したりするおそれがあるため、自動洗車機は使用しないでください。

警告

■トランクを開閉するときは

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、思わぬけがや重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- リヤウィングの先端に手・腕・顔などをぶつけないよう注意してください。
- リヤウィングとトランクリッドのあいだに手を入れてトランクを開けないでください。

トランクを開けたときに手や腕などが巻き込まれるおそれがあります。

- リヤウィングに乗ったり、もたれかかったり、過度の負荷をかけないでください。リヤウィングが破損するおそれがあります。
- トランクリッドにレクサス純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。

トランクリッドの重量が重くなると、開いたあとに閉じて頭や体が挟まれるおそれがあります。

■分解・改造について

走行安定性が低下するおそれがあるので、リヤウィングを分解・改造しないでください。

注意

■リヤウィングの破損を防ぐために

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、リヤウィングが破損するおそれがあります。

- リヤウィングの上に重いものを置く、または乗ったり、もたれかかったり、過度の負荷をかけないでください。
- リヤウィングの先端に固いものをぶつけたり、強い衝撃を与えたりしないでください。
- リヤウィングの先端を持ってトランクを開閉しないでください。

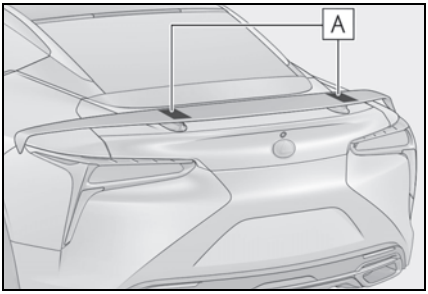
注意

■分解・改造について

トランク内に水が入るおそれがあるので、リヤウィングを分解・改造しないでください。

トランクを閉めるときは

リヤウィングのA部を軽く押して閉めてください。



サーキットモード（LC500）

サーキットモードはサーキットにおいて特殊な走行を可能にすることができます。

知識

■サーキットモードの制御について

サーキットモードはサーキットでの特殊な走行を可能にするモードであり、本車両に対するサーキット走行性能を保証するものではありません。

■サーキットモードの設定について

●サーキットモードはエンジンをかけた状態で、車両が完全に停止しているときに設定できます。

●次のようなときは、サーキットモードを設定することはできません。
・車両位置が利用可能エリア外のとき
・利用可能エリア内であっても、ピット内やトンネル内など GPS の受信状態が悪いとき
・車両が完全に停止していないとき
・ナビゲーションシステム、エンジンシステムに異常があるとき

■サーキットモード利用可能エリアについて

サーキットモード利用可能エリアについては、レクサス販売店にお問い合わせください。

警告

■サーキットモード使用時の警告

●サーキットモードを使用する場合、高度な運転技能を必要とする場合があります。路面・周囲の状況を確認しながら、慎重に運転してください。

警告

●一般公道では、サーキットモードを使用しないでください。

設定のしかた

■ サーキットモードを ON にする

1 センターディスプレイのメインメニューから⚙を選択する

2 “ 車両カスタマイズ ” を選択する

3 “ 走行支援の設定 ” を選択する

4 “ サーキットモード ” を選択する

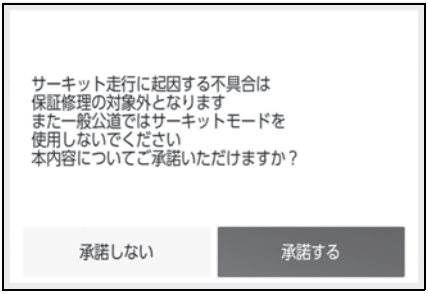
利用可能エリア内で “ サーキットモード ” が選択できるようになります。

5 “ サーキットモード ” を ON にする

6 画面内容をよく確認し、承諾できる場合は “ 承諾する ” を選択する

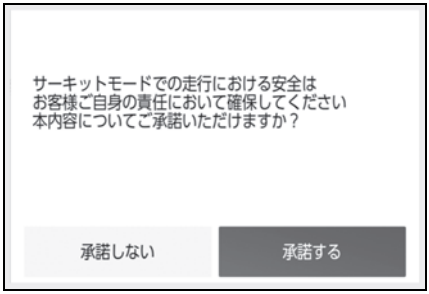
画面に表示される「サーキット走行」とは、保証書に記載する「仕様の限度を超える過酷な使用（レース、ラリー等による走行、エンジン過回転等）」を意味します。

“ 承諾しない ” を選択すると、手順 **5** に戻ります。



7 画面内容をよく確認し、承諾できる場合は “ 承諾する ” を選択する

“ 承諾しない ” を選択すると、手順 **5** に戻ります。



設定変更が正常に行われたときは、「“ ポーン ” サーキットモードを ON にしました」と音声が出力され、サーキットモードインジケーターが点灯します。

設定変更が正常に行われなかったときは、「“ ポーン ” サーキットモードを ON にできませんでした再度操作してください」と音声が出力されます。

サーキットモードを ON にするには、手順 **5** からやり直してください。

■ サーキットモードを OFF にする

1 センターディスプレイのメインメニューから⚙を選択する

2 “ 車両カスタマイズ ” を選択する

3 “ 走行支援の設定 ” を選択する

4 “ サーキットモード ” を選択する

5 “ サーキットモード ” を OFF にする

設定変更が正常に行われたときは、「“ ポーン ” サーキットモードを OFF にしました」と音声が出力され、サーキットモードインジケーターが消灯します。

設定変更が正常に行われなかったときは、「“ポーン” サーキットモードを OFF にできませんでした再度操作してください」と音声が出力されます。

サーキットモードを OFF にするには、手順 **5** からやり直してください。

知識

■サーキットモードの自動解除について

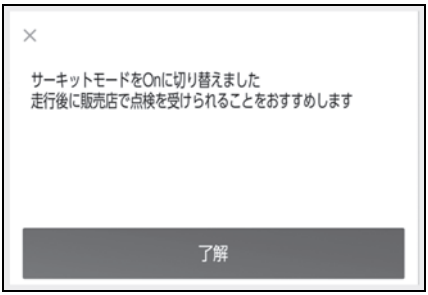
次の場合、サーキットモードが自動的に解除されます。

- 車両位置が利用可能エリア外に移動したとき
- エンジンを停止したとき
- GPS の受信状態が悪いとき
- 地図画面の “地図更新” を選択して更新が完了したとき ※
- ナビゲーションシステム、エンジンシステムに異常が発生したとき

※ 詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書／ G-Link ／マップオンデマンド」を参照してください。

走行後の点検整備について

サーキットモードが設定されると、点検整備をおすすめするメッセージが表示されます。



- サーキットモードが正常に設定された後、モード ON 情報を整備提案の参考として販売店に送付するかどうかの画面が出てきた場合は、お好みに合わせて “送付する” または “送付しない” を選択してください。
- 次の場合、上記画面は表示されません。
  - G-Link 契約がない場合
  - G-Link センターとの通信が行えない場合

知識

■点検手続きについて

点検手続きについては、レクサス販売店にご相談ください。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

運転を補助する装置について

■ ECB（電子制御ブレーキシステム）

電子制御により、ブレーキ操作に応じたブレーキ力を発生させます。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

■ アクティブコーナリングアシスト（ACA）★

旋回中に加速しようとするとき、内輪にブレーキ制御を行うことで、車両が外側に膨らむことを抑制します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

■ VGRS（バリアブルギヤレシオステアリング）★

車速やハンドルの動きに合わせて、フロントホイールが切れる角度を調整します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ DRS（ダイナミックリヤステアリング）★

ハンドル操作に応じて後輪もわずかに切れることより、車両の旋回性や応答性に寄与します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

■ NAVI・AI-AVS（AVS：アダプティブバリアブルサスペンションシステム）

路面の状態や運転操作などに応じ、ショックアブソーバーの減衰力を4輪独立に制御することで、なめらかな乗り心地と優れた安定感の確保に貢献し、車両の姿勢維持に寄与します。
また、ドライブモードセレクトスイッチで走行モードを選択することで、減衰力を切りかえることができ

ます。（→P.271）

■ LDH（レクサスダイナミックハンドリングシステム）★

VGRS・DRS・EPS を総合的に制御します。ハンドル操作と車速に応じて、前輪・後輪の切れる角度を制御することで、低速では旋回性、中速では応答性、高速では安定性の向上に寄与します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ VDIM（ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント）

ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロール・EPS・VGRS★・DRS★を総合的に制御します。
すべりやすい路面の走行などで急な運転操作をした際に、ブレーキ・エンジン出力<ハイブリッドシステム出力>・ハンドル操作力・タイヤの切れる角度などを制御することで、車両の安定性確保に貢献します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に制動灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

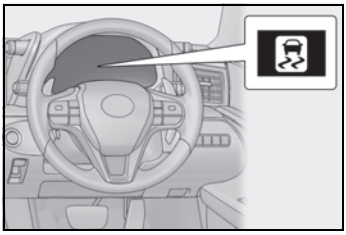
■ セカンダリーコリジョンブレーキ

SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき、自動的にブレーキと制動灯を制御することで、車両を減速させ二次衝突による被害の軽減に寄与します。

知識

■TRC・VSC・ABS・VGRS※・DRS※が作動しているとき

TRC・VSC・ABS・VGRS※・DRS※ が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



※ VDIM 作動中のみ

■TRC の停止

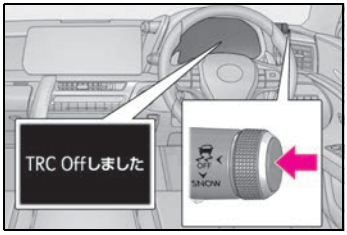
ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジン<ハイブリッドシステム>の出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。

このようなときに OFF SNOW スイッチを押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには OFF SNOW スイッチを押します。

マルチインフォメーションディスプレイに “TRC Off しました” と表示されます。

もう一度 OFF SNOW スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。



■TRC と VSC の停止

TRC と VSC を停止するには OFF SNOW スイッチを押し 3 秒以上保持してください。

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに “TRC Off しました” と表示されます。※

もう一度 OFF SNOW スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。

※ コンバーチブル以外：緊急時操舵支援も停止します。PCS 警告灯が点灯します。（→P.235）
コンバーチブル：プリクラッシュセーフティも OFF になります。（衝突警報のみ作動状態になります）PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→P.235）

■エキスパートモード★

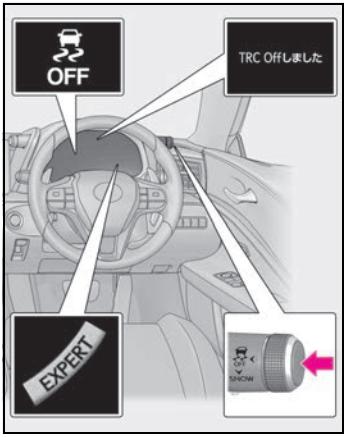
エキスパートモードを選択すると、他の走行モードに比べてよりスポーティーな走行が可能となります。TRC と VSC は停止しますが、車両の挙動によってはエンジンおよびブレーキの制御が介入する場合があります。

スポーツ S+ モードのときに OFF SNOW スイッチを押します。

EXPERT 表示灯と同時に VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに “TRC Off しました” と表示されます。

もう一度 OFF SNOW スイッチを押す、または走行モードをスポーツ S+ モード以外に切りかえることでエキスパートモードは解除されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



■ OFF SNOW スイッチを押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに TRC OFF 表示がされたとき

TRC が一時的に作動できない状態になっています。表示が継続する場合はレクサス販売店にご相談ください。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

- シフトポジションが P または N 以外（前進または後退での上り坂発進時）
- 車両停止状態
- アクセルペダルを踏んでいない
- パーキングブレーキがかかっていない

■ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●シフトポジションをPまたはNの位置にした

●アクセルペダルを踏んだ

●パーキングブレーキをかけた

●ブレーキペダルから足を離して最大2秒経過した

■VGRS の作動が停止する場合

次の状況では VGRS が作動を停止することがあります。この場合、直進のハンドル位置がずれることがありますが、システムの復帰と共にもとにもどります。

●停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けたとき
（LDH 装着車は、DRS も停止します）

●ハンドルをいっぱいに切った状態で、長く力をかけ続けたとき

これらの状況が改善されれば、システムは復帰します。

■補機バッテリー端子の脱着をしたとき（VGRS 装着車）

ハンドルの直進位置がずれる場合がありますが、そのまま走行することで自動的に修正されます。

■ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロール・VGRS の作動音と振動

●エンジン<ハイブリッドシステム>始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
・車体やハンドルに振動を感じる
・車両停止後もモーター音が聞こえる

■ECB の作動音

次のような場合に ECB の作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●ブレーキペダルを操作したときに、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー”という音）

●運転席ドアを開けたときに車両前方から聞こえるブレーキシステムのモーター音（“ジー”という音）

●エンジン<ハイブリッドシステム>停止後 1 ～ 2 分後経過時に、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー”という音）

■アクティブコーナリングアシストの作動音と振動

アクティブコーナリングアシストが作動したときに、ブレーキシステムから作動音や振動が発生することがありますが、異常ではありません。

■TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、以下のときはシステム作動可能状態にもどります。

●エンジンスイッチ<パワースイッチ>を OFF にしたとき

●（TRC のみを作動停止にしている場合）車速が高くなったとき
ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■アクティブコーナリングアシストの作動条件

次のときシステムが作動します。

●TRC・VSC が作動可能状態

●旋回中に加速しようとするとき

●車両が外側に膨らんでいるとシステムにより判断された

●ブレーキを踏んでいない

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。
その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、エンジン<ハイブリッドシステム>を停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

●非常点滅灯が点滅していないこと

●車速 55km/h 以上

●車両の減速度から急ブレーキであるとシステムにより判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●非常点滅灯を点滅させた

●車両の減速度から急ブレーキではないとシステムにより判断された

■TRC OFF の作動制限

TRC のみ作動を停止している場合は、車速が高くなると TRC は作動を再開します。
ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による作動再開はありません。

■セカンダリーコリジョンブレーキの作動条件

走行中に SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき。

ただし次のいずれかのとき、システムは作動しません。

●車速が約 10km/h 未満のとき

●構成部品が破損したとき

■セカンダリーコリジョンブレーキの自動解除

次のいずれかのとき自動的にシステムが解除されます

●車速が約 10km/h 未満になったとき

●作動して一定時間経過したとき

●アクセルペダルを大きく踏み込んだとき

■NAVI・AI-AVS の NAVI 協調機能

ナビゲーションの道路コーナー情報により、コーナーの前からあらかじめ減衰力を制御します。これにより、優れたコーナーリング性能を確保します。ナビゲーションにおいてルート探索可能な道路で作動します。

警告

■ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）

●雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

警告

■TRC や VSC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■アクティブコーナリングアシストの効果を発揮できないとき

●アクティブコーナリングアシストを過信しないでください。下り坂での加速中やすべりやすい路面などでは、アクティブコーナリングアシストが効かないことがあります。

●アクティブコーナリングアシストが頻繁に作動したときは、ブレーキ・TRC・VSC を正常に機能させるために、アクティブコーナリングアシストが一時的に作動しないことがあります。

■ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

●ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面では、ヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

●ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能でありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■スリップ表示灯が点滅しているとき

TRC・ABS・VSC・VGRS※・DRS※が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

※ VDIM 作動中のみ

■TRC や VSC を OFF にするとき

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■エキスパートモードを選択するとき

●公道では使用しないでください。

●路面状況や周囲の状況から、十分に安全が確保できるときのみ選択してください。

●エキスパートモード選択時の運転には、高度な運転技能を必要とします。路面状況や周囲の安全を常に確認し、通常以上の慎重な運転を心がけてください。

■タイヤまたはホイールを交換するとき

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。
異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、レクサス販売店に相談してください。

警告

■タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

■セカンダリーコリジョンブレーキについて

セカンダリーコリジョンブレーキを過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ハイブリッド車運転のアドバイス（LC500h）

環境に配慮した経済的な運転のためには、次のことを心がけてください。

エコドライブモードの利用

エコドライブモードを使用すると、通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになります。また、エアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費向上につながります。（→P.271）

ハイブリッドシステムインジケーターの利用

メーター内のハイブリッドシステムインジケーターのバー表示をエコエリアの範囲に保つことで、環境に配慮した走行が可能です。（→P.98）

シフトポジションの変更

信号待ちや渋滞のときなどは、シフトポジションをDにしましょう。また、駐車するときは、シフトポジションをPにしましょう。シフトポジションをNにしても、燃費向上の効果はありません。Nでは、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、エアコンなどを使用していると駆動用電池の残量が低下します。

アクセルペダル・ブレーキペダルの操作

- 急加速・急減速を控え、スムーズな運転を心がけましょう。ゆるやかに加速・減速することで、より効果的に電気モーターを使用でき、余分なガソリン消費を抑えることができます。
- 加速のくり返しは、駆動用電池の残量を低下させ、結果、燃費が悪化するため控えましょう。走行中、アクセルペダルを少しもどすことで駆動用電池の残量を回復させることができます。

減速時のブレーキ操作

減速時は、早めに、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。
減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

渋滞

加速・減速のくり返しや、長い信号待ちは燃費を悪化させます。お出かけ前に交通情報を確認するなどして、なるべく渋滞を回避するようにしましょう。また渋滞の際は、ブレーキペダルをゆるめて微前進し、アクセルペダルをあまり踏まないようにしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

高速道路での運転

速度を抑え、一定速度で走行しましょう。また、料金所手前では早めにアクセルペダルをもどし、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。

減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

エアコンの ON ／ OFF

必要時以外はエアコンスイッチをOFF にしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

夏季：外気温が高いときは、内気循環モードに設定しましょう。エアコンへの負荷が減り燃費向上につながります。

冬季：ガソリンエンジン・車室内が暖まるまで、ガソリンエンジンが自動停止しないので、燃料を消費します。また、過剰な暖房を避けると、燃費向上につながります。

タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧はこまめに点検しましょう。タイヤ空気圧が適切でないと、燃費の悪化につながります。
また、冬用タイヤは転がり抵抗が大きいため、乾燥した路面では燃費の悪化につながります。季節、道路状況に応じて適切なタイミングでタイヤを交換しましょう。

荷物

重い荷物が積まれていると、燃費が悪化します。不要な荷物は、積んだままにせずに降ろしましょう。また、大型ルーフキャリアの装着も重い荷物と同様に燃費の悪化につながります。

走行前の暖機運転

ガソリンエンジンが冷えているときは、ガソリンエンジンの始動／停止を自動的に行いますので、暖機運転は必要ありません。
なお、短距離走行のくり返しは、暖機運転のためのガソリンエンジン始動がひんぱんに行われることになりますので、燃費の悪化につながります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える前の準備について

● 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。

- エンジンオイル
- 冷却水
- ウォッシャー液

● 補機バッテリーの点検を受けてください。

● 冬用タイヤ（4 輪）を使用してください。
タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを使用してください。
（タイヤについて：→P.346）

知識

■タイヤチェーンについて

タイヤチェーンを装着できません。

タイヤチェーンについてはレクサス販売店にお問い合わせください。

警告

■冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

●指定サイズのタイヤを使用する

●空気圧を推奨値に調整する

●装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない

●冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

注意

■タイヤチェーンの使用について

タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあります。
詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

■タイヤを修理・交換するとき

レクサス販売店へご依頼ください。
タイヤの取り付け・取りはずしはタイヤ空気圧バルブ／送信機の作動に影響します。
（タイヤについての詳しい説明は P.346 を参照してください）

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

● コンバーチブル以外：ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。

● コンバーチブル：ドアやドアガラス、ワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。

● ドアハンドルが凍結したときは、

ワイヤレス機能を使用して解錠してください。ワイヤレス機能で解錠してもドアハンドルが格納されたまま動かない場合は、ぬるま湯をかけるなどして氷を解かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。また、凍結時の氷のはさまりなどでドアハンドルが格納しきらない場合がありますが、氷が解ければ正常な位置にもどります。

- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ・ドアミラー・ドアガラス・車両の屋根※1・ソフトトップルーフ※2・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

※1コンバーチブル以外

※2コンバーチブル

知識

■寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。レクサス販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

■ワイパーの保護制御について

→P.214

注意

■ドア / リヤクォーターガラスが凍結しているときは（コンバーチブル）

→P.167

■ガラスに付いた氷を除去するとき

氷をたたいて割らないでください。

ガラスがひび割れるおそれがあります。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトポジションを P にして駐車し、必ず輪止め※をしてください。

輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

※輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。

ワイパーについて

積雪や凍結のおそれがある場合は、ボンネット下にあるワイパーをサービスポジションに切りかえてから立ててください。（→P.215）

室内装備・機能

5

5-1. レクサスクライメイト コンシェルジュ

レクサスクライメイトコンシェルジュ 308

5-2. エアコンの使い方

オートエアコン..... 309

ステアリングヒーター／シートヒーター／シートベンチレーター／ネックヒーター 316

5-3. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 319

5-4. 収納装備

収納装備一覧 322

トランク内装備..... 324

5-5. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備..... 326

レクサスクライメイトコンシェルジュ

エアコンの設定温度、外気温、車室内温度などに応じて、各席のシートヒーター・ベンチレーター・ステアリングヒーター・ネックヒーター★がそれぞれ自動制御されます。

各システムの調整の手間を省き、快適な状態を維持するよう制御します。

エアコン操作スイッチ（→P.309）とセンターディスプレイのエアコン操作画面（→P.312）で操作します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

クライメイトコンシェルジュを使用する

クライメイトコンシェルジュはエアコン AUTO スイッチに連動して作動します。

1 センターディスプレイのメインメニューから を選択する
2 “エアコン” を選択する
3 “オプション” を選択する
4 “クライメイトコンシェルジュ” を選択する
5 AUTO スイッチを押す

各システムの作動について

■ エアコン（→P.309）

運転席および助手席の設定温度を別々に調整することができます。

■ シートヒーター／ベンチレーター（→P.316）

コンバーチブル以外：エアコンの設定温度・外気温などに応じて、暖房・送風が自動的に切りかわります。
コンバーチブル：エアコンの設定温度・外気温やソフトトップルーフの開閉状態などに応じて、暖房・送風が自動的に切りかわります。

助手席のシートヒーターやベンチレーターは、乗員を検知してオート設定で作動します。

■ ステアリングヒーター（→P.316）

▶ コンバーチブル以外

エアコンの設定温度・外気温などに応じて自動で作動します。

▶ コンバーチブル

エアコンの設定温度・外気温やソフトトップルーフの開閉状態などに応じて自動で作動します。

■ ネックヒーター（コンバーチブル）（→P.316）

エアコンの設定温度・外気温やソフトトップルーフの開閉状態や車速などに応じて、温度や風量を自動で調整します。

助手席のネックヒーターは、乗員を検知してオート設定で作動します。

知識

■ シートヒーター／ベンチレーター／ネックヒーターの作動について

シートヒーター／ベンチレーター／ネックヒーターのスイッチでオート設定にした場合は、乗員の検知を行いません。

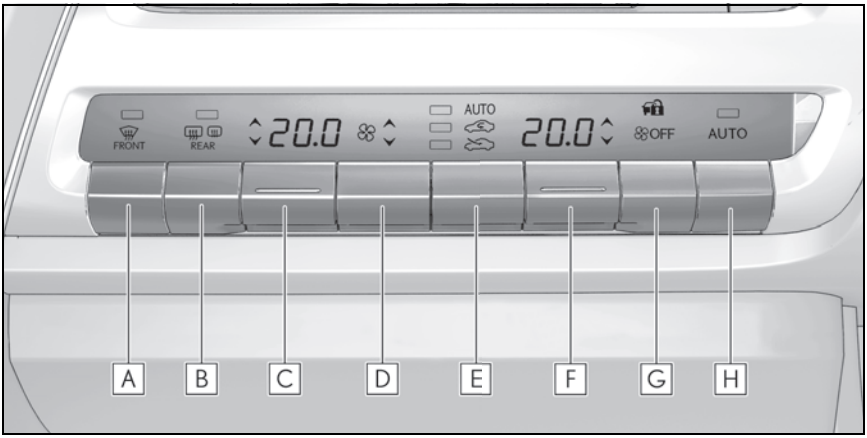
オートエアコン

コンバーチブル以外：設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

コンバーチブル：設定温度やソフトトップルーフの開閉状態に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

エアコン操作スイッチとセンターディスプレイのエアコン操作画面（→P.312）で操作します。

エアコン操作スイッチについて



A フロントデフロスタースイッチ

B リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒータースイッチ

C 助手席側温度調整スイッチ

D 風量調整スイッチ

E 内外気切りかえスイッチ

F 運転席側温度調整スイッチ

G OFF スイッチ

H AUTO スイッチ

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは温度調整スイッチを上に、下げるときは下に操作する

“A/C” のインジケーターが消灯している場合は、送風または暖房で使用できま

す。

■ 風量を切りかえる

風量を増やすときは風量調整スイッチを上に、減らすときは下に操作する

OFF スイッチを押すと、ファンが止まります。

■ 吹き出し口を切りかえる

→P.312

■ 内気循環／外気導入を切りかえる

内外気切りかえスイッチを上下に操作する

操作するたびに次のように設定が切りかわります。

AUTO→ 外気導入 → 内気循環 →AUTO

AUTO を選択したときは、内気循環と外気導入の切りかえを自動で行います。また、トンネル情報を考慮して最適な内外気設定に切りかえます。（トンネル連動内気 ※）

※ トンネル連動内気の設定を変更することができます。詳しくは別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ フロントウインドウガラスの曇りを取る

フロントデフロスタースイッチを押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。（自動的に外気導入に切りかわることがあります）

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度フロントデフロスタースイッチを押すと前のモードにもどります。

■ リヤウインドウデフォッガー & ミラーヒーター

リヤウインドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用してください。

リヤウインドウデフォッガー & ミラーヒータースイッチを押す

リヤウインドウデフォッガーとミラーヒーターは、約 15 ～ 60 分後に自動的に OFF になります。

作動時間は周囲の温度や車速により変化します。

■ ウインドシールドデアイサー★

→P.313

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ ガラスの曇りについて

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、“A/C” を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。
- “A/C” を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。
- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■ 外気導入・内気循環について

- トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。
- 設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■ 電子キーによるエアコン設定の記憶制御

- 電子キーでドアを解錠してエンジンス

イッチ<パワースイッチ>を ON にすると、その電子キーに対応して記憶されたエアコン設定が呼び出されます。

●エンジンスイッチ<パワースイッチ>を OFF にすると、その時のエアコンの設定が解錠した電子キーに対して記憶されます。

●複数の電子キーを持ってスマートエントリー＆スタートシステムでドアを解錠したり、助手席のドアをスマートエントリー＆スタートシステムで解錠したりすると、正しく作動しないことがあります。

●スマートエントリー＆スタートシステムでエアコン設定の呼び出しのできる、解錠ドアの設定※を変更できます。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

※運転席ポジションメモリーの呼び出しを行う解錠ドアの設定も同時に変更になります。

■エコドライブモードのエアコン作動について

●エコドライブモードは燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。
・エンジン回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房／冷房の能力を抑制します。
・オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。

●空調の効きをよりよくしたいときは、次の操作を行ってください。
・エコ空調モードを OFF にする（→P.312）
・風量を調整する
・エコドライブモードを解除する（→P.271）

■外気温度が 0 ℃近くまで下がったとき

“A/C” を選択しても除湿機能が働かない場合があります。

■換気とエアコンの臭いについて

●車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時または花粉除去モードが ON の時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

●駐車時に自動的に外気導入に切りかえることにより駐車中の換気をうながし、始動時に発生するにおいを緩和します。

■音声操作システムについて

音声操作システムを使用して、エアコンを操作することができます。詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■エアコンフィルターについて

→P.362

■カスタマイズ機能

AUTO スイッチを押したとき、除湿機能を連動させるかどうかなどを設定できます。（カスタマイズ一覧：→P.446）

警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、フロントデフロスタースイッチを押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

■リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーター作動中の警告

ドアミラーの鏡面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

注意

■補機バッテリーあがりを防ぐために

エンジン<ハイブリッドシステム>停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

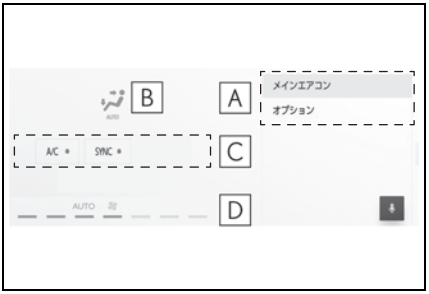
エアコン操作画面について

■ メイン操作画面

1 センターディスプレイのメインメニューから を選択する

2 “ エアコン ” を選択する

3 “ メインエアコン ” を選択する



A サブメニュー

画面表示を切りかえることができます。

“ メインエアコン ” ：エアコン操作画面を表示する

“ オプション ” ：オプション画面を表示する

B 吹き出し口を切りかえる

：上半身に送風

：上半身と足元に送風

：足元に送風

：足元に送風・ガラスの曇りを取る

状況によっては、選択した吹き出し口以外からも送風する場合があります。

C 各機能の ON ／ OFF を切りかえる

次の機能の ON ／ OFF を、それぞれ切りかえることができます。

機能が ON のとき、表示灯が点灯します。

“A/C” ：冷房・除湿する

“SYNC” ：運転席と助手席の設定温度を同時に設定する（連動モード）

D 風量表示

現在の風量が表示されます。

■ オプション操作画面

エアコン操作画面（→P.312）の “ オプション ” を選択する

次の機能の（作動）／（非作動）を切り替えることができます。

A クライメイトコンシェルジュを作動させる（→P.308）

B エコ空調モードに設定する

燃費を優先するため冷房／暖房の効きを抑えます。

C フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐ（ウインドシールドデアイサー）★

D「ナノイー X」※ を作動させる

「ナノイー X」とは「ナノイー」発生装置のことです。

E 花粉を除去する（花粉除去モード）

※「nanoe」、「ナノイー」および「nanoe」マークは、パナソニック株式会社の商標です。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ウインドシールドデアイサー★

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用してください。

ウインドシールドデアイサーは、約 15 分後に自動で OFF になります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■エコ空調モード

ドライブモードセレクトスイッチのエコドライブモードを選択すると、エコ空調モードが ON になります。

エコドライブモード以外を選択したときは、エコ空調モードが OFF になる場合があります。

■花粉除去モードについて

内気循環に切りかわり、上半身に送風して花粉を除去します。

花粉除去モードは、約 1 ～ 3 分後に自動的に OFF になります。

外気温が低いときは、フロントウインドウガラスの曇りを防止するために除湿機能が作動する、または内気循環に切りかわらない場合があります。

花粉除去モードが OFF のときも花粉はフィルターで取り除かれています。

■「ナノイー X」について

エアコンには「ナノイー」発生装置が搭載されています。この装置は運転席中央側の吹き出し口を通じて、水に包まれた肌や髪にやさしい弱酸性の「ナノイー」を放出し、室内を爽やかな空気で満たします ※1。

●ファンが作動すると、自動的に「ナノイー X」が作動します ※2。

●「ナノイー X」の作動中、次の条件で効果を発揮します。次の条件以外では、効果が十分に得られない場合があります。

・吹き出し口が 、 または のとき

・運転席中央側の吹き出し口が開いているとき

●「ナノイー X」作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがありま

すが、森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。

●作動中、かすかに作動音が聞こえることがありますが、故障ではありません。

※1温湿度環境、風量・風向きによっては「ナノイー」の効果が十分に得られない場合があります。

※2「ナノイー X」が ON のとき。
（→P.312）

警告

■ウインドシールドデアイサー★作動中の警告

フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■「ナノイー X」について

このシステムは高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、レクサス販売店にお問い合わせください。

注意

■「ナノイー X」の損傷を防ぐために

運転席側の吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。システムが正常に働かなくなるおそれがあります。

オート設定で使用する

1 AUTO スイッチを押す

2 AUTO モードになるまで内外気切りかえスイッチをくり返し操作する

排ガスセンサーにより外気導入と内気循環を自動で切りかえます。

3 温度を設定する

4 ファンを止めたいときは、OFF スイッチを押す

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

知識

■オート設定の作動について

●風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、AUTO スイッチを押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

●日射の影響により、暖房時でも上半身付近に冷風が出る場合があります。

●コンバーチブル：ソフトトップルーフを開けると日射の影響や車速に応じて、風量や吹き出し口が切りかわる場合があります。

■フロントウインドウガラス内側の曇り検知機能

オート設定時、湿度センサーでフロントウインドウガラス内側の曇りを検知し、エアコンを自動的に制御して曇りを防ぎます。

■内外気切りかえの AUTO モード

AUTO モードでは排出ガスなどの有害成分を検知し、自動で外気導入と内気循環を切りかえます。
“A/C” が OFF で送風が作動中に AUTO モードにすると、“A/C” が ON になります。

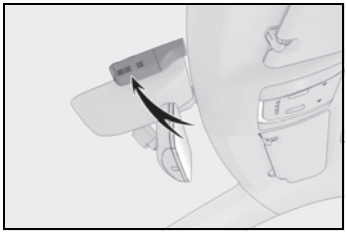
注意

■湿度センサーについて

フロントウインドウガラスの曇り検知のために、フロントウインドウガラスの温度やその付近の湿度などを監視するセンサーが装着されています。

センサーの故障を防ぐため、次のことをお守りください。

・ 湿度センサーを分解しない
・ ガラスクリーナーなどを吹きかけたり、強い衝撃を与えたりしない
・ 湿度センサーにシールなどを貼らない



各席の設定温度を同時に設定する（連動モード）

連動モードを ON にするには、エアコン操作画面の “SYNC” を選択する

運転席側温度調整スイッチで運転席側および助手席側の設定温度を変更します。

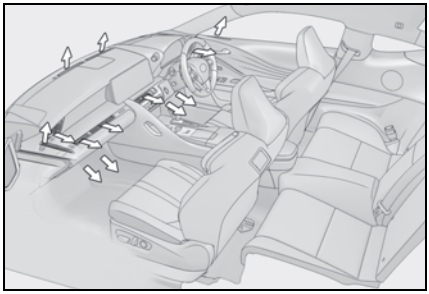
個別モードにするには、助手席側の設定温度を変更するか、もう一度 “SYNC” を選択してください。

連動モードが ON のときは作動表示灯が点灯します。

吹き出し口の配置・操作

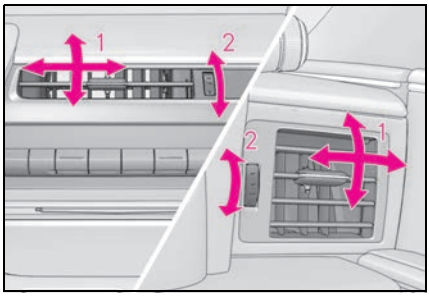
■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。



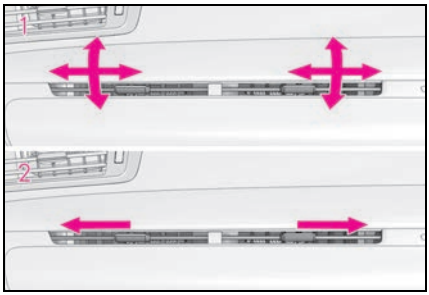
■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

▶ センター／サイド



1 風向きを調整する
2 吹き出し口を開閉する

▶ グローブボックス上部



1 風向きを調整する
2 吹き出し口を閉じる

知識

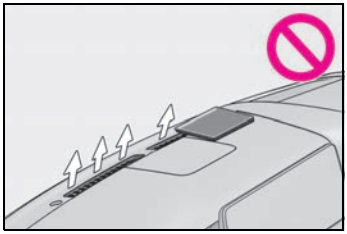
■グローブボックス上部の吹き出し口の中にものが落ちたときは

グローブボックス内のパネルをはずすと取り出すことができます。（→P.362）

警告

■フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために

フロントウインドウガラスの曇り取りを妨げないために、吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風が遮られ、曇りが取れにくくなることがあります。



ステアリングヒーター／シートヒーター／シートベンチレーター／ネックヒーター★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

● ステアリングヒーター

ハンドルのグリップ部を暖めることができます。

● シートヒーター

シートの表面を暖めることができます。

● シートベンチレーター

シート内部に装備されたファンで換気することにより、シート表面の通気をよくします。

● ネックヒーター（コンバーチブル）

ヘッドレストの吹き出し口より温風を出し、首周辺を暖めることができます。

センターディスプレイの操作画面（→P.317）で操作します。

警告

■低温やけどについて

次の方がステアリングヒーター／シートヒーター／ネックヒーターにふれないようにご注意ください。

●乳幼児、お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方

●皮膚の弱い方

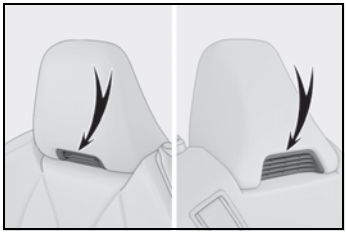
●疲労の激しい方

●深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬・風邪薬など）を服用された方

警告

■やけどや発火を防ぐために（ネックヒーター装着車）

ヘッドレストの吹き出し口や吸入口に指や異物を入れないでください。やけどや発火するおそれがあります。



注意

■シートヒーター／シートベンチレーターの損傷を防ぐために

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■ネックヒーターの故障を防ぐために（ネックヒーター装着車）

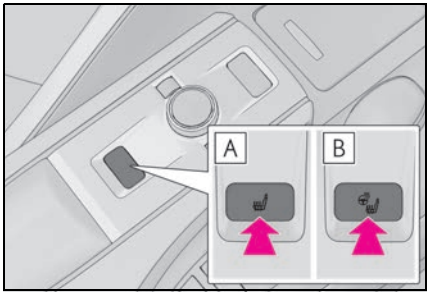
ヘッドレストの吹き出し口や吸入口をふさがないでください。吹き出し口や吸入口をふさぐと熱がこもり、ネックヒーターが損故障するおそれがあります。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

エンジン<ハイブリッドシステム>が停止した状態で使用しないでください。

操作画面について

スイッチを押して操作画面を表示します。



A ステアリングヒーター非装着車

B ステアリングヒーター装着車

次の手順でも操作画面を表示できます。

1 センターディスプレイのメインメニューから を選択する

2 “シート空調” を選択する

A シートベンチレーターの風量を切りかえる

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

AUTO→強（3 個点灯）→中（2 個点灯）→弱（1 個点灯）→OFF

AUTO モードが作動すると、状況に応じてシートベンチレーターやシートヒーターが作動します。

B シートヒーターの温度を調整する

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

AUTO→ 強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→OFF

AUTO モードが作動すると、状況に応じてシートベンチレーターやシートヒーターが作動します。

C ステアリングヒーターの温度を調整する

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

AUTO→ 強（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→OFF

D ネックヒーターの風量を切りかえる

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

AUTO→ 強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→OFF

E 各機能を AUTO モードに切りかえる

・ 運転席のシートヒーター／ベンチレーター／ネックヒーター
・ 助手席のシートヒーター／ベンチレーター／ネックヒーター
・ ステアリングヒーター

知識

■作動条件

エンジンスイッチ<パワースイッチ>が ON のとき

■エアコン連動制御モードについて

シートベンチレーターが強のとき、エアコンの風量に応じてシートベンチレーターの風量が強くなります。

■カスタマイズ機能

ステアリングヒーター AUTO モード時の温度や、シートヒーター＆ベンチレーターのオート設定を変更することができます。

（カスタマイズ一覧：→P.446）

警告

■異常加熱や低温やけどを防ぐために

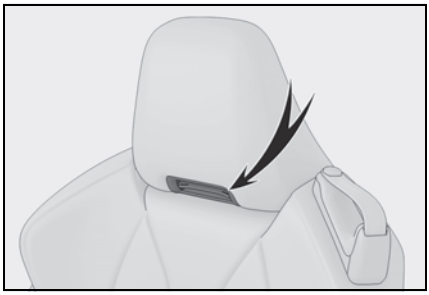
シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。

●長時間連続使用しないでください。

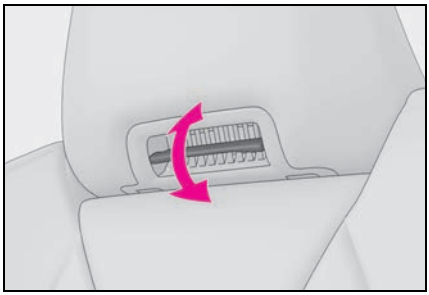
●毛布・クッションなどを使用しないでください。

ネックヒーターの吹き出し口の配置・操作（コンバーチブル）

■ 吹き出し口の位置



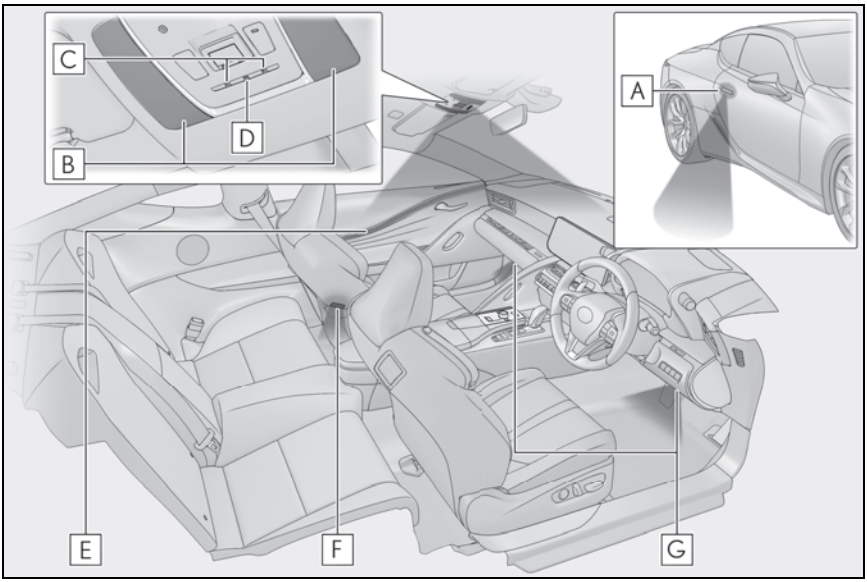
■ 風向きの調整



室内灯一覧

室内灯の位置

▶ コンバーチブル以外



A ドアハンドル照明

B パーソナルランプ（→P.321）

C シート照明

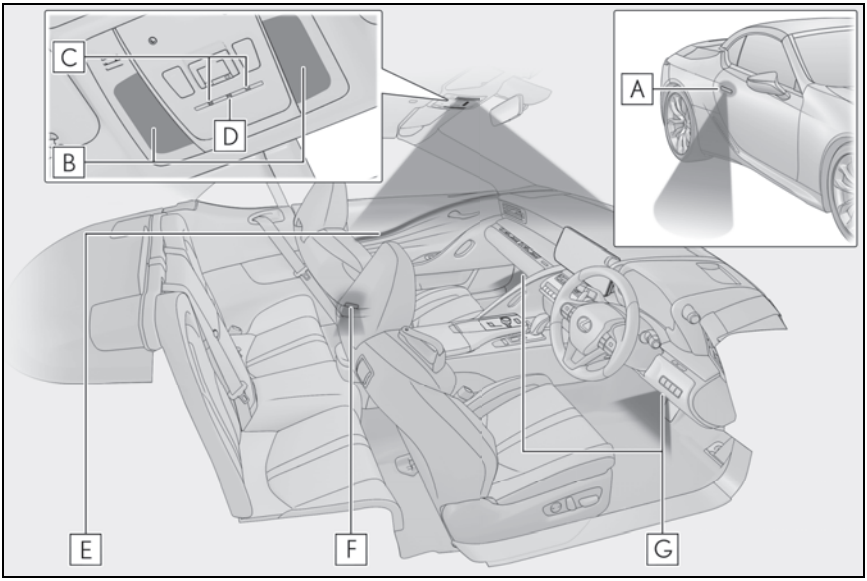
D シフトレバー照明

E ドアトリムオーナメント照明

F ドアカーテシランプ

G 足元照明

▶ コンバーチブル



A ドアハンドル照明

B パーソナルランプ（→P.321）

C シート照明

D シフトレバー照明

E ドアトリムオーナメント照明

F ドアカーテシランプ

G 足元照明

知識

■**各部照明の自動点灯／消灯について**

●電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・エンジンスイッチ<パワースイッチ>のモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。（イルミネーテッドエントリーシステム）

●エンジンスイッチ<パワースイッチ>が OFF の場合、室内灯が点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

■**パーソナルランプが正常に反応しない状況について**

●レンズ面に水や汚れなどが付着しているとき

●ぬれた手で操作したとき

●手袋などを装着しているとき

■**室内灯の自動点灯について**

SRS エアバッグの作動時または後方から

強い衝撃を受けたときは、室内灯が約 20 分間自動で点灯します。手動操作で消灯することもできますが、二次災害を防ぐため、安全が確保できるまでは消灯しないことをおすすめします。（衝撃の度合いや事故の状況によっては点灯しないことがあります。）

■カスタマイズ機能

室内灯の消灯までの時間などを設定できます。（カスタマイズ一覧：→P.446）

注意

■ランプのレンズの取りはずしについて

パーソナルランプのレンズを絶対に取りはずさないでください。ランプが故障する原因となります。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

エンジン<ハイブリッドシステム>が停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

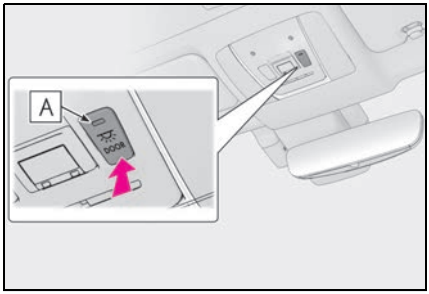
パーソナルランプを操作するには

■ ドアポジション（ドア連動）を ON にする

パーソナルランプドア連動スイッチを押す

ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯が切りかわります。

ON のときはインジケーター A が点灯します。

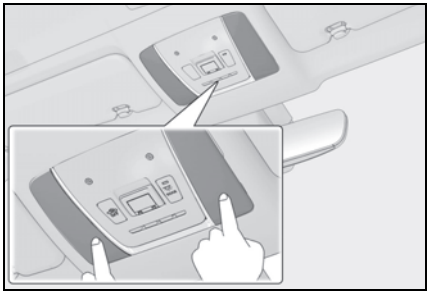


■ ランプを点灯・消灯する

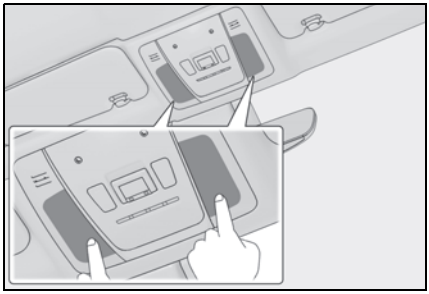
ランプにタッチする

ドアポジション（ドア連動）が ON のときは、ドアが開くとランプが点灯します。

▶ コンバーチブル以外

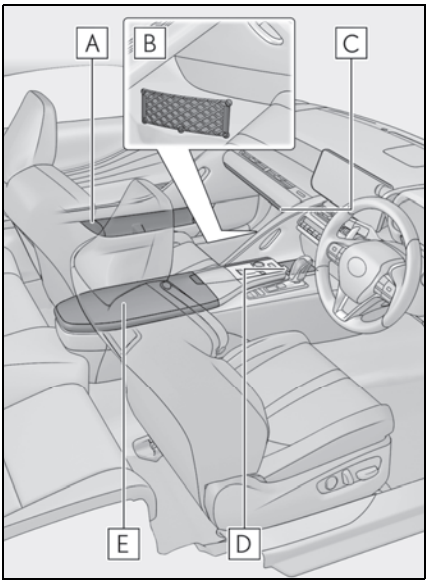


▶ コンバーチブル



収納装備一覧

収納装備の位置



A ドアポケット

B 小物入れネット

C グローブボックス（→P.322）

D カップホルダー（→P.323）

E コンソールボックス／小物入れ（→P.323）

警告

■収納装備に放置してはいけないもの

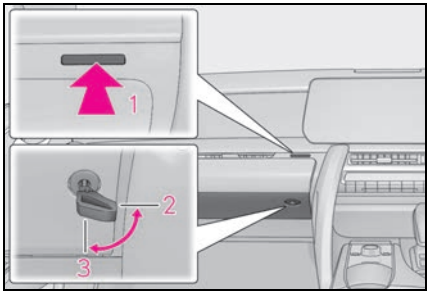
メガネ・ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

■収納装備を使わないときは

収納装備を使わないときは、フタを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

グローブボックスを使うには



1 開ける（グローブボックスオープナーを押す）

2 メカニカルキーで解錠

3 メカニカルキーで施錠

知識

■グローブボックスランプ

車幅灯点灯時は、グローブボックス内のランプが点灯します。

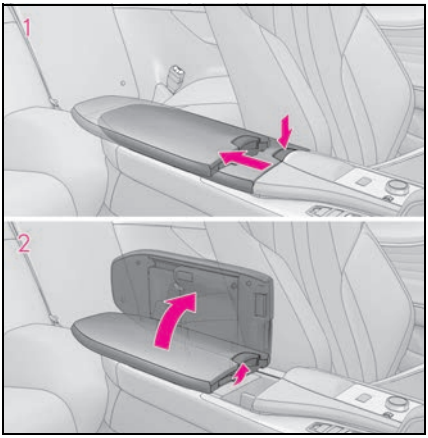
■トランクオープナーメインスイッチ

→P.133

■補機バッテリーがあがったときは

通常どおりグローブボックスを開けることができません。P.417 の手順に従って開けてください。

コンソールボックス／小物入れを使うには



1 半開で使用する：ボタンを押しながらアームレストをいちばんうしろまでスライドさせる

ボタンを押すと閉まります。

2 全開で使用する：ノブを引きながら開く

知識

■コンソールボックスランプ

車幅灯点灯時は、コンソールボックス内のランプが点灯します。

■小物入れを使用するときは

カップや缶を置かないでください。

警告

■コンソールボックスを閉めるとき

指などを挟まないように注意してください。

注意

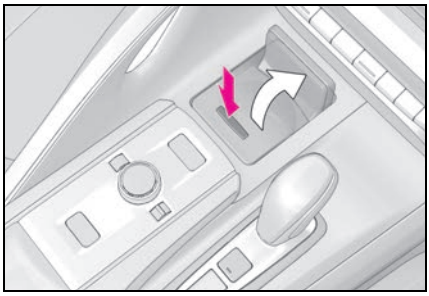
■コンソールボックスの損傷を防ぐために

●アームレストがスライドしているときにノブを引かないでください。

●アームレストに乗ったり、無理な力をかけたりしないでください。

カップホルダーを使うには

カップホルダーのフタを押して開ける



警告

■収納してはいけないもの

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。また、フタを閉じているときでも、ものを収納しないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

注意

■カップホルダーやエアコン操作スイッチの損傷を防ぐために

●カップホルダーに無理な力をかけないでください。

注意

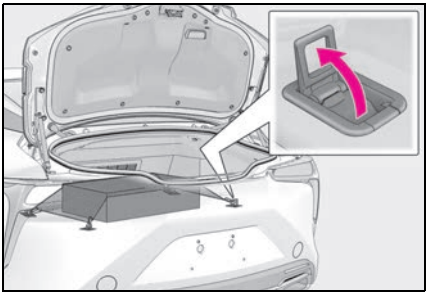
●カップホルダーに背の高いペットボトルを置く際は十分注意してください。
取り出すときや急ブレーキ時にペットボトルがエアコン操作スイッチにあたって部品が破損するおそれがあります。

トランク内装備

荷物固定用フックを使うには

フックを起こして使用する

フックを使って荷物を固定することができます。

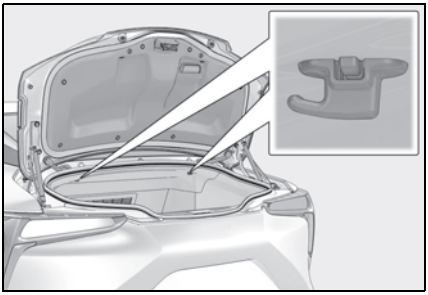


警告

■荷物固定用フックを使用しないときは

けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

買い物フック（コンバーチブル以外）

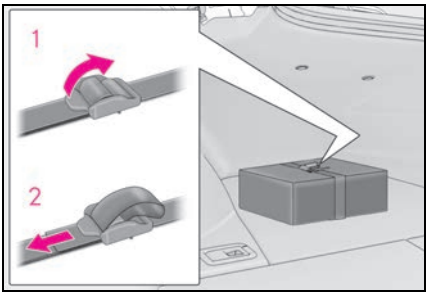


注意

■買い物フックの破損を防ぐために

2kg 以上のものを買い物フックに吊り下げないでください。

救急箱等固定用バンドを使うには

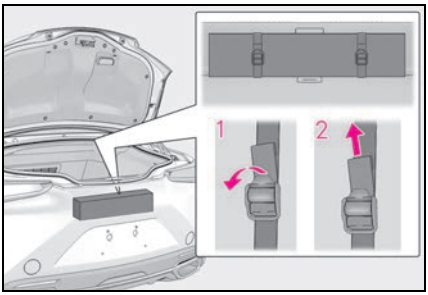


1 ベルトをゆるめる

2 ベルトを締める

三角表示板等固定用バンドを使うには

■ ベルトをゆるめる／締める

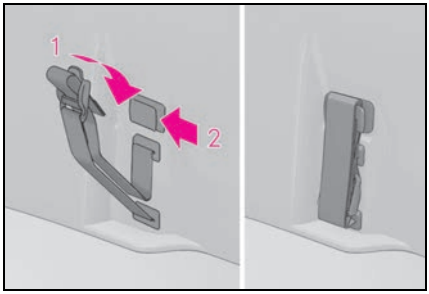


1 ベルトをゆるめる

2 ベルトを締める

三角表示板のケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。

■ ベルトを収納する



1 折りたたむ

2 クリップに挟む

三角表示板等固定用バンドの損傷を防ぐため、使用しないときは収納してください。

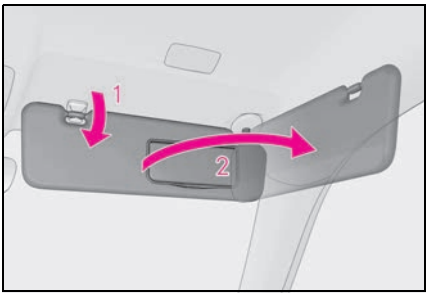
警告

■三角表示板を収納するときは

確実に固定されていることを確認してください。
確実に固定されていないと、急ブレーキをかけたときなどに三角表示板が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

その他の室内装備

サンバイザーを使うには



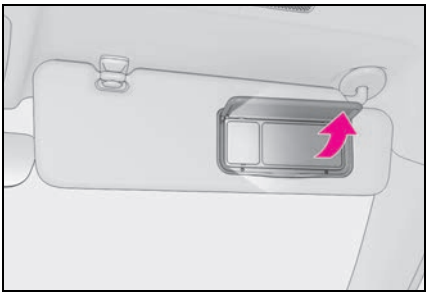
1 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

2 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

バニティミラーを使うには

カバーを開ける

カバーを開けるとバニティミラーランプが点灯します。



注意

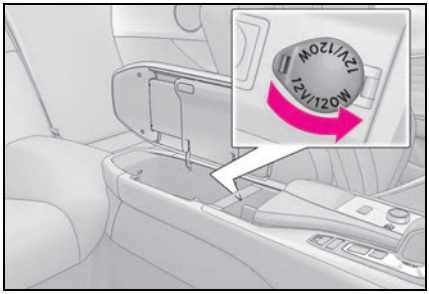
■補機バッテリーあがりを防ぐために

エンジン<ハイブリッドシステム>が停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

アクセサリーソケットを使うには

DC12V/10A（消費電力 120W）未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

フタを開けて使用する



知識

■作動条件

エンジンスイッチ<パワースイッチ>が ACC または ON のとき

■LC500：エンジンスイッチを OFF にするとき

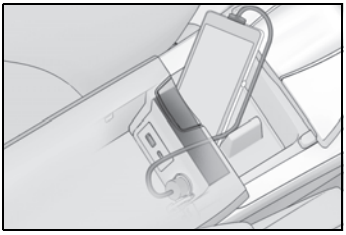
モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品をはずしてください。
接続したままにしておくと、エンジンスイッチを正常に OFF することができなくなる場合があります。

■LC500h：ハイブリッドシステムを停止するとき

モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品をはずしてください。
接続したままにしておくと、ハイブリッドシステムが正常に停止しなくなる場合があります。

■アクセサリーソケットを使用するときは

コンソールボックスのフタを閉じた状態でも、仕切りのあいだに配線を通すことができます。



注意

■アクセサリーソケットを使用しないときは

異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときはフタを閉めておいてください。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

エンジン<ハイブリッドシステム>が停止した状態で、アクセサリーソケットを使用しないでください。

充電用 USB Type-C 端子

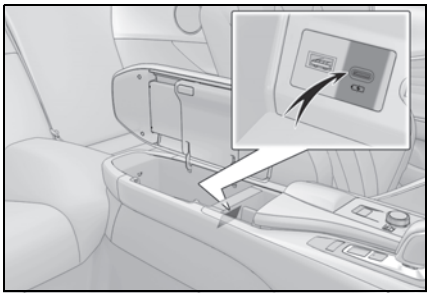
DC5V/3A（消費電力 15.75W）の電源としてお使いください。

この USB Type-C 端子は充電専用でありデータ転送などは行えません。

また、使用する機器によっては、正常に充電できない場合があります。

ご使用になる機器に付属の取扱説明書もお読みください。

■ 充電用USB Type-C 端子を使用するには



知識

■充電用 USB Type-C 端子の作動条件

エンジンスイッチ<パワースイッチ>が ACC または ON のとき

■充電用 USB Type-C 端子が正常に働かないおそれのある状況

- DC5V/3A（消費電力 15.75W）をこえる電力を要求する機器を接続したとき
- パソコンと通信を行う機器を接続したとき
- 接続機器の電源が OFF のとき（機器により異なります）
- 炎天下に駐車したあとなど、車室内の温度が高いとき

■使用する外部機器について

一部の機器では、充電中に充電がいったん停止後、再充電を開始する場合がありますが、故障ではありません。

注意

■充電用 USB Type-C 端子の損傷を防ぐために

- 端子部に異物を入れないでください。
- 水や液体をかけないでください。
- 強い力や衝撃を加えないでください。

注意

●分解や改造、取りはずしをしないでください。

■外部機器の損傷を防ぐために

●機器を車室内に放置しないでください。車室内が高温となり、故障の原因となります。

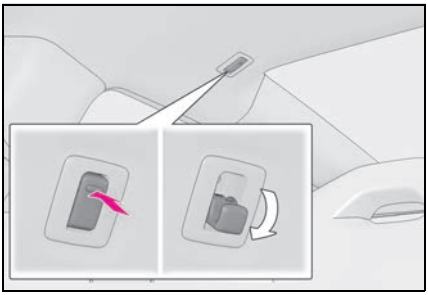
●機器が接続されているときに、外部機器や外部機器のケーブルを押し下げたり、不要な力を加えたりしないでください。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

エンジン<ハイブリッドシステム>が停止した状態で、充電用 USB Type-C 端子を長時間使用しないでください。

コートフックを使うには（コンバーチブル以外）

使用するときは、コートフックを押します。



警告

■コートフックへかけてはいけないもの

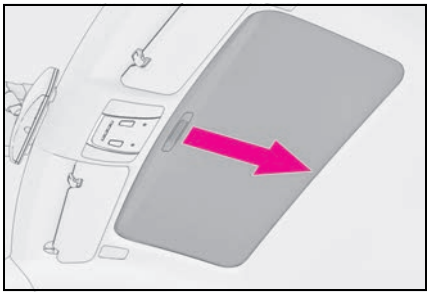
ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

■コートフックを使わないときは

コートフックを使わないときは、フックを格納してください。
リヤ席に乗り降りするときに、頭などをぶつけてけがをするおそれがあります。

サンシェード★を開けるには

スライドして開ける



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

お手入れのしかた

6

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ 330
内装の手入れ 334
人工皮革（アルカンターラ®）の手入れ 340

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット 342
ガレージジャッキ..... 343
ウォッシャー液の補充..... 345
タイヤについて..... 346
タイヤの交換 354
タイヤ空気圧について..... 361
エアコンフィルターの交換 362
電子キーの電池交換..... 364
ヒューズの点検・交換..... 366
電球（バルブ）の交換..... 369

外装の手入れ

お手入れは、部位や素材にあった適切な方法で実施してください。

ソフトトップルーフ★以外の手入れの作業要領

- 水を十分かけながら車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、レクサスケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。
詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ソフトトップルーフの手入れの作業要領（コンバーチブル）

次の方法で汚れを取り除いてください。

▶ 粉じんなどの小さな汚れの場合

- 馬毛ブラシなどのやわらかいブラシを繊維に沿って使用する
- 粘着ローラーやエアガンを使用する

▶ 染みなどのひどい汚れの場合

清掃方法はレクサス販売店にお問い合わせください。

知識

■カーボン部品★について

- 長期にわたって紫外線を浴び続けると変色することがありますので、直射日光のあたらない場所で車を保管されることをおすすめします。
- 成分にコンパウンド（磨き粉）が含まれるワックス類は使用しないでください。
- カーボン部品に傷が付き塗装を損なうため、自動洗車機は使用しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■セルフリストアリングコート※について

お車のボデーには、洗車などによる小さなすり傷を自然に復元する、傷付きにくい塗装を使用しています。

- 新車時から５～８年のあいだ､効果が持続します。
- 傷が復元するまでの時間は、傷の深さや周囲の温度により変化します。
なお、お湯をかけて塗装を温めると、復元するまでの時間が短くなる場合があります。
- 鍵や硬貨などによる深い傷は復元できません。
- 成分にコンパウンド（磨き粉）が含まれるワックス類は使用しないでください。

※ カーボン部品★とソフトトップルーフ

（コンバーチブル）には、セルフリストアリングコートが塗装されていません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■金属コーティング部分について

成分にコンパウンド（磨き粉）が含まれるワックス類や重曹（炭酸水素ナトリウム）は使用しないでください。

■自動洗車機を使うとき（カーボン部品非装着車）

コンバーチブル：自動洗車機を使用することは推奨していません。

●ドアミラーを格納し、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。

●コンバーチブル以外：アクティブリヤウィングを格納した状態で洗車してください。上昇した状態だと洗車機によっては、アクティブリヤウィングが引っかかり洗車できない場合や、傷付いたり破損したりするおそれがあります。

●ブラシで車体などに傷が付き、塗装を損なうことがあります。

●Nポジションに保持したままにする必要があるときは、P.191, 198 を参照してください。

■高圧洗浄機を使うとき

●コンバーチブル：ソフトトップルーフに直接当てないでください。

●室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。

■スマートエントリー＆スタートシステムについて

電子キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠・解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

●電子キーを車両から 2m 以上離れた場所に保管する
（電子キーの盗難に注意してください）

●電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する（→P.137）

■ホイール・ホイールキャップについて

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。

●洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。

●塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。
・酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
・硬いブラシを使用しない
・夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■ブレーキキャリパーの塗装について

●洗剤を使用する場合は中性洗剤を使用してください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。

●ブレーキキャリパーが熱いときは、洗剤は使用しないでください。

●洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

■ブレーキパッドやディスクローターについて

水に濡れた状態のまま駐車しておくと、錆びて貼り付くことがあります。洗車後は低速で走行し、ブレーキを数回かけて乾燥させてから駐車してください。

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■フロントドアガラスの撥水コーティングについて

●撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。
・フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす
・汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
・コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
・金属製の道具で霜取りをしない

●水滴のはじきが悪くなったときは補修することができます。
詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

■メッキ部品のお手入れについて

メッキ部品の汚れが落ちにくい場合は、次の方法でお手入れをしてください。

●中性洗剤を水で約5%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る

●乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取る

●油分を含んだ汚れはアルコール系ウェットティッシュなどで油を浮かせてからふき取る

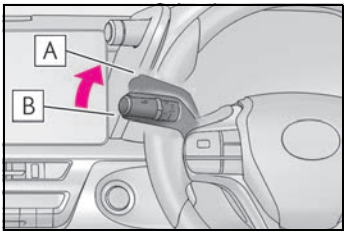
警告

■洗車をするとき

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■フロントウインドウガラスを清掃するとき

ワイパースイッチを OFF にしてください。（→P.213）
AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。



A OFF

B AUTO

●雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき

●水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき

●フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき

●車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

■排気管およびデュアルエキゾーストパイプ（バンパー一体ディフューザー付き）について

排気管およびデュアルエキゾーストパイプは排気ガスにより熱くなりますので、エンジンがかかっている<ハイブリッドシステムが作動している>ときや、停止直後などにふれないでください。洗車などでふれる場合は、十分に排気管およびデュアルエキゾーストパイプが冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

警告

■ブラインドスポットモニターについて

リヤバンパーの塗装に傷が付くと、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。レクサス販売店にご相談ください。

注意

■ボデーコートについて（カーボン部品装着車）

塗装が損傷したり耐久性を損なうおそれがあるため、レクサスケミカル商品または同等の商品以外のボデーコートは施工しないでください。

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

●次のような場合は、ただちに洗車してください。

・海岸地帯を走行したあと

・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと

・コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき

・ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと

・ほこり・泥などで激しく汚れたとき

・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ソフトトップルーフの劣化や損傷を防ぐために（コンバーチブル）

●ソフトトップルーフやトノカバーの上の雪などを、ただちに取り除いてください。

●鳥のふんなどが付着したときは、ただちに取り除いてください。

●車を駐車するときは、なるべく直射日光をさけください。

●車庫内など囲まれた場所に長時間とめるときは、十分に換気をしてください。

●ワックスを使用しないでください。

●ソフトトップルーフに汚れや雪が付着したまま、開けないでください。

■ソフトトップルーフの清掃（コンバーチブル）

馬毛ブラシなどのやわらかいブラシや粘着ローラーを強く押し付けて使用しないでください。ソフトトップルーフの損傷などにつながるおそれがあります。

■ランプの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
ランプを損傷させるおそれがあります。

●ランプにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■自動洗車機を使用するとき

ワイパースイッチを OFF にしてください。（→P.213）
AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

注意

■高圧洗浄機を使用するときは

●洗浄時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺、およびドアハンドル内部に直接水を当てないでください。
高い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。

●エンブレム裏に搭載されているレーダーに直接水をかけないでください。
部品故障の原因になるおそれがあります。

●ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。
高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。

・駆動系部品

・ステアリング部品

・サスペンション部品

・ブレーキ部品

●モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。

●フロントウインドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄しないでください。

内装の手入れ

お手入れは、部位や素材に合った適切な方法で実施してください。

ソフトトップルーフ★部以外の室内の手入れをするには

● 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る

● 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ソフトトップルーフ部の室内の手入れをするには（コンバーチブル）

▶ 粉じんなどの小さな汚れの場合

エアガンを使用して汚れを取り除く

▶ 染みなどのひどい汚れの場合

材質や色がソフトトップルーフ部の繊維に似た布に少量の水を含ませふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

フロアマットの手入れをするには★

● 掃除機などで泥・砂・ほこりなどを取り除き、水洗いする

● 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1%に薄めて布またはスポンジに含ませ、軽くたたくよう

にふき取る

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■カーペットの洗浄について

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルトの取り扱いについて

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。
シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

■グローブボックス・コンソールボックスなどの植毛部分を掃除する場合

粘着力の強いテープを使用すると植毛がはがれるおそれがあります。

■カーボン部品について（コンバーチブル以外）

スカッフプレートにカーボンを使用しています。手入れをするときは、湿らせたやわらかい布または合成セーム皮で汚れをふき取った後、乾いたやわらかい布で表面に残った水分をふき取ってください。

警告

■車両への水の浸入

●LC500：車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
LC500h：床・リヤ席・トランク内・駆動用電池冷却用吸入口など、車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。（→P.85）
駆動用電池や電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

●SRS エアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。（→P.38）
電気の不具合により、SRS エアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

▶コンバーチブル以外

注意

・シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤

・シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール、その他の酸性やアルカリ性の溶剤

▶コンバーチブル

・シート・ソフトトップルーフ以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤

・シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール、その他の酸性やアルカリ性の溶剤

・ソフトトップルーフ部分：溶剤

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。
インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次のことをお守りください。

●革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く

●直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する

●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■ソフトトップルーフを清掃するときは（コンバーチブル）

水を過度に使用しないでください。過度に使用すると、しみになるおそれがあります。

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■フロアマットを掃除するときは

フロアマット洗浄機やブラシは使用しないでください。
フロアマットが変形したり、損傷するおそれがあります。

■フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは

前方カメラのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。
また、レンズにはふれないでください。
（→P.220）

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

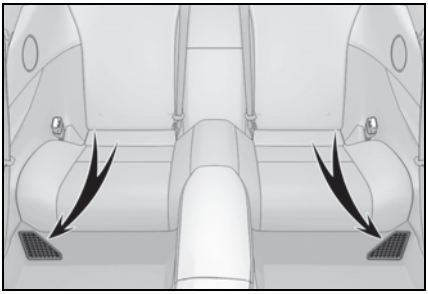
●熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

●熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

駆動用電池冷却用吸入口の手入れ（LC500h）

燃費性能の低下を防ぐために、駆動用電池冷却用吸入口にほこりがたまっていたり、目づまりしていないか、定期的に点検してください。ほこりがたまっているときやマルチインフォメーションディスプレイに「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要取扱書を確認」が表示されたときは、次の要領で清掃してくださ

い。

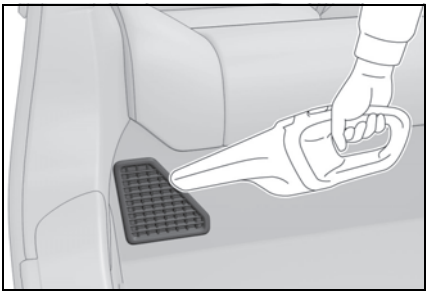


■ **吸入口の清掃のしかた**

掃除機などを使用して吸入口のほこりを取り除く

必ず吸引してほこりを取り除いてください。エアガンなどを使用すると、ほこりが押し込まれてしまいます。（→P.339）

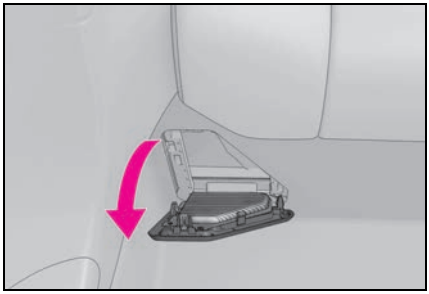
ほこりを取り除ききれないときは、吸入口カバーを取り外して、フィルターを清掃してください。



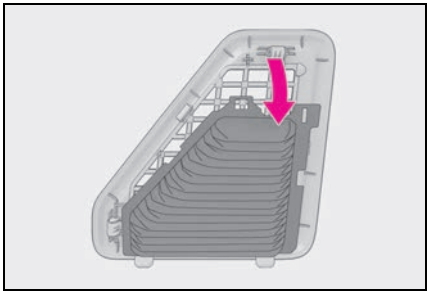
■ **冷却用吸入口フィルターの清掃のしかた**

次の要領でリヤシート下部（左右両側）にある吸入口カバーを取りはずして、フィルターを清掃してください。

1 グリルを取りはずす

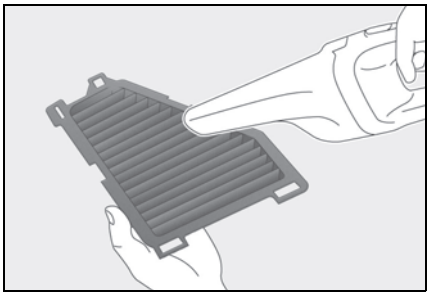


2 フィルターを取りはずす



3 掃除機などでほこりを吸い込み、フィルターを清掃する

フィルターの清掃と併せて、グリルにたまったほこりも掃除機などで清掃してください。



4 フィルターをもと通りに取り付け、グリルを取り付ける

5 清掃する前にマルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されていた場合、ハイブリッドシステムを始動し、警

告メッセージが消えたことを確認する

ハイブリッドシステムの始動後、警告メッセージが消えるまでに数分間かかる場合があります。

知識

■定期的な清掃が必要なとき

お車の使用頻度が高い場合や、大都市や寒冷地などの交通量や粉じんの多い地区でお車を使用される場合は、25,000kmごとを目安にフィルターを清掃してください。

■駆動用電池冷却用吸入口の手入れについて

●吸入口にほこりがたまるなどして目づまりした状態で走行しつづけると、駆動用電池の冷却に悪影響をおよぼします。駆動用電池の入出力に制限がかかるなどすると、電気モーターでの走行距離が短くなり、燃費性能の低下につながります。吸入口にほこりがたまらないよう、定期的に点検・清掃をしてください。

●吸入口の清掃時期は、使用環境などにより異なります。

●誤った取扱いをすると、吸入口のカバーまたはフィルターが損傷するおそれがあります。ご自身での清掃に不安がある場合は、レクサス販売店にご相談ください。

■冷却用吸入口のフィルターの清掃について

●ご自身でのフィルターの清掃に不安がある場合は、レクサス販売店にご相談ください。誤った取り扱いをすると、吸入口カバーまたはフィルターが破損するおそれがあります。

●フィルターが目づまりした状態で走行しつづけると、駆動用電池の入出力に制限がかかるなどして、燃費性能の低下につながったり、故障の原因になります。

●フィルターの清掃時期は、使用環境などにより異なります。

■マルチインフォメーションディスプレイに“駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要　取扱書を確認”が表示されたとき

●リヤシート下部（左右両側）にある吸入口カバーを取りはずして、フィルターを清掃してください。（→P.337）

●清掃したあとは、ハイブリッドシステムを始動してマルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージが消えたことを確認してください。

始動後に警告メッセージが再び表示され、表示が消えるまでに 20 分ほど走行が必要な場合があります。しばらく走行しても消えないときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

警告

■駆動用電池冷却用吸入口およびフィルターの手入れをするときは

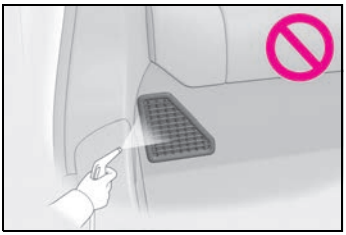
●水や液体などで清掃しないでください。駆動用電池などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

●リヤシート下部（左右両側）にある吸入口カバーを取りはずすときは、必ずパワースイッチを OFF にしてハイブリッドシステムを停止してください。

注意

■駆動用電池冷却用吸入口／フィルターを清掃するとき

必ず掃除機などで吸引してほこりを取り除いてください。エアガンなどを使用するとほこりが押し込まれてしまい、駆動用電池の性能が低下したり、故障の原因となったりするおそれがあります。



■車両の故障を防ぐために

●吸入口カバーを取りはずしたときは、駆動用電池冷却用吸入口に水や異物などが入らないように注意する

●取りはずしたフィルターは損傷しないよう、慎重に取り扱う
フィルターが損傷した場合は、レクサス販売店で新しいフィルターに交換してください。

●清掃後は、必ずフィルターと吸入口カバーをもとどおりに取り付ける

●この車両用のフィルター以外のものを吸気口に取り付けたり、フィルターを取りはずした状態で車を使用したりしない

■マルチインフォメーションディスプレイに“駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要　取扱書を確認”が表示されたときは

警告メッセージが表示されている状態（駆動用電池に入出力の制限がかかった状態）で走行を続けると、駆動用電池の故障の原因になる場合があります。
警告メッセージが表示されたときは、すみやかに清掃してください。

サテン仕上げ金属コーティング部分の手入れをするには

● 水で湿らせたやわらかい布または合成セーム皮で汚れをふき取る

● 乾いたやわらかい布で表面に残った水分を完全にふき取る

知識

■サテン仕上げ金属コーティング部分のお手入れについて

表面に本物の金属層を使用していますので、普段のお手入れが大切です。汚れたまま長い間放置すると、汚れが落ちにくくなります。

本革部分の手入れをするには

● 掃除機などでほこりや砂を取り除く

● 薄めた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る

ウール用の中性洗剤を水で約 5% に薄めて使用してください。

● 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る

● 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で

乾燥させる

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

合成皮革部分の手入れをするには

- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約 1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

人工皮革（アルカンターラ®※）の手入れ★

※ “アルカンターラ®” は Alcantara S.p.A. の商標です。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

品質を長く保つため、頻繁にふれる部分は定期的なお手入れをしてください。

注意

■運転するときは

ふれる頻度が高い部分は汚れが移りやすいため、手が汚れていないことを確認してからふれてください。

日常的な手入れ

このお手入れは定期的（1 か月に 1 回程度）に行うと効果的です。

1. 布などに 40 ℃程度のぬるま湯をしみ込ませて固く絞り全体をふく毛羽が強く乱れないようにふき取ってください。また、布はきれいなものを用意し、一度ふき取った布の汚れはすすいで充分に取り除いてからご使用ください。
2. 乾いたらエチケットブラシなどで毛並みを整える

汚れについて

- 液体がこぼれた場合は、ティッシュペーパーなどを軽くあてて吸い取る
- 乾燥して固着してしまった泥やコーヒーなどの汚れは、エチケットブラシなどで汚れ部分を軽くブ

ラッシングして取り除く
その後、掃除機で乾燥汚れを吸い取ることをおすすめします。

● 油性の汚れの場合は、乾いた布やティッシュペーパーで汚れが広がらないようにできるだけふき取る

これらの方法で汚れが取れない場合は、次の手順で汚れを取り除いてください。

1 液体の汚れの場合：布などに40℃程度のぬるま湯をしみ込ませて固く絞り、汚れ部分を外側から内側に各方向から軽くふく
毛羽が強く乱れないようにふき取ってください。また、布はきれいなものを用意し、常にきれいな部分を使用してください。
油性の汚れの場合：ベンジン、ぬるま湯または純正エチルアルコール（果実酒用）をしみ込ませた布で汚れ部分を外側から内側にたたいた後、乾いた布で汚れをたたきながら吸い取る

2 表面の毛羽が乱れた場合は、エチケットブラシなどで軽くブラッシングをしてから、表面を完全に乾燥させる

知識

■毛羽の付着汚れを取り除くときは

ほこりなどの付着汚れはエチケットブラシなどで軽くブラッシングして取り除いてください。それでも取れない場合は粘着テープを使用して取り除いてください。

注意

■人工皮革（アルカンターラ®）の傷みを避けるために

人工皮革（アルカンターラ®）の表面の劣化や損傷を避けるために、次のことをお守りください。

● 強い力を加えない
● 爪を立てない
● 手でこすらない
● 汚れた手でふれない

■粘着テープを使うときは

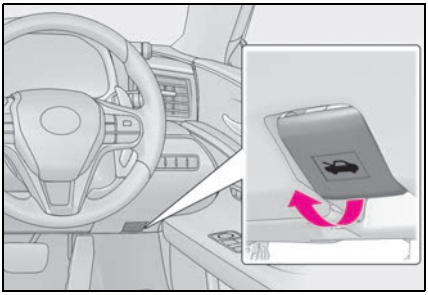
粘着力の強いテープを使用すると植毛がはがれるおそれがあります。

ボンネット

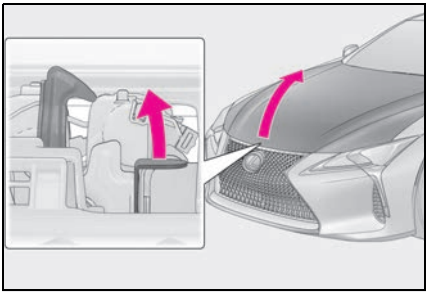
ボンネットを開けるには

1 ボンネット解除レバーを引く

ボンネットが少し浮き上がります。



2 レバーを引き上げて、ボンネットを開ける

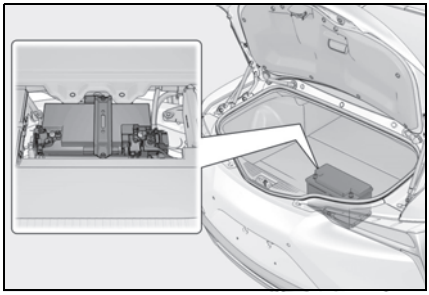


知識

■補機バッテリーについて

この車両の補機バッテリーはトランクのラゲージマット内にあり、エンジンルームには搭載されていません。

補機バッテリーがあがってしまったときは、エンジンルーム内にある救援用端子を使用して、処置を行います。
(→P.416)



警告

■走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■修理・車検・整備点検をする場合は（LC500h）

整備モードに切り替える必要がありますので、必ずレクサス販売店にご相談ください。高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

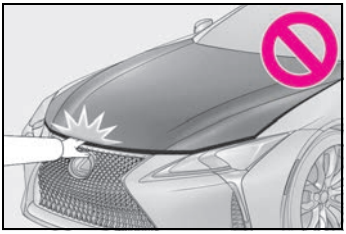
■エンジンルーム点検後の確認

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

警告

■ボンネットを閉めるとき

手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



■補機バッテリーの取り扱いについて

→P.422

注意

■ボンネットやダンパーステーへの損傷を防ぐために

●ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。

●ボンネットには、ボンネットを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。

・ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない

・ロッド部を軍手などでふれない

・ボンネットにレクサス純正品以外のアクセサリー用品を付けない

・ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

ガレージジャッキ

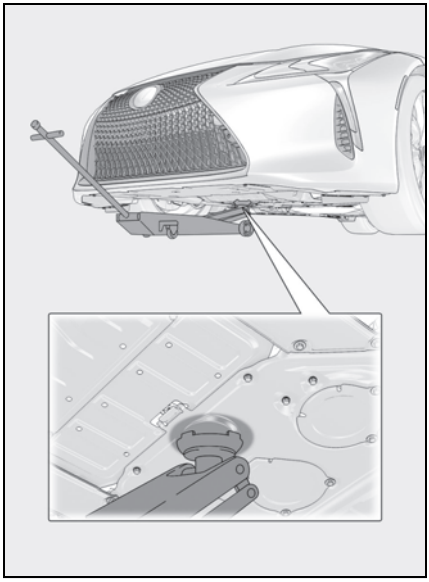
ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取扱説明書に従って、安全に作業してください。

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

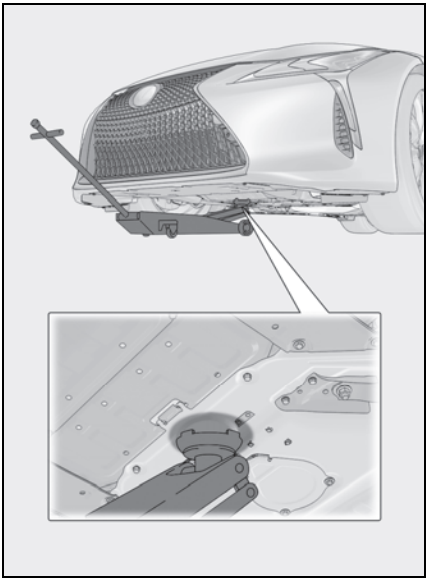
ジャッキポイントの位置を確認する

■ フロント側

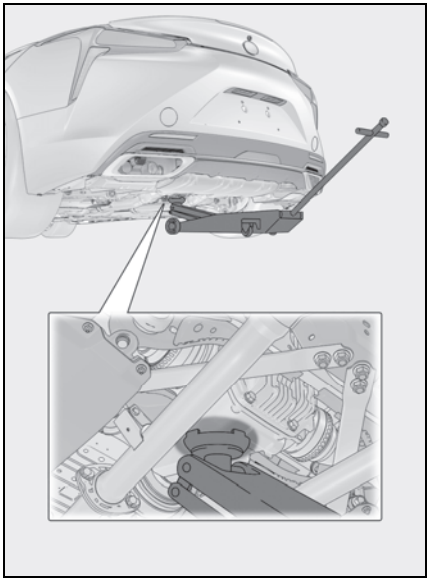
▶ コンバーチブル以外



▶ コンバーチブル

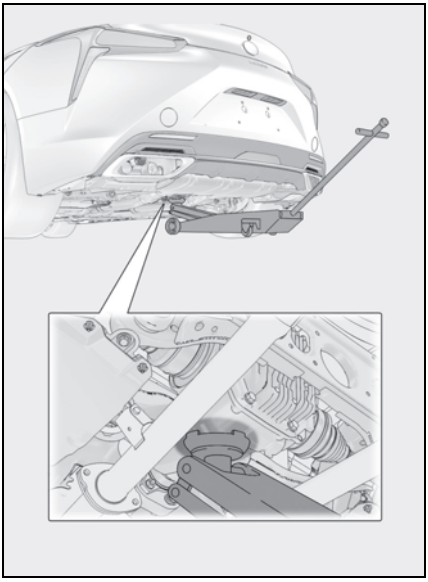


▶ コンバーチブル



■ リヤ側

▶ コンバーチブル以外

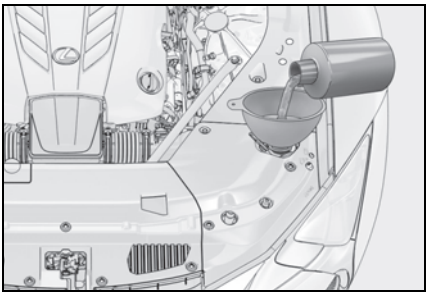


ウォッシャー液の補充

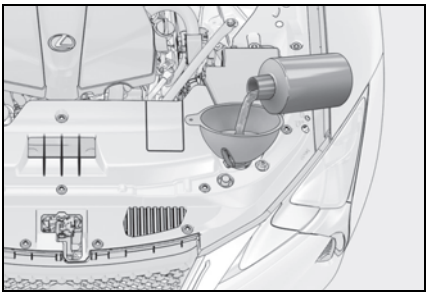
補充をするには

ウォッシャー液が出なかったり、マルチインフォメーションディスプレイに “ウォッシャー液を補充してください” と表示されたら、ウォッシャー液を補充する

▶ LC500



▶ LC500h



警告

■ウォッシャー液を補充するとき

エンジン<ハイブリッドシステム>が熱いときやエンジンがかかっている<ハイブリッドシステムが作動している>ときは、ウォッシャー液を補充しないでください。
ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジン<ハイブリッドシステム>などにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を10,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

- タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

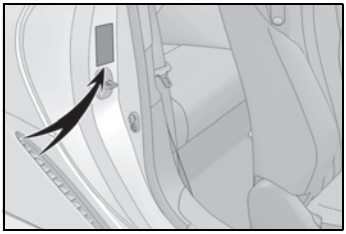
知識

■タイヤ空気圧の数値

空気圧※ kPa（kg/cm^2）	
前輪	後輪
230（2.3）	

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

※ タイヤが冷えているときの空気圧



■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けボルトを交換するときは、レクサス販売店にご相談ください。

■低偏平タイヤについて（21 インチタイヤ装着車）

低偏平タイヤは、走行性能を優先したタイヤです。特に空気圧は定期的に点検してください。2 週間に 1 回（最低でも1ヶ月に 1 回）、または長距離ドライブの前には、必ず空気圧を点検してください。

また、雪道や凍結路では、普通のタイヤとくらべてグリップ力が低下します。冬用タイヤを使用し、道路状態に応じた速度で注意深く運転するようにしてください。

警告

■点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない

警告

●サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●破裂などの修理できない損傷を与える

●車両が横すべりする

●車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

注意

■低偏平タイヤについて（21 インチタイヤ装着車）

低偏平タイヤのホイールは、路面から衝撃を受けたとき、ホイールに通常より大きなダメージを与えることがあります。そのため次のことにご注意ください。

●適切なタイヤ空気圧で使用する
空気圧が低すぎると簡単に損傷することがあります。

●段差や凹凸のある路面、路上にあいた穴、平らでない舗道・縁石や他の障害物を避ける
タイヤおよびホイールがひどく損傷することがあります。

■走行中に空気もれが起こったら

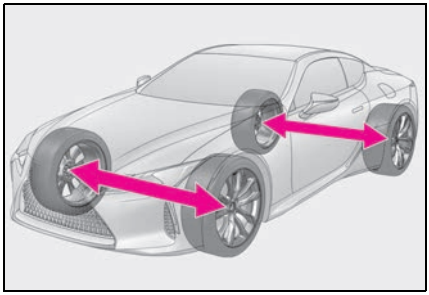
走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤローテーションをするには

図で示すようにタイヤのローテーションを行います。



タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、レクサスは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

タイヤローテーション後は、タイヤ空気圧警報システムの初期化を確実に行ってください。

知識

■タイヤローテーションを行うとき

必ずエンジンスイッチ＜パワースイッチ＞が OFF の状態で行ってください。ON のままタイヤローテーションを行うと、タイヤ位置情報が更新されません。

誤ってそのような状態になってしまったときは、エンジンスイッチ＜パワースイッチ＞をいったん OFF にしてから再度 ON にするか、タイヤ空気圧が正しく調整

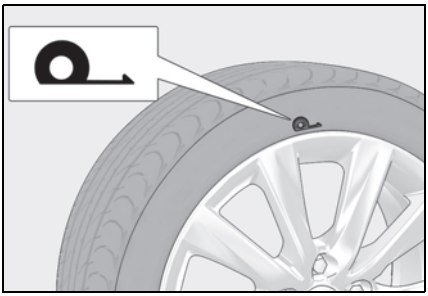
されていることを確認した上で、初期化操作を行ってください。

ランフラットタイヤ

ランフラットタイヤを装着している場合は、タイヤがパンクしても80km/h をこえない速度で、約160km まで走行することが可能です。（ただし、気候や走行状況などによっては 80km/h までスピードを出せないこともあります）

ランフラットタイヤには、タイヤの側壁に マークが付いています。

160km 近くまで走行してしまう前に、必ずタイヤを交換してください。また、修理されたタイヤを使用しないでください。



知識

■ **ランフラットタイヤの取り扱いについて**

- ランフラットタイヤはこの車専用のため、他の車には使用しないでください。
- ランフラットタイヤと標準タイヤを混ぜて使用しないでください。
- レクサス指定の純正以外のホイールを使用した場合、ランフラットタイヤの高い機能性が発揮されないおそれがあります。

タイヤ空気圧警報システム

ディスクホイールに装着された空気圧バルブ、および送信機が一定周期ごとに各輪のタイヤ空気圧を監視し、タイヤの空気圧の低下を早期に知らせるタイヤ空気圧警報システムが付いています。

- 空気圧が一定値をこえて低下している場合、画面表示と警告灯で警報します。（→P.388, 391）
- タイヤ空気圧警報システムが検知した空気圧をマルチインフォメーションディスプレイに表示できます。（→P.104）

図の画面表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

▶ コンバーチブル以外

▶ コンバーチブル

知識

■タイヤ空気圧警報システムについて

タイヤ空気圧警報システムは、日常点検の代用ではありません。
日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの点検方法は、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

■タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれのある状況

●次の場合は、タイヤ空気圧警報システムが正しく作動しない場合があります。
・純正ホイール以外を使用したとき
・純正装着タイヤ以外に交換したとき
・指定サイズ以外のタイヤに交換したとき
・タイヤチェーンなどを装着しているとき
・中子式ランフラットタイヤを装着しているとき
・電波を遮断するフィルムがウインドウに貼り付けられているとき
・車両（特にホイール・ホイールハウスの周辺）に多くの雪や氷などが付着しているとき
・タイヤ空気圧が指定空気圧より極端に高いとき
・タイヤ空気圧警報バルブ／送信機を搭載していないホイールを使用しているとき
・タイヤ空気圧警報バルブ／送信機の ID がタイヤ空気圧警報コンピューターに登録されていないとき

●次の場合は正しい性能が確保できない場合があります。
・近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港など、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器が車両付近にあるとき

電波状況によってタイヤ位置情報が正しく表示されない場合は、走行して電波状況がかわることで正しく表示されることがあります。

●停車時は警報開始・警報解除までの時間が長くなる場合があります。

●タイヤが破裂（バースト）したときなど、空気圧が急激に低下したときは、警報できない場合があります。

■タイヤ空気圧警報システムの警報作動について

タイヤ空気圧警報システムの警報は走行状況によってかわります。このため、タイヤ空気圧が低いレベルに達していないときや、初期化したときのタイヤ空気圧より高いときでも、警報することがあります。

空気圧バルブ／送信機の装着について

タイヤやホイールを交換するときは、付けかえたホイールにも空気圧バルブ／送信機を装着してください。

バルブ／送信機を装着する場合は、専用の ID コードをコンピューターに登録する必要があります。（→P.352）

知識

■ホイールごとタイヤを交換するとき

タイヤ空気圧バルブ／送信機の ID コードが登録されていないと、タイヤ空気圧警報システムは正しく作動しません。その場合、約 10 分走行したあとシステム異常となり、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅、その後点灯します。

注意

■タイヤ・ホイール・空気圧バルブ／送信機・バルブキャップの修理・交換

●タイヤをホイールから脱着する際は、空気圧バルブ／送信機が損傷しないよう注意してください。脱着手順の詳細は、レクサス販売店へご相談ください。

●レクサス指定の純正ホイールを使用してください。
レクサス指定の純正ホイール以外を使用すると、空気圧警報システムが正しく作動しないおそれがあります。

●ホイールを交換したときは、空気圧バルブ／送信機を装着してください。空気圧バルブ／送信機が装着されていないと、タイヤ空気圧警告灯が消灯しません。

●バルブキャップを必ず取り付けてください。バルブキャップをはずしていると、水が浸入してバルブが固着する場合があります。

●バルブキャップを交換するときは、指定以外のバルブキャップを使用しないでください。バルブキャップが固着するおそれがあります。

タイヤ空気圧警報システムを初期化するには

■ 初期化が必要なとき

● タイヤローテーションを実施したとき

● 指定空気圧が複数ある場合に、タイヤの指定空気圧を変更したとき

● ID コードの登録を実施したとき（→P.352）

システムを初期化すると、現在のタイヤの空気圧が標準値として記憶されます。

また、タイヤの位置判定を行います。

■ 初期化のしかた

1 車を安全な場所に駐車し、20 分以上エンジン<ハイブリッドシステム>を停止する

車両が動いているときは、初期化できません。

2 タイヤの空気圧を指定の数値に調整する

タイヤ空気圧の調整はタイヤが冷えた状態で行ってください。タイヤ空気圧警報システムは、この空気圧を基準として作動します。

3 エンジン<ハイブリッドシステム>を始動する（→P.181）

4 メーター操作スイッチの < または > を押して ⚙ を選択する

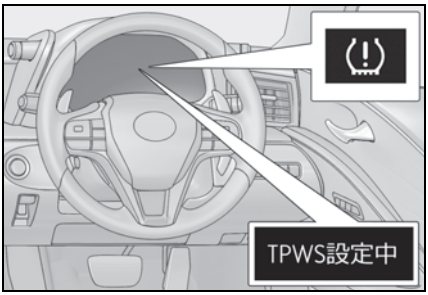
5 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押し、“車両設定”を選択して“OK”を押す

6 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押し、“TPWS”を選択して“OK”を押す

7 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押し、“初期化”を選択し、タイヤ空気圧警告灯が点滅を開始するまで“OK”を押し続ける

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。また、タイヤ空気圧表示が“--”になり、タイヤ

の位置判定を開始します。



8 約 40km/h 以上を維持しながら約 10 ～ 30 分走行する

タイヤの位置判定が完了するとマルチインフォメーションディスプレイに各タイヤの空気圧が表示されるようになり、初期化が完了します。

約 40km/h 以上を維持できない場合でも時間をかけることにより初期化は完了しますが、1 時間以上走行しても初期化できない場合は、安全な場所に約 20 分間停車したあと、再度走行し直してください。

知識

■初期化するときは

●通常は約 30 分以内の走行で初期化が完了します。

●車速が約40km/h以上のときに行われます。

●必ず指定空気圧に調整した上で初期化してください。

なお、空気圧の調整および初期化操作は、タイヤが冷えた状態で行ってください。

●タイヤ空気圧警報システムはお客様自身で初期化することができます。適度に右左折もしながら、直進走行をすることで初期化されますが、走行条件や走行環境によっては、初期化が完了するまでに時間がかかる場合があります。

■初期化操作について

●初期化中にエンジンスイッチ<パワースイッチ>を OFF にしてしまった場合は、次回 ON にしたとき、自動的に初期化処理が再開されるため、あらためて初期化操作をやり直す必要はありません。

●初期化の必要がない状態で誤って初期化操作をしてしまったときは、タイヤが冷えている状態で指定空気圧に調整し、再度初期化操作を行ってください。

●タイヤ位置判定中にタイヤ空気圧が表示されない場合でも、空気圧低下時はタイヤ空気圧警告灯が点灯します。

■初期化がうまくいかないとき

●次の場合は、初期化に時間がかかる場合や、初期化できない場合があります。

・約 40km/h 以上を維持して走行していない
・未舗装の場所を走行した
・他車と併走し、自車のセンサーと他車のセンサーが判別できない

1 時間以上走行しても初期化できない場合は、安全な場所に約 20 分間停車したあと、再度走行し直してください。

●初期化中に車を後退させると、それまでのデータがリセットされるため、再度走行し直してください。

●初期化操作時に警告灯が3回点滅しない場合、初期化されていないおそれがありますので、初期化手順を最初からやり直してください。

●上記の方法でも初期化できない場合は、レクサス販売店にご相談ください。

警告

■タイヤ空気圧警報システムを初期化するとき

必ず指定空気圧に調整してから初期化操作をしてください。
お守りいただかないと、タイヤ空気圧が低下してもタイヤ空気圧警告灯が点灯しない、または適切な空気圧でもタイヤ空気圧警告灯が点灯してしまうことがあります。

ID コードを登録するには

■ ID コード登録が必要なとき

- 新しいバルブ／送信機を装着したとき
- すでに ID コードの登録がされているバルブ／送信機を装着したとき（例えば、サマータイヤから冬用タイヤへの交換など）

タイヤ空気圧バルブ／送信機には固有の ID コードが設定されているため、車両のコンピューターに ID コードを登録する必要があります。

■ ID コード登録のしかた

1 車を安全な場所に 15 分以上駐車する（タイヤ交換作業を含む）

2 エンジン<ハイブリッドシステム>を始動する（→P.181）

3 メーター操作スイッチの ＜ または ＞ を押して ⚙ を選択する

4 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押し、“車両設定”を選択して“OK”を押す

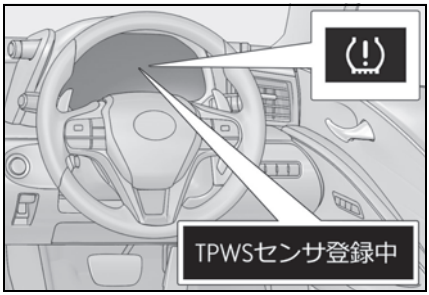
5 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押し、“TPWS”を選択して“OK”を押す

6 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押し、“センサー登録”を選択して“OK”をタイヤ空気圧警告灯がゆっくり 3 回点滅を開始するまで押し続ける

センサー登録モードになり、ID コードの登録が開始されます。

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、タイヤ空気圧表示が“--”になります。

その後、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅後点灯します。



7 約 2 分間待つ

すでに ID コードの登録がされている場合、タイヤ空気圧警告灯が消灯します。

▶ タイヤ空気圧警告灯が消灯した場合

8 タイヤ空気圧警報システムを初期化する（→P.350）

▶ タイヤ空気圧警告灯が消灯していない場合

8 約 40km/h 以上を維持しながらタイヤ空気圧警告灯が消灯するまで走行する

約 40km/h 以上を維持できない場合でも

時間をかけることにより登録は完了しますが、1 時間以上走行しても登録できない場合は、最初からやり直してください。

タイヤ空気圧警報システムを初期化する(→P.350)

知識

■ID コードの登録をするときは

●通常は約 30 分以内の走行で登録が完了します。すでに ID コードの登録がされている場合は、通常より短い時間で完了します。

●ID コードの登録は、車速が約 40km/h 以上のときに行われます。

●登録操作を行う前に、車両の近くにタイヤ空気圧バルブ／送信機を装着したホイールがないことを確認してください。

●ID コードの登録をしたあとに初期化を行ってください。ID コードの登録前に初期化すると、初期化が無効になります。

●ID コードはお客様自身で登録することができます。適度に右左折もしながら、直進走行をすることで登録されますが、走行条件や走行環境によっては、登録が完了するまでに時間がかかる場合があります。

■ID コード登録の中止について

●ID コードの登録を中止するには、走行する前にエンジンスイッチ<パワースイッチ>を OFF にしてください。

走行し始めた後に登録を中止する場合は、再度 ID コードの登録操作を初めから行い、走行する前にエンジンスイッチ<パワースイッチ>を OFF にしてください。

●ID コードの登録を中止した場合、次回エンジンスイッチ<パワースイッチ>を ON にしたとき、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅した後点灯します。

タイヤ空気圧警報システムが正常に作動できるようになると、タイヤ空気圧警告灯が消灯します。

●しばらく待ってもタイヤ空気圧警告灯が消灯しないときは、ID コードの登録が正常に中止できていないおそれがあります。正しく中止するためには、再度 ID コードの登録操作を初めから行い、走行する前にエンジンスイッチ<パワースイッチ>を OFF にしてください。

■ID コードの登録がうまくいかないとき

●次の場合は、ID コードの登録に時間がかかる場合や、登録できない場合があります。

・走行前に約 15 分以上駐車していない
・約 40km/h 以上を維持して走行していない
・未舗装の場所を走行した
・他車と併走し、自車のセンサーと他車のセンサーが判別できない
・タイヤ空気圧バルブ／送信機を装着したホイールが車内や車両の近くにある

1 時間以上走行しても登録できない場合は、ID コードの登録手順を最初からやり直してください。

●登録中に車を後退させると、それまでのデータがリセットされるため、再度走行し直してください。

●登録操作時に警告灯がゆっくり 3 回点滅しない場合、ID コードが登録されていないおそれがありますので、登録手順を最初からやり直してください。

●上記の方法でも ID コードを登録できない場合はレクサス販売店にご相談ください。

タイヤの交換

ご自身でタイヤを交換するときは、工具とジャッキをご準備ください。

このお車はホイールボルトを使用しています。

工場出荷時に装着されたホイールを使用する場合は、専用のレクサス純正ホイールボルトを使用する必要があります。

ご自身でのタイヤの交換に不安がある場合は、レクサス販売店にご相談ください。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトポジションを P にする
- 侵入・傾斜センサーを OFF にする (→P.90)
- エンジン<ハイブリッドシステム>を停止する

知識

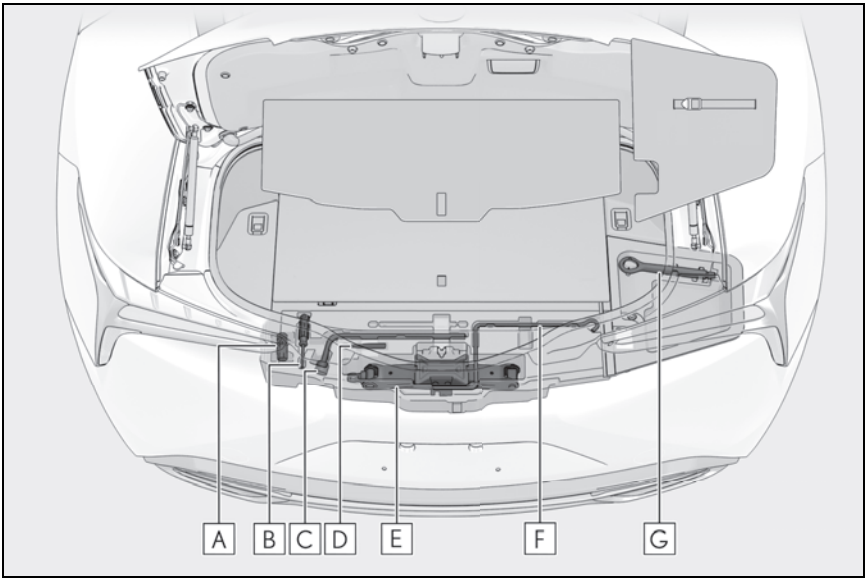
■工具について

お客様の車にはタイヤ交換に使用する以下の工具は搭載されていません。工具はレクサス販売店で購入することができます。

- 輪止め
- ホイールボルトレンチ
- ジャッキ
- ジャッキハンドル
- ガイドピン
- ホイールボルトソケット

工具の位置

▶ コンバーチブル以外



A ホイールボルトソケット ※

B ドライバー

C ホイールボルトレンチ ※

D ガイドピン ※

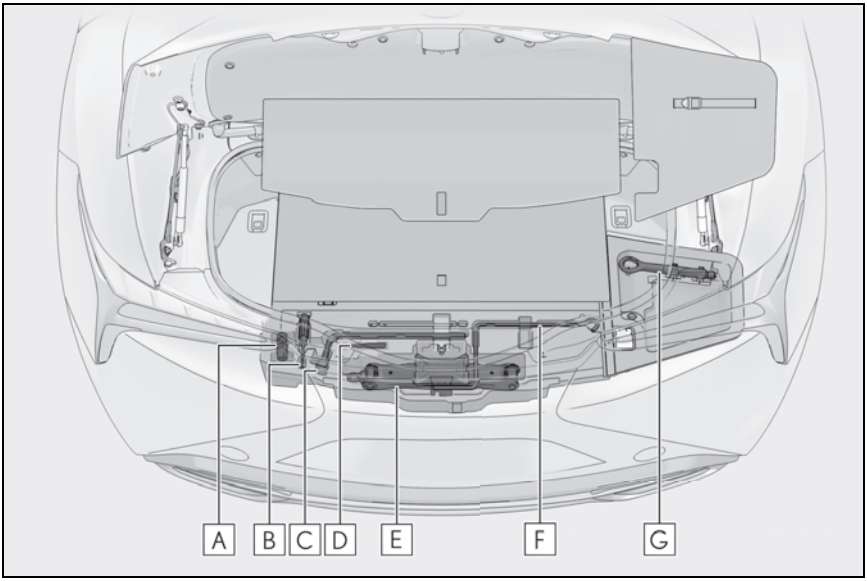
E ジャッキ ※

F ジャッキハンドル ※

G けん引フック

※ レクサス販売店で購入することができます。

▶ コンバーチブル



A ホイールボルトソケット ※

B ドライバー

C ホイールボルトレンチ ※

D ガイドピン ※

E ジャッキ ※

F ジャッキハンドル ※

G けん引フック

※ レクサス販売店で購入することができます。

警告

■ジャッキの使用について

次のことをお守りください。
ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ジャッキはタイヤ交換以外の目的で使用しない
- 他の車のジャッキをお客様の車に使用しない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、エンジン<ハイブリッドシステム>を始動したり車を走らせない

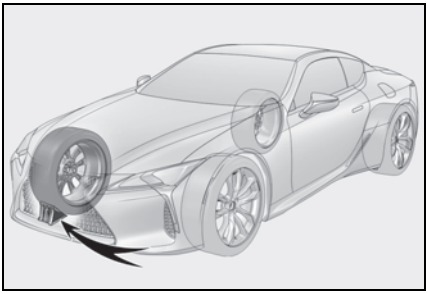
警告

- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

タイヤの取りはずし

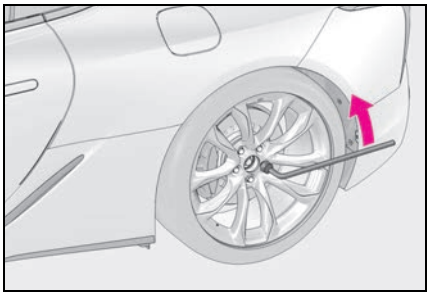
1 輪止め※をする

※輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。

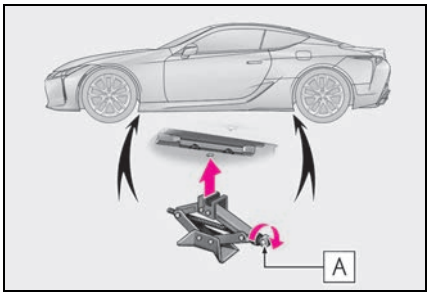


交換するタイヤ	輪止めの位置
左側前輪	右側後輪うしろ
右側前輪	左側後輪うしろ
左側後輪	右側前輪前
右側後輪	左側前輪前

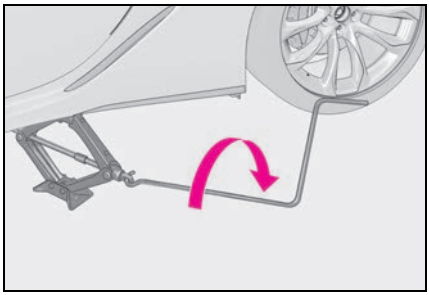
2 ホイールボルトレンチを使用し、すべてのホイールボルトを少し（約 1 回転）ゆるめる



3 ジャッキの A 部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける



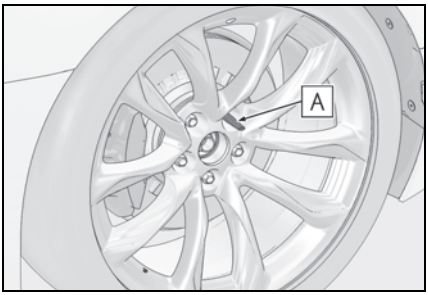
4 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



5 最上部にあるホイールボルト 1 本を取りはずし、ガイドピン A を手で締め付ける

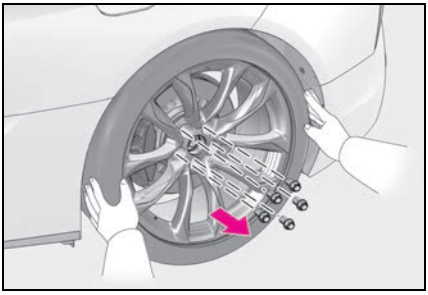
時計まわりにまわらなくなるまで締め付

けます。



6 ホイールボルトすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの表面に傷が付かないよう表面を上にします。

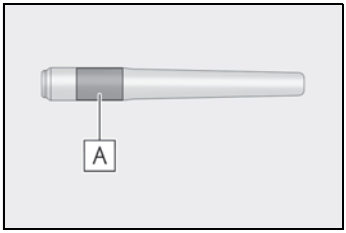


警告

■タイヤ交換について

●走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

●タイヤを交換するときは、ガイドピンを使用してください。また、ガイドピンは樹脂製のため A 部以外にホイールを載せたり、大きな負荷をかけると破損するおそれがあります。



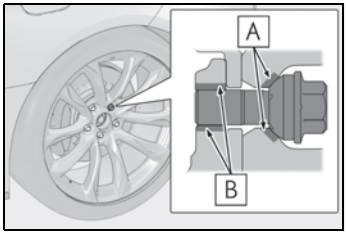
●次のことをお守りいただかないとホイールボルトがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・ホイールとホイールボルトの接触面は、嵌合するように設計されています。工場出荷時に装着されたホイールを使用する場合は、専用のレクサス純正ホイールボルトを使用してください。なおレクサス純正品であっても、他車種および異なる年式・型式のホイールボルトは使用しないでください。また、工場出荷時に装着されたホイールボルトがすべてのホイールに適合するわけではありません。工場出荷時に装着されたホイール以外を取り付けるときは、ホイールの購入先にお問い合わせください。

警告

・ホイールボルトとホイールの球面座部A にオイルやグリースを塗らないでください。ホイールボルトを締めるときに必要以上に締め付けられ、ホイールボルトやホイールハブのめねじB が破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。

ホイールボルトを取り付けるときに、オイルやグリースが付いている場合はふき取ってください。



・タイヤを交換したあとは、速やかに締め付けトルクを確認してください。

お客様ご自身で締め付けトルクの確認ができない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

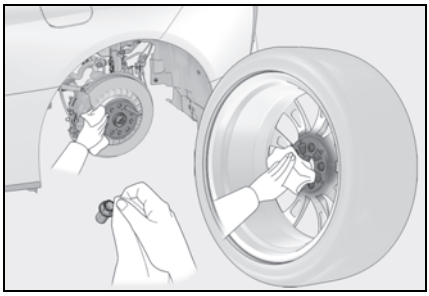
・ホイールボルトのねじ部やホイールハブのめねじ、ホイールのボルト穴につぶれ、亀裂や錆びなどの異常がある場合は、レクサス販売店で点検を受ける

●ホイールボルトを締め付けるときは、ホイールボルトは過度に締め付けすぎないでください。ホイールボルトやホイールハブのめねじが破損したり、ディスクホイールが損傷する恐れがあります。

タイヤの取り付け

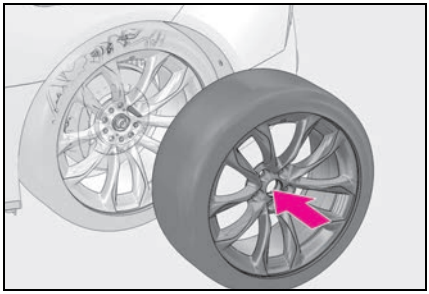
1 ホイール接触面とホイールボルトの汚れをふき取る

汚れていると、走行中にホイールボルトがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。



2 ホイールの穴にガイドピンを通し、タイヤを取り付ける

ホイールセンタ穴とハブセンタが嵌合し、ホイールが接触面にあたるまで、しっかり取り付けてください。

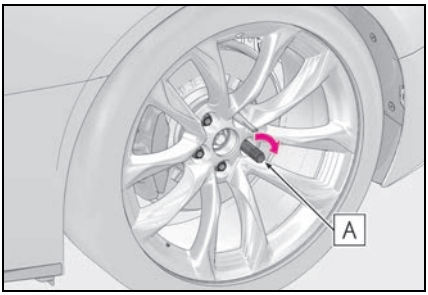


3 手または、ホイールボルトソケットA を使用し、ホイールボルトを軽く締め付ける

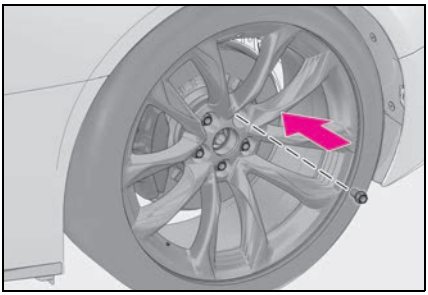
タイヤが落下しないように押さえてください。

ホイールボルトソケットは手による仮締

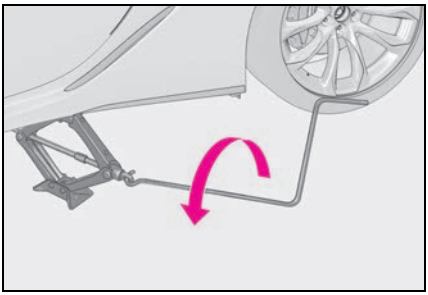
め以外に使用しないでください。



4 ガイドピンを取りはずし、ホイールボルトを手順 **3** 同様に軽く締め付ける



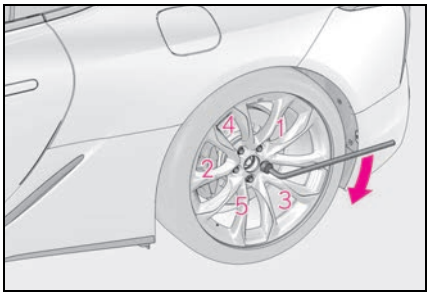
5 車体を下げる



6 ホイールボルトレンチを使用し、図の番号順でホイールボルトを2、3 度しっかり締め付ける

締め付けトルク：

140N・m（1428kgf・cm）



7 すべての工具を収納する

警告

■タイヤを取り付けるときは

次のことをお守りいただかないとホイールボルトがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ねじ部にオイルやグリースを塗らない
  ホイールボルトを締めるときに必要以上に締め付けられ、ホイールボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。またホイールボルトがゆるみホイールが落下するおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。
- ホイールの交換後は、すぐに 140N・m（1428kgf・cm）の力でホイールボルトを締める
- タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のホイールボルトを使用する
- ホイールボルトのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、レクサス販売店で点検を受ける

警告

■工具を使用したあとは

走行前に正しい位置に格納されているか確認してください。正しく格納されていないと、事故や急ブレーキの際、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

注意

■タイヤ・ホイール・バルブ／送信機・バルブキャップの修理・交換

→P.350

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。低偏平タイヤの場合、2 週間に 1 回、または長距離ドライブの前には必ず空気圧を点検してください。

知識

■タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、レクサス販売店でタイヤの点検を受けてください。

■タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
  タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

警告

■タイヤの性能を発揮するために

適正なタイヤ空気圧を維持してください。
タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気もれ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
  （路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

注意

■タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

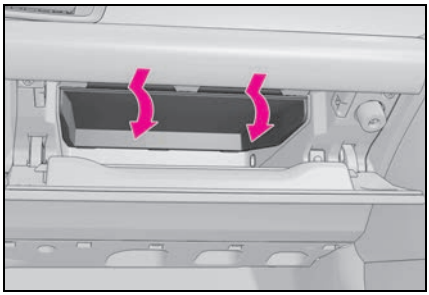
バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気がもれ、タイヤがパンクした状態になるおそれがあります。

エアコンフィルターの交換

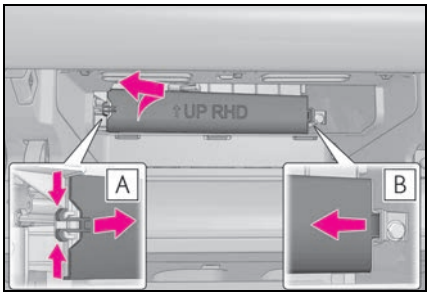
エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

交換するには

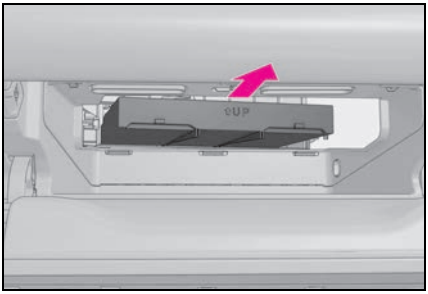
1 エンジンスイッチ＜パワースイッチ＞を OFF にする
2 グローブボックスを開ける
3 パネルを取りはずす



4 フィルターカバーのロックをはずし（A）、ツメからフィルターカバーを抜き（B）、フィルターカバーを取りはずす

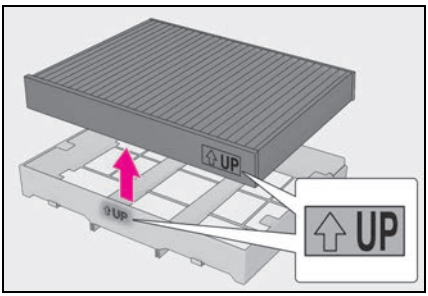


5 フィルターケースを取りはずす



6 フィルターケースからフィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。



知識

■エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは下記の時期を目安に交換してください。

15000km[7500km※1] ごと、ただし12ヶ月をこえないこと ※2

※1大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

※2芳香剤などの使用により脱臭寿命が著しく低下する場合があります。エアコンの臭いが気になりだしたらフィルターを交換してください。

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

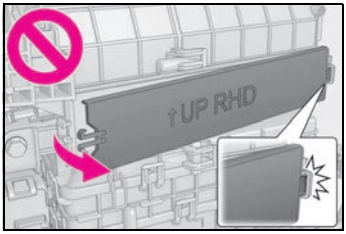
注意

■エアコンを使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは、交換するタイプです。水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

■フィルターカバーの破損を防ぐために

フィルターカバーのロックをはずすときに、フィルターカバーを矢印の方向に動かす際は、ツメに無理な力がかからないように注意してください。ツメが破損するおそれがあります。



電子キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

知識

■電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

●スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレス機能が作動しない

●作動距離が短くなる

■カードキーの電池交換が必要なとき

カードキーの電池は市販されていないため、レクサス販売店で交換してください。

事前に準備するもの

電池交換をするには、次のものを準備してください。

● マイナスドライバー

● 小さいマイナスドライバー

● リチウム電池 CR2032

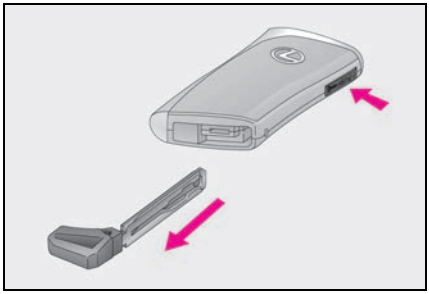
知識

■リチウム電池 CR2032 の入手

電池はレクサス販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

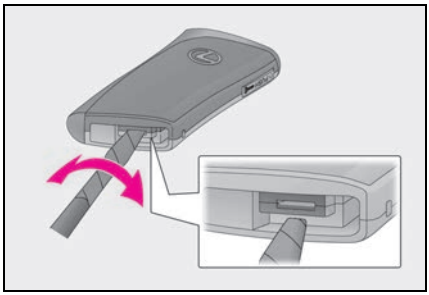
電池を交換するには

1 メカニカルキーを抜く



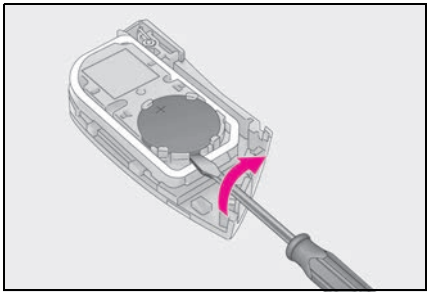
2 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端にテープなどを巻いて保護してください。



3 小さいマイナスドライバーを使って、消耗した電池を取り出す

新しい電池は、＋極を上にして取り付けます。



警告

■電子キーの電池について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。

●電子キーにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか 2 時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさわらせないでください。

●カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、レクサス販売店で点検を受けてください。

●誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

■電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために

●同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。

●極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。

●電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

注意

■電池を交換するときは

適切なサイズのマイナスドライバーを使用してください。無理な力がかかると、カバーが変形したり破損したりするおそれがあります。

■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

●ぬれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。

●電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない

●電極を曲げない

ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

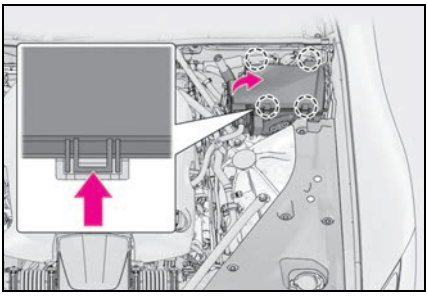
ヒューズの点検・交換をするには

1 エンジンスイッチ<パワースイッチ>を OFF にする

2 ヒューズボックスを開ける

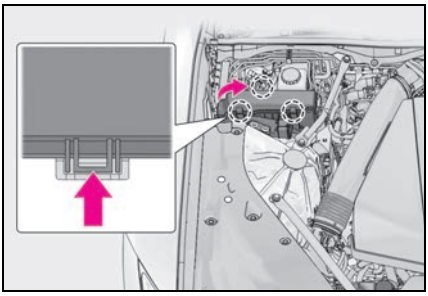
▶ エンジンルーム（1）（LC500）

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる



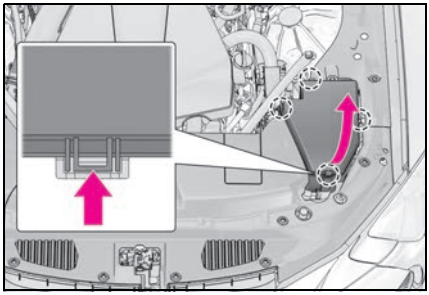
▶ エンジンルーム（2）（LC500h）

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる



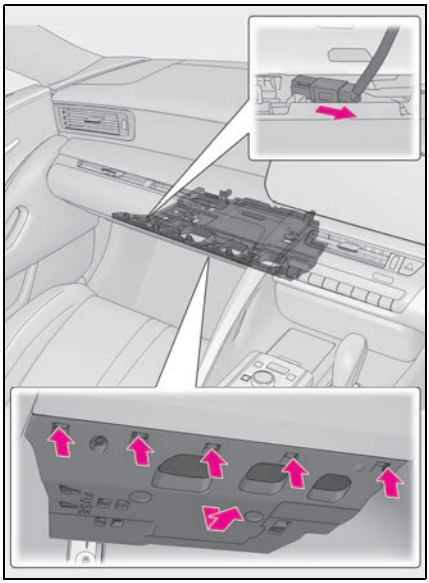
▶ エンジンルーム（3）（LC500h）

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる



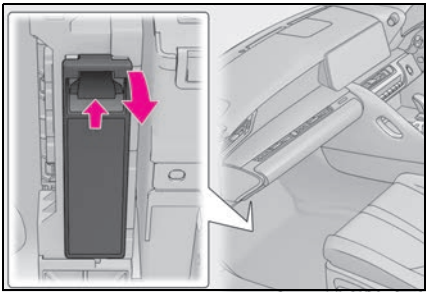
▶ 助手席足元

足元のカバーを取りはずし、足元照明のコネクターを取りはずす



ツメを押しながら、ヒューズボックスカバーを取りはずす

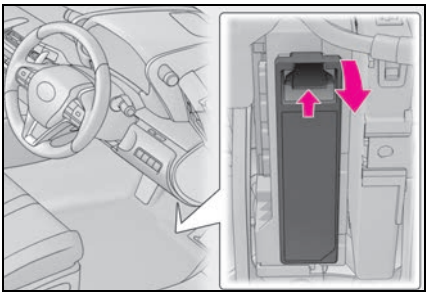
取りはずすときや、取り付けるときはツメを押してください。



▶ 運転席足元

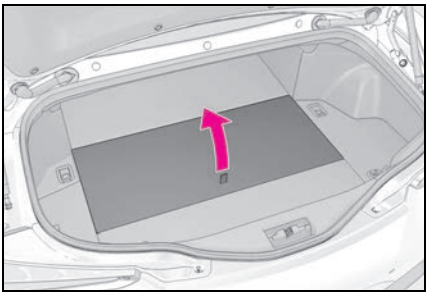
ツメを押しながら、カバーを取りはずす

取りはずすときや、取り付けるときはツメを押してください。

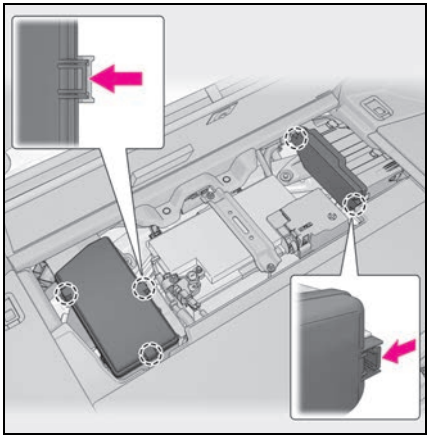


▶ トランク

ラゲージマットを取りはずす



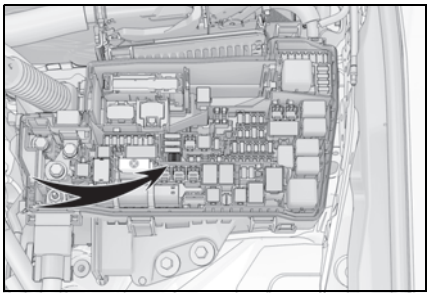
ツメを押しながら、カバーを持ち上げる



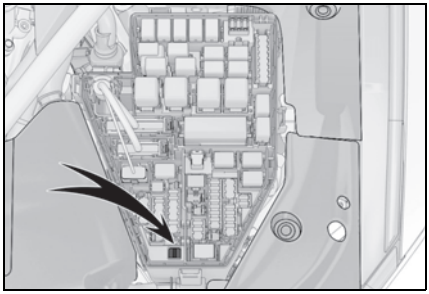
3 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。

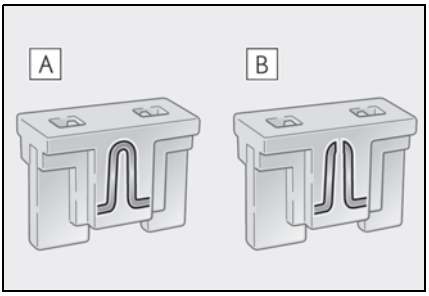
▶ LC500



▶ LC500h



4 ヒューズが切れていないか点検する



A 正常

B ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。

知識

■ヒューズを交換したあとは

カバーを取り付けるときは、ツメをしっかり取り付けてください。

●交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。（→P.369）

●交換しても再度ヒューズが切れる場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■補機バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■電球（バルブ）を交換するとき

この車両に指定されているレクサス純正品のご使用をおすすめします。一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のレクサス純正品以外は使用できない場合があります。

警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●必ずレクサス純正ヒューズか同等品を使用してください。

●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

注意

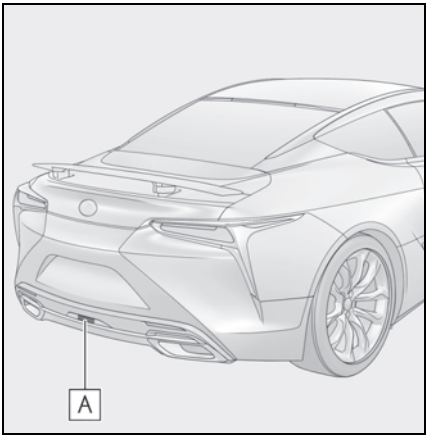
■ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。交換する前に、切れた電球の W（ワット）数を確認してください。部品が破損するおそれがあるので、レクサス販売店で交換することをおすすめします。

電球の位置



A リヤフォグランプ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ **レクサス販売店で交換が必要な電球**

次のランプが切れたときは、
レクサス販売店で交換してください。

- ヘッドランプ（前照灯）
- 車幅灯／ LED デイライト
- フロント方向指示灯／非常点滅灯
- コーナリングランプ
- サイド方向指示灯／非常点滅灯
- 尾灯
- 制動灯
- リヤ方向指示灯／非常点滅灯
- 後退灯
- ハイマウントストップランプ
- 番号灯

知識

■**LED ランプについて**

リヤフォグランプ★以外のランプは、数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、
レクサス販売店で交換してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■**レンズ内の水滴と曇り**

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、レクサス販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

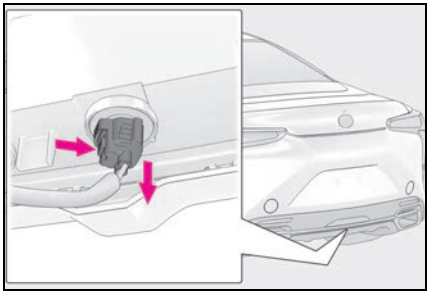
■**電球（バルブ）を交換するとき**

→P.368

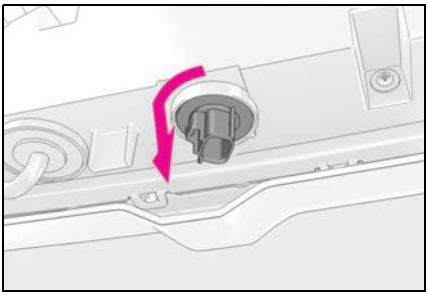
電球交換をするには

■ **リヤフォグランプ★**

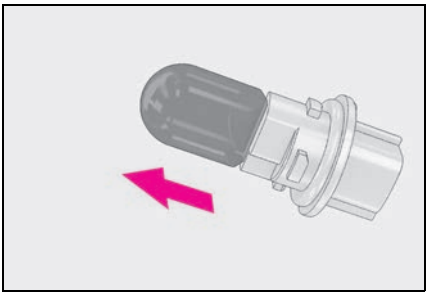
1 コネクターを取りはずす



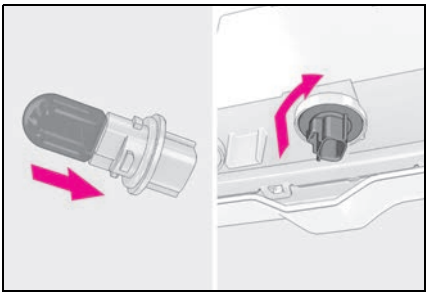
2 ソケットを左にまわして取りはずす



3 電球を取りはずす

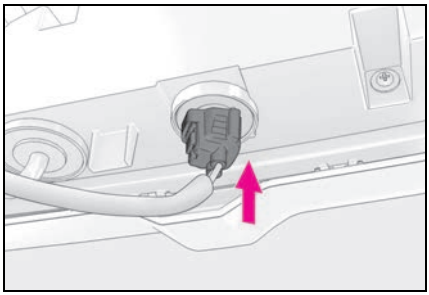


4 新しい電球を取り付け、ソケットをランプ本体に挿し込み右にまわして取り付ける



5 コネクターを取り付ける

取り付けたあとはリヤフォグランプ★を点灯させ、ソケットの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■電球を交換するとき

- ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。
  やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、または内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

■お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

万一の場合には

7

7-1. まず初めに

故障したときは..... 372
非常点滅灯（ハザードランプ）. 373
発炎筒 373
車両を緊急停止するには..... 374
水没・冠水したときは..... 375
車中泊が必要なときは..... 376

7-2. 緊急時の対処法

けん引について..... 377
フューエルポンプシャットオフシステム（LC500）..... 382
警告灯がついたときは..... 383
警告メッセージが表示されたときは 391
パンクしたときは（ランフラットタイヤ装着車）..... 398
パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）..... 399
エンジンが始動できないときは（LC500）..... 408
ハイブリッドシステムが始動できないときは（LC500h）..... 410
キーをなくしたときは..... 411
給油扉が開かないときは..... 412
電子キーが正常に働かないときは 413
補機バッテリーがあがったときは 416
ソフトトップルーフが閉まらないときは（コンバーチブル）..... 424
オーバーヒートしたときは（LC500）..... 430
オーバーヒートしたときは（LC500h）..... 433
スタックしたときは..... 436

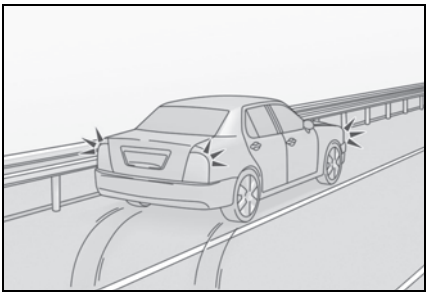
故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

対処のしかた

● 非常点滅灯（→P.373）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



● 高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

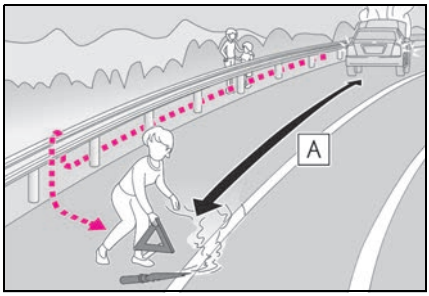
1 同乗者を避難させる

2 車両の 50m 以上後方（A）に発炎筒（→P.373）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する

・ 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。

・ 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。

3 その後、ガードレールの外側などに避難する

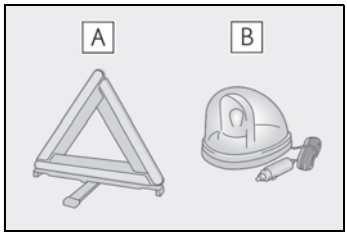


知識

■**停止表示板・停止表示灯について**

●高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。

●停止表示板・停止表示灯のご購入については、レクサス販売店にお問い合わせください。



A 停止表示板

B 停止表示灯

非常点滅灯（ハザードランプ）

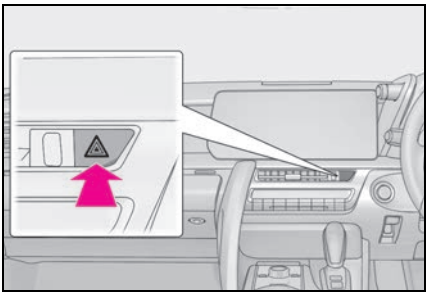
事故などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

点滅させるには

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。

もう一度押すと消灯します。



知識

■非常点滅灯について

●LC500：エンジン停止中に、非常点滅灯を長時間使用すると、補機バッテリーがあがるおそれがあります。
LC500h：ハイブリッドシステム停止中（READY インジケーターが点灯していないとき）に、非常点滅灯を長時間使用すると、補機バッテリーがあがるおそれがあります。

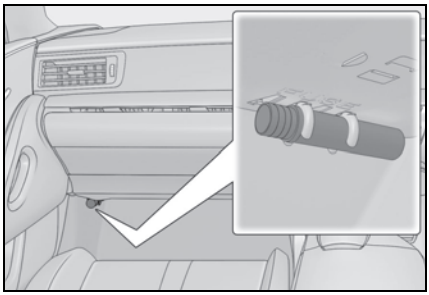
●SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、非常点滅灯が自動で点滅します。非常点滅灯スイッチを 2 回押すか、約 20 分経過すると消灯します。（衝撃の度合いや事故の状況によっては点滅しないことがあります。）

発炎筒

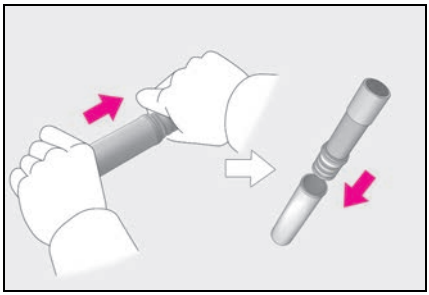
高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）
発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してください。

発炎筒を使うには

1 助手席足元の発炎筒を取り出す



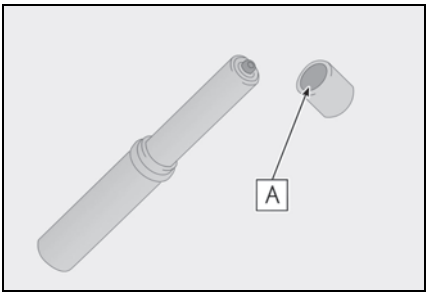
2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



3 先端のフタを取り、すり薬 A で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けな

いでください。



知識

■発炎筒の交換について

本体に表示してある有効期限が切れる前に、レクサス販売店でお求めください。
有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、手順に従って車を停止させてください。

車を停止するには

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトポジションを N にする

▶ シフトポジションが N になった場合

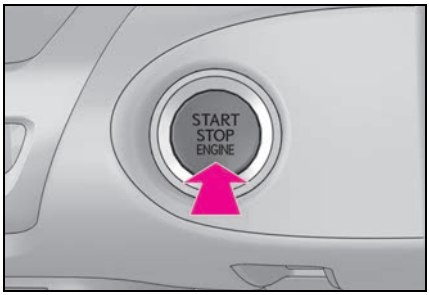
3 減速後、車を安全な道路脇に停める

4 エンジン<ハイブリッドシステム>を停止する

▶ シフトポジションが N にならない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 エンジンスイッチ<パワースイッチ>を 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してエンジン<ハイブリッドシステム>を停止する



5 車を安全な道路脇に停める

警告

■**走行中にやむを得ずエンジン<ハイブリッドシステム>を停止するとき**

ハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジン<ハイブリッドシステム>を停止する前に、十分に減速するようにしてください。

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウインドウスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

車外の水位がドア高さの半分を超えると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。

知識

■**水位がフロアを超えると**

LC500：水位がフロアを超えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウインドウが作動しなくなったり、エンジンが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

LC500h：水位がフロアを超えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワー

ウインドウが作動しなくなったり、エンジンやモーターが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

■緊急脱出用ハンマー※の使用について

合わせガラスは、緊急脱出用ハンマーで割ることができません。この車両のドアガラスとリヤウインドウガラスに合わせガラスは使用されていません。

※詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

警告

■走行中の警告

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

車中泊が必要なときは

警告

車中泊としてお車をご利用になる場合は、エコノミークラス症候群や熱中症、一酸化炭素中毒などのリスクを伴うため十分注意してください。

●詳しい注意事項などを以下の URL で確認することができます。

https://lexus.jp/news/bousai/#help_book

けん引について

けん引は、できるだけレクサス販売店または専門業者にご依頼ください。

その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

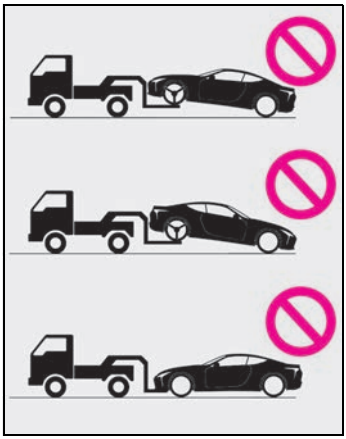
警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■レッカー車でけん引するとき

LC500：必ず 4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、車の向きがかわり事故につながったりするおそれがあります。

LC500h：必ず 4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、車の向きがかわり事故につながったりするおそれがあります。また、モーターが回転して発電し、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。



■他車にけん引してもらうときの運転について

- けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
  けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。
- パーキングロックにより後輪が固定され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。次のことをしないでください。

警告

・運転席シートベルトを外し、運転席のドアを開ける

・エンジンスイッチ<パワースイッチ>を OFF にする

■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。
指定の位置にしっかり取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

注意

■車両の損傷を防ぐために

●他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。

・ワイヤーロープは使用しない

・速度 30km/h 以下、距離は車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめる

・前進方向でけん引する

・サスペンション部などにロープをかけない

●この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で 4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。
レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■リヤ側けん引フックについて（輸送用フック／緊急用フック）

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

●やむを得ない場合以外は使用しないでください。

●緊急用フックで他車をけん引しないでください。

他車によるけん引が不可能な状況

次の場合は、パーキングロックにより後輪が固定されている可能性があるため、他車にロープでけん引してもらうことはできません。レクサス販売店または専門業者にご依頼ください。

● シフト制御システムに異常があるとき（→P.181, 185, 394）

● エンジンイモビライザーシステム<イモビライザーシステム>に異常があるとき（→P.87）

● スマートエントリー＆スタートシステムに異常があるとき（→P.413）

● 補機バッテリーがあがったとき（→P.416）

けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、レクサス販売店または専門業者へご連絡ください。

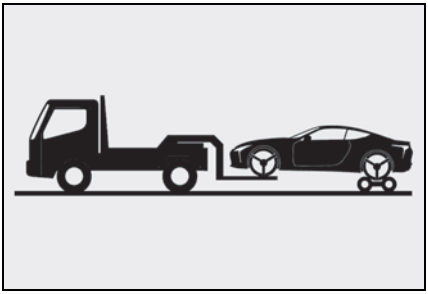
● LC500：エンジンはかかるが車が動かない

LC500h：ハイブリッドシステムの異常を示す警告メッセージが表示され、車が動かない

● 異常な音がする

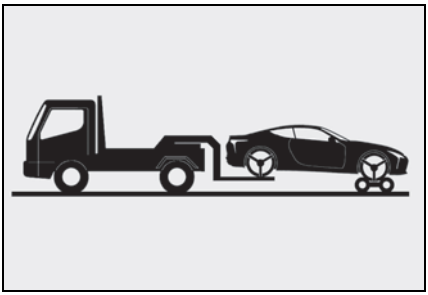
レッカー車でけん引するとき

▶ 前向きにけん引するときは



台車を使用して後輪を持ち上げる

▶ うしろ向きにけん引するときは

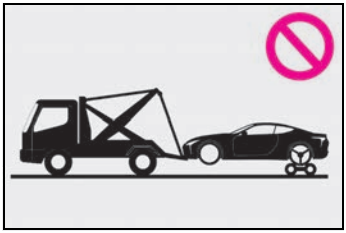


台車を使用して前輪を持ち上げる

注意

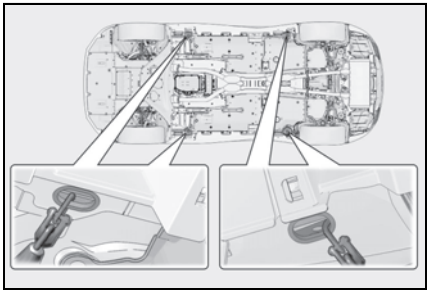
■レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。

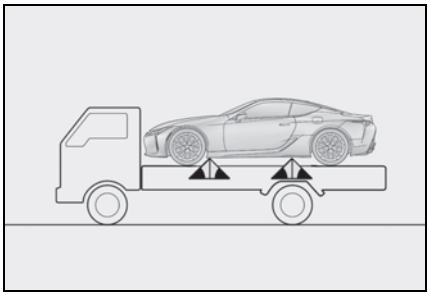


車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する



鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が45°になるように固縛する



注意

■車両運搬車に車を固縛するとき

ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

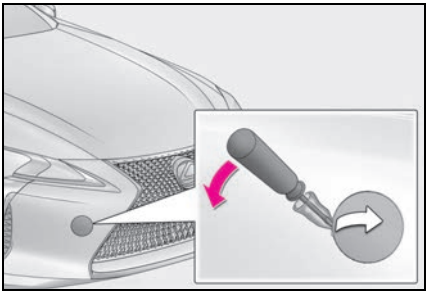
他車にけん引してもらうとき

他車にけん引してもらうときは、けん引フックを取り付ける必要があります。手順に従って取り付けてください。

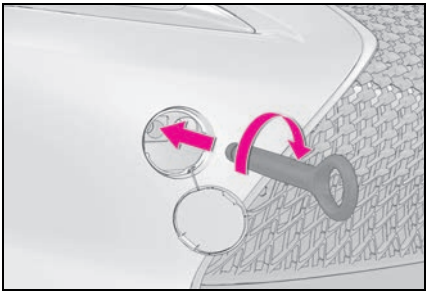
1 トランク内のドライバーとけん引フックを取り出す（→P.355）

2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

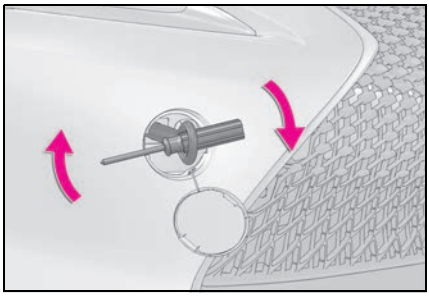
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



4 ドライバーや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

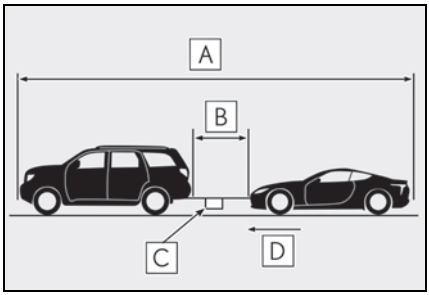


5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

6 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3m 平方（30cm×30cm）以上



A 25m 以内

B 5m 以内

C 白い布

D けん引方向

7 運転者はけん引される車両に乗り、エンジン<ハイブリッドシステム>を始動する

エンジン<ハイブリッドシステム>が始動しないときは、エンジンスイッチ<パワースイッチ>を ON にしてください。

8 けん引される車両のシフトポジションを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

オートモードを OFF にしてください。（→P.202）

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

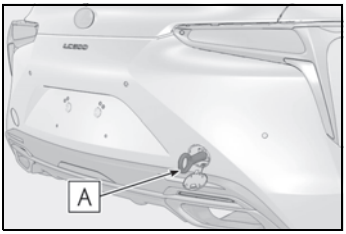
エンジン<ハイブリッドシステム>が停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ホイールボルトレンチについて

レクサス販売店で購入することができます。

■リヤ側けん引フックについて（輸送用フック／緊急用フック）

このフックは船舶固縛で車両を輸送するときに固定するために、または雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったとき、やむを得ず他車に引っ張り出してもらうために使用することができます。他車をけん引することはできません。



A 輸送用フック／緊急用フック

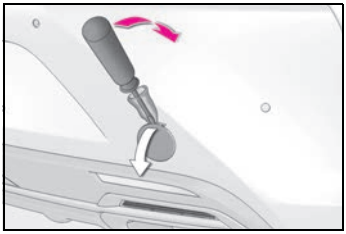
■リヤ側けん引フックを取り付けるには

輸送用フック、緊急用フックを取り付けるときは、手順に従って取り付けてください。

1 トランク内のドライバーとけん引フックを取り出す（→P.355）

2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める

4 ドライバーや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

フューエルポンプシャットオフシステム（LC500）

エンジン停止時および SRS エアバッグ作動時は、フューエルポンプシャットオフシステムが作動し、燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。

エンジンを始動するには

システムが作動したあと、エンジンを始動するには、次の手順に従ってください。

1 エンジンスイッチを ACC または OFF にする

2 エンジンを再始動する

注意

■エンジンを始動する前に

車両下をよく確認してください。
地面に燃料もれを見つけた場合は、燃料システムに損傷があり、修理する必要があります。その場合はエンジンを再始動しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザーへの対応

■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （赤色）	●ブレーキ液の不足 ●ブレーキ系統の異常 パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。解除後、消灯すれば正常です。 **→ ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。** ●ブレーキパッドの摩耗（右輪のみ検知） **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

■ 充電警告灯 ※

警告灯	警告内容・対処方法
	充電系統の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。**

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 油圧警告灯（警告ブザー）※

警告灯	警告内容・対処方法
	エンジンオイルの圧力異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。**

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ エンジン警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	●エンジンの異常 ●ハイブリッドシステムの異常（LC500h） ●エンジン電子制御システムの異常 ●電子制御スロットルの異常 ●トランスミッション電子制御システムの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

■ SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●SRS エアバッグシステムの異常 ●プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

■ ABS ＆ブレーキアシスト警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	●ABS の異常 ●ブレーキアシストの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

■ パワーステアリング警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （赤色） （黄色）	EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

■ PCS 警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
（点滅または点灯）	警告ブザーが鳴った場合： プリクラッシュセーフティの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。** 警告ブザーが鳴らない場合： プリクラッシュセーフティが一時的、または対処を行うまで作動停止している **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.223, 391）** プリクラッシュセーフティが OFF、または VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムが停止しているときも点灯します。 → P.235

■ LTA 表示灯 ※

警告灯	警告内容・対処方法
（橙色）	LTA（レーントレーシングアシスト）の異常 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.243）**

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ スリップ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムの異常 ●TRC（トラクションコントロール）システムの異常 ●ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。** VSC/TRC/ABS/VGRS※/DRS※ システム作動時は点滅します。

※ VDIM 作動中のみ

■ ブレーキオーバーライドシステム警告灯／ドライブスタートコントロール警告灯（警告ブザー）※

警告灯	警告内容・対処方法
	ブザーが鳴った場合： ブレーキオーバーライドシステムまたはドライブスタートコントロールの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。** アクセルペダルを踏みながらシフトポジションを切りかえ、ドライブスタートコントロールが作動した **→ 一度アクセルペダルから足を離してください。** ブザーが鳴らなかった場合： アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれている **→ アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。**

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ ブレーキホールド作動表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
HOLD （点滅）	ブレーキホールドシステムの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

■ パーキングブレーキ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
 （点滅）	パーキングブレーキシステムの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

■ ブレーキ警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
 （黄色）	●電子制御ブレーキシステムの異常 ●回生ブレーキシステムの異常（LC500h） ●パーキングブレーキシステムの異常 **→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

■ 燃料残量警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	燃料の残量が約 12.1L 以下になった **→ 燃料を補給する**

■ 運転席・助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー ※）

警告灯	警告内容・対処方法
	運転席・助手席シートベルトの非着用 **→ シートベルトを着用する助手席乗員がいるときは、助手席乗員もシートベルトを着用してください。**

※ 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

■ リヤ席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー ※1）※2

警告灯	警告内容・対処方法
	リヤ席シートベルトの非着用 **→ シートベルトを着用してください。**

※1 リヤ席シートベルト非着用警告ブザー：
リヤ席シートベルト非着用（いずれかのシートベルト脱着により、リヤ席シートベルト非着用警告灯が点灯している状態）のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間継続的に鳴ります。

※2 センターパネルに表示されます。

■ マスターウォーニング（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	システムの異常時にブザーと共に点灯・点滅し、マルチインフォメーションディスプレイ上に警告メッセージを表示します。 → P.391

■ タイヤ空気圧警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	警告灯が点灯した場合： 次のようなタイヤ空気圧の低下を表します。 ●自然要因（→P.389） ●タイヤのパンク（→P.398） **→ 指定された空気圧に調整してください。調整して数分後に警告灯が消灯します。数分経過しても警告灯が消灯しない場合は、タイヤ空気圧が正しく調整されていることを確認した上で、初期化操作を行ってください。（→P.350）** **初期化を行っても警告灯が消灯しない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。** 警告灯が 1 分間点滅したあとに点灯した場合： タイヤ空気圧警報システムに異常があります。 **→ レクサス販売店で点検を受けてください。**

■ 高水温警告灯（警告ブザー）※

警告灯	警告内容・対処方法
	エンジン冷却水高温異常 水温の上昇にともない、点滅から点灯にかわります。 **→ ただちに安全な場所に停車し、対処方法（→P.430, 433）に従ってください。**

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ ハイブリッドシステム過熱警告灯（警告ブザー）※（LC500h）

警告灯	警告内容・対処方法
	ハイブリッドシステムの過熱 負荷の高い走行状況（例えば、長い上り坂を走行）のときにメッセージが表示される場合があります。 **→ 安全な場所に停車し、対処方法（→P.434）に従ってください。**

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

知識

■シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

●助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。

●助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことが

あります。

■パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

補機バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

■タイヤ空気圧警告灯について

タイヤ空気圧警報システムに異常があるときは、警告灯が点滅します。ただし、警告灯は 1 分間点滅したあと点灯したままになるため、警告灯の状態がわからない場合は、エンジンスイッチ<パワースイッチ>をいったん OFF にしてから再度 ON にして、警告灯が点滅するかどうか確認してください。

■タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

タイヤが十分に冷えてから次の操作を行ってください。

●空気圧を確認し、適切な値に調整してください。

●数分たっても警告灯が消灯しない場合は、指定空気圧であることを確認し、タイヤ空気圧警報システムの初期化を行ってください。

タイヤが十分に冷えていない状態で上記の操作を行うと、警告灯が再度点灯する場合があります。

■自然要因によるタイヤ空気圧警報について

自然な空気もれ、外気温による空気圧の変化など、自然要因によりタイヤ空気圧警告灯が点灯することがあります。この場合、タイヤ空気圧を適切な値に調整してください。数分後に警告灯が消灯します。

■タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれがある状況

→P.349

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

警告

■パワーステアリング警告灯が点灯したとき

黄色に点灯したときは操作力補助が制限され、赤色に点灯したときは操作力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

■タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

- 周囲の交通状況に合わせ、できるだけ速やかに減速し、60km/h をこえない速度で走行してください。
- ただちにタイヤ空気圧を確認・調整してください。
- タイヤ空気圧を調整したあとも警告灯が点灯する場合はタイヤがパンクしている可能性があります。最寄りのレクサス販売店でタイヤを交換してください。
- 急ハンドル・急ブレーキを避けてください。
  タイヤの状態が悪化すると、ハンドル操作やブレーキが効かなくなるおそれがあります。

■タイヤの破裂、突然の空気もれが発生した場合

急激にタイヤ空気圧が低下した場合は、タイヤ空気圧警報システムによる警報ができない場合があります。

注意

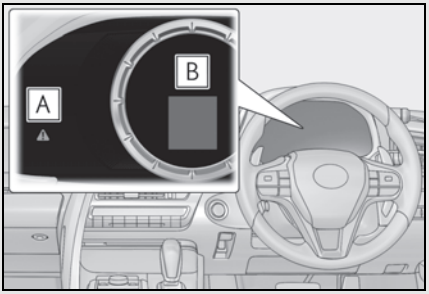
■タイヤ空気圧警報システムについての注意

- 純正ホイール以外を使用した場合、バルブ／送信機から発信する電波の飛び方がかわり、システムが正常に作動しないことがあります。
- 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用しないでください。タイヤ空気圧警報システムが正常に作動しないことがあります。
- タイヤ空気圧警告灯の点灯および点滅は、初期化操作（→P.350）では解除できません。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。

メーターリングが中央にあるとき：



A マスターウォーニング

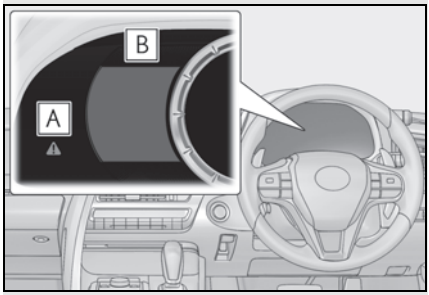
マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。

B マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイのメッセージに従ってください。

処置後に再度メッセージが表示されたときは、レクサス販売店へご連絡ください。

メーターリングが右側にあるとき：



A マスターウォーニング

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。

B マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイのメッセージに従ってください。

処置後に再度メッセージが表示されたときは、レクサス販売店へご連絡ください。

メッセージと警告作動

メッセージの内容によって警告灯や警告ブザーの作動が次のように切りかわります。ディーラーで点検をするように表示されたときは、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

	専用警告灯	警告ブザー ※	警告内容
点灯	点灯	あり	走行にかかわるシステムの故障や、そのまま放置すると思わぬ危険を招くおそれがあるなどの重要なメッセージを意味します。
点灯	—	あり	
—	点灯または点滅	あり	表示されたシステムに故障のおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点滅	—	あり	車両への損傷や、思わぬ危険を招くおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点灯	—	なし	電装品の故障や状態、メンテナンスのお知らせなどのメッセージを意味します。
点滅	—	なし	車両を正しく操作していない場合や、操作方法のアドバイスなどを意味します。

上記の点灯状況、ブザーの吹鳴状況と異なる場合があります。その際は表示された内容に従ってすみやかに対応してください。

※ メッセージを最初に表示したときに作動します。

知識

■警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■専用警告灯について

次の内容のメッセージが表示されたときは、マスターウォーニングが点灯・点滅しません。その場合は個別の専用警告灯表示を行います。

●ABS の異常

ABS ＆ブレーキアシスト警告灯が点灯します。（→P.384）

●充電系統の異常

充電警告灯が点灯します。（→P.383）

●ブレーキ系統の異常

ブレーキ警告灯が点灯します。（→P.383）

●EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常

パワーステアリング警告灯が点灯します。（→P.384）

●タイヤ空気圧警報システムの異常

タイヤ空気圧警告灯が点灯します。（→P.388）

●燃料の残量が少なくなった

燃料残量警告灯が点灯します。（→P.387）

■ **“ハイブリッドシステム高温 出力制限中です” が表示されたときは（LC500h）**

負荷の高い走行状況（例えば、長い上り坂を走行）のときにメッセージが表示される場合があります。

対処方法 →P.434

■ **“駆動用電池保護が必要 N レンジの使用を控えてください” が表示されたときは（LC500h）**

シフトポジションが N のときにメッセージが表示されることがあります。

シフトポジションが N では充電できないため、停車するときはシフトポジションを P にしてください。

■ **“駆動用電池保護が必要 P レンジにして再始動してください” が表示されたときは（LC500h）**

一定時間シフトポジションが N になっていると、駆動用電池の残量が低下し、メッセージが表示されます。

車両を動かす場合は、シフトポジションを P にして、ハイブリッドシステムを再始動してください。

■ **“駐車時は P レンジに入れてください” が表示されたときは**

シフトポジションが P 以外でエンジンスイッチ<パワースイッチ>を OFF にせずに運転席ドアが開いたときにメッセージが表示されます。

駐車時はシフトポジションを P にしてください。

■ **“Nレンジです アクセルを緩めて希望レンジに切りかえてください” が表示されたときは**

シフトポジションが N で、アクセルペダルを踏んだときにメッセージが表示されます。

アクセルペダルから足を離し、シフトポジションを D または R にしてください。

■ **“停車時はブレーキを踏んでください” が表示されたときは（LC500h）**

上り坂などでの停車時にアクセルペダルを踏んで車両を保持するとメッセージが表示される場合があります。

そのままの状態を続けるとハイブリッドシステムが過熱するおそれがあります。アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

■ “シフトシステム故障 シフト切りかえ不可 安全な場所まで走行し 停車” または“シフトシステム故障 走行を継続できません” が表示されたときは

シフト制御システムが故障しています。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ “バッテリー保護のため自動で電源を Off しました” が表示されたときは

LC500：
自動電源 OFF 機能が作動したときにメッセージが表示されます。次回エンジン始動時にエンジン回転数を少し高めにして約 5 分間その回転数を保持し、補機バッテリーを充電してください。

LC500h：
自動電源 OFF 機能が作動したときにメッセージが表示されます。次回ハイブリッドシステム始動時に、約 5 分間ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。

■ シフト操作に関するメッセージが表示されたときは

誤ったシフトポジションの選択や、停車中の意図せぬ車両の動き出しなどを防止するため、自動的にシフトポジションが切りかわったり、シフトレバーの操作が指示されたりすることがあります。その場合は、画面の指示に従ってシフトポジションを変更してください。

■ “クルーズコントロール一時使用不可取扱書を確認ください” が表示されたときは

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）のシステムが一時的、または対処を行うまで使用できません。（要因および対処方法 →P.223）

■ “クルーズコントロール現在使用できません” が表示されたときは

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）のシステムが一時的に使用不可と判断されています。しばらく走行してからレーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を再度設定してください。

■ 前方カメラの異常を示すメッセージが表示されたとき

メッセージに表示された異常が解消されるまで、以下のシステムは作動しない可能性があります。（→P.223, 383）

●PCS（プリクラッシュセーフティ）

●LTA（レーントレーシングアシスト）

●AHB（オートマチックハイビーム）

●RSA（ロードサインアシスト）

●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

●先行車発進告知機能

●ドライバー異常時対応システム

■レーダーの異常を示すメッセージが表示されたときは

メッセージに表示された異常が解消されるまで、以下のシステムは作動しない可能性があります。（→P.223, 383）

●PCS（プリクラッシュセーフティ）

●LTA（レーントレーシングアシスト）

●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

●先行車発進告知機能

●ドライバー異常時対応システム

■“エンジン停止のためハンドルが重くなります”（LC500）または“ハイブリッドシステム停止のためハンドルが重くなります”（LC500h）が表示されたときは

ハンドル操作が非常に重くなることがあります。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

■“暖機運転中 最高速度 110km/h”が表示されたときは（LC500h）

暖機運転中のため、最高速度が 110km/h に制限されているときにメッセージが表示されます。暖機運転が終了するまでは 110km/h 未満で走行してください。

■“安全に停車して P レンジに入れてください”が表示されたときは（LC500h）

ハイブリッドシステムの異常、またはシフトポジションが長時間 N になっていることが考えられます。ただちに安全な場所に停車し、表示が消えるまでシフトポジションを P にしてください。表示が消えないときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

■“エンジンオイル量不足 補充するか、交換してください”が表示されたときは

エンジンオイルが不足しているときにメッセージが表示されます。エンジンオイル量を点検し、オイルを補給してください。

また、傾斜路などに停車したときに表示される場合があります。水平な路面に移動し、メッセージが表示されるか確認してください。

■取扱書の確認をうながすメッセージが表示されたときは

●次のメッセージが表示されたときは、対処方法に従ってください。
・“エンジン冷却水高温”（→P.430, 433）
・“AT オイル高温”（→P.187, 194）

●次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。
・“スマートエントリー＆スタートシステム故障”
・“シフトシステム故障 駐車時は パーキングブレーキ をかけ 取扱書確認”
・“P スイッチ故障 駐車時は パーキングブレーキ をかけ 取扱書確認”
・“シフトシステム不作動 駐車時 パーキングブレーキ をかけ 取扱書確認”
・“シフトシステム故障 取扱書確認”
・“シフトシステム故障 安全な場所に停車して 取扱書確認”

・“バッテリ充電不足 シフト切りかえ できません 取扱書確認”

●次のメッセージが表示されたときは、システムまたは部位が故障している可能性があります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。
・“ハイブリッドシステム故障”（LC500h）
・“エンジン系故障”
・“バッテリー系故障”
・“アクセル系故障”

●次のメッセージが表示されたときは、ガス欠になっている可能性があります。ただちに安全な場所に停車し、燃料残量が少ない場合は給油してください。（→P.82）
・“ハイブリッドシステム停止”（LC500h）
・“エンジン停止”（LC500h）

●次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。
・“故障のためブレーキ力が低下”
・“充電システム故障”
・“エンジン油圧不足”

●“補機バッテリー（始動用）充電不足” が表示されたときは、次の対処方法に従ってください。（LC500h）
・数秒後※に表示が消えたときは
約 15 分以上、ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。
・表示が消えないときは
「補機バッテリーがあがったときは」（→P.416）の手順でハイブリッドシステムを始動してください。

※約 6 秒間表示されます。

●“バッテリー充電不足” が表示されたときは、補機バッテリーの充電が不足しています。補機バッテリーを充電、または交換してください。

●“駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認” が表示されたときは、フィルターが目づまりしている、冷却用の吸入口がふさがれている、またはダクトにすき間があるなどが考えられますので、次の対処方法に従ってください。（LC500h）
・駆動用電池冷却用吸入口／フィルターが汚れている場合は P.336 の要領で清掃してください。
・駆動用電池冷却用吸入口／フィルターが汚れていないのにメッセージが表示されたときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

■“販売店で点検してください” が表示されたときは

警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。すみやかにレクサス販売店で点検を受けてください。

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

注意

■ **“電力消費が大きいため一部の空調･ヒータ作動を制限中です” がひんぱんに表示されるときは**

充電系の異常や補機バッテリーが劣化している可能性があります。レクサス販売店で点検を受けてください。

■ **“補機バッテリー（始動用）充電不足 取扱書を確認してください” がひんぱんに表示されるときは（LC500h）**

補機バッテリーが劣化している可能性があります。その状態で放置しておくと、補機バッテリーのバッテリーあがりを起こすおそれがあるため、レクサス販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

パンクしたときは（ランフラットタイヤ装着車）

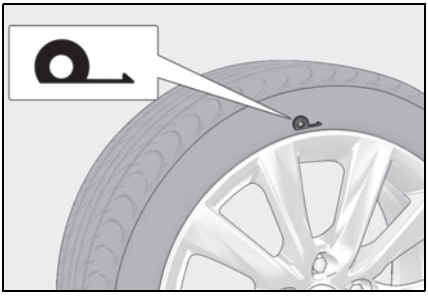
ランフラットタイヤ装着車には、スペアタイヤが搭載されていません。ランフラットタイヤは、パンクした場合でもしばらくは走行可能です。パンクしたときは、なるべく速度を落とし、慎重に運転してください。
（タイヤについての詳しい説明は→P.346 を参照してください）

ランフラットタイヤ

ランフラットタイヤがパンクしたときは、次の点に注意して走行し、最寄りのレクサス販売店でタイヤを交換してください。

- 80km/h 以下で走行する
- 急ハンドル・急ブレーキを避ける
- 160km 以上走行しない

ランフラットタイヤには、タイヤの側壁に マークが付いています。



知識

■高温時などは

160km まで走行できない場合があります。

■ランフラットタイヤについて

→P.348

注意

■タイヤを交換するときは

最寄りのレクサス販売店で交換してください。タイヤ交換の際、交換手順を誤るとタイヤ空気圧警報用のバルブと送信機が損傷するおそれがあります。

■段差を乗りこえるときは

タイヤがパンクしているときは、通常にくらべ車高が低くなっているので、注意してください。

■液体のパンク修理剤の使用禁止

お使いになると、空気圧バルブ／送信機が損傷するおそれがあります。

■パンクしたタイヤの再利用禁止

パンクしたタイヤを補修して使用しないでください。

■自動洗車機の使用禁止

タイヤがパンクした状態では、車が洗車機に引っかかり、損傷するおそれがあるため自動洗車機を使用しないでください。

パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）

タイヤパンク応急修理キット装着車には、スペアタイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）パンクしたタイヤの損傷状況により、応急修理キットでは応急修理できない場合があります。**（→P.399）**

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、レクサス販売店にご相談ください。

警告

■パンクしたままの走行について

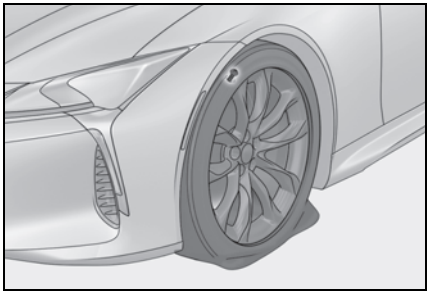
タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離でもパンクしたタイヤで走行すると、タイヤおよびホイールが損傷し修理できなくなります。パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態で応急修理キットを使用すると、タイヤが破裂する危険があります。

応急修理する前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトポジションを P にする
- エンジン<ハイブリッドシステム>を停止する
- 非常点滅灯を点滅させる
- タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

・ タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。
・ パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。



知識

■応急修理キットで修理できないパンク

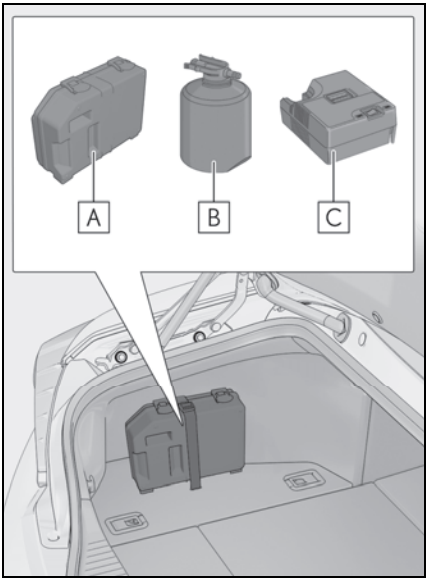
次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。レクサス販売店にご連絡ください。

- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき

- ホイールが破損しているとき
- 2本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1本のタイヤに2箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき
- 補修液の有効期限がきれているとき

タイヤパンク応急修理キットと工具の位置

▶ タイヤパンク応急修理キット



A ケース

B ボトル

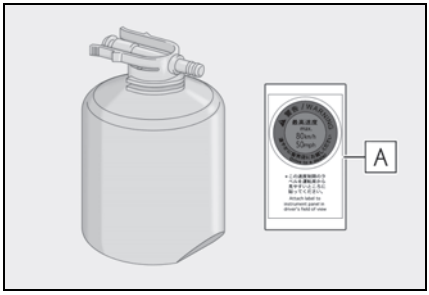
C コンプレッサー

▶ 工具

→P.355

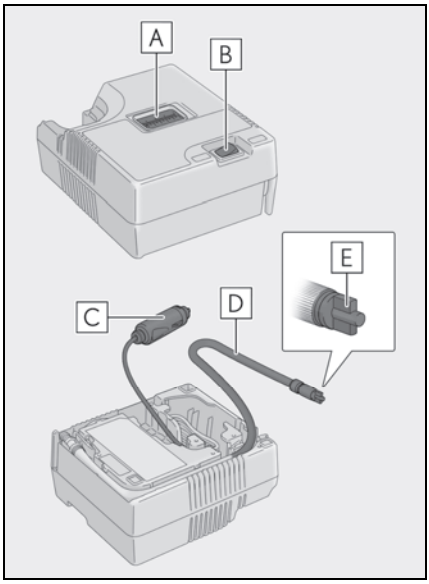
タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称

■ ボトル



A 速度制限ラベル

■ コンプレッサー



A 空気圧計

B 電源スイッチ

C 電源プラグ

D ホース

E 空気逃がしキャップ

知識

■応急修理キットについて

●パンク補修液ボトル１本でタイヤ１本を１ 回応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、レクサス販売店にご相談ください。
コンプレッサーは、くり返し使用できます。

●外気温度が－40℃～60℃のときに使用できます。

●応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。

●パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。

●パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。

●応急修理キット作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。

●タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

■応急修理キットの点検について

●パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。
有効期限はボトルに表示されています。

●有効期限が切れたパンク補修液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。

●有効期限が切れる前に交換してください。交換については、レクサス販売店にご相談ください。

警告

■応急修理キットについて

●応急修理キットは指定の位置に収納してください。
急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。
他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。
パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■パンク補修液について

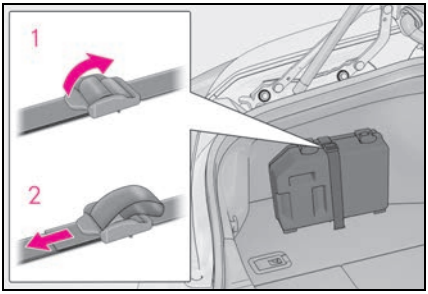
●誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。

●もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

応急修理をするには

1 トランクを開ける

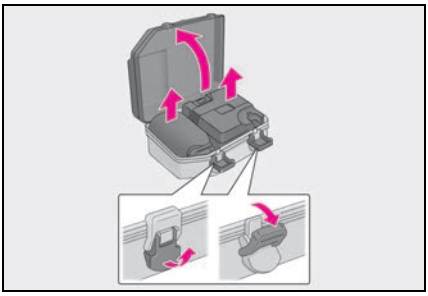
2 ケースを取り出す



1 ベルトをゆるめる

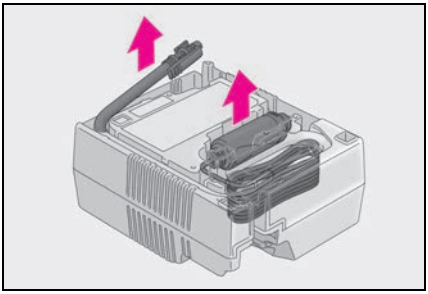
2 ベルトを締める

3 応急修理キットをケースから取り出す



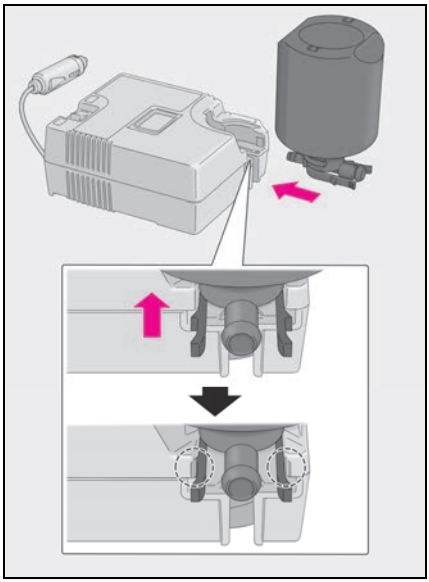
ボトルに同封されているラベルは指定の位置へ貼り付けます。（手順 **12** へ）

4 コンプレッサーからホースを取りはずし、電源プラグを取り出す



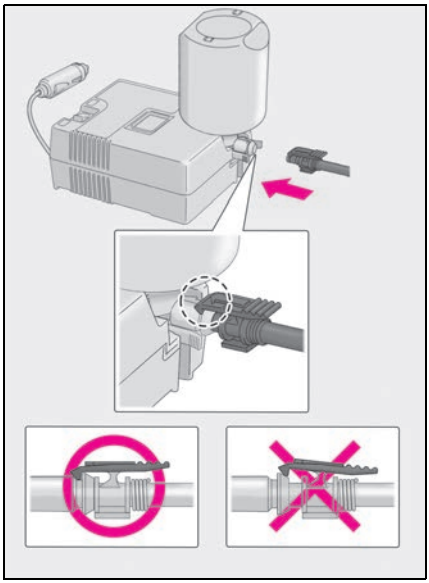
5 ボトルをコンプレッサーに接続する

図のように、ボトルをまっすぐコンプレッサーに挿入・接続し、ボトルのツメが穴に隠れていることを確認してください。

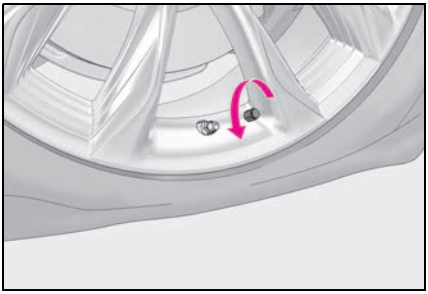


6 ホースをボトルに取り付ける

図のように、ボトルにホースがしっかり接続しているか確認してください。

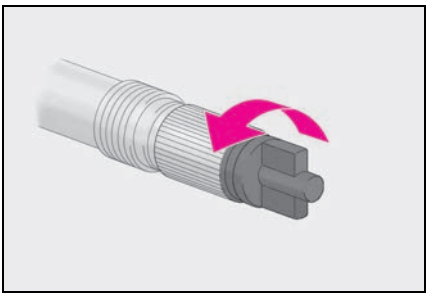


7 パンクしたタイヤのバルブからバルブキャップを取りはずす



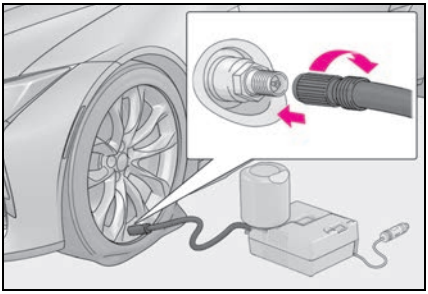
8 ホースをのばし、ホースから空気逃がしキャップを取りはずす

空気逃がしキャップは再度使用するため、なくさないように保管してください。

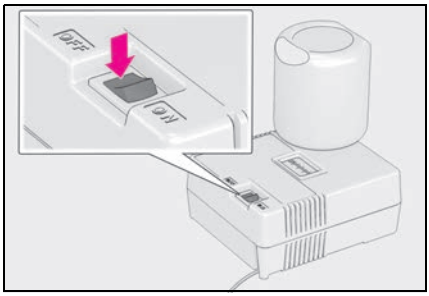


9 ホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する

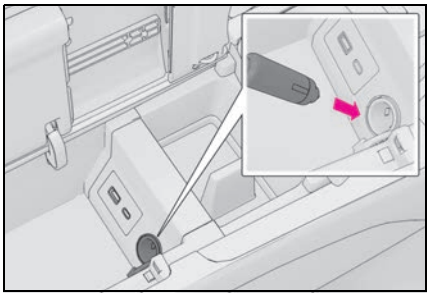
ホース先端を時計まわりにまわしてしっかりと最後までねじ込みます。



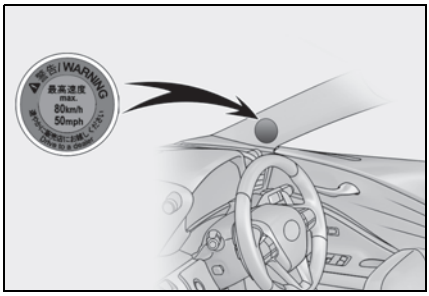
10 コンプレッサーのスイッチがOFF であることを確認する



11 コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに挿し込む



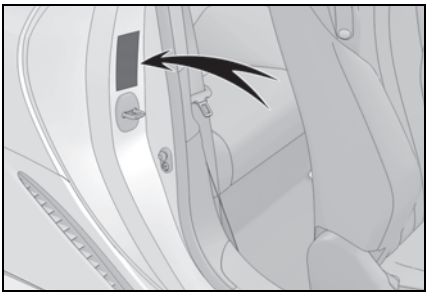
12 運転席から見やすい位置に、付属のラベルを貼り付ける



13 タイヤの指定空気圧を確認する

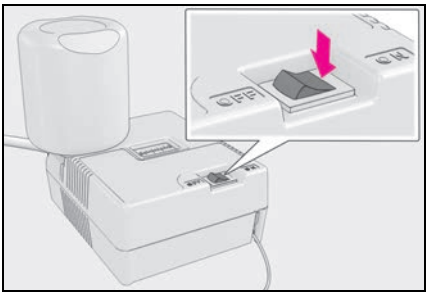
運転席側の空気圧ラベルで確認すること

ができます。（→P.346）

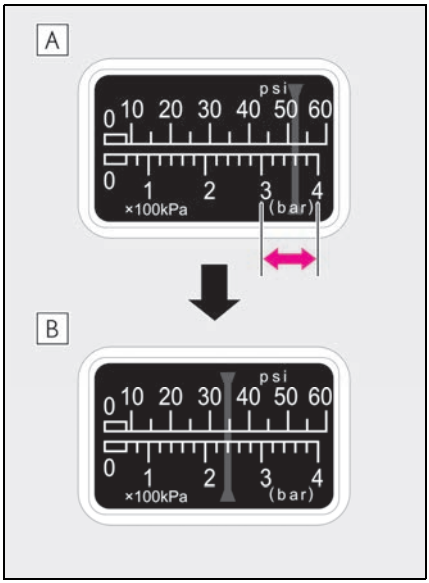


14 エンジン＜ハイブリッドシステム＞を始動する（→P.178, 181）

15 コンプレッサーのスイッチを ON にし、パンク補修液と空気を充填する



16 空気圧が指定空気圧になるまで空気を充填する



A 一時的に空気圧計が 300 ～ 400kPa（3.0 ～ 4.0kg/cm^2）まで上昇し、徐々に減少します。

B スイッチを ON にしてから約 1 ～ 5 分程度で実際の空気圧になります。

空気圧を確認するときは、コンプレッサーのスイッチを OFF にしてください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

充填までに必要な時間は、約 5 ～ 20 分です（外気温により異なります）。25 分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。コンプレッサーのスイッチを OFF にして、レクサス販売店にご連絡ください。

空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。（→P.346）

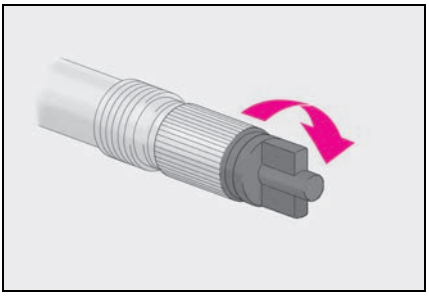
17 コンプレッサーのスイッチがOFF であることを確認した上で、アクセサリーソケットから電源プラグを抜き、タイヤのバルブからホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。

18 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

19 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。

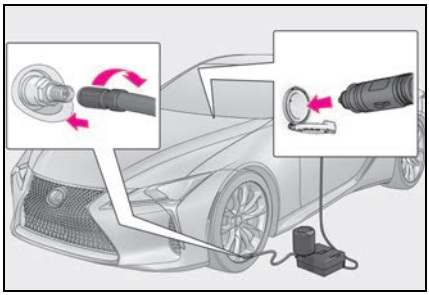


20 いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままトランク内に収納する

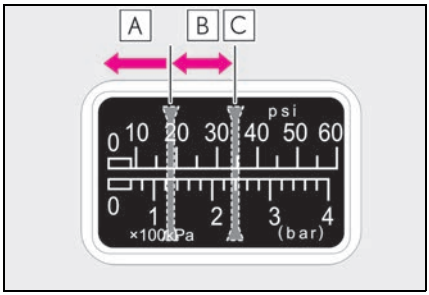
21 タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約 5km、速度 80km/h 以下で安全に走行する

22 走行後、平坦な場所に停車して再度、応急修理キットを接続する

ホースを接続する前に、空気逃がしキャップを取りはずしてください



23 コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にしてから再度 OFF し、空気圧を確認する



A 空気圧が 130kPa（1.3kg/cm^2）未満の場合：応急修理できません。レクサス販売店にご連絡ください。

B 空気圧が 130kPa（1.3kg/cm^2）以上、指定空気圧未満の場合：手順 **24** へ

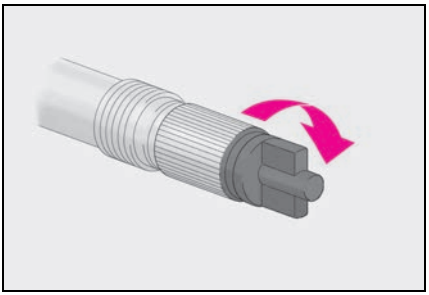
C 空気圧が指定空気圧（→P.346）の場合：手順 **25** へ

24 コンプレッサーのスイッチを ON にして指定空気圧まで空気を充填し、再度約 5km 走行後にあらためて手順 **22** から実施する

25 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れ

る可能性があります。



26 ボトルとコンプレッサーを接続したままトランク内に収納する

27 急ブレーキ・急加速・急ハンドルを避け、走行距離が約 100km 以内、80km/h 以下の速度で、レクサス販売店まで慎重に運転する

タイヤの修理・交換、応急修理キットの処理についてはレクサス売店にご相談ください。

レクサス販売店でタイヤを修理・交換するときに、パンク補修液注入済みであることを必ずお伝えください。

知識

■応急修理キットを使用したとき

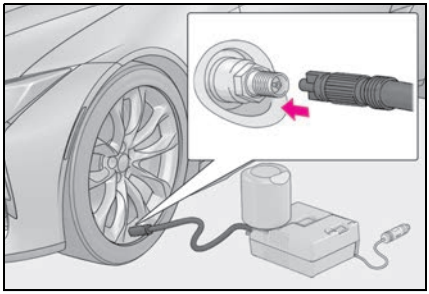
●空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、空気圧バルブ／送信機を交換してください。

●タイヤの指定空気圧に達していても、タイヤ空気圧警告灯が点灯する可能性があります。

■空気を入れすぎてしまったとき

1 タイヤからホースを取りはずす

2 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付け、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあて、空気を抜く



3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する

4 コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にし、OFF にしてから空気圧計を確認する

指定空気圧より低いときは、再度、コンプレッサーのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

■補修液を廃棄するとき

補修液には環境に有害な物質が含まれています。補修液のボトル、および補修液の廃棄が必要な際は、レクサス販売店、または都道府県知事の許可を受けた、専門の廃棄物処理業者に処理をご依頼ください。

警告

■パンクしたタイヤを応急修理するときは

●車両を安全で平坦な場所に停止させてください。

●走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。
走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

警告

- タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとボトルのホースをしっかりと接続してください。ホースの接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。
- 空気充填中にボトルのホースがはずれると、圧力でホースが暴れ大変危険です。
- 空気充填後は、ボトルのホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。
- 作業手順に従って応急修理を行ってください。
  手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。
- 破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチを OFF にし、修理を中止してください。
- 応急修理キットは、長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。40 分以上連続で作動させないでください。
- 応急修理キットが作動すると部分的に熱くなります。使用中、または使用後の取り扱いには注意してください。ボトルとコンプレッサー接続箇所付近の金属部分は特に熱くなるのでふれないでください。
- 速度制限ラベルは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

■補修液を均等に広げるための運転について

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。
- 車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、運転を中止し、次のことを確認してください。
  - タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
  - 空気圧を確認してください。
    130kPa（1.3kg/cm^2）未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

注意

■応急修理をするときは

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- 応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。
- 応急修理キットは倒れた状態では正常に作動しません。必ず立ててご使用ください。

注意

■応急修理キットについて

●応急修理キットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。

●応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。

●応急修理キットはビニール袋に入れて砂ぼこりや水を避けて収納してください。

●応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。

●分解・改造などは絶対にしないでください。また、空気圧計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

エンジンが始動できないときは（LC500）

正しいエンジンのかけ方（→P.178）に従っても、エンジンがかからないときは、次の状況の中であてはまるものを確認し、適切に対処してください。

正しいエンジンの始動方法に従っても始動できない

次の原因が考えられます。

● 電子キーが正常に働いていない可能性があります。（→P.413）

● 燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。

● エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→P.87）

● シフト制御システムに異常がある可能性があります。※（→P.181, 394）

● 電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置で始動することができます。（→P.409）

※ シフトポジションを P から切りかえることができない可能性があります。

スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→P.416）
- 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

スターターがまわらない場合

電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。

スターターがまわらない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→P.416）

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもエンジンがかからないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

緊急時の始動について

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、次の手順でエンジンが始動する場合があります。緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

1. パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを押す（→P.201）

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

2. エンジンスイッチを ACC にする
3. ブレーキペダルをしっかり踏んでエンジンスイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でエンジンが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

ハイブリッドシステムが始動できないときは（LC500h）

ハイブリッドシステムが始動できない原因は状況によって異なります。次の状況の中であてはまるものを確認し、適切に対処してください。

正しいハイブリッドシステムの始動方法に従っても始動できない

次の原因が考えられます。

- 電子キーが正常に働いていない可能性があります。（→P.413）
- 燃料が入っていない可能性があります。
  給油してください。
- イモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→P.87）
- シフト制御システムに異常がある可能性があります。※（→P.185, 394）
- 電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、ハイブリッドシステムを一時的な処置で始動することができます。（→P.410）

※ シフトポジションを P から切りかえることができない可能性があります。

室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→P.416）
- 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。（→P.342）

室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→P.416）
- 補機バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。（→P.342）

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもハイブリッドシステムが始動できないときは、
レクサス販売店にご連絡ください。

緊急時の始動について

通常のハイブリッドシステム始動操作でハイブリッドシステムが始動しないときは、次の手順でハイブリッドシステムが始動する場合があります。
緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを押す（→P.201）

メーター内のパーキングブレーキ表示灯

が点灯します。

2 パワースイッチを ACC にする

3 ブレーキペダルをしっかり踏んでパワースイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でハイブリッドシステムが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

キーをなくしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのメカニカルキーから、レクサス販売店でレクサス純正品の新しいメカニカルキーを作ることができます。

キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

注意

■電子キーを紛失したとき

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーとカードキーをすべてお持ちの上、ただちにレクサス販売店にご相談ください。

給油扉が開かないときは

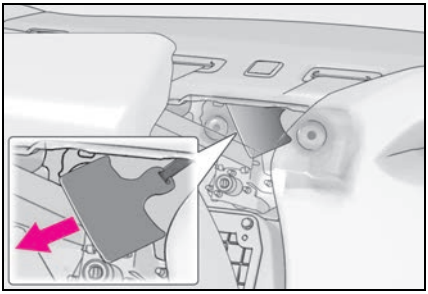
給油口オープナースイッチを押しても給油扉が開かないときは、次の手順で給油扉を開けることができます。

給油扉を開くには

▶ コンバーチブル以外

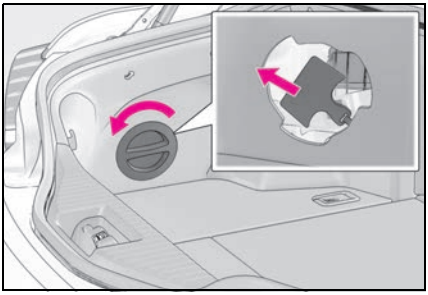
1 リヤシート中央のカバーをはずす（→P.416）

2 タブを取りはずし、引く



▶ コンバーチブル

トランク内のカバーを開け、タブを取りはずし引きます。



警告

■**給油扉を開けたあとは（コンバーチブル以外）**

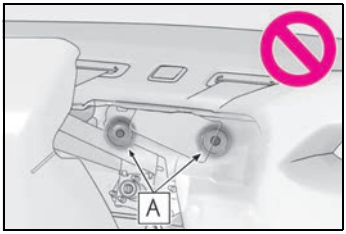
はずしたリヤシート中央のカバーをしっかりと取り付けた状態にしてください。カバーがはずれていると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■**給油扉を開けたあとは**

●タブをもとの位置にしっかり固定してください。

●コンバーチブル以外：タブを取り付けるときは、クリップ取り付け口 A と重ならないようにしてください。クリップが破損し、カバーが取り付けられなくなるおそれがあります。



電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P.137）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー＆スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアやトランクを開けたり、エンジン<ハイブリッドシステム>を始動したりすることができます。

知識

■電子キーが正常に働かないときは

●センターディスプレイまたはレクサス販売店でスマートエントリー＆スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。

●電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。
設定されている場合は解除してください。（→P.137）

●電子キーの機能が停止している可能性があります。（→P.137）

注意

■スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子キーとカードキーをお持ちください。

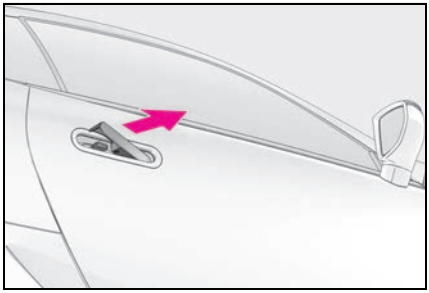
ドアの施錠・解錠、トランクの解錠とキー連動操作（コンバーチブル以外）

メカニカルキー（→P.122）を使って次の操作ができます。

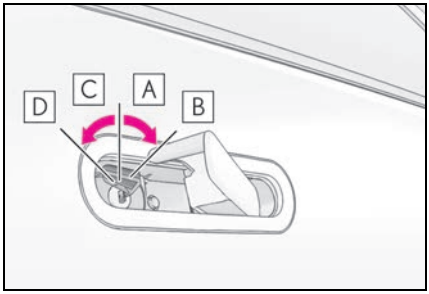
■ ドアの施錠・解錠

1 運転席側のドアハンドル前端のくぼみを押し込む

2 運転席側のドアハンドルを引いたまま、メカニカルキーを挿し込む



3 次のようにキーをまわす



A 全ドア施錠

B ドアガラスが閉まる（まわし続ける）※

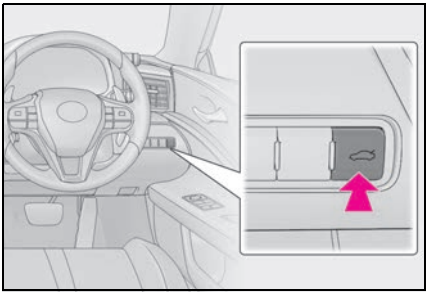
C 全ドア解錠

D ドアガラスが開く（まわし続ける）※

※ レクサス販売店での設定が必要です。

■ トランクの解錠

ドアを解錠して、トランクオープナースイッチを押す



警告

■ **メカニカルキーを使ってドアガラスを操作するとき**

ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

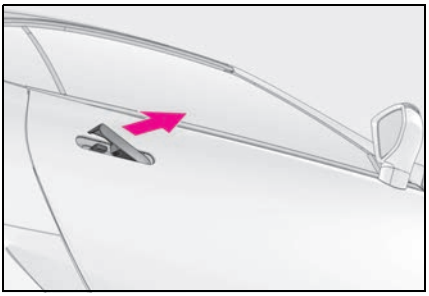
ドアの施錠・解錠、トランクの解錠とキー連動操作（コンバーチブル）

メカニカルキー（→P.122）を使って次の操作ができます。

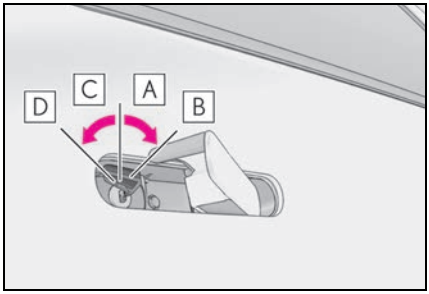
■ **ドアの施錠・解錠**

1 運転席側のドアハンドル前端のくぼみを押し込む

2 運転席側のドアハンドルを引いたまま、メカニカルキーを挿し込む



3 次のようにキーをまわす



A 全ドア施錠

B ドア / リヤクォーターガラスが閉まる（まわし続ける）※

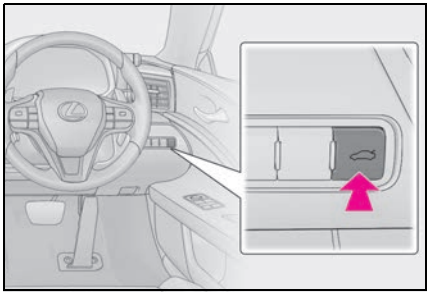
C 全ドア解錠

D ドア / リヤクォーターガラスが開く（まわし続ける）※

※ レクサス販売店での設定が必要です。

■ **トランクの解錠**

ドアを解錠して、トランクオープナースイッチを押す



警告

■メカニカルキーを使ってドア / リヤクォーターガラスを操作するとき

ドア / リヤクォーターガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドア / リヤクォーターガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

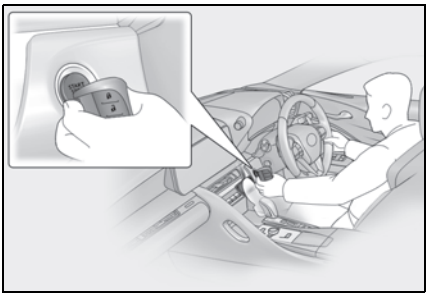
エンジン<ハイブリッドシステム>を始動するには

1 ブレーキペダルを踏む

2 電子キーのレクサスエンブレム面で、エンジンスイッチ<パワースイッチ>にふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、ON へ切りかわります。

カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定が非作動になっているときは、ACC へ切りかわります。



3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されていることを確認する

4 エンジンスイッチ<パワースイッチ>を押す

処置をしても作動しないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

知識

■エンジン<ハイブリッドシステム>の停止方法

通常のエンジン<ハイブリッドシステム>の停止方法と同様に、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしてエンジンスイッチ<パワースイッチ>を押します。

■電子キーの電池交換

ここで説明しているエンジン<ハイブリッドシステム>の始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→P.364)

■モードの切りかえ

エンジン<ハイブリッドシステム>始動方法の手順 **3** で、ブレーキペダルから足を離してエンジンスイッチ<パワースイッチ>を押すと、エンジン<ハイブリッドシステム>が始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。(→P.180, 184)

補機バッテリーがあがったときは

補機バッテリーがあがった場合、次の手順でドアやトランクを開けたり、グローブボックスを開けたり、エンジン<ハイブリッドシステム>を始動したりすることができます。

ドアの施錠／解錠、トランクの解錠をするには

メカニカルキー（→P.122）を使って次の操作ができます。

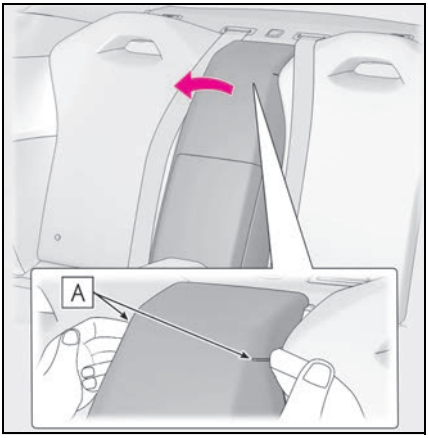
■ **ドアの施錠・解錠**

→P.413

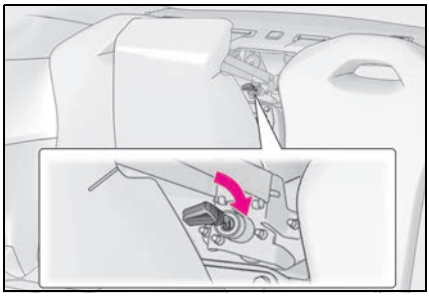
■ **トランクの解錠（コンバーチブル以外）**

1 リヤ席のシートベルトを外側にずらす

2 マークA の位置に指を入れ、リヤシート中央のカバーを手前に引いてはずす



3 キーシリンダーにメカニカルキーを挿し込み、時計まわりにまわす

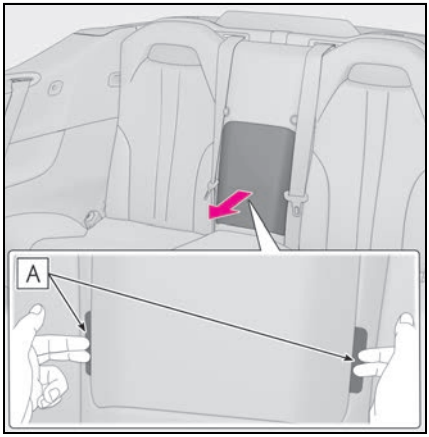


■ **トランクの解錠（コンバーチブル）**

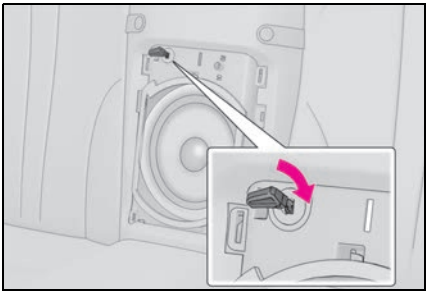
1 リヤ席のシートベルトを外側にずらす

シートベルトがリヤシートベルトホルダーで固定されているときは、はずしてください。（→P.36）

2 マークA の位置に指を入れ、リヤシート中央のカバーを手前に引いてはずす



3 キーシリンダーにメカニカルキーを挿し込み、時計まわりにまわす



警告

■**トランクの解錠をしたあとは**

はずしたリヤシート中央のカバーをしっかりと取り付けた状態にしてください。カバーがはずれていると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■**リヤシート中央のカバーを取り付けるとき**

シートベルトを挟み込まないように注意してください。カバー取り付けクリップが破損し、カバーが取り付けられなくなるおそれがあります。

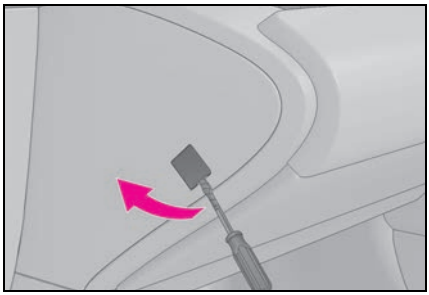
グローブボックスを開けるには

ドア解錠後に次の手順でグローブボックスを開けることができます。

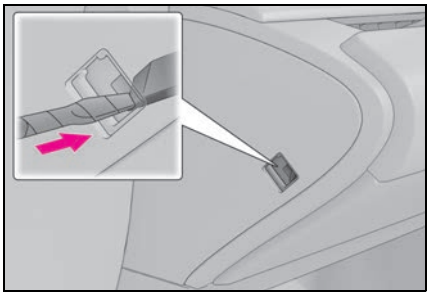
グローブボックスが施錠されている場合、メカニカルキーを使って解錠してください。

1 マイナスドライバーを使ってカバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



2 図に示す部品をマイナスドライバーを使って押し込み、グローブボックスを開ける



知識

■**グローブボックスを開けたあとは**

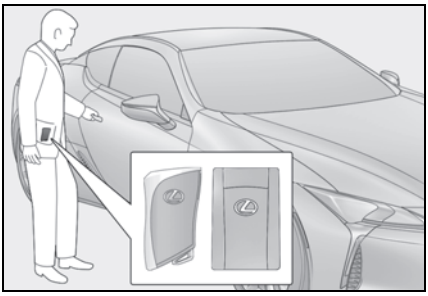
エンジン<ハイブリッドシステム>を再始動したあと、グローブボックスを一度閉めることで、通常通り開けることができます。

エンジン<ハイブリッドシステム>を再始動するには

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、手順に従って、エンジン<ハイブリッドシステム>を始動させることができます。

1 電子キー（カードキー含む）を携帯していることを確認する

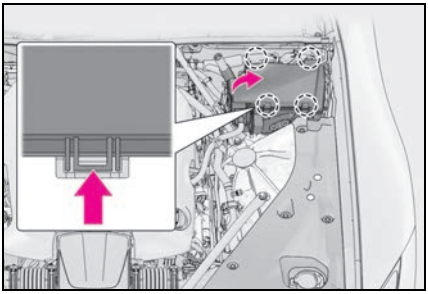
ブースターケーブル接続時、場合によっては、オートアラームが作動し自動的にドアが施錠されます。(→P.89)



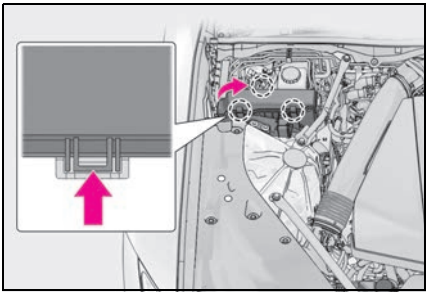
2 ボンネットを開けて(→P.342)、ヒューズボックスのカバーをはずす

ツメを押しながらカバーを持ち上げる

▶ LC500

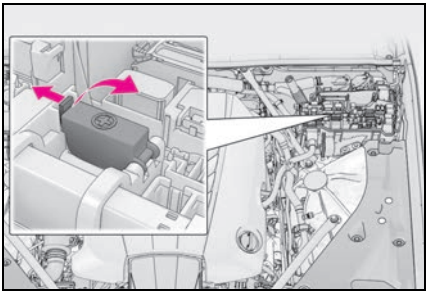


▶ LC500h

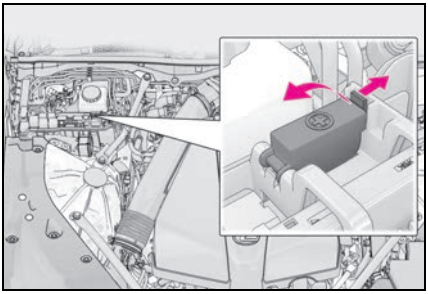


3 ヒューズボックス内の救援用端子のカバーを開ける

▶ LC500

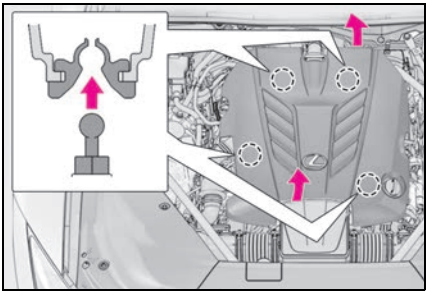


▶ LC500h

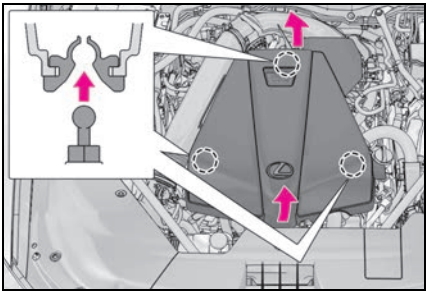


4 エンジンカバーをはずす

▶ LC500



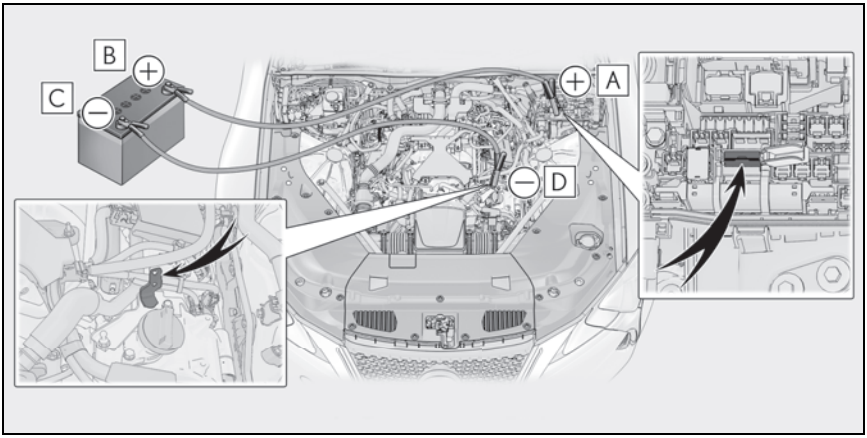
▶ LC500h



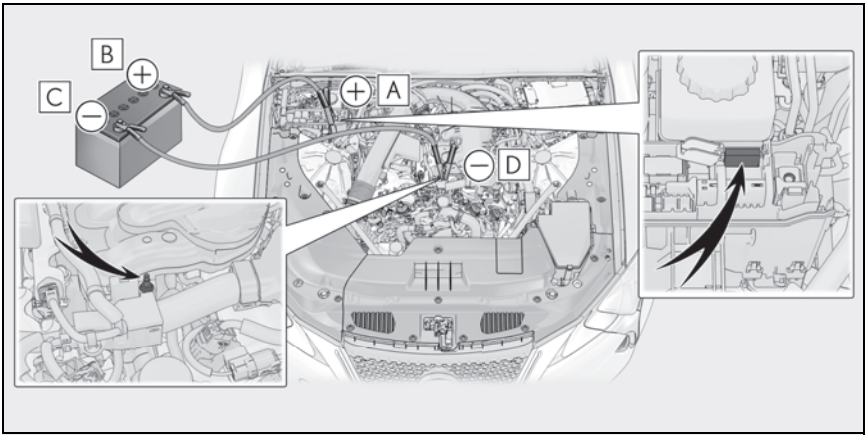
5 赤色のブースターケーブルを自車の救援用端子A につなぎ、もう一方の端を救援車の補機バッテリーの＋端子B につなぐ。その後、黒色のブースターケーブルを救援車の補機バッテリーの－端子C につなぎ、もう一方の端を、金属部D につなぐ

ブースターケーブルは、指定の端子および接続箇所に届くものを使用してください。

▶ LC500



▶ LC500h



A 救援用端子（自車）

B 補機バッテリーの＋端子（救援車）

C 補機バッテリーの－端子（救援車）

D 図に示す金属部

6 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車の補機バッテリーを充電する

7 エンジンスイッチ＜パワースイッチ＞が OFF の状態でいずれかのドアを開閉する

8 救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチ＜パワースイッチ＞をいったん ON にしてからエンジン＜ハイブリッドシステム＞を始動する

9 エンジン＜ハイブリッドシステム＞が始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

10 救援用端子カバーを閉じ、ヒューズボックスのカバーをもとどおりに取り付ける

エンジン＜ハイブリッドシステム＞が始動しても、早めにレクサス販売店で点検を受けてください。

知識

■補機バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

●エンジン＜ハイブリッドシステム＞が停止しているときは、ランプやオーディオの電源を切ってください。

●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■補機バッテリーがあがってしまったときは（コンバーチブル以外）

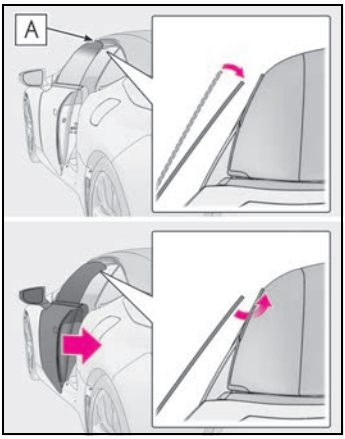
●コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリーがあ

がったときはレクサス販売店で点検を受けてください。

●初期設定が必要な機能があります。（→P.456）

■バッテリーがあがってしまったときは（コンバーチブル）

●ドア連動ドアガラス開閉機能が作動しません。ドアを閉めるときは、ドアガラスの上部 A を押しながらゆっくり閉めてください。



■補機バッテリー端子をはずすときは

補機バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリー端子をはずすときは、レクサス販売店にご相談ください。

■補機バッテリーの充電について

補機バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、補機バッテリーがあがってエンジン<ハイブリッドシステム>を始動できなくなるおそれがあります。（補機バッテリーは走行中に自動で充電されます）

■補機バッテリーあがり時や取りはずし時など

●コンバーチブル：バッテリー脱着直後は、トノカバーが半開になっている可能性があるため、一度ソフトトップルーフを全開または全閉にしてください。

●補機バッテリー脱着直後はスマートエントリー＆スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合はワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。

●補機バッテリー脱着後、最初の始動操作ではエンジン<ハイブリッドシステム>が始動できないことがありますが異常ではありません。再度始動操作を行ってください。

●車両は常に電源の状態を記憶しています。補機バッテリー脱着時、車両は補機バッテリーをはずす前の状態に復帰します。補機バッテリーを脱着する際は、エンジンスイッチ<パワースイッチ>を OFF にしてから行ってください。
補機バッテリーがあがる前の状態が不明の場合、補機バッテリー接続時は特に注意してください。

●補機バッテリーがあがった場合は、P から他のポジションに切りかえることができない可能性があります。
その場合は、後輪が固定されているため、後輪を持ち上げないと車両の移動ができません。

■補機バッテリーを交換するときは

●一括排気タイプの補機バッテリー（欧州規格）を使用してください。

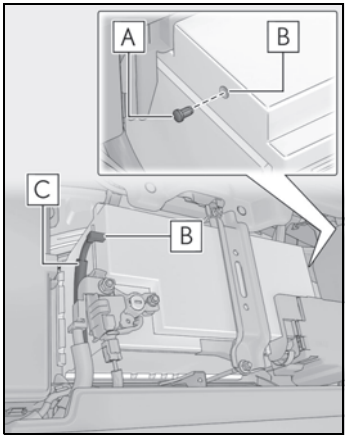
●LC500：交換前と同一のケースサイズ（LN4）、20 時間率容量（20HR）が同等（80Ah）以上、かつ性能基準値（CCA）が同等（685A）以上の補機

バッテリーを使用してください。
LC500h：交換前と同一のケースサイズ（LN3）、20 時間率容量（20HR）が同等（70Ah）以上、かつ性能基準値（CCA）が同等（600A）以上の補機バッテリーを使用してください。
・大きさが異なると、補機バッテリーが正しく固定されません。
・20 時間率容量が小さいと、車両を使用していない時期が短い期間であっても補機バッテリーがあがって、エンジン＜ハイブリッドシステム＞の始動ができなくなるおそれがあります。

●取っ手の付いている補機バッテリーを使用してください。

取っ手が付いていない補機バッテリーを使用すると、補機バッテリーを取り出しにくくなります。

●交換後は、補機バッテリーの排気穴に次のものを確実に取り付けてください。
・排気ホースは、交換前の補機バッテリーに取り付けられているものを使用してください。
・排気穴栓は、交換した補機バッテリーに付属のもの、または交換前の補機バッテリーに取り付けられているものを使用してください。（交換する補機バッテリーによっては、排気穴がふさがれたものもあります）



A 排気穴栓

B 排気穴

C 排気ホース

詳しくは、レクサス販売店にご相談ください。

警告

■補機バッテリー端子をはずすときは

必ず－端子を先にはずしてください。＋端子を先にはずすと、＋端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがあるほか、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■補機バッテリーの引火または爆発を防ぐために

補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

●ブースターケーブルは正しい端子以外に接続しない

●＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない

●ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない

●補機バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■補機バッテリーの取り扱いについて

補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

警告

- 補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などを補機バッテリーに近付けない
- 誤って補機バッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
  また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤って補機バッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- 補機バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまを補機バッテリーに近付けない

■補機バッテリーあがりの処置をしたあと

早めにレクサス販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

補機バッテリーが劣化している場合、そのまま使い続けると補機バッテリーから異臭ガスが発生し、乗員に健康障害をおよぼすおそれがあり危険です。

■補機バッテリーを交換するときは

交換後は、交換した補機バッテリーの排気穴に排気ホースと排気穴栓を確実に取り付けてください。正しく取り付けられていないと、ガス（水素）が車内に侵入したり、引火して爆発するおそれがあり危険です。

注意

■ブースターケーブルの取扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

■ブースターケーブルを接続するときは

指定の端子および接続箇所以外にブースターケーブルを接続しないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、破損につながったりするおそれがあります。

■救援用端子について

この車の救援用端子は、他の車から応急的に補機バッテリーを充電するためのものです。この救援用端子を使用して、他の車のバッテリーあがりを救援することはできません。

ソフトトップルーフが閉まらないときは（コンバーチブル）

ルーフスイッチを操作してもソフトトップルーフが閉まらないときは、すべての作動条件が満たされているかを確認してください。**（→P.160）**

作動条件が満たされているのに閉まらないときは、故障が考えられますので、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

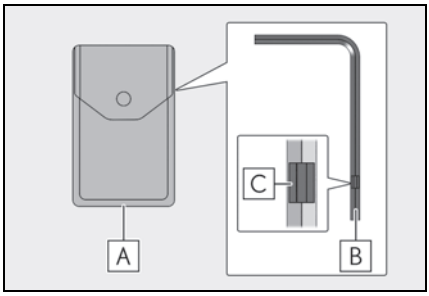
マルチインフォメーションディスプレイに“システム保護のためルーフオープン作動できません”または“システム保護のためルーフ作動できませんしばらくお待ちください”と表示されたときに、手動でソフトトップを閉めないでください。手動で閉めた場合は、次回、ルーフスイッチを操作時に正常に作動しない場合があります。

また、緊急時の対処として次の手順で手動により閉めることはできますが、専門的な知識が必要なため、作業することはおすすめしません。

ソフトトップを閉める前に

- この作業は 2 人以上必要であり、大きな力が必要な作業があります。
- 大きな力を加える作業や部品を取り外す作業を行うときに、お車に損傷を与える危険性がありますので、極力レクサス販売店にご連絡ください。
- 手の入りにくい場所での作業を行うときは、手袋などで手を保護してください。
- エンジンスイッチをOFF にして作業を行ってください。
- ソフトトップを手動で閉めるときに使用する工具が、グローブボックスに収納されています。（→P.322）

工具について



A 工具袋

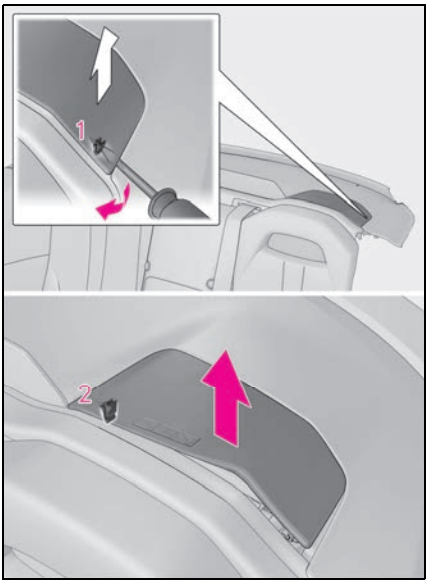
B 工具

C 溝

ソフトトップを閉めるには

1 全ウインドウ一括開閉スイッチを操作し、ドアガラスとリヤクォーターガラスを全開にする（→P.154）。操作ができない場合は、レクサス販売店にご連絡ください。

2 リヤシート左後方のカバーを取り外す

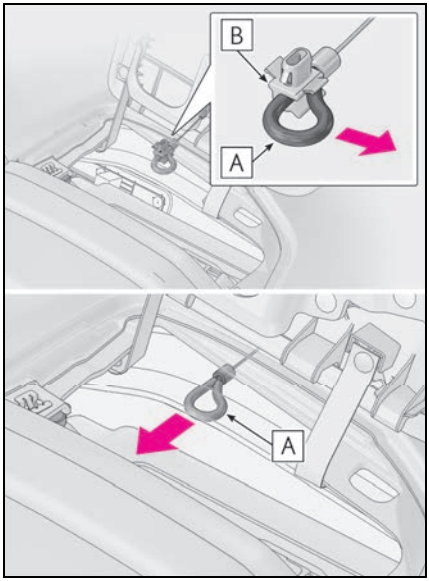


1 左側のツメをマイナスドライバーで取り外す

マイナスドライバーは、トランク内に装備されています。

2 右側のツメを取り外す

3 黄色い輪 A をクランプ B から取り外し、引っぱる

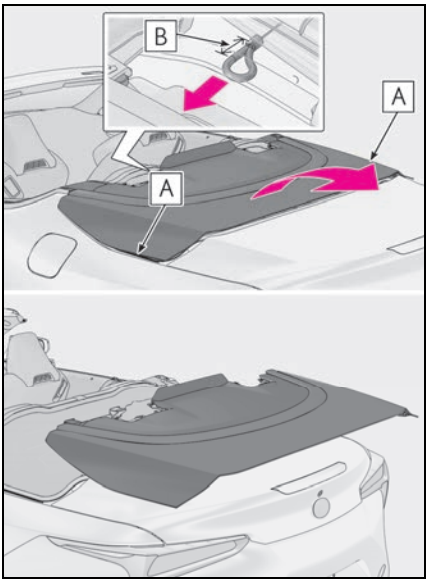


4 トノカバーのロックを解除するため、黄色い輪を引っぱりながら、マーク A の位置を持ちトノカバーを車両の後方へ左右同時に持ち上げる

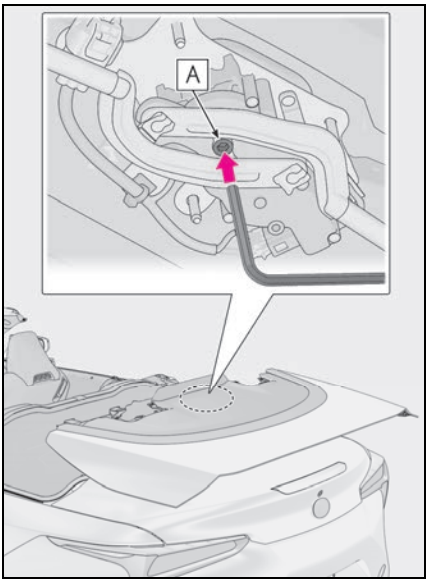
途中で手を離すと、トノカバーが閉まりカバーと車体に挟まるおそれがあります。

トノカバーが持ち上がったら、黄色い輪の赤い線から根元のあいだ B をクラン

プに取り付けてください。

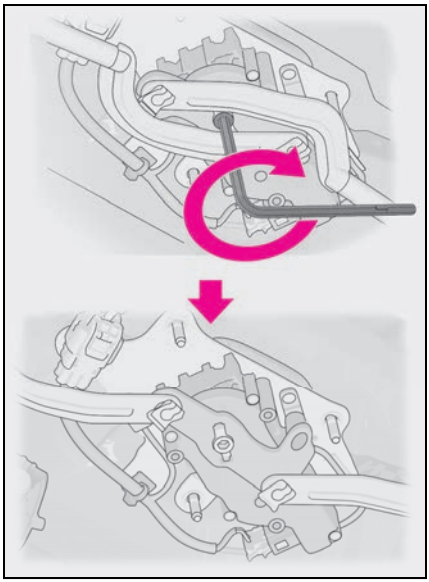


5 トノカバー裏の中央部にある穴 A に、工具を挿し込む

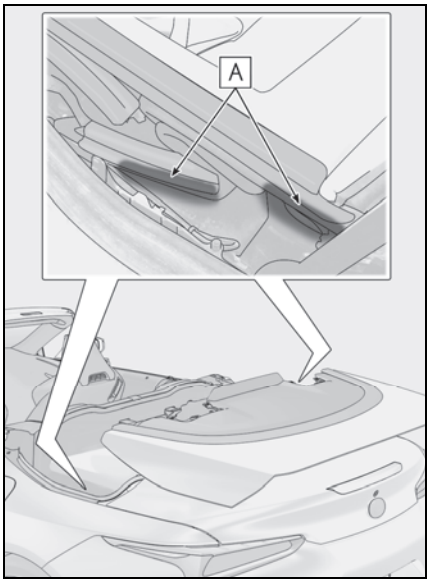


6 工具がまわらなくなるまでまわす

確実にまわしきったことを確認するため、さらに力を加えて工具を回してください。

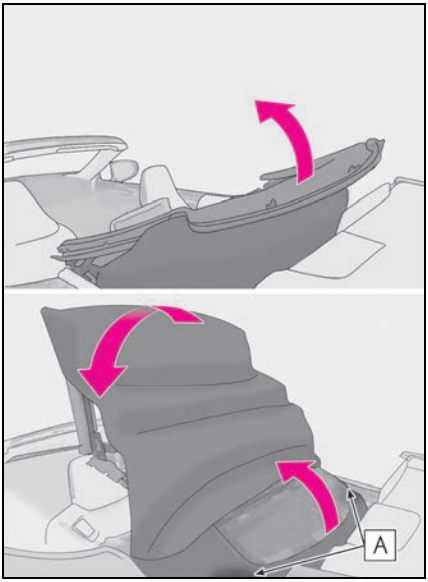


7 格納されているソフトトップのマーク A の位置を持つ

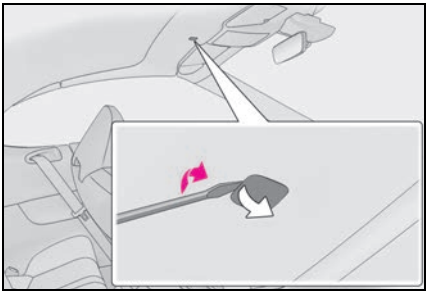


8 ソフトトップを左右同時に持ち上げ、車両の前方へ動かし閉じる

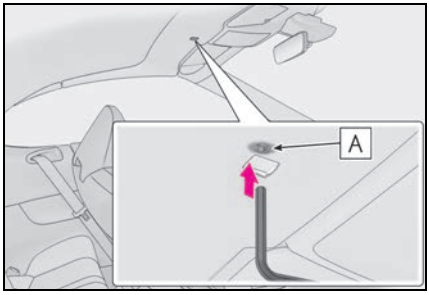
ソフトトップを図で示す位置まで持ち上げたら、リヤガラスの下側A を保持したまま、前方部を下ろしてください。



9 マイナスドライバーを使用して、ソフトトップの内側にあるフタを取りはずす



10 穴A に工具を挿し込む

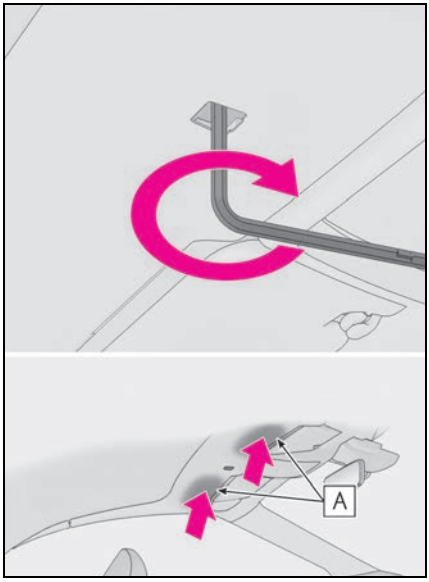


11 工具がまわらなくなるまでまわす

ソフトトップの前方側がロックされます。

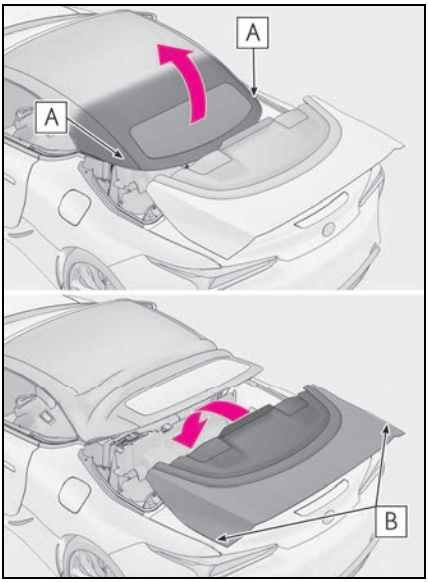
ソフトトップの車両前方側の内側A を押し、確実にロックされソフトトップが浮き上がらないかを確認してください。

確実にロックされていないと、走行中に風圧で開くおそれがあります。



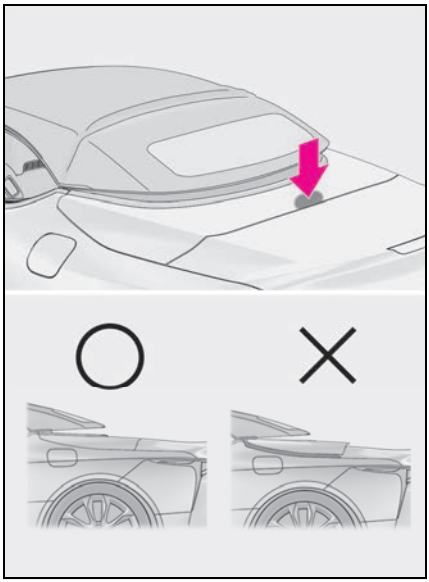
12 リヤガラスの下側のマークA の位置を持ち上げ保持したまま、マークB の位置を持ちトノカバーを車両の前方へ動かし閉じる

トノカバーを閉じるときは、トノカバーと車両に手や指を挟まないように注意してください。

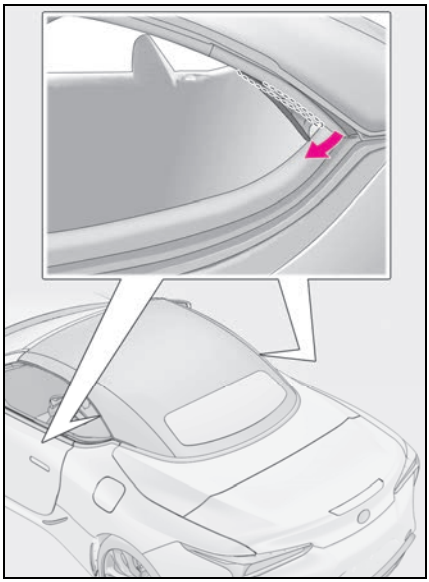


13 リヤガラスを下ろしトノカバーの車両後方側の中心を押す

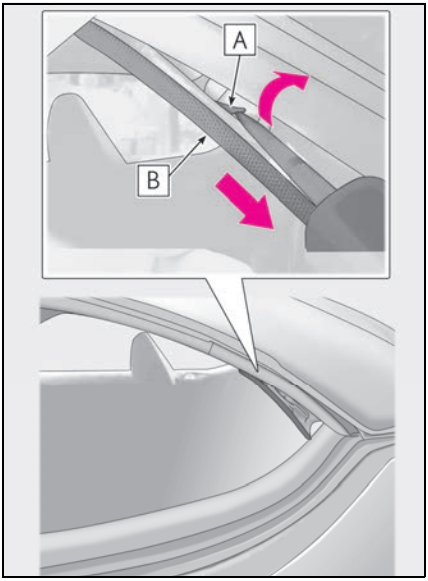
トノカバーとトランク部に段差がなく、トノカバーが完全に閉まっていることを確認してください。



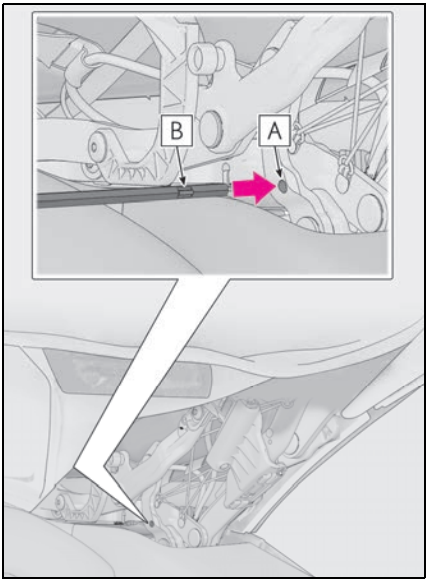
14 ソフトトップの内側をめくる



15 マイナスドライバーを使用しツメ A を持ち上げ、マーク B 部を車両後方へ引っ張る



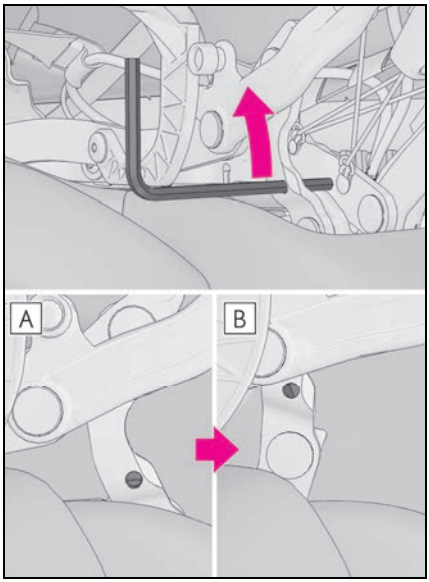
16 穴 A に、工具の溝 B がある側を止まるまで挿し込む



17 工具を車両斜め後方の方向へ動かなくなるまで押す

動かすには大きな力が必要です。

図の A →B になるまで押してください。



18 エンジンを ON にし、マルチインフォメーションディスプレイに“ルーフ作動が完了していません”が表示されていないことを確認してください。

表示されている場合は、手順 **6**、手順 **11**、手順 **17** の作業が完了しているか確認してください。

19 手順 **2**、手順 **9**、手順 **15** ではずした部分を取り付ける

手順 **2** ではずした部品は、再使用することができないため、レクサス販売店で交換してください。

知識

■手動操作でとりはずした部品について

作業中にはずした部品は、紛失しないよ

うに保管し、車両とともにレクサス販売店に持ち込んでください。

警告

■手動でソフトトップルーフを閉めるときは

以下のことをお守りください。

- 安全で平らな場所に車をとめてください。
- パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトポジションを P にしてください。
- 車内に人がいるときは作業を行わないでください。
- 風が強いときは、作業を行わないでください。
- エンジンスイッチを OFF にして作業を行ってください。
- 可動部に手を挟まないよう注意してください。
- 作業の中には、素手で行うとけがをするおそれがある作業があります。手袋や布などで手を保護して行ってください。

オーバーヒートしたときは（LC500）

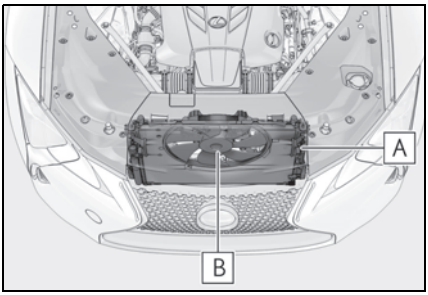
次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 水温計（→P.100）の表示がレッドゾーンに入ったり、エンジン出力が低下する（スピードが出ないなど）
- マルチインフォメーションディスプレイに “エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください” が表示される
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

1. 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、エンジンを停止する
2. 蒸気が出ている場合：
   蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける
   蒸気が出ていない場合：
   注意してボンネットを開ける
3. エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）や

ホースなどからの冷却水もれを点検する

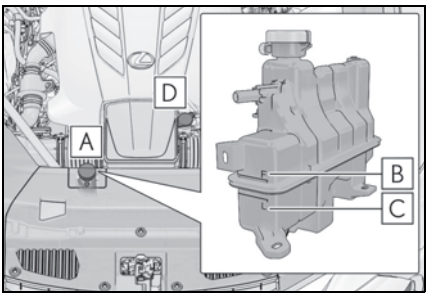


A ラジエーター

B ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにレクサス販売店に連絡してください。

4 冷却水の量がリザーバータンクの“F”（上限）と“L”（下限）のあいだにあるかを点検する



A リザーバータンク

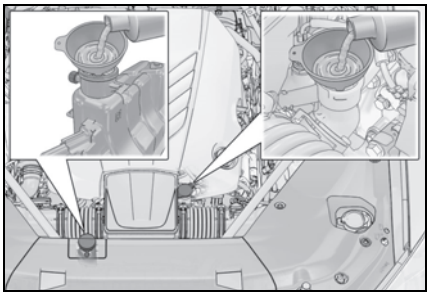
B “F”（上限）

C “L”（下限）

D 冷却水注入口のキャップ

5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



6 エンジンを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

エンジンが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

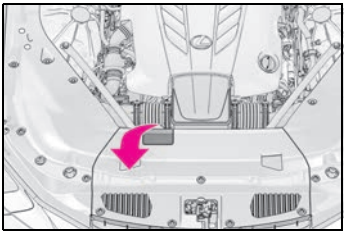
7 ファンが作動していない場合：
すぐにエンジンを停止し、レクサス販売店に連絡する
ファンが作動している場合：
最寄りのレクサス販売店で点検を受ける

知識

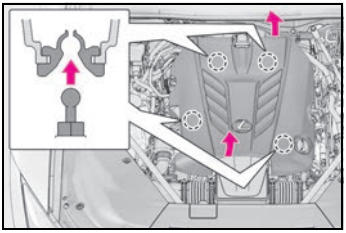
■冷却水を補給するとき

次の手順で冷却水を注入してください。

1 サービスカバーをはずす



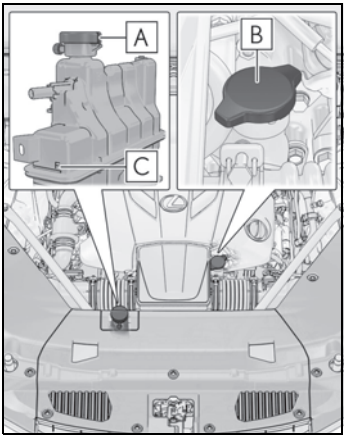
2 エンジンカバーをはずす



3 キャップ A と B を開ける

4 キャップ A の注入口から “F” （上限）ライン C まで冷却水を注入し、キャップ A を取り付ける

5 キャップ B の注入口が満水になるまで冷却水を注入し、キャップ B を取り付ける



警告

■エンジンルームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。
- 手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- エンジンおよびラジエーターが熱い場合は冷却水注入口のキャップや冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。

注意

■冷却水を入れるとき

エンジンが十分に冷えてからゆっくり入れてください。
エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

■冷却系統の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 冷却水用添加剤を使用しない

オーバーヒートしたときは（LC500h）

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 水温計（→P.100）の表示がレッドゾーンに入ったり、ハイブリッドシステムの出力が低下する（スピードが出ないなど）
- マルチインフォメーションディスプレイに“エンジン冷却水高温　安全な場所に停車して取扱書を確認してください”または“ハイブリッドシステム高温出力制限中です”が表示される
- エンジンルームから蒸気が出る

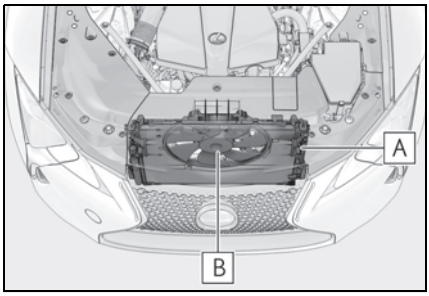
対処方法

▶ 水温計の表示がレッドゾーンに入ったり、マルチインフォメーションディスプレイに“エンジン冷却水高温　安全な場所に停車して取扱書を確認してください”が表示されたとき

1 安全な場所に停車し、エアコンをOFFにしてから、ハイブリッドシステムを停止する

2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける
蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける

3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

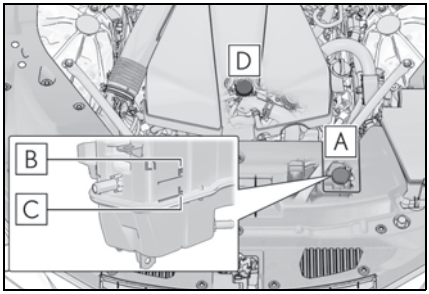


A ラジエーター

B ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにレクサス販売店に連絡してください。

4 冷却水の量がリザーバータンクの“F”（上限）と“L”（下限）のあいだにあるかを点検する



A リザーバータンク

B “F”（上限）

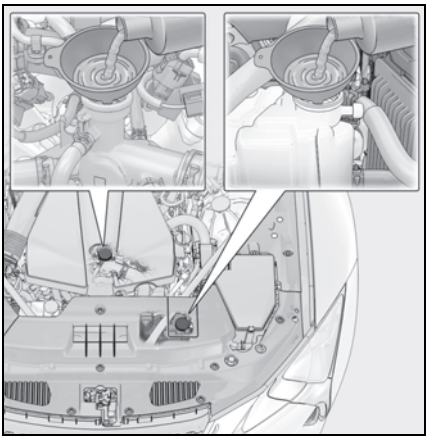
C “L”（下限）

D 冷却水注入口のキャップ

5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水

を補給してください。



6 ハイブリッドシステムを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

ハイブリッドシステムが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。
（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

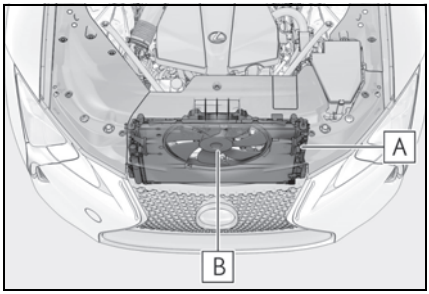
7 ファンが作動していない場合：
すぐにハイブリッドシステムを停止し、レクサス販売店に連絡する
ファンが作動している場合：
最寄りのレクサス販売店で点検を受ける

▶ マルチインフォメーションディスプレイに “ハイブリッドシステム高温出力制限中です” が表示されたとき

1 安全な場所に停車する

2 ハイブリッドシステムを停止し、注意してボンネットを開ける

3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

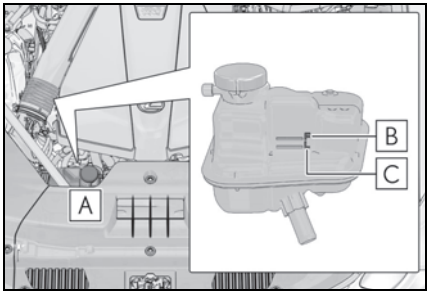


A ラジエーター

B ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにレクサス販売店に連絡してください。

4 冷却水の量がリザーバータンクの“F”/“FULL”（上限）と“L”/“LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する



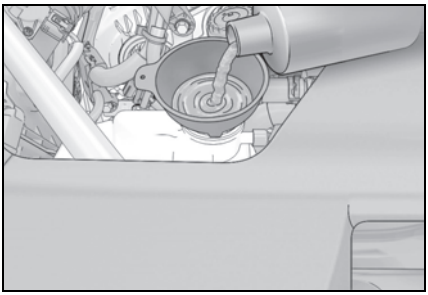
A リザーバータンク

B “F”/“FULL”（上限）

C “L”/“LOW”（下限）

5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



6 ハイブリッドシステムを停止してから５分以上経過したあとで、ハイブリッドシステムを始動し、マルチインフォメーションディスプレイを確認する

表示が消えない場合：
ハイブリッドシステムを停止して
レクサス販売店に連絡する

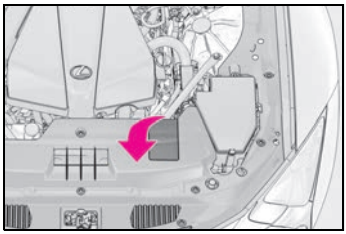
表示が消えている場合：
ハイブリッドシステムの温度が低下したため、通常走行が可能です。ただし、そのあともひんぱんに表示される場合は、レクサス販売店に連絡してください。

知識

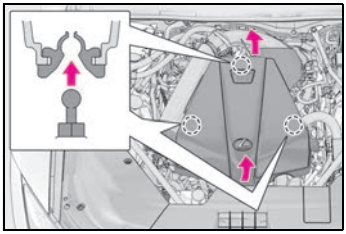
■冷却水を補給するとき

次の手順で冷却水を注入してください。

1 サービスカバーをはずす



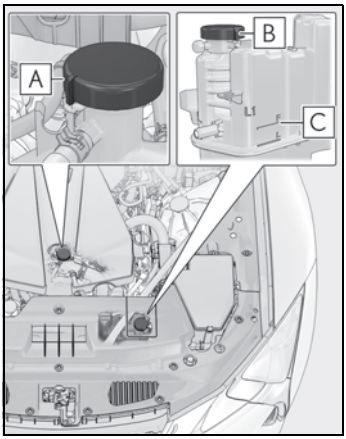
2 エンジンカバーをはずす



3 キャップ A と B を開ける

4 キャップ B の注入口から “F”（上限）ライン C まで冷却水を注入し、キャップ B を取り付ける

5 キャップ A の注入口が満水になるまで冷却水を注入し、キャップ A を取り付ける



警告

■エンジンルームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

●エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。

警告

- ハイブリッドシステムの停止後は、パワースイッチ上のインジケーターと READY インジケーターが消灯していることを確認してください。ハイブリッドシステムが作動していると、ガソリンエンジンが自動的に動き出したり、ガソリンエンジンが停止していても、冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ベルトやファンなどの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や衣服・工具などが巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハイブリッドシステムおよびラジエーター・冷却水リザーバータンクが熱いうちは冷却水注入口のキャップや冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。高温の蒸気や冷却水が噴き出すおそれがあります。

注意

■冷却水を入れるとき

ハイブリッドシステムが十分に冷えてからゆっくり入れてください。
ハイブリッドシステムが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、ハイブリッドシステムが損傷するおそれがあります。

■冷却系統の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 市販の冷却水用添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法を試みてください。

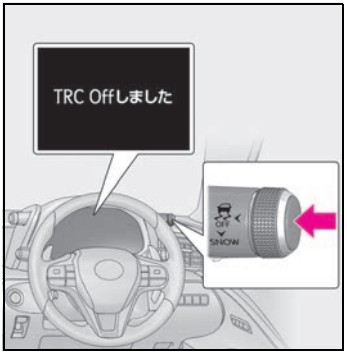
脱出するには

1. パーキングブレーキをかけシフトポジションを P にして、エンジン<ハイブリッドシステム>を停止する
2. 後輪周辺の土や雪などを取り除く
3. 後輪の下に木や石などをあてがう
4. エンジン<ハイブリッドシステム>を再始動する
5. シフトポジションを確実に D または R にし、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

知識

■脱出しにくいとき

OFF SNOW スイッチを押して TRC を OFF にしてください。



警告

■脱出するとき

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

●後輪が空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。

●上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報 8

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）..... 440

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能 446

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目 456

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。

お車には、最も適した弊社純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量［L］（参考値）
・無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク） ・バイオ混合ガソリン（プレミアム）※	82

※ エタノールの混合率 10% 以下、または ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7% 以下）を使用することができます。

エンジンオイル

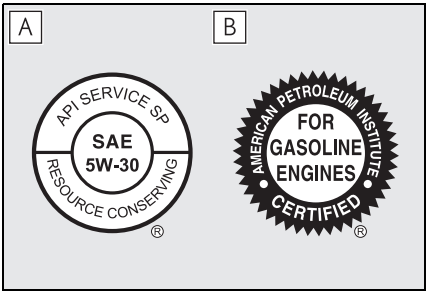
▶ LC500

指定銘柄	容量［L］（参考値※）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
推奨： 弊社純正モーターオイル SP 5W-30 — API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 5W-30	7.9 L	8.6 L

※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SP/RC、SN PLUS/RC、SN/RC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。
5W-30 は、新車時に工場充填されている推奨オイルです。
なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークが付いています。

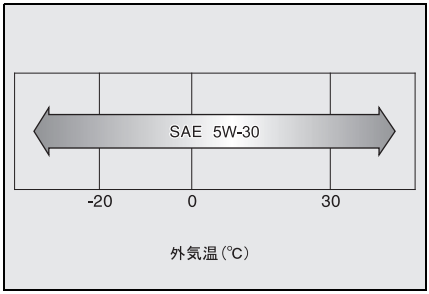


A API マーク

B ILSAC CERTIFICATION マーク

■ **エンジンオイル推奨粘度**

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



オイル粘度について（例として 5W-30 で説明します）：

- 5W-30 の 5W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 5W-30 の 30 は、高温時の粘度特性を示しています。
  粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または高負荷走行に適しています。

▶ LC500h

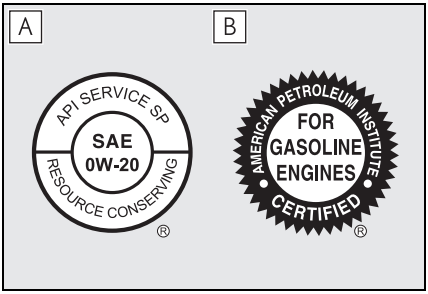
指定銘柄	容量［L］（参考値※）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
推奨： 弊社純正モーターオイル SP 0W-20 — API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 0W-20 適合： 弊社純正モーターオイル SP 5W-30 — API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 5W-30	5.5 L	5.7 L

※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンの暖機後にハイブリッドシステムを停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

■ **指定エンジンオイル**

API 規格 SP/RC、SN PLUS/RC、SN/RC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。
0W-20 は、新車時に工場充填されている推奨オイルであり、優れた省燃費性能を発揮できます。0W-20

が入手困難な場合は、5W-30 もご使用いただけます。
なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークが付いています。

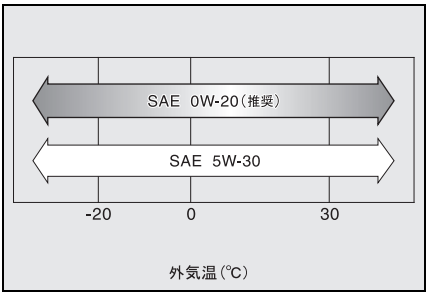


A API マーク

B ILSAC CERTIFICATION マーク

■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

- 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。
  粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または高負荷走行に適しています。

知識

■エンジンオイルの消費について

エンジンオイルは運転中に少なからず消費されます。次のような場合にはオイル消費が多くなり、次回オイル交換時期までに補充が必要になることがあります。

- 車両購入直後やエンジン交換直後などで、エンジンが新しい場合
- オイルの品質が悪い、またはオイルの粘度が不適切な場合
- 高回転・高負荷での運転、または加減速が多い運転の場合
- アイドリング運転が極端に長い、または渋滞走行が多い場合

ラジエーター

指定銘柄	車種	容量［L］（参考値）	
		ガソリンエンジン	パワーコントロールユニット
弊社純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30%　－ 12°C 濃度 50%　－ 35°C	LC500	12.1	—
	LC500h	10.9	2.3

トランスミッション

指定銘柄	車種	容量［L］（参考値※）
弊社純正オートフルード WS	LC500	▶空冷式フルードクーラー非装着車 8.8 ▶空冷式フルードクーラー装着車 9.0
	LC500h	6.8

※ 交換が必要な際はレクサス販売店にご相談ください

注意

■トランスミッションフルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

ディファレンシャル

オイルタイプ・推奨粘度	車種	容量［L］（参考値）
弊社純正ディファレンシャルギヤオイル LT (API GL-5, SAE 75W-85)	LSD 非装着車	0.85
弊社純正ディファレンシャルギヤオイル LX (API GL-5 SAE 75W-85)	LSD 装着車	0.85

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
弊社純正ブレーキフルード BF-5

■ ブレーキペダル ※1

項目	基準値［mm］
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間 ※2	132

※1ブレーキペダルの点検に併せて、エンジン回転時に＜ハイブリッドシステムが作動している状態のとき＞、ブレーキ警告灯（赤色）が点灯していないことも必ず確認してください。
（警告灯が点灯した場合の対処については、P.383 を参照してください）

※2エンジン回転時に＜ハイブリッドシステムが作動している状態で＞ 500N（51kgf）の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ ブレーキパッド

項目	使用限度値 [mm]
ブレーキパッドの厚み	1

■ パーキングブレーキ

項目	パーキングブレーキ表示灯の状態
パーキングブレーキスイッチを 1 秒以上 4 秒以内で押したとき	点灯
パーキングブレーキスイッチを 1 秒以上 4 秒以内で引いたとき	消灯

このとき、ブレーキ警告灯（黄色）が点灯していないことを確認してください。
（警告灯が点灯した場合の対処については、P.386 を参照してください）

ウォッシャータンク

容量［L］（参考値）
3.0

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm^2）	
		前輪	後輪
245/40RF21 96Y 245/40R21 96Y	21 × 8 1/2J	230（2.3）	—
275/35RF21 99Y 275/35R21 99Y	21 × 9 1/2J	—	230（2.3）

電球（バルブ）※

電球		W（ワット）数
車外	リヤフォグランプ★	21
車内	バニティランプ	2

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 表に記載のないランプは LED を採用しています。

車両仕様

名称	型式	エンジン	電動機型式	駆動方式
LC500	URZ100	2UR-GSE（5.0L ガソリン）	—	FR（後輪駆動）
LC500h	GWZ100	8GR-FXS（3.5L ガソリン）	2NM	FR（後輪駆動）

ユーザーカスタマイズ機能

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてレクサス販売店で作動内容を変更することができます。また、センターディスプレイ・マルチインフォメーションディスプレイの操作により、設定を変更することができる機能もあります。

設定を変更するには

■ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

1 メーター操作スイッチの < または > を押して ⚙ を選択する

2 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して変更する項目を選択し、“OK” を押す

3 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して設定したい項目を選択し、“OK” を押す

前の画面にもどったり、設定を終了したりする場合は、↩ スイッチを押します。

■ センターディスプレイで設定するには

1 メインメニューの ⚙ を選択する

2 サブメニューの “車両カスタマイズ” を選択する

作動・非作動を変更できる機能では、(作動)・(非作動) を選択します。

音量や照度などを変更できる機能では、バー上のアイコンをスライドしてレベルを調整します。

知識

■センターディスプレイでカスタマイズ設定を行うとき

安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしてください。また、バッテリーあがり<補機バッテリーあがり>を防ぐため、エンジンがかかっている<ハイブリッドシステムが作動している>状態で操作を行ってください。

警告

■センターディスプレイでカスタマイズ設定を行うとき

エンジンがかかった状態<ハイブリッドシステムが作動している状態>で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

車両カスタマイズ設定一覧

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはレクサス販売店へお問い合わせください。

A センターディスプレイの画面操作で設定変更可能

B マルチインフォメーションディスプレイで設定変更可能

C レクサス販売店で設定変更可能

■ メーター、マルチインフォメーションディスプレイ（→P.94, 100, 104）

機能の内容 ※1	初期設定	変更後	A	B	C
言語	日本語	英語	—	○	—
単位	km/L	L/100km	○	○	—
エコドライブインジケーター ※2	なし	あり（自動点灯）	—	○	—
EV インジケーター ※3	あり（自動点灯）	なし	—	○	—
ドライブインフォ 1	瞬間燃費 リセット間平均燃費	※4	—	○	—
ドライブインフォ 2	航続可能距離 リセット間平均車速	※4	—	○	—
割り込み表示	あり	なし	—	○	—
リング位置の記憶	なし	あり	—	○	—
REV インジケーター	なし	あり	—	○	—
REV インジケーター回転数設定	5000r/min※2 4000r/min※3	2000-7300 r/min※2 2000-6600 r/min※3	—	○	—
REV ピーク	なし	あり	—	○	—
提案サービス	あり	あり（停車中のみ） なし	○	—	○

※1 機能についての詳しい説明は P.100, 108 を参照してください

※2LC500

※3LC500h

※4瞬間燃費、リセット間平均燃費、始動後平均燃費、給油後平均燃費、リセット間平均車速、始動後平均車速、リセット間走行時間、始動後走行時間、航続可能距離、始動後走行距離、ブランクから 2 項目を選択

■ ヘッドアップディスプレイ★（→P.111）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
タコメーター切替え	タコメーター	エコドライブインジケーター ※1	—	○	—
		ハイブリッドシステムインジケーター ※2			
		ブランク画面			
ルート案内表示	あり	なし	—	○	—
レーン表示	あり	なし	—	○	—
運転支援表示	あり	なし	—	○	—
オーディオ表示	あり	なし	—	○	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1LC500

※2LC500h

■ LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.235）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
車線維持支援機能（センタートレース）	あり／なし	—	○	—
警報感度	普通／高	—	○	—
ふらつき検知機能	あり／なし	—	○	—
ふらつき検知機能の感度調節	低／普通／高	—	○	—

■ PCS（プリクラッシュセーフティ）（→P.225）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
PCS（プリクラッシュセーフティ）機能 ※	あり／なし	—	○	—
警報タイミング	早い／中間／遅い	—	○	—

※ エンジンスイッチ<パワースイッチ>を ON にすると設定を「なし」にしても「あり」に戻ります。

■ RSA（ロードサインアシスト）（→P.244）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
RSA（ロードサインアシスト）機能	あり／なし	—	○	—
制限速度超過告知	告知表示のみ／告知表示とブザー／なし	—	○	—
制限速度超過の告知車速	2km/h ／ 5km/h ／ 10km/h	—	○	—
追い越し禁止告知	告知表示のみ／告知表示とブザー／なし	—	○	—
その他の告知（進入禁止告知）	告知表示のみ／告知表示とブザー／なし	—	○	—

■ レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）（→P.247）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
カーブ速度抑制機能の車速抑制	強／弱／なし	—	○	—
通信利用型レーダークルーズコントロール機能	あり／なし	—	○	—

■ 先行車発進告知機能（→P.258）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
先行車発進告知機能	あり／なし	—	○	—
告知タイミング	早い／普通／遅い	—	○	—

■ ITS CONNECT（→P.265）

機能の内容 ※	初期設定	変更後	A	B	C
信号情報の表示	あり	なし	—	○	—
道路環境情報の表示	あり	なし	—	○	—
緊急車両存在通知	あり	なし	—	○	—
支援タイミング	早い	遅い	—	○	—

※ 機能についての詳しい説明は P.270 を参照してください

■ BSM（ブラインドスポットモニター）（→P.279）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
BSM（ブラインドスポットモニター）機能	あり	なし	—	○	—
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能	あり	なし	—	○	—
ドアミラーインジケーターの明るさ	明るい	暗い	—	○	—
接近車両を知らせるタイミング（感度）★	（中間）	（早い）	—	○	—
		（遅い）			
		（死角領域のみ）			
RCTA ブザー音量（RCTA 機能のみ）	レベル 2（中）	レベル 1（小）	—	○	—
		レベル 3（大）			

★ : BSM 機能のみ

■ アクティブリヤウィング★（→P.289）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
アクティブリヤウィングの作動	なし	あり	—	○	○

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ドアロック（→P.126, 130, 413）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
メカニカルキーによる解錠	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠	—	—	○
車速感応オートドアロック	あり	なし	○	—	○
シフトポジションを P 以外にしたときの全ドア施錠（シフト操作連動ドアロック）	なし	あり	○	—	○

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
シフトポジションを P にしたときの全ドア解錠（シフト操作連動アンロック）	あり	なし	○	—	○
運転席ドアを開けたときの全ドア解錠（運転席ドア開連動アンロック）	なし	あり	○	—	○
全ドア解錠したときトランク解錠、全ドア施錠したときトランク施錠（ドアロック連動トランク）	あり	なし	—	—	○
ドアロックインジケーターの消灯までの時間	30 秒	1 分	—	—	○
		10 分			
		20 分			

■ スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレスドアロック共通（→P.124, 134）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
作動の合図（ブザー音量調整）	レベル 5	OFF	○	—	○
		レベル 1 ～ 7			
作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし	○	—	○
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒	—	—	○
		120 秒			
半ドア警告ブザー	あり	なし	—	—	○

■ スマートエントリー＆スタートシステム（→P.134）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
スマートエントリー＆スタートシステム	あり	なし	○	—	○
解錠されるドアの選択	全席解錠	運転席のみ解錠	○	—	○
連続ロック操作の有効回数	2 回	無制限	—	—	○

■ ワイヤレスドアロック（→P.124）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ワイヤレス機能	あり	なし	—	—	○
解錠時の操作	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠	○	—	○
トランク解錠時の操作	1 回押し続ける（短）	1 回押し	—	—	○
		2 回押し			
		1 回押し続ける（長）			
		非作動			

■ パワーイージーアクセスシステム（→P.143）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
降車時の運転席シート前後移動量	標準	OFF	○	—	○
		少なめ			
ハンドルの作動	上下のみ	前後のみ	○	—	○
		全て作動			
		なし			

■ メモリーコール機能（→P.143）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
連動するドアの選択	運転席ドア	全ドア	—	—	○

■ ドアミラー（→P.151）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
オート電動格納作動	ドアの施錠・解錠と連動	OFF	—	—	○
		エンジンスイッチ<パワースイッチ>と連動			

■ パワーウインドウ（→P.154）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
メカニカルキー連動開閉機能	なし	あり	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉機能	なし	あり	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉作動の合図（ブザー）	あり	なし	—	—	○

■ ランプ自動点灯・消灯システム（→P.206）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ライトセンサーの感度調整	より暗い	より明るい	○	—	○
		明るい			
		標準			
		暗い			
ランプ消し忘れ防止機能	運転席ドアと連動	エンジンスイッチ＜パワースイッチ＞と連動	—	—	○
ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能	あり	なし	—	—	○

■ ランプ（→P.206）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
LED デイライト	あり	なし	—	—	○
おもてなし照明の制御	あり	なし	—	—	○

■ エアコン（→P.309）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる	する	しない	○	—	○
AUTO スイッチを ON にしたとき、A/C（エアコン）スイッチが連動して ON になる	する	しない	○	—	○
排ガスセンサー感度調節	標準	－３～３	○	—	○

■ シートヒーター／シートベンチレーター（→P.316）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
運転席シートヒーター＆ベンチレーター AUTO モード時の温度または風量調整	標準	-2（涼しめ）～＋2（暖かめ）	○	—	○
助手席シートヒーター＆ベンチレーター AUTO モード時の温度または風量調整	標準	-2（涼しめ）～＋2（暖かめ）	○	—	○

■ ステアリングヒーター（→P.316）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ステアリングヒーター AUTO モード時の温度調整	標準	-2（低め）～＋2（高め）	○	—	○

■ イルミネーション（→P.319）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
室内灯の消灯までの時間	15 秒	OFF	○	—	○
		7.5 秒			
		30 秒			
エンジン＜パワー＞スイッチ OFF 後の照明の点灯	あり	なし	—	—	○
解錠時の照明の点灯	あり	なし	—	—	○
接近時の照明の点灯	あり	なし	—	—	○
車室内足元照明の点灯	あり	なし	—	—	○
ドアトリムオーナメント照明の点灯	あり	なし	—	—	○

■ オートアラーム（→P.88）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
メカニカルキーを使って解錠したときのアラーム解除	なし	あり	—	—	○

■ 雨滴感知式ワイパー（→P.213）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ワイパースイッチを AUTO にしたときの作動	雨滴感知	車速連動間欠作動（間欠時間調節式）	—	—	○

■ クリアランスソナー（→P.273）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
クリアランスソナー機能	ON	OFF	—	○	—
ブザー音量	レベル 2	レベル 1	—	○	○
		レベル 3			

■ ドライブモードセレクトスイッチ（→P.271）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
パワートレーン制御	Normal	Power	○	—	—
		Eco			
シャシー制御	Normal	Sport	○	—	—
		Comfort			
エアコン制御	Normal	Eco	○	—	—

知識

■車両カスタマイズについて

● “車速感応オートドアロック” と “シフトポジションを P 以外にしたときの全ドア施錠（シフト操作連動ドアロック）” を両方とも “あり” にした場合、次のように作動します。
・シフトポジションを P 以外にすると全ドアが施錠されます。
・全ドアが施錠された状態で発進した場合、車速感応式自動ドアロックは作動しません。
・発進前にいずれかのドアロックを解錠してから発進した場合は、車速感応オートドアロックが作動します。

● “スマートエントリー＆スタートシステム” の設定が “なし” の場合、“解錠されるドアの選択” の設定はできません。

●解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠が作動したときの合図は、“作動の合図（非常点滅灯）”・“作動の合図音量（ブザー音量調整）” の設定に依存します。

●センターディスプレイ以外でもスイッチ操作などでカスタマイズ設定ができる項目があります。スイッチ操作で設定を変更した場合、エンジンスイッチ＜パワースイッチ＞を OFF にし、再度エンジンスイッチ＜パワースイッチ＞を ON にするまでセンターディスプレイには反映されません。

初期設定が必要な項目

次の項目は補機バッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。

初期設定が必要な項目

項目	初期設定が必要なとき	参照先
タイヤ空気圧警報システム	・タイヤローテーションを実施したとき ・タイヤサイズの変更などにより、タイヤの指定空気圧が変更になったとき（指定空気圧が複数ある場合） ・ID コードの登録を実施したとき	P.350
パワーウインドウ	・正常に動かないとき	P.155
バックガイドモニター	・補機バッテリーの脱着中にハンドル操作を行ったとき ・補機バッテリーの電圧が低下したとき	※

※ 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）
…… 458
車から音が鳴ったときは（音さくいん）…… 460
アルファベット順さくいん …. 462
五十音順さくいん …… 464

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、レクサス販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない

キーをなくした

- メカニカルキーをなくした場合、レクサス販売店でレクサス純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→P.411）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにレクサス販売店にご相談ください。（→P.411）

施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→P.364）
- エンジンスイッチ＜パワースイッチ＞が ON になっていませんか？
  施錠するときは、エンジンスイッチ＜パワースイッチ＞を OFF にしてください。（→P.180, 184）
- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？
  施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。（→P.137）

誤ってトランク内にキーを閉じ込めた

- キー閉じ込み防止機能が働き、通常通りトランクを開けることができます。キーを取り出してください。（→P.132）

故障かな？と思ったら

エンジン＜ハイブリッドシステム＞がかからない

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらエンジンスイッチ＜パワースイッチ＞を押していますか？（→P.178, 181）
- シフトポジションは P になっていますか？（→P.187, 194）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→P.135）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
  このときは、一時的な方法でエンジンをかける＜ハイブリッドシステムを始動する＞ことができます。（→P.410）
- 補機バッテリーがあがっていませんか？（→P.416）

パワーウインドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない（コンバーチブル以外）

- ウインドウロックスイッチが押されていませんか？
  ウインドウロックスイッチが押されていると、助手席のパワーウイ

ンドウは操作できなくなります。（→P.158）

パワーウインドウスイッチや全ウインドウ一括開閉スイッチを操作してもドアガラスやリヤクォーターガラスが開閉しない（コンバーチブル）

● ウインドウロックスイッチが押されていませんか？

ウインドウロックスイッチが押されていると、運転席のドアガラス以外は操作できなくなります。（→P.158）

エンジンスイッチ＜パワースイッチ＞が自動的に OFF になった

● 一定時間 ACC または ON（エンジンがかかっていない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→P.180, 184）

警告音・アラーム・ホーンが鳴りだした

● 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→P.460）をご確認ください。

警告灯や警告メッセージが表示されたとき

● 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P.383、391 をご確認ください。

トラブルが発生した

タイヤがパンクした

● なるべく速度を落として慎重に運転し、最寄りのレクサス販売店でタイヤを交換してください。（→P.398）

立ち往生した

● ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→P.436）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
解錠したとき	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した ※	P.88
ドアを開閉したとき	シフトポジションがP以外になっている	P.393
	窓が開いている（エンジン停止中のみ）	P.156
	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した ※	P.88
トランクを閉めたとき	電子キーをトランク内に置き忘れている	P.133
エンジンを停止したとき（LC500）	電子キーの電池残量が少なくなっている	P.122
ハイブリッドシステムを停止したとき（LC500h）	電子キーの電池残量が少なくなっている	P.122
施錠しようとしたとき（施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P.127
	電子キーを車内に置き忘れている	P.135

※ ドアまたはトランクを解錠するか、エンジンスイッチ＜パワースイッチ＞をACCまたはONにするか、エンジン＜ハイブリッドシステム＞を始動すると、警報を解除することができます。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドア・トランク・ボンネットが確実に閉まっていない	P.129
	パーキングブレーキが解除されていない	P.383
	シートベルトを着用していない ※	P.387
	ソフトトップルーフの開閉作業が完了していない。（コンバーチブル）	P.161
シフトダウンしたとき	シフトダウン制限をこえて操作した	P.193，200
先行車に接近したとき	レーダークルーズコントロールを使用している	P.252
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティ）が作動した	P.225
車線から逸脱しそうになったとき	LTA（レーントレーシングアシスト）を使用している	P.238
制限速度より一定の速度を超過したとき	RSA（ロードサインアシスト）が作動した	P.244

状況	原因	詳細
障害物との距離が近付いたとき	クリアランスソナーが作動した	P.273
無操作運転が継続されたとき	ドライバー異常時対応システムが作動した	P.260
後退時に左右からの車を検知したとき	RCTA（リヤクロストラフィックアラート）が作動した	P.286
対向車や右折先の歩行者がいるときに右折しようとしたとき	ITS Connect が作動した	P.265
左右から交差点に進入する車がいるときに発進しようとしたとき		
赤信号の交差点に進入しそうになったとき		
緊急車両（救急車）がサイレンを鳴らして近辺を走行しているとき		

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

アルファベット順さくいん

A/C
（エアコン）..... 309
ABS
（アンチロックブレーキシステム）
..... 296, 384
ACA
（アクティブコーナリングアシスト）
..... 296
ACC
（アクセサリーモード）.. 180, 184
AHB
（オートマチックハイビーム）.. 209
AI-AVS
（アーティフィカルインテリジェンスアダプティブバリアブルサスペンションシステム）..... 296, 300
AI-SHIFT
（アーティフィカルインテリジェンスシフト）..... 188, 194
AVS
（アダプティブバリアブルサスペンションシステム）..... 296
BSM
（ブラインドスポットモニター）279
DRS
（ダイナミックリヤステアリング）
..... 296
ECU
（エレクトロニックコントロールユニット）..... 52
EDR
（イベントデータレコーダー）..... 7
EPS
（エレクトリックパワーステアリング）..... 296, 384
EV ドライブモード 185
FR
（フロントエンジンリヤドライブ）
..... 445
Harmonious Driving Navi. 画面116
ILSAC CERTIFICATION
（イルサックサーティフィケーション）.....440, 441
ISOFIX
（アイソフィックス／イソフィックス）.....57, 68
LDH
（レクサスダイナミックハンドリングシステム）.....297
LED
（ライトエミッティングダイオード）
.....206, 369
LED デイライト 207
Lexus Safety System +.....220
AHB（オートマチックハイビーム）
.....209
LTA（レーントレーシングアシスト）.....235
PCS（プリクラッシュセーフティ）
.....225
RSA（ロードサインアシスト）.244
先行車発進告知機能.....258
ドライバー異常時対応システム260
レーダークルーズコントロール247
LSD
（リミテッドスリップディファレンシャル）.....443
LTA
（レーントレーシングアシスト）
.....235, 385
PCS
（プリクラッシュセーフティ）225, 385, 394
RCTA
（リヤクロストラフィックアラート）
.....279
REV インジケーター 101
REV ピーク.....102

SRS
（サプリメンタルレストレイントシステム）..... 38, 45, 384
TRC
（トラクションコントロール）296, 385, 436
VDIM
（ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント）..... 297
VGRS
（バリアブルギヤレシオステアリング）..... 296
VSC
（ビークルスタビリティコントロール）..... 296, 385

五十音順さくいん

あ

アースポイント（バッテリーあがりの処置）..... 416
RSA
（ロードサインアシスト）..... 244
ITS Connect 265
通信利用型レーダークルーズコントロール 253
アウターミラー（ドアミラー）..... 151
BSM（ブラインドスポットモニター）279
運転席ポジションメモリー..... 143
格納のしかた 152
操作..... 151
ミラーヒーター 310
リバース連動機能 152
アクセサリーソケット 326
アクティブコーナリングアシスト（ACA）..... 296
アクティブリヤウィング 289
アクティブロールバー 52
足元照明 319
アラーム
オートアラーム 88
音さくいん 460
警告ブザー 383
アンチロックブレーキシステム（ABS）..... 296
ABS ＆ブレーキアシスト警告灯 384
アンテナ（スマートエントリー＆スタートシステム）..... 134

い

イグニッションスイッチ（エンジンスイッチ）..... 178
エンジンのかけ方 178
自動電源 OFF 機能 180
車両を緊急停止するには..... 374
モードの切りかえ 180
イグニッションスイッチ（パワースイッチ）.....181
自動電源 OFF 機能.....184
車両を緊急停止するには 374
ハイブリッドシステム始動のしかた...181
モードの切りかえ 184
位置交換（タイヤローテーション）..347
イベントデータレコーダー（EDR）.....7
イモビライザーシステム.....87
イルミネーテッドエントリーシステム 320
インジケーター（表示灯）
エコドライブインジケーター 98
ハイブリッドシステムインジケーター..98
表示灯.....96
インストルメントパネル照度調整スイッチ.....103
インテリアランプ 319
インナーミラー 150

う

ウインカー（方向指示灯）
電球（バルブ）の交換 369
方向指示レバー 201
ウインドウ
ウインドシールドデアイサー 313
ウォッシャー.....213
パワーウインドウ 154
リヤウインドウデフォッガー 310
ウインドウロックスイッチ.....158
ウインドシールドデアイサー.....313
ウォーニングメッセージ.....391
ウォーニングランプ（警告灯）.....383
ウォッシャー 213
液の補給.....345
スイッチ.....213
タンク容量.....444

冬の前の準備・点検 305
動けなくなったときは（スタック）. 436
雨滴感知式ワイパー 213
運転
雨の日の運転 170
運転を補助する装置 296
寒冷時の運転 305
正しい運転姿勢 32
手順 170
ハイブリッド車運転のアドバイス 303
運転席シートベルト非着用警告灯 387
運転席ポジションメモリー 143

え

エアコン 309
「ナノイー X」 313
花粉除去機能 313
曇り取り（フロントガラス） 310
フィルターの交換 362
エアコン・デフォッガー 309
エアバッグ 38, 45
SRS エアバッグ警告灯 384
改造・廃棄 43, 49
警告ブザー 384
作動条件 39, 46
正しい姿勢 32
配置 38, 45
エコドライブインジケーター 98, 115
エコドライブインジケーターランプ 96
エコドライブ表示 98
ECO ランプ 96
エネルギーモニター 116
エレクトリックパワーステアリング（EPS）
機能 296
パワーステアリング警告灯 384
エンジン
イグニッションスイッチ（エンジンスイッチ / パワースイッチ） 178, 181
イモビライザーシステム 87
エンジンイモビライザーシステム 87
エンジン回転計（タコメーター） 100
エンジンが始動できない（エンジンがかからない） 408
エンジン警告灯 384
エンジンスイッチ 178
エンジンの始動方法 178
オーバーヒート 430, 433
緊急時の停止方法 374
ハイブリッドシステムが始動できない 410
ハイブリッドシステムの始動方法 181
パワースイッチ（イグニッションスイッチ／エンジンスイッチ） 178, 181
フューエルポンプシャットオフシステム 382
ボンネット 342
エンジンイモビライザーシステム 87
エンジンオイル 440
警告灯 383
警告メッセージ 395
冬の前の準備・点検 305
メンテナンスデータ 440
油圧警告灯 383
油量警告メッセージ 395
容量 440
エンジンスイッチ（パワースイッチ） 178, 181
エンジンのかけ方 178, 181
自動電源 OFF 機能 180, 184
車両を緊急停止するには 374
モードの切りかえ 180, 184
エンジンフード（ボンネット） 342
開け方 342
警告メッセージ 129, 391
エンジン油温計 100
エンジンルーム 342

エンジンルームから蒸気が出ている 430, 433

お

オイル（エンジンオイル）..... 440
オートアラーム..... 88
オートドアロック・アンロック機能 129
オートマチックトランスミッション
オートマチックトランスミッション .. 187
スノーモード 192, 198
オートレベリングシステム（ヘッドランプ）
作動 208
オーバーヒート..... 430, 433
オープナー
給油扉 218
トランク 132
ボンネット 342
お子さまを乗せるときは 56
ウインドウロックスイッチ..... 158
お子さまの安全のために..... 56
キーの電池 365
シートベルトの着用..... 33, 35
ステアリングヒーター・シートヒーターに関する警告 316
ソフトトップルーフに関する警告 167
チャイルドシート 57, 68
チャイルドシートの取り付け 57, 68
発炎筒の取り扱いに関する警告 374
バッテリーに関する警告..... 422
パワーウインドウに関する警告 157
オドメーター
機能 100
表示の切りかえ・リセットボタン 103

か

カーテシランプ
装着位置.....319
カーテンシールドエアバッグ.....38
カーペット
洗浄 335
フロアマットの取り付け方 30
外気温度表示 100, 102
回生ブレーキ 80
外装の電球（バルブ）.....369
交換要領.....369
ワット数.....445
買い物フック 324
ガス欠になったとき 82
カスタマイズ機能 446
型式.....445
カップホルダー 323
カメラ
前方カメラ.....220
ガラスの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー）.....310
ガレージジャッキ 343
冠水路走行 176
寒冷時の運転 305

き

キー.....122
エンジンが始動できない 408
カードキー.....122
キーナンバープレート 122
キーの構成.....122
キーレスエントリー 124, 134
キーをなくした.....411
正常に働かない.....413
施錠・解錠ができない 413, 414
電子キー.....122
電池が切れた.....364
ハイブリッドシステムが始動できない 410
メカニカルキー 124
ワイヤレスリモコン 124

キーレスエントリー
スマートエントリー＆スタートシステム 134
ワイヤレスドアロック..... 124
救急箱等固定用バンド 325
給油
給油口が開けられない..... 412
給油のしかた 217
メンテナンスデータ..... 440
給油後走行距離..... 100
給油後平均燃費..... 106
緊急時シートベルト固定機構 35
緊急始動機能（ハイブリッドシステム）..... 410
緊急始動機能..... 409, 410
緊急時の対処
エンジンが始動できない..... 408
オーバーヒートしたときは..... 430, 433
キーの電池が切れた..... 364, 413
キーをなくしたときは..... 411
警告灯がついたときは..... 383
警告メッセージが表示されたときは .. 391
けん引するときは 377
故障したときは 372
車中泊が必要なときは..... 376
車両を緊急停止するときは..... 374
水没・冠水したときは..... 375
スタックしたときは..... 436
ソフトトップルーフが閉まらないときは 424
電子キーが正常に働かないときは 413
ハイブリッドシステムが始動できないときは..... 410
発炎筒 373
バッテリーがあがったときは..... 416
パンクしたときは 398, 399
補機バッテリーがあがったときは 416
緊急停止システム..... 85
緊急ブレーキシグナル.....297

く

空気圧（タイヤ）.....445
タイヤ空気圧警告灯 388
タイヤ空気圧警報システム 348
メンテナンスデータ 445
区間距離計（トリップメーター）
機能 100
表示の切りかえ・リセットボタン.....103
駆動用電池 82
警告メッセージ.....85, 391
充電について.....80
搭載位置.....82
冷却用吸入口.....85
曇り取り
フロントガラス 310
ミラーヒーター 310
リヤウインドウデフォッガー 310
クラクション（ホーン）.....149
クリアランスソナー 273
警告メッセージ.....274, 391
操作 274
クリアランスランプ（車幅灯）.....206
スイッチ.....206
電球（バルブ）の交換 369
クリップ
フロアマット.....30
クルーズコントロール.....247
警告メッセージ.....391
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）.....247
グローブボックス 322
グローブボックスランプ.....322

け

警音器（ホーン）.....149

計器類（メーター）..... 100
照度調整 103
ヘッドアップディスプレイ 111
マルチインフォメーションディスプレイ 104
メーター 100
警告灯 383
ABS（アンチロックブレーキシステム）&ブレーキアシスト 384
EPS（エレクトリックパワーステアリング）..... 384
LTA（レーントレ ― シングアシスト）385
PCS（プリクラッシュセーフティ）.... 385
SRS エアバッグ 384
エンジン 384
シートベルト非着用..... 387
充電 383
水温 388
スリップ表示灯 385
タイヤ空気圧 388
燃料残量 387
パーキングブレーキ表示灯 386
パワーステアリング..... 384
プリテンショナー 384
ブレーキ 383, 386
ブレーキオーバーライドシステム 386
ブレーキホールド作動表示灯 386
マスターウォーニング..... 387
油圧 383
警告ブザー
シートベルト非着用..... 387
シフトダウン制限 193, 200
接近警報（レーダークルーズコントロール）..... 252
ソフトトップルーフ開..... 161
手放し運転警告（LTA）..... 242
トランク開 129
パーキングブレーキ未解除走行時 383
半ドア.....127
半ドア走行時.....129
プリクラッシュブレーキ 225
ブレーキ.....383, 386
ボンネット開.....129
窓開 156
警告メッセージ 391
傾斜センサー（オートアラーム）.....90
化粧ミラー（バニティミラー）.....326
言語.....447

こ

交換
エアコンフィルター 362
キーの電池.....364
タイヤ.....354
電球（バルブ）.....369
ヒューズ.....366
工具（ツール）.....355, 400, 424
航続可能距離 106, 118
後退灯（バックアップランプ）
電球（バルブ）の交換 369
高電圧部位 82
コーションラベル 82
コートフック 328
コーナリングランプ 208
固定リヤウィング 292
子供専用シート
取り付け方.....58, 70
小物入れネット 322
コンソールボックス 323
コンソールボックスランプ.....323
コンライト（自動点灯・消灯装置）..206

さ

サーキットモード 293
サービスプラグ 82

サイドエアバッグ..... 38, 45
サイド方向指示灯..... 201
電球（バルブ）の交換..... 369
方向指示レバー 201
サイドミラー（ドアミラー）..... 151
BSM（ブラインドスポットモニター）279
運転席ポジションメモリー..... 143
格納のしかた 152
操作..... 151
ミラーヒーター 310
リバース連動機能 152
サスペンションコントロール（PCS）
..... 226
サンシェード..... 328
サンバイザー..... 326

し

シート 141
運転席ポジションメモリー..... 143
正しい運転姿勢 32
チャイルドシート 57, 68
調整..... 141
手入れ..... 334, 340
パワーイージーアクセスシステム 143
ヘッドレスト 147
メモリーコール機能..... 145
シートヒーター..... 316
シートベルト..... 33
お子さまの着用 33, 35
緊急時シートベルト固定機構..... 35
シートベルトガイド..... 35, 36
シートベルト非着用警告灯..... 387
正しく着用するには..... 34
着け方・はずし方 35
手入れ..... 335
妊娠中の方の着用 34
リヤシートベルトホルダー..... 36
シートベルトガイド 35, 36
シートベルト非着用警告灯.....387
シートベルトプリテンショナー
機能 37
プリテンショナー警告灯 384
シートベンチレーター.....316
シートポジションメモリー.....143
事故が発生したとき（ハイブリッドシス
テムの注意）.....83
室内灯（インテリアランプ）.....319
始動のしかた 178, 181
シフト照明 319
シフトポジション 187, 194
シフトレバー 187, 194
シフトポジションの切りかえ ...188, 195
シフトレンジの切りかえ 192, 199
操作 188, 195
締め付けトルク（ホイール）.....359
車中泊が必要なときは.....376
ジャッキ
ガレージジャッキ.....343
車載ジャッキ.....355
ジャッキハンドル 355
車幅灯
電球（バルブ）の交換 369
ランプスイッチ.....206
車両型式 445
車両仕様（スペック）.....440
車両接近通知装置 81
車両設定を変更する
サーキットモード.....293
車両を緊急停止するには.....374
瞬間燃費 106, 118
仕様（車両仕様）.....440
衝撃感知ドアロック解除システム ...127
初期化.....456
タイヤ空気圧警報システム 350
パワーウインドウ.....155

初期設定 456
侵入センサー（オートアラーム）..... 90

す

水温計 100
スイッチ
AHB（オートマチックハイビーム）... 209
BSM（ブラインドスポットモニター）281
EV ドライブモード 185
LTA（レーントレー シングアシスト）239
PCS OFF（プリクラッシュセーフティ OFF）..... 228
TRC OFF（トラクションコントロール OFF）..... 297
VSC OFF（ビークルスタビリティコントロール OFF）..... 298
アクティブリヤウィング..... 289
イグニッション 178, 181
インストルメントパネル照度調整 103
ウインドウロック 158
ウインドシールドデアイサー 312
ウォッシャー 213
運転席ポジションメモリー 143
エンジンスイッチ 178
クリアランスソナー..... 274
シート調整 141
シートヒーター 317
シートベンチレーター..... 317
シートポジションメモリー 143
車間距離切りかえ（レーダークルーズコントロール）..... 247
侵入・傾斜センサー OFF 90
ステアリングヒーター..... 317
スノーモード 192, 198
タイヤ空気圧警報リセット 350
ドアミラー 151
ドアロック 129
ドライブモードセレクト 271
トランクオープナー 132
トランクオープナーメイン 133
パーキングブレーキ 201
ハザードランプ.....373
パドルシフト.....192, 199
パワーウインドウ 154
パワースイッチ 181
ハンドル位置調整 149
非常点滅灯（ハザードランプ）.....373
フォグランプ.....212
ブレーキホールド 204
ヘッドアップディスプレイ 111
方向指示レバー 201
ホーン（警音器）.....149
メーター操作.....105
ランプ.....206
リセット（タイヤ空気圧警報システム）.....350, 352
リヤウインドウデフォッガー 309
ルーフスイッチ 159
レーダークルーズコントロール.....247
ワイパー.....213
スタック 436
ステアリングヒーター.....316
ステアリングホイール（ハンドル）..149
位置調整.....149
運転席ポジションメモリー 143
ステアリングヒーター 316
パワーイージーアクセスシステム.....143
ストップランプ（制動灯）
緊急ブレーキシグナル 297
電球（バルブ）の交換 369
スノータイヤ（冬用タイヤ）.....305
スピードメーター 100
スペック（車両仕様）.....440
スマートエントリー＆スタートシステム 134
アンテナの位置 134

エンジンの始動 178, 181
カスタマイズ設定 446
緊急始動機能 409, 410
警告ブザー 136
警告メッセージ 136
作動範囲 135
正常に働かないとき..... 413
節電機能 136
電波がおよぼす影響について 139
ドアの解錠・施錠 126
トランクの解錠 132
ハイブリッドシステムの始動 181
スモールランプ（車幅灯）
電球（バルブ）の交換..... 369
ランプスイッチ 206
スリップ表示灯..... 297, 385

せ

清掃 330, 334, 340
アルミホイール 331
外装..... 330
シートベルト 335
内装..... 334, 340
フロアマット 334, 336
レーダーセンサー 220
制動灯
緊急ブレーキシグナル..... 297
電球（バルブ）の交換..... 369
積算距離計（オドメーター）
機能..... 100
表示の切りかえ・リセットボタン 103
セキュリティインジケーター 87, 88
接近警報（レーダークルーズコントロール）..... 252
設定（メーター）..... 108
先行車発進告知機能..... 258
センサー
LTA（レーントレ― シングアシスト）235
インナーミラー.....150
雨滴感知センサー.....214
湿度センサー.....315
侵入・傾斜センサー 90
ライトセンサー.....207
レーダーセンサー.....220
洗車.....330
前照灯（ヘッドランプ）.....206
電球（バルブ）の交換 369
ライトセンサー.....207
ランプ消し忘れ防止機能 207
ランプスイッチ.....206

そ

走行時間.....106
走行モード（ドライブモード）.....192, 198, 271
送信機（タイヤ空気圧警報システム）
.....348
速度計（スピードメーター）.....100
ソフトトップルーフ 159
操作 160
トノカバー.....159

た

ターンシグナルランプ（方向指示灯）
.....201
電球（バルブ）の交換 369
方向指示レバー 201
ダイナミックリヤステアリング（DRS）
.....296
タイヤ.....346
空気圧.....361, 445
交換 354
締め付けトルク.....359
チェーン.....305
低偏平タイヤ.....346

点検 346
パンクしたときは 398, 399
パンク応急修理キット 399
冬用タイヤ 305
ホイールサイズ 445
ランフラットタイヤ..... 348, 398
ローテーション（位置交換）..... 347
タイヤが空まわりする（スタックした）
..... 436
タイヤ空気圧警報システム
ID コードの登録・選択..... 352
機能について 348
空気圧バルブ／送信機について 349
空気圧表示画面 348
警告画面 391
初期化 350
タイヤ空気圧警告灯..... 388
タイヤチェーン..... 305
タコメーター（エンジン回転計）.... 100
可変レッドゾーン 102

ち

チェーン（タイヤチェーン）..... 305
チャイルドシート 57, 68
ISOFIX ロアアンカレッジでの取り付け66, 77
シートベルトでの固定..... 64, 76
選択方法 57
駐車ブレーキ（パーキングブレーキ）
..... 201
警告灯 386
警告メッセージ 202, 391
操作 201
冬季の注意 305
未解除走行時警告ブザー 203
メンテナンスデータ..... 444

つ

通信利用型レーダークルーズコントロール.....253
ツール（工具）.....355, 400, 424

て

ディファレンシャル 443
低偏平タイヤ 346
手入れ.....330, 334, 340
アルミホイール 331
外装 330
シートベルト 335
人工皮革（アルカンターラ®）.....340
内装 334, 340
レーダーセンサー 220
テールランプ（尾灯）.....206
電球（バルブ）の交換 369
ランプスイッチ 206
デフォッガー（リヤウインドウデフォッガー）.....310
電気モーター 79, 82
電球（バルブ）
交換要領（外装バルブ）.....369
ワット数.....445
点検基準値（メンテナンスデータ）..440
電子キー 122
作動範囲.....135
正常に働かないとき 413
節電機能.....137
電池が切れた.....413
電池交換.....364
電池交換（キー）.....364

と

ドア.....126
オートドアロック・アンロック機能...129

衝撃感知ドアロック解除システム 127
スマートエントリー＆スタートシステム 134
ドアガラス 154
ドアロックスイッチ..... 129
ワイヤレスリモコン..... 126
ドアカーテシランプ
位置..... 319
ドアハンドル照明..... 319
ドアポケット..... 322
ドアミラー..... 151
BSM（ブラインドスポットモニター）279
運転席ポジションメモリー..... 143
格納のしかた 152
操作..... 151
ミラーヒーター 310
リバース連動機能 152
盗難防止装置
イモビライザーシステム..... 87
エンジンイモビライザーシステム 87
オートアラーム 88
時計 100
トップテザーアンカレッジ 67
トノカバー..... 159
ドライバー異常時対応システム 260
ドライビングポジションメモリー
ポジションメモリー..... 143
メモリーコール機能..... 145
ドライブインフォメーション（マルチインフォメーションディスプレイ）.. 106
ドライブインフォ 1 ／ドライブインフォ 2 106
ドライブスタートコントロール 171
ドライブモードセレクトスイッチ... 271
トラクションコントロール（TRC）. 296
トランク 130
オープナー 132
キー閉じ込み防止機能..... 133
警告メッセージ..... 129
電子キーが正常に働かないとき.....413
トランクオープナーを使用できなくするには 133
トランク内の装備 324
メインスイッチ 133
トランクランプ 132
トランスミッション 187, 194
オートマチックトランスミッション... 187
シフトダウン制限警告ブザー ... 193, 200
スノーモード..... 192, 198
操作 188, 195
ハイブリッドトランスミッション..... 194
パドルシフトスイッチ 192, 199
メンテナンスデータ 443
トリップメーター
機能 100
表示の切りかえ・リセットボタン..... 103

な

内装
収納装備..... 322
手入れ..... 334, 340
「ナノイー X」..... 313

に

ニーエアバッグ 38, 45
荷物
積むときの注意 177
トランク..... 130
トランク内装備 324
荷物固定用フック 324

ぬ

ぬかるみにはまった（スタック）..... 436

ね

燃費
エネルギーモニター..... 116
給油後平均燃費 106
瞬間燃費 106, 118
平均燃費 106, 118
燃料 440
給油..... 217
種類..... 440
燃料残量警告灯 387
フューエルポンプシャットオフシステム
..... 382
容量..... 440
燃料計 100

は

パーキングブレーキ..... 201
警告メッセージ 202, 391
操作..... 201
冬季の注意 305
ブレーキ警告灯 386
未解除走行時警告ブザー..... 203
メンテナンスデータ..... 444
排気ガス 55
ハイビーム（ヘッドランプ）..... 206
AHB（オートマチックハイビーム）... 209
電球（バルブ）の交換..... 369
ランプスイッチ 206
ハイブリッドシステム 79
EV ドライブモード..... 185
運転のアドバイス 303
エネルギーモニター..... 116
オーバーヒート 433
回生ブレーキ 80
ガス欠になったとき..... 82
緊急始動機能 410
緊急時の停止方法 374
緊急停止システム.....85
駆動用電池冷却用吸入口 85
警告メッセージ.....85, 391
高電圧部位.....82
サービスプラグ.....82
事故が発生したとき 83
始動できないときは 410
始動方法.....181
車両接近通報装置.....81
充電 80
注意 82
特徴 79
特有の音と振動.....80
パワー（イグニッション）スイッチ...181
補機バッテリーがあがった 416
メンテナンス・修理・廃車するとき.....81
ハイブリッドシステムインジケーター98
ハイマウントストップランプ
電球（バルブ）の交換 369
ハザードランプ（非常点滅灯）.....373
スイッチ.....373
電球（バルブ）の交換 369
挟み込み防止機能
パワーウインドウ.....155
フロントシート.....143
発炎筒.....373
バックアップランプ（後退灯）
電球（バルブ）の交換 369
バッテリー（駆動用電池）
充電について.....80
搭載位置.....82
冷却用吸入口.....85
バッテリー（補機バッテリー）
充電警告灯.....383
搭載位置.....342
補機バッテリーがあがった 416
補機バッテリーを交換するとき.....421
バッテリーがあがった.....416

パドルシフトスイッチ..... 192, 199
バニティ（化粧用）ミラー 326
バニティミラーランプ
装備について 326
ワット数 445
バリアブルギヤレシオステアリング（VGRS）..... 296
バルブ（電球）
交換要領（外装のバルブ）..... 369
ワット数 445
パワーイージーアクセスシステム... 143
パワーウインドウ..... 154
ウインドウロックスイッチ..... 158
閉めることができないときは..... 155
初期化 155
操作 154
ドアロック連動ドアガラス開閉機能 .. 156
挟み込み防止機能 155
巻き込み防止 155
パワーコントロールユニット 82
パワースイッチ（イグニッションスイッチ／エンジンスイッチ）..... 178, 181
パワーステアリング..... 296
警告メッセージ 391
パワーステアリング警告灯..... 384
パンクした..... 398
タイヤ空気圧警告灯..... 388
タイヤパンク応急修理キット装着車 .. 399
番号灯（ライセンスプレートランプ）..... 206
電球（バルブ）の交換..... 369
ランプスイッチ 206
ハンドル（ステアリングホイール）. 149
位置調整 149
運転席ポジションメモリー..... 143
ステアリングヒーター..... 316
パワーイージーアクセスシステム 143
メーター操作スイッチ..... 105

ひ

ビークルスタビリティコントロール（VSC）.....296
ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント（VDIM）.....297
ヒーター
エアコン・デフォッガー 309
シートヒーター 316
ステアリングヒーター 316
ミラーヒーター 310
非常点滅灯（ハザードランプ）.....373
スイッチ.....373
電球（バルブ）の交換 369
尾灯（テールランプ）.....206
電球（バルブ）の交換 369
ランプスイッチ 206
ヒューズ 366
表示灯 96
日よけ（サンバイザー）.....326
ヒルスタートアシストコントロール 296

ふ

ブースターケーブルのつなぎ方.....417
フォグランプ 212
スイッチ.....212
電球（バルブ）の交換 369
ワット数.....445
ブザー
シートベルト非着用警告 387
シフトダウン制限警告 193, 200
接近警報（レーダークルーズコントロール）.....252
ソフトトップルーフ開警告 161
手放し運転警告（LTA).....242
パーキングブレーキ未解除走行時警告 203
半ドア走行時警告 129
ブレーキ警告.....383

窓開警告 156
フック
買い物フック 324
けん引フック 380
コートフック 328
荷物固定用フック 324
フロアマット固定フック 30
フューエルポンプシャットオフシステム 382
フューエルメーター（燃料計）..... 100
フューエルリッド（給油口）..... 217
給油口が開かない 412
給油のしかた 217
冬の前の準備（寒冷時の運転）..... 305
冬用タイヤ..... 305
ブラインドスポットモニター（BSM）..... 279
プリクラッシュセーフティ（PCS）
PCS OFF スイッチ 228
PCS 警告灯 385
機能 225
ブレーキ
回生ブレーキ 80
緊急ブレーキシグナル..... 297
警告ブザー 383
警告メッセージ 391
パーキングブレーキ..... 201
ブレーキ警告灯 383, 386
ブレーキホールド 204
メンテナンスデータ..... 444
ブレーキアシスト
ABS（アンチロックブレーキシステム）&ブレーキアシスト警告灯..... 384
機能 296
ブレーキフルード..... 444
ブレーキホールド..... 204
フロアマット..... 30
フロントシート..... 141
運転席ポジションメモリー 143
シートヒーター 316
シートベンチレーター 316
シートポジションメモリー 143
正しい運転姿勢 32
調整 141
手入れ.....334, 340
挟み込み防止機能 143
パワーイージーアクセスシステム.....143
ヘッドレスト 147
メモリーコール機能 145
フロント方向指示灯 201
電球（バルブ）の交換 369
方向指示レバー 201

へ

平均車速 106, 118
平均燃費 106, 118
ヘッドアップディスプレイ 111
ヘッドランプ 206
クリーナー.....213
電球（バルブ）の交換 369
ライトセンサー 207
ランプ消し忘れ防止機能 207
ランプスイッチ 206
ヘッドランプオートレベリングシステム 208
警告メッセージ.....391
ヘッドレスト 147
ベンチレーター（シートベンチレーター）.....316

ほ

ホイール
交換（タイヤ）.....354
メンテナンスデータ 445
ホイールナットレンチ.....355

方向指示灯 201
電球（バルブ）の交換 369
方向指示レバー 201
ホーン（警音器）..... 149
補機バッテリー
交換するとき 421
搭載位置 342
補機バッテリーがあがった 416
保証 8
ポップアップフード 50
ボンネット 342
開け方 342
警告メッセージ 129
ポップアップフード 50

ま

マスターウォーニング 387
マルチインフォメーションディスプレイ
..... 104
G モニター 106
エコドライブインジケーター 98
エネルギーモニター 116
オーディオシステム連携 108
ギヤ段表示 106
警告メッセージ 391
設定 108
タイヤ空気圧 348
ドライブインフォメーション 106
ナビゲーションシステム連携 108
ハイブリッドシステムインジケーター . 98
メーター操作スイッチ 105
モーターパワー表示 99
リヤウイング状態 108
レーダークルーズコントロール操作支援
..... 108
レーントレーシングアシスト（LTA）. 108

み

ミラー
アウターミラー 151
インナーミラー 150
ドアミラー 151
バニティミラー 326
ミラーヒーター 310

め

メーター
計器類 100
警告灯 383
警告メッセージ 391
照度調整 103
設定 108
操作方法 105
表示灯 96
表示の切りかえ 103
ヘッドアップディスプレイ 111
マルチインフォメーションディスプレイ
..... 104
メーター照度調整 103
メーター操作スイッチ 105
メーターリング 103
メカニカルキー 124
メモリーコール機能 145
メンテナンスデータ 440

も

モーター（電気モーター）..... 82
モーターでの走行（EV ドライブモード）
..... 185

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能 446
雪道ですべって動けない（スタックした）

..... 436
油脂類 440

ら

ライセンスプレートランプ（番号灯）
..... 206
電球（バルブ）の交換..... 369
ランプスイッチ 206
ラゲージルーム（トランク）.. 130, 324
ラジエーター
オーバーヒート 430, 433
メンテナンスデータ..... 443
ランプ
室内灯 319
電球（バルブ）の交換..... 369
非常点滅灯（ハザードランプ）..... 373
ヘッドランプ（前照灯）..... 206
方向指示灯（ターンシグナルランプ／ウインカー）..... 201
ライトセンサー 207
ランプ消し忘れ防止機能..... 207
リヤフォグランプ 212
ワット数 445
ランプ消し忘れ防止機能 207
ランフラットタイヤ 348, 398

り

リバース連動機能..... 152
リヤウィンドウデフォッガー 310
リヤクォーターガラス
操作 154
リヤシートベルトホルダー 36
リヤフォグランプ..... 212
スイッチ 212
電球（バルブ）の交換..... 369
ワット数 445
リヤ方向指示灯..... 201
電球（バルブ）の交換 369
方向指示レバー 201
リング（メーター）.....103

る

ルームミラー（インナーミラー）.....150

れ

冷却水.....443
水温計.....100
冬の前の準備.....305
メンテナンスデータ 443
冷却装置（ラジエーター）.....443
オーバーヒート 430, 433
メンテナンスデータ 443
レーダークルーズコントロール (全車速追従付き)
警告メッセージ.....256
レーダークルーズコントロール 247
接近警報.....252
レーダーセンサー 220
レーントレーシングアシスト（LTA）
警告メッセージ.....243
操作 239
レクサスクライメイトコンシェルジュ
.....308
レクサスダイナミックハンドリングシステム（LDH）.....297
レバー
シフト.....187, 194
方向指示.....201
ボンネット解除.....342
ロック（ドア）.....126

ろ

ロードサインアシスト (RSA) 244

ロック
ウインドウロック 158
スマートエントリー＆スタートシステム
..... 134
ドア..... 126
ワイヤレスリモコン..... 124

わ

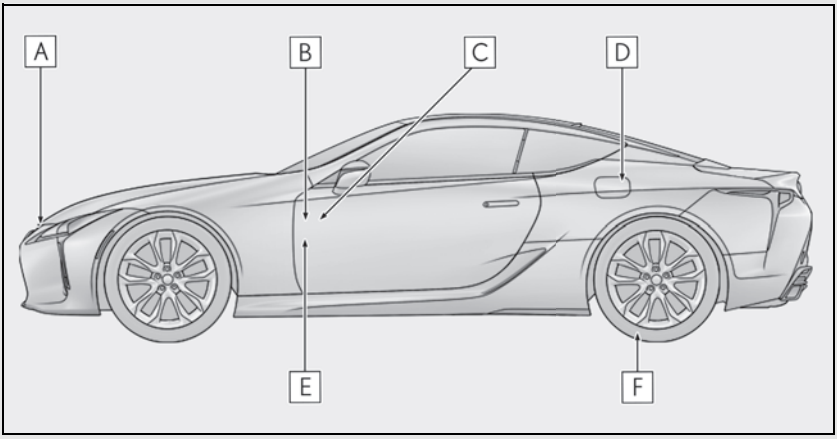
ワイパー＆ウォッシャー 213
ウォッシャー液の補充..... 345
ワイパー停止位置の切りかえ 215
ワイパーブレード（寒冷地用）..... 306
ワイヤレスリモコン..... 124
作動の合図 127
操作..... 124
電池の交換 364
半ドア警告ブザー 127
ワックス 330
ワット数 445
割込表示 109

次の装備は、別冊「マルチメディア取扱説明書」をお読みください。

- ・オーディオ
- ・バックガイドモニター
- ・ナビゲーションシステム
- ・音声操作システム
- ・ハンズフリー
- ・G-Link
- ・ETC2.0 システム

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。



A ボンネットフック（→P.342）

B トランクオープナースイッチ（→P.132）

C 給油口オープナースイッチ（→P.218）

D 給油口（→P.218）

E ボンネット解除レバー（→P.342）

F タイヤ空気圧（→P.445）

燃料の容量（参考値）	82L	
燃料の種類	・無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク） ・バイオ混合ガソリン（プレミアム）※ ※エタノールの混合率 10% 以下、または ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7% 以下）を使用することができます。	P.440
タイヤが冷えているときの空気圧		P.445
エンジンオイル容量（参考値）		P.440
エンジンオイルの種類		P.440

「個人情報保護方針」については、https://lexus.jp にて掲載しております。

ユ-70

M11649
01999-11649
OI-2023年9月22日
2023年6月 8 日初版
2023年9月29日 2 版
LC500 / LC500h